

1 看護学部看護学科（専門基礎科目）

遺伝学	1
栄養学	2
人類生態学	3
疫学	4
保健統計学	5
保健社会調査論	6
臨床心理学	7
精神保健学	8
東洋医学概論	9
保健社会学	10
保健医療福祉行政論Ⅰ	11
保健医療福祉行政論Ⅱ	12
公衆衛生学	13

2 看護学部看護学科（専門科目）

専門科目

生態機能看護学Ⅰ	14
生態機能看護学Ⅱ	15
生態機能看護学Ⅲ	16
看護生化学	17
病態看護学Ⅰ	18
病態看護学Ⅱ	19
看護薬理学	20
感染・免疫看護学演習	21
生態・病態看護学実験	22
基礎看護学概論	23
基礎看護技術論	24
シンプトンマネジメント論	25
フィジカルアセスメント論	26
看護過程	27
看護研究	28
基礎看護学実習Ⅰ	29
基礎看護学実習Ⅱ	30
精神看護学概論	31
精神看護学	32
精神看護学演習Ⅰ	33
精神看護学演習Ⅱ	34
精神看護学実習	35
成人看護学概論	36
成人急性看護学	37
成人慢性看護学	38
成人看護学演習Ⅰ	39
成人看護学演習Ⅱ	40
成人急性看護学実習	41
成人慢性看護学実習	42
老年看護学概論	43
老年看護学	44
老年看護学演習Ⅰ	45
老年看護学演習Ⅱ	46
老年看護学実習Ⅰ	47
老年看護学実習Ⅱ	48
小児看護学概論	49
小児看護学	50
小児看護学演習Ⅰ	51
小児看護学演習Ⅱ	52
小児看護学実習	53

女性看護学概論	54
女性看護学	55
女性看護学演習Ⅰ	56
女性看護学演習Ⅱ	57
女性看護学実習	58
在宅看護学概論	59
在宅看護学	60
在宅看護学演習Ⅰ	61
在宅看護学演習Ⅱ	62
在宅看護学実習	63
看護管理論	64
看護教育学	65
看護実践論	66
教師論	67
看護情報学	68
キャリア像確立講義Ⅰ	69
キャリア像確立講義Ⅱ	70
統合実習	71
専門看護学ゼミ	72
卒業研究	73
公衆衛生看護学Ⅰ	74
公衆衛生看護学Ⅱ	75
公衆衛生看護学Ⅲ	76
公衆衛生看護技術論Ⅰ	77
公衆衛生看護技術論Ⅱ	78
組織協働活動論	79
公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ	80
公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ	81
公衆衛生看護管理論	82
公衆衛生看護学実習Ⅰ	83
公衆衛生看護学実習Ⅱ	84
家族看護学	85
国際・災害看護論	86
養護概説	87
学校保健学	88
教職実践演習（養護教諭）	89
養護実習事前事後指導	90
健康教育論	91
養護実習	92
ヒーリングセラピー	93
東洋看護学演習	94

授業科目名	遺伝学 Genetics			単位	2 単位
				授業コード	
履修	選択	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	講義
開講年次	1 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：芋川浩 科目担当者：芋川浩				
授業概要	本講義では、染色体やDNAの構造や機能といった遺伝学の基礎的な知識を学び、さまざまな疾病や生命現象を分子生物学的に分析・判断できることの重要性を理解する。また、ヒトゲノム解読など人類の遺伝学やゲノム医学の発展を概観するほか、クローン技術や再生医療など、遺伝学に基礎をおく最新の生命医療技術とその応用についての問題点やその未来を理解・考察できる。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	細胞遺伝学を学び、染色体の構造や細胞分裂など染色体の挙動を理解できる。また、染色体や遺伝子の異常によって引き起こされるさまざまな遺伝子疾患についての理解も深める。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	遺伝子DNAを中心とした「分子遺伝学」を学び、遺伝子の構造や複製機構、がんや老化のしくみなど、生命現象を遺伝子レベルで分析するための基本事項を理解できる。さらに、遺伝子組み換え技術やクローン技術、再生医療など遺伝学を基礎とした最新の医療技術を理解し、応用できる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能					
テキスト	ライフサイエンス 生命の神秘（芋川浩著、木星舎出版）				
参考図書・教材等	細胞の分子生物学 第6版（Newton Press）、 フロンティア生命科学(京都大学大学院生命科学研究科編、講談社)、 よくわかるゲノム医学(服部成介、水島-菅野純子、菅野純夫編、羊土社)、 e-learning に載せたスライド資料、 その他の配布資料				
実務経験を生かした授業	各種臨床検査に関わった実務経験に基づいて、疾患に関する症状の具体例などを紹介しながら、代謝にかかわる疾患の状態や症状を紹介する。また、国立研究所勤務時に実施していた遺伝病などに関する具体的な解析方法の一端を体験できるように工夫している			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70	15				15	100
知識・理解	(DP 1)							
	(DP 2)	50	10				10	70
思考・判断・表現	(DP 3)	20	5				5	30
	(DP 4)							
備考 小テストは、授業到達度業況に応じて実施する。								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
① 染色体と遺伝形質、②がんやがん関連遺伝子、③がんの発症メカニズム、④遺伝子突然変異、⑤遺伝子疾患と遺伝子治療、⑥伴性遺伝と集団遺伝、⑦老化と寿命、⑧遺伝子発現、⑨ヒトの遺伝学、⑩最先端バイオテクノロジーと今後の医療などなどについて十分に理解しわかりやすく説明できる(定期試験で90%以上得点し、小テスト、レポートでも同等の評価を得る)。	

定期試験やレポートの記述では、上述した各代謝や遺伝情報の発現などを具体的に日常生活および自分まわりの生命現象としっかりと結び付けて他者にわかりやすく説明できる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
① 染色体と遺伝形質、②がんやがん関連遺伝子、③がんの発症メカニズム、④遺伝子突然変異、⑤遺伝子疾患と遺伝子治療、⑥伴性遺伝と集団遺伝、⑦老化と寿命、⑧遺伝子発現、⑨ヒトの遺伝学、⑩最先端バイオテクノロジーと今後の医療などについて理解し説明できる(定期試験で60%以上得点し、小テスト、レポートでも同等の評価を得る)。定期試験やレポートの記述では、上述した各代謝や遺伝情報の発現などを日常生活および自分まわりの生命現象と結び付けて他者に説明できる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	オリエンテーション（講義内容・評価方法の提示、参考文献の紹介） (芋川 浩)	初回講義であるため、オリエンテーションとして、①これからの講義内容、②成績評価方法、③教科書や参考文献の紹介、④出席や質問の取り方などを説明し、今後の講義にスムーズに入れるようにする。 初回の講義内容としては、遺伝学総論として、①遺伝とは何か、②遺伝病、③遺伝子と疾患などについて学習する。	事前学習：初回の講義部分(遺伝学総論)に相当する教科書(未定)や参考書の部分を読み、重要なポイントや疑問点などをまとめる 事後学習：初回の講義(遺伝学総論)における内容およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
2	細胞遺伝学①（染色体と遺伝形質、染色体と性の関係を解説する） (芋川 浩)	遺伝の本体である染色体や DNA とは何か、染色体の構造やそれらの異常にかかわる遺伝病の概要などを以下の項目を中心に説明する。 ①染色体とは何か ②染色体数が意味するもの ③染色体の構造 ④体細胞分裂の基本 ⑤染色体によって決まる性 a. 性染色体とは何か b. 男性決定遺伝子 SRY c. 伴性遺伝 d. 性染色体以上	事前学習：染色体(や DNA)とそれにかかわる染色体異常などに関する教科書や参考書の部分を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、染色体(や DNA)とそれにかかわる染色体異常などに関する講義内容およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分

		e. 性染色体によらない性の決定 など		
3	分子遺伝学①（がんやがん遺伝子について解説する） （芋川 浩）	がんとは何か、およびがん化の原因などを解説し、がん遺伝子とがんとの関係についても以下の項目を中心に説明する。 ① がんとは何か a. がんという病気 b. がん細胞と正常細胞 ② がん化の原因 a. ウイルス説 b. 突然変異説 c. 環境要因説 ③ がん遺伝子 ④ がん遺伝子は正常細胞にも存在する	事前学習：がんやがんの発症のメカニズムに関する部分に相当する教科書（生命の神秘 p88~97）や参考書の部分を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、がんやがんの発症のメカニズムに関する講義内容およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
4	分子遺伝学②（がんの発症メカニズムについて解説する） （芋川 浩）	がん化の原因、およびがん発症のメカニズムを解説し、がん化の機序などを以下の項目を中心に説明する。 ① がん抑制遺伝子 a. がん原遺伝子とがん抑制遺伝子 b. 家族性網膜芽細胞腫(Rb) ② がん化の原因 2 a. 突然変異説 b. 環境要因説 ③ がん形成のメカニズム a. 高齢者になると未熟になる b. がんと突然変異数の関係 c. 大腸がん d. p53 遺伝子 ④ がんへの対応：がんを抑えるために	事前学習：がん抑制遺伝子やがん発症のメカニズムに関する部分に相当する教科書（生命の神秘 p97~105）や参考書の部分を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、がん抑制遺伝子やがん発症のメカニズムなどに関する講義内容およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
5	分子遺伝学③（遺伝子や突然変異などについて解説する） （芋川 浩）	遺伝子や突然変異などに関する DVD を見ながら解説し、配布資料を記入することで理解を深める。前半三分の一では、これまで学習したことの復習することもできる。主に以下の項目を中心に DVD を見て学習する。 ① 染色体遺伝子発現の概要 ② 遺伝子発現 ③ 突然変異	事前学習：遺伝子や突然変異などに関する教科書や参考書の部分を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、遺伝子や突然変異などに関する講義内容およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分

6	分子遺伝学④（遺伝子疾患や遺伝子治療について解説する） （芋川 浩）	遺伝子疾患や遺伝子治療などについて DVD を見ながら解説し、配布資料を記入することで理解を深める。後半では、主に以下の項目を中心に DVD を見て学習する。 ①遺伝性疾患 ②優性遺伝と劣性遺伝 ③伴性遺伝 ④遺伝子検査や遺伝子治療	事前学習：遺伝子疾患や遺伝子治療などに関する教科書や参考書の部分を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、遺伝子疾患や遺伝子治療などに関する講義内容およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
7	細胞遺伝学②（伴性遺伝と集団遺伝について解説する） （芋川 浩）	伴性遺伝と集団遺伝などについて以下の項目を中心に解説する。 ①性以外での男女の不平等 a. 伴性遺伝 b. 酵素の基質特異性 c. 色覚異常と血友病 d. 酵素反応に影響を及ぼす因子 ②集団の遺伝 a. 遺伝子頻度と表現型の比 b. 色覚異常と血友病の場合 c. ABO 式血液型の場合 d. 遺伝子疾患の場合	事前学習：伴性遺伝と集団遺伝などに関する教科書や参考書の部分を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、伴性遺伝と集団遺伝などに関する講義内容、その質問や課題を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
8	細胞遺伝学③（DNA の複製とウイルスの感染様式などを解説する） （芋川 浩）	DNA の複製とウイルスの感染様式などを以下の項目を中心に説明する。 ①DNA の複製 a. DNA ポリメラーゼの働き b. DNA ポリメラーゼの特徴 ②リーディング鎖とラギング鎖 ③テロメア ④DNA 断片の増幅(PCR 法) ⑤ウイルスの感染様式と潜在化 ⑥レトロウイルス	事前学習：DNA の複製とウイルスの感染様式などに関する教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、DNA の複製と遺伝子発現などに関する講義内容、およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
9	細胞遺伝学④（遺伝子の形質発現を解説する） （芋川 浩）	遺伝情報の発現として、遺伝子の形質発現（転写や翻訳）などを以下の項目を中心に説明する。 ①転写 a. mRNA の働き b. RNA ポリメラーゼとその働き c. センス鎖とアンチセンス鎖 d. セントラルドクマ	事前学習：遺伝子の形質発現（転写や翻訳）などに関する教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、遺伝子の形質発現（転写や翻訳）などに関する講義内容、およびそ	事前学習 90 分 事後学習 90 分

		②翻訳 a.組織特異的タンパク質 b.タンパク質の構造 c.翻訳過程 ③ゲノム内の遺伝子分布と遺伝子数	の質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	
10	分子遺伝学⑤（細胞死などに関わる遺伝子について解説する） （芋川 浩）	細胞の死としてのアポトーシスとネクローシスなどについて以下の項目を中心に説明する。 ①生きること、死ぬこと ②ネクローシスとアポトーシス ③アポトーシスとアヒル ③ネクローシスとアポトーシスの違い ④アポトーシスの例 a.カエルの変態 b.神経のネットワーク形成 ⑤アポトーシスの実働部隊：カスパーゼ ⑥アポトーシスの引き金 a.細胞外からの引き金 b.細胞内からの引き金	事前学習：細胞の死としてのアポトーシスとネクローシスなどに関する教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、細胞の死としてのアポトーシスとネクローシスなどに関する講義内容、およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
11	分子遺伝学⑥（老化などに関わる遺伝子について解説する） （芋川 浩）	老化とは何か、およびその老化のメカニズムなどについて以下の項目を中心に説明する。 ①老化とは a.すべての生物は老化するのか ②早老症 a.プロジェリア症候群 b.ウェルナー症候群 ③老化とカロリー制限 ④サーチュイン遺伝子	事前学習：老化とは何か、およびその老化のメカニズムなどに関する教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、老化とは何か、およびその老化のメカニズムなどに関する講義内容、およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
12	ゲノム医学①（ヒトの染色体およびゲノムの構造と機能について解説する） （芋川 浩）	ヒトの染色体およびゲノムの構造と機能などを以下の項目を中心に解説する。 ①染色体とは ②ヒト染色体の構造 a.ヒト染色体の構造と名称 b.染色体の必須要素—人工染色体— c.染色体の特殊な存在様式 ③染色体とクロマチン a.ヒストンとは—ヒストンの種類— b.ヌクレオソームとは c.クロマチンとは	事前学習：ヒトの染色体およびゲノムの構造と機能などにかかわる部分について教科書や参考書等を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、ヒトの染色体およびゲノムの構造と機能などに関する講義内容、およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講	事前学習 90 分 事後学習 90 分

		d.クロマチンから染色体へ ④ゲノム DNA とは	義などで質問できるようにまとめておく。	
13	ゲノム医学②（ヒトの遺伝子疾患とその治療について最先端の内容を解説する） （芋川 浩）	クロマチン構造と遺伝子発現などにおける医学・生命科学の最先端の内容を以下の項目を中心に解説する。 ①クロマチン構造と遺伝子発現 a. クロマチン構造によりコンパクトに凝縮されたゲノム DNA は、その状態で機能できるのだろうか？ ②遺伝子発現—最先端の現状— a. プロモーターとその構造 b. RNA ポリメラーゼとその種類 c. エンハンサーとサイレンサー d. 転写調節因子 e. 遺伝子発現が起こるためには ③分化した細胞種の違いは何か？ a. すべての細胞の遺伝子は同じである ④遺伝子としての DNA の種類 a. 遺伝子の数と種類 b. ユニーク配列と反復配列 c. 同じ遺伝子からの異なる遺伝子発現 d. 遺伝子ファミリー ④塩基配列に支配されない遺伝子発現 a. ゲノムのインプリンティング b. エピジェネティックス c. ユークロマチンとヘテロクロマチン d. ヒストンのアセチル化・脱アセチル化 e. DNA のメチル化・脱メチル化 f. インプリンティングのリセット	事前学習：クロマチン構造と遺伝子発現などにかかわる部分について教科書や参考書等を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、クロマチン構造と遺伝子発現やエピジェネティックスなどに関する講義内容、およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
14	遺伝子工学①（遺伝子工学による最先端医療について解説する） （芋川 浩）	バイオテクノロジーとこれからの医療などに関する最先端の内容を以下の項目を中心に解説する。 ①ヒト β-ヘモグロビン遺伝子 a. 翻訳開始部位と翻訳終了部位 b. エキソンとイントロン c. プロモーター ②遺伝子組み換え a. プラスミドとファージ b. 制限酵素と DNA リガーゼ c. 制限酵素とは d. 遺伝子組み換えの実際 e. 遺伝子発現が起こるためには	事前学習：遺伝子工学などバイオテクノロジーなどにかかわる部分について教科書や参考書等を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、遺伝子工学や遺伝子組み換えなどバイオテクノロジーに加え、これからの医療などに関する講義内容、およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分

		f.遺伝子のクローニング ③トランスジェニック生物 a.細胞への遺伝子導入 b.レトロウイルスベクター c.トランスジェニック生物 d.ノックアウト生物 f.クローン生物 ④医療とバイオテクノロジー a.遺伝子診断 b.遺伝子治療 c.再生医療 ⑤未来の医学 a.抗体医薬 b.RNA 干渉と RNA 医薬	く。	
15	まとめ (芋川 浩)	最後の講義であるため、これまで学習してきた遺伝子の構造や遺伝子発現に加え、遺伝病などに関するこれまでの講義と関連する内容を復習整理する。 ①遺伝子やゲノムの重要ポイントのまとめ ②遺伝子発現の重要ポイントのまとめ ③遺伝病のまとめと整理 ④バイオテクノロジーと医療の最前線の解説	事前学習：これまで学習してきた遺伝子の構造や遺伝子発現に加え、遺伝病などにかかわる教科書や参考書、および授業資料を読み、重要ポイントや疑問点を再確認し、まとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、これまで学習してきた遺伝子の構造や遺伝子発現に加え、遺伝病などなどに関する半年間の講義内容、およびその質問や問題点を各自で再確認し、しっかりと整理・身につける。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、講義終了後でも質問し、解決する。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
備考	講義への参加度なども重視しているため、携帯電話等で出席や質問などをとることがあるので、携帯電話等を持っていること。高等学校で生物学・化学・遺伝学などを学んでいた方がよい。また、本学の看護生化学に関する知識をより深めるために、遺伝子発現と代謝疾患、遺伝子疾患などの内容もより詳細に解説するため、看護生化学を受講したものはこの遺伝学の受講を強く勧める。			

授業科目名		栄 養 学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次			
担 当 教 員		青 木 哲 美		後期	講義	必修	2	1 年次			
授業の概要		人間にとって「食べることは生きること」という視点から、食のもつ特性や役割について基礎知識を得ると共に、社会と疾病構造の変化による健康・栄養問題を知る。これにより食を総合的にとらえ、健康を保持・増進し、QOL（生活の質）の向上を目指した望ましい食生活のあり方について、看護にかかわる者としての役割を理解する。栄養チーム医療の一員として、栄養ケアプランの作成、実施、評価方法を修得する。									
学生の到達目標											
知識・理解		DP2:専門・隣接領域の知識		看護学における栄養学の位置づけを理解し、自らの意見を述べるができる。 食べることは生きる原点であることの理解を深め、考えることができる。							
思考・判断 ・表現		DP3:論理的思考・判断力		栄養状態の評価・判定ができる。 疾病と栄養との関連性を理解し、自ら調べ、考えることができる。							
授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)											
回	授 業 内 容			授 業 方 法			事前・事後学習(学習課題)				
1	看護学における栄養学の流れと位置づけ・QOL と食生活			講義。看護学における栄養学の紹介			テキスト Chapter 1, 2				
2	ライフサイクルと栄養（乳幼児期）～（老年期）			講義。ステージごとの特徴を概説する			テキスト Chapter 3				
3	食べる行動・何を食べたらよいか			講義。心の状態と食べる行動の関わり			テキスト Chapter 4-①②				
4	どれだけ食べたらよいか日本人の食事摂取基準(エネルギー)			講義、演習。実際に自分の必要量を知る			テキスト Chapter 4-③④				
5	日本人の食事摂取基準（たんぱく質、脂質、等）			講義、演習。実際に自分の必要量を知る			テキスト Chapter 4-⑤				
6	取り込まれた食物のゆくえ			講義。各栄養素の消化吸収の理解			テキスト Chapter 5				
7	健康と栄養 健康寿命の延伸の経過、背景、課題			講義。健康寿命延伸の経緯の理解			テキスト Chapter 6				
8	疾病と栄養 栄養アセスメントと栄養療法			講義、演習。栄養アセスメントを行う			テキスト Chapter 7-①②				
9	疾病と栄養 疾患とライフサイクル、循環器疾患			講義。疾患と栄養の関連性を概説			テキスト Chapter 7-③ 1, 2				
10	疾病と栄養 内分泌・代謝疾患、			講義。演習。糖尿病の交換表利用する			テキスト Chapter 7-③3				
11	疾病と栄養 腎疾患・痛風			講義。演習。腎臓病の交換表利用する			テキスト Chapter 7-③4				
12	疾病と栄養 消化器疾患			講義。消化器疾患と栄養の関連を概説			テキスト Chapter 7-③ 5				
13	疾病と栄養 食物アレルギー、褥瘡、摂食嚥下、がん等			講義。疾患と栄養の関連性を概説			テキスト Chapter7-③6～11				
14	在宅患者の栄養管理、チーム医療			講義。栄養管理の必要性理解を勧める			テキスト Chapter7-④⑤				
15	栄養サポートチームの実際			講義。NST におけるチーム医療説明			テキスト Chapter7-④⑤				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)											
到達目標		知識・理解		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		技能		評価割合(%)	
成績評価方法		知識・理解		思考・判断・表現		関心・意欲・態度		技能		評価割合(%)	
定期試験		◎		◎						60	
宿題・授業外レポート		◎		◎						20	
授業態度・出席カードへのコメント記入		◎		◎						20	
実務経験を生かした授業		病院 NST 専従として勤務している経験より、NST チームの構成、チーム医療の実際について講義する。（15 回目）									
テキスト・参考文献等		テキスト：尾岸恵三子他編「看護栄養学」医歯薬出版、参考文献：「新ビジュアル食品成分表」大修館書店、「糖尿病食品交換表」「糖尿病性腎症食品交換表」日本糖尿病協会・文光堂									
履 修 条 件		なし									
学習相談・助言体制		毎回の授業終了時に書いてもらう「出席カード」にて質問し、次回の授業時に質問に答える。							授業中の撮影		

授業科目名		人類生態学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員		竹内昌平		前期集中	講義	選択	2	2年次	
授業の概要		この授業では、ヒトの健康状態とその背景にある環境要因との関係をさまざまなレベル・視点で考えられるようになるために、複雑な生態系の中で環境に適応・生存している人類の特徴を、行動学、栄養学、人口学など関連分野の手法も用いながら学ぶ。 なお、講義形式は、講義＋グループディスカッションを予定している。しかし、講義形式や進度に関しては、人数や理解度に応じて臨機応変に対応する。							
学生の到達目標									
知識・理解		DP1:教養・健康に関する知識	対象者・対象集団に関し、健康状態を含むさまざまな情報収集について、多彩な分野からのアプローチの方法について記述することができる。						
思考・判断・表現		DP3:論理的思考・判断力	ヒト（集団）の適応のための行動と、それがもたらす影響や結果（健康状態も含む）について、環境との関係性の中で位置づけることができる。						
授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)									
回	授業内容						事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション・人類生態学の照会						事前学習１： 現代の日本において、人口が減少している様子について調べ、その原因と対策について考察する。		
2	生物と環境の関係・適応について								
3	生態系の構造とヒトの特殊性								
4	地球環境と人類の進化								
5	農耕と家畜飼育の開始（生存様式の変化）								
6	生業と集団のあり方						事前学習２： 栄養摂取状況を各自で診断する（方法はオリエンテーションで指示する）。		
7	多様な身体適応								
8	行動の生態学								
9	栄養と健康						いずれも A4 用紙 1 枚にまとめ、レポートとして提出すること。提出時期はオリエンテーションにて指示する。		
10	病気の生態学								
11	現代医療と健康								
12	人口指標と集団の適応								
13	環境問題と人間 1 環境への負荷								
14	環境問題と人間 2 人為的環境の健康影響								
15	人類生態学を学んで								
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)									
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
定期試験(レポート)			◎	◎			80		
宿題・授業外レポート				○			10		
受講者の発表(プレゼン)			○	○			10		
実務経験を生かした授業									
テキスト・参考文献等		テキスト：プリントなどを使用する。 参考文献： 大塚柳太郎 他著、『人類生態学〔第2版〕』、東京大学出版会、2012年 渡辺知保 他著、『人間の生態学』、朝倉書店、2011年							
履修条件		特になし							
学習相談・助言体制		質問・相談は授業開始前後とメールで受け付ける（shouhei-t@umin.net）。						授業中の撮影	

授業科目名	疫学			単位	2
				授業コード	
履修	選択	関連資格	保健師国家試験受験資格、養護教諭一種免許状	授業方法	講義
開講年次	2 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：増満 誠 科目担当者：増満 誠				
授業概要	疫学の基本的事項を理解することを目的に、疫学の考え方、疫学指標と疫学研究について学ぶ。あわせて、疫学研究で用いられる概念、用語、統計学的手法についても解説する。				
到達目標	知識・理解	(DP 1)	疫学とは何かについて述べることができる。		
		(DP 2)	疫学で用いられる各種指標を理解し、計算できる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	統計学を履修し統計に関する基礎的知識を有し、さらに保健統計学を履修していることが望ましい。				
テキスト	大木秀一「看護疫学入門」医歯薬出版株式会社				
参考図書・教材等	田中平三「疫学入門演習-原理と方法-」南山堂 中村好一「基礎から学ぶ 楽しい疫学」医学書院				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合	試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	15			5		100
知識・理解	(DP 1)	30	5		5		40
	(DP 2)	50	10				60
備考							

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
S 評価レベル：疫学の概念と方法について十分に理解し、各疫学の指標を適切に求めることができ、その示す意味を適切に述べることができる。さらには、その示す指標を改善するために必要なアプローチについて考え、表現することができる。	
A 評価レベル：疫学の概念と方法について十分に理解し、各疫学の指標を適切に求めることができ、その示す意味を述べることができる。また、その示す指標について改善方法を考えることができる。	
B 評価レベル：疫学の概念と方法について理解し、各疫学の指標を適切に求めることができ、その示す意味を述べることができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
C 評価レベル：疫学の概念と方法について理解し、各疫学の指標を求めることができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	疫学の概要（増満誠）	以下の内容について講義する。 1) 疫学の語源や定義 2) 疫学の対象と領域 3) 疾病と曝露（要因）	事前学習：疫学の歴史について、海外とわが国それぞれにおける「疫学の父」について調べたうえで授業に臨む。 事後学習：私たちの生活の中での「疾病と曝露」について、その要因について調べ、振り返る。	事前学習 90分 事後学習 90分
2	疾病頻度の指標（増満誠）	以下の内容について講義する。 1) 危険因子と予防因子 2) 疾病の自然史 3) 疾病頻度の指標（割合・率・比） 4) 有病率、累積罹患率	事前学習：疾病頻度の各指標（割合・率・比、有病率、累積罹患率）について、どのような場面で使用されているのかをまとめてくる。 事後学習：授業で提示された指標の数値と実際の任意の行政等の数値を比較し考察する。	事前学習 90分 事後学習 90分
3	疾病頻度の測定（増満誠）	以下の内容について演習を交えて講義する。 1) 死亡率、罹患率、致命率 2) 人年法	事前学習：疾病頻度の各指標（死亡率、罹患率、致命率）について、どのような場面で使用されているのかをまとめてくる。 事後学習：授業で提示された指標（数値）と実際の任意の行政等の数値を比較し考察する。	事前学習 90分 事後学習 90分
4	スクリーニング①（増満誠）	以下の内容について演習を交えて講義する。 1) スクリーニング実施の原則 2) ROC 曲線、カットオフポイント	事前学習：私たちがこれまでに経験したスクリーニング検査について、どのようなスクリーニング検査があったのか、またその方法や目的・意味について調べておく。 事後学習：スクリーニング実施の原則について、意味内容をしっかり復習しておく。	事前学習 90分 事後学習 90分
5	スクリーニング②（増満誠）	以下の内容について演習を交えて講義する。 1) 敏感度、特異度、偽陽性率、偽陰性率、陽性反応的中度、陰性反応的中度 2) スクリーニング検査に伴うバイアス	事前学習：スクリーニング検査で求められる各指標についてその意味について表にまとめてくる。 事後学習：国家試験過去問題を検索し、敏感度、特異度、偽陽性率、偽陰性率、陽性反応的中度、陰性反応的中度に関する問題を解き理解を深める。	事前学習 90分 事後学習 90分
6	疫学調査法（増満誠）	以下の内容について講義する。 1) 対象集団の選定	事前学習：疫学調査法の種類と内容について、対象集団の選定方法を表	事前学習 90分

		2) 調査方法（生態学的研究・横断研究）	にまとめてくる。 事後学習：国家試験過去問題を検索し、生態学的研究・横断研究に関する問題を解き理解を深める。	事後学習 90分
7	記述疫学研究（増満誠）	以下の内容について演習を交えて講義する。 1) 記述疫学研究 2) 年齢調整死亡率 3) 標準化死亡率	事前学習：私たちの生活の中で使用されている年齢調整死亡率や標準化死亡率について、その数値や意味について調べてくる。 事後学習：国家試験過去問題を検索し、年齢調整死亡率や標準化死亡率に関する問題を解き理解を深める	事前学習 90分 事後学習 90分
8	症例対照研究（増満誠）	以下の内容について演習を交えて講義する。 1) 症例対照研究 2) オッズ比	事前学習：症例対照研究についてその目的と方法、オッズ比が意味することを調べておく。 事後学習：国家試験過去問題を検索し、症例対照研究、オッズ比に関する問題を解き理解を深める。	事前学習 90分 事後学習 90分
9	コホート研究①（増満誠）	以下の内容について演習を交えて講義する。 1) コホート研究 2) 相対危険 3) 寄与危険	事前学習：コホート研究について調べるとともに、コホート研究の中における種類を時間軸で考えてくる。 事後学習：国家試験過去問題を検索し、相対危険と寄与危険に関する問題を解き理解を深める。	事前学習 90分 事後学習 90分
10	コホート研究②（増満誠）	以下の内容について演習を交えて講義する。 1) 寄与危険割合 2) 人口寄与危険 3) 人口寄与危険割合	事後学習：前時の事後学習に引き続き、寄与危険割合、人口寄与危険、人口寄与危険割合の意味を調べる。 事後学習：国家試験過去問題を検索し、寄与危険割合、人口寄与危険、人口寄与危険割合に関する問題を解き理解を深める。	事前学習 90分 事後学習 90分
11	因果関係（増満誠）	以下の内容について演習を交えて講義する。 1) 因果関係の判定基準（因子）	事前学習：因果関係の判定基準について代表的なものを調べてくる。 事後学習：国家試験過去問題を検索し、因果関係に関する問題を解き理解を深める。	事前学習 90分 事後学習 90分
12	標本抽出（増満誠）	以下の内容について演習を交えて講義する。 1) 標本抽出法（無作為抽出法など）	事前学習：標本抽出法を調べ、エビデンスレベル別に系統的にまとめる。 事後学習：国家試験過去問題を検索し、標本抽出法に関する問題を解き理解を深める。	事前学習 90分 事後学習 90分

13	交絡因子（増満誠）	以下の内容について演習を交えて講義する。 1) 交絡因子とその制御法	事前学習: 交絡因子の制御法について、その種類と意味について調べておく。 事後学習: 国家試験過去問題を検索し、交絡因子とその制御法に関する問題を解き理解を深める。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
14	疫学用語のまとめ（増満誠）	以下の内容について演習を交えて講義する。 1) 疫学用語	事前学習: 国家試験出題基準の用語について、それぞれの用語を説明できるか照合しながら振り返り授業に臨む。 事後学習: 説明できなかった用語についてまとめ一覧表を作成し理解を深める。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
15	疫学指標の求め方まとめ（増満誠）	以下の内容について演習を交えて講義する。 1) 各疫学指標の求め方	事前学習: 公衆衛生においてどのような場面で疫学指標が活用されているか検索する。 事後学習: 各疫学の指標の計算式の一覧を作成し、その共通性や相違性を明らかにする。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
備考				

授業科目名	保健統計学 Statistics in Health and Welfare			単位	2 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師、保健師、養護教諭	授業区分	講義
開講年次	2 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目担当責任者：松浦賢長 科目担当者：原田直樹、梶原由紀子				
授業概要	わが国の保健統計の推移と現況を最新のデータを用いて論じ、世界の状況についても学ぶ。あわせて、わが国の保健課題の地域格差についても探索的に学んでいく。				
到達目標	知識・理解	(DP 1)	わが国の保健統計の推移と現況の概要を述べることができる。		
		(DP 2)	資料のもつ情報を多面的・批判的に分析できる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	授業「公衆衛生学」（1 年次）にて扱われた知識。				
テキスト	『厚生 の指標 臨時増刊 国民衛生の動向（最新年版）』厚生統計協会				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業	梶原は担当するコマについて実務経験（学校保健室勤務）を生かした内容で構成する。さらに、「感染症対策」「AIDS の最新事情」のコマについては、現在実務をされている講師（養護教諭等）による授業を行う。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		100						100
知識・理解	(DP 1)	50						50
	(DP 2)	50						50
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
わが国の保健統計の推移と現況の概要を理解しており、資料のもつ情報を多面的・批判的に分析できる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
わが国の保健統計の推移と現況の概要を理解しており、資料のもつ情報を分析できる（最終試験にて 60 点以上を得ること）。	
成績評価の基準	
S	履修目標を越えたレベルを達成している

A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	人口静態 ・保健統計学とは何か ・静態と動態の違い ・人口静態 ・世帯とは何か （松浦）	教科書を解説し、ポイントをおさえていく。（講義形式）	〔事前学習〕教科書第2編第1章「人口静態」を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 〔事後学習〕授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。	事前学習 90分 事後学習 90分
2	人口動態① ・グラフの見方 ・出生の動向 ・都道府県別の出生 ・出生順位と母親の年齢 ・出生児の体重と身長 ・妊娠期間別の出生 ・出生の国際比較 （松浦）	教科書を解説し、ポイントをおさえる。（講義形式）	〔事前学習〕教科書第2編第2章「人口動態」の前書きと「1. 出生」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 〔事後学習〕授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。	事前学習 90分 事後学習 90分
3	人口動態② ・死亡の動向 ・死因の概要 ・悪性新生物 ・心疾患 ・脳血管疾患 ・肺炎 （松浦）	教科書を解説し、ポイントをおさえる。（講義形式）	〔事前学習〕教科書第2編第2章「人口動態」の「2. 死亡」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 〔事後学習〕授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。	事前学習 90分 事後学習 90分
4	人口動態③ ・外因死 ・死亡の国際比較 ・妊産婦死亡 ・死産	教科書を解説し、ポイントをおさえる。（講義形式）	〔事前学習〕教科書第2編第2章「人口動態」の「3. 死亡」～「7. 婚姻と離婚」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着	事前学習 90分 事後学習 90分

	・周産期死亡 ・乳児死亡 ・婚姻と離婚 (松浦)		目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 〔事後学習〕授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。	
5	保健対策 ・母子保健 ・老人保健 ・障害児者施策 ・精神保健 ・歯科保健 (原田)	教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)	〔事前学習〕教科書第3編第2章「保健対策」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 〔事後学習〕授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。	事前学習 90分 事後学習 90分
6	生命表 ・生命表とは ・平均余命 ・平均寿命 ・死因分析 ・死亡状況の変化 (原田)	教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)	〔事前学習〕教科書第2編第3章「生命表」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 〔事後学習〕授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。	事前学習 90分 事後学習 90分
7	感染症対策 (松浦・原田・梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	〔事前学習〕インターネットで厚生労働省の「感染症の予防について」のページへいき、そのページにある下記の参考資料を読んでおくこと。疑問点があれば書き出しておくこと。 ・インフルエンザ予防リーフレット ・ノロウイルス食中毒予防対策リーフレット ・手洗い手順リーフレット ・皆様へのお願い ～感染症予防のために～ ・流水で手洗いできない場合の手指消毒について ・咳エチケットで感染症予防 ・避難所内のトイレの衛生管理について ・浸水した家屋の感染症対策について ・清掃作業時に注意してください	事前学習 90分 事後学習 90分

			・清掃と乾燥が重要です 〔事後学習〕授業中にとったノートを見返して、配布された資料に書かれていた意味を確認しておく。	
8	健康状態と受療状況 ・健康状態 ・自覚症状 ・通院者の状況 ・受領状況 ・受療率 ・在院日数 (原田)	教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)	〔事前学習〕教科書第2編第4章「健康状態と受療状況」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 〔事後学習〕授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。	事前学習 90分 事後学習 90分
9	医療対策 ・医療計画 ・在宅医療の推進 ・訪問看護・ ・救急、休日夜間診療 ・医療関係者 ・医療施設 (原田)	教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)	〔事前学習〕教科書第2編第5章「医療対策」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 〔事後学習〕授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。	事前学習 90分 事後学習 90分
10	労働衛生対策・環境保全対策 ・産業医 ・労働衛生管理の基本 ・事業場における管理 ・職業性疾病予防 ・健康診断 ・職場のメンタルヘルス ・大気汚染対策 ・水質汚濁対策 ・地球環境 (原田)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	〔事前学習〕教科書第7編第2章「主な労働衛生対策」部分と、第8編第4章「環境保全対策」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 〔事後学習〕授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。	事前学習 90分 事後学習 90分
11	生活習慣病対策 ・生活習慣病の概念 ・健康日本21 ・健康増進対策 (原田)	教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)	〔事前学習〕教科書第3編第1章「生活習慣病と健康増進対策」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 〔事後学習〕授業でとったノートを見	事前学習 90分 事後学習 90分

			返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。	
12	医療・介護保険制度 ・医療保険制度の概要 ・診療報酬 ・公費医療 ・国民医療費 ・介護保険制度の概要 ・介護報酬 ・介護サービス施設 (原田)	教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)	[事前学習] 教科書第4編第1章「医療保険制度」部分と第2章「介護保険制度」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。	事前学習 90分 事後学習 90分
13	疾病対策 ・がん ・難病 ・腎疾患 ・リウマチ ・アレルギー (原田)	教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)	[事前学習] 教科書第3編第4章「疾病対策」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度確認しておく。	事前学習 90分 事後学習 90分
14	AIDSの最新事情 ・HIV検査 ・AIDSの臨床知識 ・AIDS治療の現在 ・患者の高齢化 ・慢性疾患としてのAIDS (松浦・原田・梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	[事前学習] インターネットで「平成29(2017)年エイズ発生動向年報(1月1日～12月31日)」(平成30年8月27日厚生労働省エイズ動向委員会)の「委員長コメント」「平成29年エイズ発生動向一概要」「発生動向の分析結果」をダウンロード・印刷し、読んでおく。疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習] 授業中にとったノートを見返して、配布された資料に書かれていた意味を確認しておく。	事前学習 90分 事後学習 90分
15	学校保健 ・学校保健行政 ・学校保健活動 ・学齢期の健康状況 ・特別支援教育 (梶原)	教科書を解説し、ポイントをおさえる。(講義形式)	[事前学習] 教科書第9編「学校保健」部分を読んでくる。また、図表についてはその意味するところ、着目したところを書き留めてくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習] 授業でとったノートを見返し、授業中に提示されたポイントについて教科書の記述・図表をもう一度	事前学習 90分 事後学習 90分

			確認しておく。	
備 考				

授業科目名	保健社会調査論 Social research in health			単位	2 単位
				授業コード	
履修	選択	関連資格		授業方法	演習
開講年次	3 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：小出昭太郎				
授業概要	統計を用いた質問紙調査（いわゆるアンケート調査）の方法を学ぶ。質問紙調査はしばしば、「知りたいことを一つ一つ尋ねる質問を並べて質問紙をつくり、1 番の選択肢を選んだ人が○％、2 番の選択肢を選んだ人が△％、というように集計するだけのもの」と捉えられている。しかし、方法を学び、計画を吟味して質問紙調査を行えば、より確かであり有用な物事を知ることができ、卒業研究や病院・地域等における研究の主要な方法の一つとして用いることができる。また、質問紙調査を行う方法を学ぶと、質問紙調査が用いられた論文を正しく読めるようになり、研究や業務に役立つであろう。 演習は少人数のグループで行う。学生の到達度に応じて授業計画を変更することがある。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	質問紙調査（特に質問紙作成と統計的分析）を行うための基礎的な知識を理解し身につける。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	質問紙調査（特に質問紙作成と統計的分析）を行う際の基礎的な論理的思考・判断力を身につける。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	質問紙調査を学ぶ意義を理解し、学びに積極的に取り組む。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能					
テキスト	テキストはなし。配布資料を用いる。				
参考図書・教材等	授業中に紹介する。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他（演習、演習報告書）	合計
総合評価割合				50			50	100
知識・理解	(DP 2)			25			5	30
思考・判断・表現	(DP 3)			25			5	30
関心・意欲・態度	(DP 5)						40	40
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
助言を受けながら、自ら質問紙調査を行うことができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
質問紙調査（特に質問紙作成と統計的分析）を行うための基礎的な知識を理解し身につける。学びに積極的に取り組む。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	イントロダクション	講義 配布資料を用いて、質問紙調査の概要について講義する。	事後学習 講義の復習を行う。配布資料を見直すなどして、質問紙調査の概要についての理解を確実なものにする。	事後学習 70 分
2	調査テーマの検討	演習 調査テーマの検討を、個人またはグループで行う。	進捗状況に応じて演習（調査テーマの検討）の続きを行う。（DP2,3,5）	
3	調査の流れ	講義 配布資料を用いて、調査の流れについて講義する。	事後学習 講義の復習を行う。配布資料を見直すなどして、調査の流れについての理解を確実なものにする。	事後学習 70 分
4	調査テーマの検討	演習 調査テーマの検討を、個人またはグループで行う。	進捗状況に応じて演習（調査テーマの検討）の続きを行う。（DP2,3,5）	
5	文献検討	講義 配布資料を用いて、文献検討について講義する。	事後学習 講義の復習を行う。配布資料を見直すなどして、文献検討についての理解を確実なものにする。	事後学習 70 分
6	調査の企画と文献検討	演習 調査の企画と文献検討を、グループで行う。	進捗状況に応じて演習（調査の企画と文献検討）の続きを行う。（DP2,3,5）	
7	質問文と選択肢の作成	講義 配布資料を用いて、質問文と選択肢の作成について講義する。	事後学習 講義の復習を行う。配布資料を見直すなどして、質問文と選択肢の作成	事後学習 70 分

8	調査の企画と文献検討	演習 調査の企画と文献検討を、グループで行う。	についての理解を確実なものにする。 進捗状況に応じて演習（調査の企画と文献検討）の続きを行う。 (DP2,3,5)	
9	統計的推測	講義 配布資料を用いて、統計的推測について講義する。	事後学習 講義の復習を行う。配布資料を見直すなどして、統計的推測についての理解を確実なものにする。	事後学習 70分
10	調査の企画と文献検討	演習 調査の企画と文献検討を、グループで行う。	進捗状況に応じて演習（調査の企画と文献検討）の続きを行う。 (DP2,3,5)	
11	クロス集計、相関係数	講義 配布資料を用いて、クロス集計、相関係数について講義する。	事後学習 講義の復習を行う。配布資料を見直すなどして、クロス集計、相関係数についての理解を確実なものにする。	事後学習 70分
12	調査の企画と文献検討	演習 調査の企画と文献検討を、グループで行う。	進捗状況に応じて演習（調査の企画と文献検討）の続きを行う。 (DP2,3,5)	
13	測定の信頼性・妥当性・内的整合性	講義 配布資料を用いて、測定の信頼性・妥当性・内的整合性について講義する。	事後学習 講義の復習を行う。配布資料を見直すなどして、測定の信頼性・妥当性・内的整合性についての理解を確実なものにする。	事後学習 70分
14	調査の企画と文献検討	演習 調査の企画と文献検討を、グループで行う。	進捗状況に応じて演習（調査の企画と文献検討）の続きを行う。 (DP2,3,5)	
15 16	質問紙の作成	演習 質問紙の作成を、グループで行う。	事後学習 進捗状況に応じて演習（質問紙の作成）の続きを行う。(DP2,3,5)	事後学習 70分
17	質問紙の作成	演習 質問紙の作成を、グループで行う。	事後学習 進捗状況に応じて演習（質問紙の作成、プレテスト）の続きを行う。 (DP2,3,5)	事後学習 70分
18	プレテスト	演習 プレテストを、グループで行う。		
19	質問紙の修正	演習 質問紙の修正を、グループで行う。	事後学習 進捗状況に応じて演習（質問紙の修正、調査の実施）の続きを行う。 (DP2,3,5)	事後学習 70分
20	調査の実施	演習 調査の実施を、グループで行う。		
21 22	データの入力	演習 データの入力を、グループで行う。	事後学習 進捗状況に応じて演習（データの入力）の続きを行う。(DP2,3,5)	事後学習 70分

23 24	分析	演習 分析を、グループで行う。	事後学習 進捗状況に応じて演習（分析）の続き を行う。（DP2,3,5）	事後学習 70 分
25	分析	演習 分析を、グループで行う。	事後学習 進捗状況に応じて演習（分析、報告書 の作成）の続きを行う。（DP2,3,5）	事後学習 70 分
26	報告書の作成	演習 報告書の作成を、グループで行う。		
27 28	報告書の作成	演習 報告書の作成を、グループで行う。	事後学習 進捗状況に応じて演習（報告書の作 成）の続きを行う。（DP2,3,5）	事後学習 70 分
29	報告書の作成	演習 報告書の作成を、グループで行う。	事後学習 進捗状況に応じて演習（報告書の作 成）の続きを行う。 レポート（個人レポート）を作成す る。（DP2,3,5）	事後学習 370 分
30	まとめ	講義 まとめの講義を行う。		
備 考				

授業科目名	臨床心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	岩 橋 宗 哉		前期	講義	選択	2	3 年次
授業の概要	臨床心理学の成り立ちについて学ぶ。 クライアントへの基本的なかかわり方、理解のし方について事例を通して学習する。 現代の代表的な臨床心理学の理論である、精神分析、体験過程療法、認知行動療法についての基本的な考え方について学習する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	クライアントへのかかわり方の基本を説明することができる。 代表的な心理療法の基本的考え方について説明することができる。 神経症性障害、パーソナリティ障害、うつ病などの精神病理について説明することができる。					
思考・判断 ・表現	DP3:論理的思考・判断力	事例を読み、それを理解し、自らの考えを述べることができる。					
授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	臨床心理学の成り立ち		講義		配付された資料をもとによく理解できるように復習してください		
2	心理面接における共感		講義				
3	プレゼンスの重要性ー認知症の事例を通してー		事例を活用した講義				
4	フォーカシングと体験過程療法		講義				
5	精神分析の基本的な枠組み理解の枠組み（力動論）		講義				
6	精神分析の基本的な枠組み理解の枠組み（治療関係）		事例を活用した講義				
7	遊戯療法の事例を通してみる心の世界		事例を活用した講義				
8	認知行動療法の基本的枠組み		講義				
9	認知行動療法の実際		事例を活用した講義				
10	神経症性障害		講義				
11	ナルシズムとパーソナリティ障害		講義				
12	事例を通して学ぶーひきこもりー		事例を活用した講義				
13	うつ病について		講義				
14	事例を通して学ぶーうつ病ー		事例を活用した講義				
15	まとめ		講義		提示した課題をあらかじめまとめること		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		○	○			40	
宿題・授業外レポート		○	○			40	
授業態度・授業への参加度		○	○			20	
補足事項							
実務経験を生かした授業	臨床心理士で病院臨床の経験がある者が、事例等を用いて臨床心理学の概念を説明する。						
テキスト・参考文献等	参考文献：成田義弘・氏原寛「共感と解釈」人文書院（1999）マラン「心理療法の臨床と科学」誠信書房（1992）、ミルトン「精神分析入門講座」岩崎学術出版社（2006）、北山修「精神分析理論と臨床」誠信書房（2001）、松木邦裕「対象関係論を学ぶ」岩崎学術出版社（1996）、アン・ワイザー・コーネル「フォーカシング・ニューマニユアル」コスモス・ライブラリー（2005）、福盛英明多編「マンガで学ぶフォーカシング入門」誠信書房（2005）、山上敏子「行動療法」岩崎学術出版社（1990）、内山喜久雄他編「＜ケーススタディ＞認知行動カウンセリング」至文堂（2004）						
履 修 条 件	特になし						
学習相談・助言体制	基本的には、授業の最後に質問等を用紙に書いてもらい、次回に、答えていきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後や、質問時間をメール等で予約してください。					授業中の撮影	

授業科目名	精神保健学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	小嶋 秀 幹		前期	講義	選択	2	2 年次
授業の概要	公認心理師、精神保健福祉士、保健師、養護教諭等、将来、精神保健福祉に従事する学生に必要な精神保健学の基礎知識を講義する。最近の精神保健のトピックスについても随時紹介する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	講義テーマの内容を正しく説明できる。					
思考・判断 ・表現	DP3:論理的思考・判断力	講義テーマの内容を正しく説明できる。					
授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	精神保健とは(1)		講義		e-learning を利用		
2	精神保健とは(2)		講義		e-learning を利用		
3	ライフサイクルにおける精神保健（乳児期－１）		講義		e-learning を利用		
4	ライフサイクルにおける精神保健（乳児期－２）		講義		e-learning を利用		
5	ライフサイクルにおける精神保健（学童期－１）		講義		e-learning を利用		
6	ライフサイクルにおける精神保健（学童期－２）		講義		e-learning を利用		
7	精神保健活動の実際（家庭）		講義		e-learning を利用		
8	ライフサイクルにおける精神保健（思春期）		講義		e-learning を利用		
9	ライフサイクルにおける精神保健（青年期）		講義		e-learning を利用		
10	精神保健活動の実際（学校）		講義		e-learning を利用		
11	ライフサイクルにおける精神保健（成人期）		講義		e-learning を利用		
12	精神保健活動の実際（職場）		講義		e-learning を利用		
13	精神障害の基礎知識（うつ病）		講義		e-learning を利用		
14	ライフサイクルにおける精神保健（老年期）		講義		e-learning を利用		
15	精神保健活動の実際（地域）		講義		e-learning を利用		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
成績評価方法 定期試験		◎	○			80	
宿題・授業外レポート		○	◎			20	
実務経験を生かした授業	精神保健の実務経験をもつ精神科医の教員が精神保健学の基本的知識を講義する。						
テキスト・参考文献等	テキスト：精神保健福祉士養成セミナー第2巻「精神保健学－精神保健の課題と支援」〈第6版〉（へるす出版、2017年、3200円）						
履修条件	引き続き「精神保健学Ⅱ」を履修することが望ましい。						
学習相談・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。					授業中の撮影	

授業科目名	東洋医学概論			単位	1 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格		授業方法	講義
開講年次	2 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：増満 誠 科目担当者：田原英一 他				
授業概要	東洋医学の観点から基本的病態、診察（看護）実技を教授する。臨床現場の患者事例を通じ、学んだ知識・技術から“ホリスティックに人を捉える”、“気づきの看護”とは何かを考え、広い視野で人を看る力を身に付けることを目指す。毎回、講義内容に準じた診断実技（演習）を行い、知識と技術に関連させた理解を図る。				
到達目標	知識・理解	(DP 1)	東洋医学の健康概念や病気の捉え方について理解できる。		
		(DP 2)			
	思考・判断・表現	(DP 3)	患者をホリスティックに捉えるための東洋医学的視点の観察力・判断力を身につけることができる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	看護の学びの過程で起こる疑問に対し、東洋医学の視点からも解決を図ろうと考えることができる。		
	技能	(DP10)	患者アセスメントに五感を用いた全身観察（四診）法を活用できるとともに、症状に対する看護を考えることができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	人体の構造と機能、病態、薬理学、基礎看護技術論など、西洋医学がベースになった基本的な看護に関する知識・技術を身につけて、臨むことが前提である。既習した知識・技術をもって東洋医学に関する考えを知り、より深く広い視野で人を看る力を身につけていく。				
テキスト	教科書 『はじめての漢方診療 ノート』 医学書院				
参考図書・教材等	参考書 『はじめての漢方診療 十五話』 医学書院				
実務経験を生かした授業	日頃より漢方診療に携わり、日本東洋医学会漢方専門医・指導医であり、漢方専門医認定機関（九州支部）における講師を担当する医師が、複数（オムニバス）で授業を担当する。 長年、看護教育における東洋医学に携わった看護教員が授業補助にあたる。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80	10				10	100
知識・理解	(DP 1)	25	5					30
	(DP 2)	25	5					30
思考・判断・表現	(DP 3)	15						15
関心・意欲・態度	(DP 5)	15					5	20
技能	(DP10)						5	5
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。

➤ 東洋医学の歴史、理論（陰陽虚実など）、診断（証、四診）および漢方の成り立ち、種類、効果などを理解し、説明することができる。 ➤ 近年の臨床における漢方の広がりや社会的ニーズの高まりを知り、東洋医学に関する知識をより身につけようと自己学習を深めることができる。 ➤ 患者をホリスティックに捉えるための東洋医学的視点の観察力・判断力を身につけ、自身の看護に結び付けて考えることができる。	
到達目標 (C評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
➤ 東洋医学の歴史、理論（陰陽虚実など）、診断（証、四診）および漢方の成り立ち、種類、効果などを理解することができる。 ➤ 近年の臨床における漢方の広がりや社会的ニーズの高まりを知ることができる。 ➤ 患者をホリスティックに捉えるための東洋医学的視点の観察力・判断力を身につけ、自身の看護に結び付けて考えることができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	総論（田原） 歴史、陰陽、剤型、証、四診	基本的に授業は、 座学:参加型≒ 2：1 で展開する。 【座学：講義形式】 講義はスクール形式で、学生の理解と授業参加を促すため、適宜、簡単な質問を講師より振っていく。 【参加型：演習】 概ね 60 分の上記の講義終了後、実技実践として、脈診や舌診、腹診などを学生間で行う。学生 30 名程度につき漢方専門医がラウンドで技術指導にあたる。また看護教員が補助としてつき、学生理解を促す	事前学習： 授業内容に該当する項目についての「はじめての漢方診療ノート」を一読して くすること。	各コマ 事前学習 64 分 事後学習 100 分
2	六病位、太陽病（未定） 脈診		事後学習： 授業で使用したレジメおよび授業内容に該当する「はじめての漢方診療ノート」を見直し、学習内容の理解を深める。 復習を通して新たな疑問があった場合は、次回の授業に質問ができるよう整えておくこと。	
3	少陽病、陽明病（未定） 脈診、舌診、腹診			
4	陰証（未定） 望診、切診全般（脈診、足）			
5	血の失調（未定） 関連の四診			
6	水の失調（未定） 関連の四診			
7	気の失調（未定） 関連の四診			
8	診察と診断のまとめ（田原） 副作用、まとめ			

		なお、腹診はベッド上臥床位で腹部を露出し診断者 - 患者役で交代で演習をおこなう。 質問は、適宜、受け付ける。	
備考	授業前後もしくは出欠カードの記載で質問・相談を受け付ける。 注意：5月下旬より授業を開始する。以降、毎週開講 演習時、腹部が出しやすい服装（上下セパレートの服。特にパンツスタイルが望ましい）で受講すること。ジャージ、ユニホーム着用可。		

授業科目名	保健社会学 Health sociology			単位	1 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格		授業方法	講義
開講年次	1 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：小出昭太郎				
授業概要	この授業の目的は、医療・看護・保健と社会との関わりを理解することである。第1に、病気や健康に関する取り組みには、病院で行われるもの以外にも様々なものがある。そしてそれらは、(病院で行われるものも含めて、)社会的なしくみや人と人との関わりの中で行われている。第2に、ある人が病気になるかどうかには様々な事柄が影響を及ぼしており、その人の社会的環境（職業や人間関係など）もそのひとつである。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	医療・看護・保健と社会との関わりについて理解し、知識を得る。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	医療・看護・保健と社会との関わりに関心を持つ。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能					
テキスト	テキストはなし。配布資料を用いる。				
参考図書・教材等	授業中に紹介する。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		100						100
知識・理解	(DP2)	95						95
関心・意欲・態度	(DP5)	5						5
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容(授業のねらい)を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
医療・看護・保健における問題の把握・解決に役立てられるほど十分に、医療・看護・保健と社会との関わりについて理解し知識を得て、思考し表現することができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
医療・看護・保健と社会との関わりについて理解し知識を得る。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している

- C 到達目標を達成している
D 到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	近代的な治療の特質	配布資料を用いて、近代的な治療の特質について講義する。 質疑応答を行う。	事後学習 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を丁寧に読む。配布資料全体を見直すなどして理解を確実なものにし、近代的な治療の特質について説明できるようにする。（DP2,5）	事後学習 129 分
2	障害と社会的環境・社会的支援	1 つ前の回に提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、障害と社会的環境・社会的支援との関係、国際生活機能分類について講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 1 つ前の回に配布された資料を読む。（DP2） 事後学習 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を丁寧に読む。配布資料全体を見直すなどして理解を確実なものにし、障害と社会的環境・社会的支援との関係について説明できるようにする。（DP2,5）	事前学習 40 分 事後学習 128 分
3	患者と専門家	1 つ前の回に提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、医師－患者関係、セルフヘルプグループについて講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 1 つ前の回に配布された資料を読む。（DP2） 事後学習 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を丁寧に読む。配布資料全体を見直すなどして理解を確実なものにし、医師－患者関係、セルフヘルプグループについて説明できるようにする。（DP2,5）	事前学習 40 分 事後学習 128 分
4	家族による高齢者介護と産業化	1 つ前の回に提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、家族による高齢者介護の状況、産業化の家族への影響、などについて講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 1 つ前の回に配布された資料を読む。（DP2） 事後学習 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を丁寧に読む。配布資料全体を見直すなどして理解を確実なものにし、家族による高齢者介護の状況、産業化の家族への影響、などについて説明できるようにする。（DP2,5）	事前学習 40 分 事後学習 128 分

5	死と社会	1 つ前の回に提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、日本人の死との向き合い方などについて講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 1 つ前の回に配布された資料を読む。 (DP2) 事後学習 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を丁寧に読む。配布資料全体を見直すなどして理解を確実なものにし、日本人の死との向き合い方について説明できるようにする。(DP2,5)	事前学習 40 分 事後学習 128 分
6	健康・病気の社会的要因	1 つ前の回に提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、病気の原因、病気の社会的な原因、などについて講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 1 つ前の回に配布された資料を読む。 (DP2) 事後学習 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を丁寧に読む。配布資料全体を見直すなどして理解を確実なものにし、病気の社会的な原因について説明できるようにする。(DP2,5)	事前学習 40 分 事後学習 128 分
7	社会経済的地位と健康・病気	1 つ前の回に提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、社会経済的地位と健康・病気との関係について講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 1 つ前の回に配布された資料を読む。 (DP2) 事後学習 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を丁寧に読む。配布資料全体を見直すなどして理解を確実なものにし、社会経済的地位と健康・病気との関係について説明できるようにする。 (DP2,5)	事前学習 40 分 事後学習 128 分
8	社会的紐帯と健康・病気	1 つ前の回に提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、社会的紐帯と健康・病気との関係について講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 1 つ前の回に配布された資料を読む。 (DP2) 事後学習 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を丁寧に読む。配布資料全体を見直すなどして理解を確実なものにし、社会的紐帯と健康・病気との関係について説明できるようにする。 (DP2,5)	事前学習 40 分 事後学習 128 分
9				
10				

11				
12				
13				
14				
15				
備考				

授業科目名	保健医療福祉行政論Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	四戸智昭・小出昭太郎		後期	講義	必修	1	2年次
授業の概要	保健・医療・福祉の臨床現場で働く際に求められる必要な制度や政策について学ぶ科目である。少子・高齢の時代を迎えた現代社会においては、従来の保健や福祉の制度や政策が大きな転換点を迎えている。また従来の仕組みが新しい人々の生活に対応できなくなったり、従来の保健・医療・福祉の枠組みの変換だけでは、人々の幸せを維持できなくなりつつある。保健・医療・福祉の専門職が、相互に連携を取りながら、この新しい局面に対応していくことが求められる。この科目では、保健・医療・福祉の制度や政策について、特に専門職種の連携という視点から理解を深めるとともに、人々の生活上の問題や健康問題を取り上げながら、人々を支える行政システムについて深い理解をすることが目的である。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	わが国の保健医療福祉行政の基礎知識を得ること					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	保健医療福祉に関する現代の諸課題について関心を持ち、自ら学ぼうとする意欲があること					
授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法			担当	
1	保健医療福祉行政について		講義			四戸	
2	生活保護祉制度について		講義			四戸	
3	高齢者福祉と介護保険制度		講義			四戸	
4	子ども福祉と児童虐待問題		講義			四戸	
5	医療保障		講義			小出	
6	医療法		講義			小出	
7	所得保障、公的扶助		講義			小出	
8	保健医療福祉の財政		講義			小出	
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎				90	
宿題・授業外レポート				○		5	
授業態度・授業への参加度				○		5	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト：特に指定しない。 参考文献：授業時に指示する。						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	メールによる質問を受け付ける。					授業中の撮影	

授業科目名	保健医療福祉行政論Ⅱ			単位	2
				授業コード	
履修	選択	関連資格	保健師	授業方法	講義
開講年次	4 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：四戸智昭 科目担当者：小出昭太郎				
授業概要	現在、わが国は未曾有の少子・両齢の時代を迎えている。人々の生活の基盤を支える保健・医療・福祉制度や政策は、この時代の変化に対応すべく大転換を求められようとしている。またこういった大転換にあっては、制度や政策がそこに住む人々の生活に細やかに対応するために、より柔軟で、スピーディーな対応が地方自治体には求められる。本科目では、主に住民の健康維持活動の担い手となる保健師に必要な保健・医療・福祉制度や政策について理解を深めることが目的である。またこれまでよりもさらに住民主体の保健制度や福祉制度を地域で構築するために、保健や福祉に対する住民ニーズの把握や、新しい計画や施策の立案に必要な素養を養うことも本講義の重要な目的である。				
到達目標	知識・理解	(DP 1)	保健師として必要なわが国の保健・医療・福祉制度に関する知識を得ること		
		(DP 2)			
	関心・意欲・態度	(DP 5)	保健医療福祉に関する現代の諸課題について関心を持ち、それを解決しようとする意欲があること		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	保健医療福祉行政論Ⅰを履修していることが望ましい。				
テキスト	特に指定しない。				
参考図書・教材等	授業時に提示する。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80			20			100
知識・理解	(DP2)	80						80
関心・意欲・態度	(DP5)				20			20
備考 授業内で、自分の考えやグループ討論について発表する。課題解決への関心度等について、自分の考えの発表内容や、グループ討論への参加態度を「発表」点で加味する。試験は、小出担当分と四戸担当分についてそれぞれ実施する。それぞれの素点の平均点が「試験」点となる。								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
保健師として必要なわが国の保健・医療・福祉制度に関する知識に基づき、国民の健康と福祉の向上に資するためのより良い保健活動について自ら考え、周辺の諸課題について自ら解決するための意欲があること。	
到達目標 (C評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
保健師として必要なわが国の保健・医療・福祉制度に関する基礎的な知識を得ていること。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している

- A 履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
- B 履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
- C 到達目標を達成している
- D 到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	保健と福祉の行政（小出）	配布資料を用いて、保健と福祉の行政について講義する。 質疑応答を行う。	事後学習 配布資料全体を見直すなどして、保健と福祉の行政についての理解を確実なものにする。	事後学習 180 分
2	歴史（小出）	前回の授業で提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、保健・医療・福祉の歴史について講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 「保健医療福祉行政論Ⅰ」の単元「医療保障」の歴史のところを復習する。 事後学習 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を読む。配布資料全体を見直すなどして、保健・医療・福祉の歴史についての理解を確実なものにする。	事前学習 30 分 事後学習 45 分
3	医療供給(1)（小出）	前回の授業で提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、医療供給について講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 「保健医療福祉行政論Ⅰ」の単元「医療法」を復習する。 配布資料は前回の授業のときに配布するので、それを読む。 事後学習 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を読む。配布資料全体を見直すなどして、医療供給についての理解を確実なものにする。	事前学習 75 分 事後学習 45 分
4	医療供給(2)（小出）	前回の授業で提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、医療供給について講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 配布資料は前回の授業のときに配布するので、それを読む。 事後学習 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を読む。配布資料全体を見直すなどして、医療供給についての理解を確実なものにする。	事前学習 45 分 事後学習 45 分
5	包括ケア（小出）	前回の授業で提出されたレスポンスカードに回答する。	事前学習 他の科目の包括ケアについての内容を	事前学習 90 分

		配布資料を用いて、包括ケアについて講義する。 質疑応答を行う。	復習する。 配布資料は前回の授業のときに配布するので、それを読む。 事後学習 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を読む。配布資料全体を見直すなどして、包括ケアについての理解を確実なものにする。	事後学習 45 分
6	地方財政（小出）	前回の授業で提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、地方財政について講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 配布資料は前回の授業のときに配布するので、それを読む。 事後学習 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を読む。配布資料全体を見直すなどして、地方財政についての理解を確実なものにする。	事前学習 45 分 事後学習 45 分
7	地方分権(1)（小出）	前回の授業で提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、地方分権について講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 配布資料は前回の授業のときに配布するので、それを読む。 事後学習 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を読む。配布資料全体を見直すなどして、地方分権についての理解を確実なものにする。	事前学習 45 分 事後学習 45 分
8	地方分権(2)（小出）	前回の授業で提出されたレスポンスカードに回答する。 配布資料を用いて、地方分権について講義する。 質疑応答を行う。	事前学習 配布資料は前回の授業のときに配布するので、それを読む。 事後学習 授業では詳しくは説明されなかった補足資料を読む。配布資料全体を見直すなどして、地方分権についての理解を確実なものにする。 小出担当部分の最終レポートに取り組む。	事前学習 45 分 事後学習 615 分
9	オリエンテーションとアイスブレイク（四戸）	グループワーク 保健師として、集団をマネジメントする技術について様々なアイスブレイク方法についてグループワークを通じて学習する。	事前学習 保健医療福祉行政論Ⅰで学習した内容について復習する。	事前学習 180 分

		講義 四戸担当の講義に関するオリエンテーション		
10	国民が健康で暮らすための法的根拠について（四戸）	講義 日本国憲法の基本的人権について解説を行う。 アクティブラーニング 日本国憲法を読みながら、基本的人権の尊重や国民が健康で暮らすための法的根拠について、グループで討論しグループの意見を発表する	事前学習 保健医療福祉行政論Ⅰで学習した日本国憲法に関する事柄、三権分立について復習する。 事後学習 授業で学習した内容について自学ノートをとめる	事前学習 90分 事後学習 90分
11	住民の命と健康を守るための保健医療福祉行政について（四戸）	講義 岩手県沢内村の医療福祉について理解するための解説を行う。 アクティブラーニング 地域住民の命と健康を守るために、保健師としてどのような努力が求められるかについてグループで討論しグループの意見を発表する。	事前学習 保健医療福祉行政論Ⅰで学習した日本国憲法の基本的人権の尊重、生存権について学習する。 事後学習 授業で学習した内容について自学ノートをとめる	事前学習 90分 事後学習 90分
12	保健医療福祉行政の法的基盤（四戸）	講義 保健医療福祉行政の法的基盤について、テキストを用いて理解を深める。 アクティブラーニング 行政とは何か、保健医療福祉行政とは何かについて、グループ討論をしながら理解を深める。	事前学習 保健医療福祉行政の法的基盤に関するテキストについて熟読し、疑問点や自分の考えをとめる 事後学習 保健医療福祉の法的基盤について、授業で学習した内容について自学ノートをとめる	事前学習 90分 事後学習 90分
13	地域における保健課題をどう捉えるか（四戸）	講義 ひきこもりについて、嗜癖行動学的視点から捉えた課題の所在や課題解決のヒントについて解説を行う アクティブラーニング 地域における保健課題について、保健師としての役割と関わり方について、グループ討論を通じて理解を深める。	事前学習 健康の社会的決定要因「ソリッド・ファクト」についてテキストを熟読し、疑問点や自分の考え方をとめる 事後学習 授業で学習した内容について、自学ノートをとめる	事前学習 90分 事後学習 90分
14	健康至上主義とラベリング理論（四戸）	講義 ナチスが行った障害者の大量虐殺と、その大量虐殺に加担した医療従事者たちの当時の考え方について解説を行う。 アクティブラーニング	事前学習 健康の社会的決定要因「ソリッド・ファクト」についてテキストを熟読し、疑問点や自分の考え方をとめる 事後学習	事前学習 90分 事後学習

		現代社会で行われている、弱者やマイノリティーへのラベリングと、ラベリングの影響にある見えにくい考え方についてグループ討論を通じて理解を深める。	授業で学習した内容について、自学ノートをまとめる	90 分
15	まとめと確認テスト	講義 これまで学習した内容について、振り返りながら、キーワードを中心に解説を行う。 確認テスト 学習した内容についての理解度を測るための論述式の確認テストを行う。(確認テストは、自分で作成した自学ノートを見ながら回答する) 確認テストについて、解説を行う。	事前学習 これまでの自学ノートについて、とりまとめ、理解を深める。	事前学習 180 分
備考				

授業科目名	公衆衛生学 Public Health			単位	2 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師、養護教諭	授業区分	講義
開講年次	1 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目担当責任者：松浦賢長 科目担当者：原田直樹、梶原由紀子				
授業概要	公衆衛生の歴史をふまえ、公衆衛生の概念・意義、民主制・三権分立における展開の方法を理解させ、現代的な課題に対する各種取り組みと解決方法、関連職種の協働のあり方、国際的な視野への発展等を教授する。また、地域における公衆衛生の今日的課題を演習し、その解決に向けた各種機関・資源の利活用・連携方法の実際を教授する。				
到達目標	知識・理解	(DP 1)	公衆衛生について、その概念と現代的課題について述べるができる。		
		(DP 2)	公衆衛生の理念に基づき、健康の考え方、疾病予防や健康増進のための保健予防活動について述べるができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	民主主義の方法に関する知識と、国際関係に関する知識。				
テキスト	『コンパクト公衆衛生学（最新版）』朝倉書店				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業	原田は「精神保健福祉」「保健と福祉」のコマを、梶原は「学校保健」のコマをそれぞれの実務経験（精神障害者支援団体運営、学校保健室勤務）を生かした内容で構成する。さらに、「災害と健康」「保健と福祉－児童虐待への対応」のコマについては、現在実務をされている講師による授業を行う。				授業中の撮影 無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		100						100
知識・理解	(DP 1)	50						50
	(DP 2)	50						50
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
公衆衛生の概念と現代的課題、健康増進のための考え方と保健活動について理解した上で、自分なりの興味有る公衆衛生分野において主体的な態度で学ぶこと、または取り組むことができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
公衆衛生の概念と現代的課題、健康増進のための考え方と保健活動について理解できる（最終試験にて 60 点以上を得ること）。	

成績評価の基準	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	公衆衛生の課題 (A) 近代の公衆衛生の歴史 (B) 感染症から生活習慣病へ (C) 生活習慣から社会経済要因へ (松浦)	教科書をまとめたスライドを中心とした パワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事前学習〕教科書の目次、第Ⅰ部の扉、第1章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。	事前学習 90分
			〔事後学習〕教科書第1章にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。	事後学習 90分
2	日常生活環境と健康 (A) 空気の組成 (B) 音と振動 (C) 気圧 (D) 放射線・電磁波 (E) 温熱 (F) 季節、気象 (G) 室内環境 (H) 水 (I) 廃棄物処理 (松浦)	教科書をまとめたスライドを中心とした パワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事前学習〕教科書第4章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。	事前学習 90分
			〔事後学習〕教科書第4章にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。	事後学習 90分
3	人口問題と出生・死亡 (A) 世界の人口 (B) 日本の人口 (C) 出生と死亡 (D) 家族の状況 (原田)	教科書をまとめたスライドを中心とした パワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事前学習〕教科書第2章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。	事前学習 90分
			〔事後学習〕教科書第2章にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。	事後学習 90分
4	環境汚染と公害 (A) 有害環境と健康障害	教科書をまとめたスライドを中心とした パワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事前学習〕教科書第5章を事前に読み込み、赤字で記載されているキ	事前学習 90分

	(B) 公害 (C) 地域環境と最近の環境問題 (D) 環境保全 (原田)		ードを書き出してくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習] 教科書第5章にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。	事後学習 90分
5	栄養と健康 (A) 食事と栄養 (B) 食の安全 (原田)	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	[事前学習] 教科書第6章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習] 教科書第6章にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。	事前学習 90分 事後学習 90分
6	感染症とその予防 (A) 感染症の成立 (B) 感染症の流行 (C) 感染症の予防法 (D) 感染症指定医療機関 (E) 感染症の予防 (F) 院内感染 (G) 主な感染症の推移と現状 (H) その他の感染症 (I) 生物テロ (梶原)	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	[事前学習] 教科書第7章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習] 教科書第7章にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。	事前学習 90分 事後学習 90分
7	母子保健 (A) 母子保健の統計 (B) 21世紀の母子保健 (C) 母子保健法に基づく施策 (D) その他の母子保健・医療・福祉施策 (原田)	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	[事前学習] 教科書第10章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習] 教科書第10章にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。	事前学習 90分 事後学習 90分
8	精神保健福祉 (A) 今日の精神保健福祉の課題 (B) 精神保健福祉の歴史と現状	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	[事前学習] 教科書第13章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習] 教科書第13章にある赤字	事前学習 90分 事後学習 90分

	(C) 主要な精神障害 (D) 精神障害の医療 (E) 地域精神保健福祉の組織 (F) 精神障害者福祉と社会復帰対策 (原田)		のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。	
9	国際保健 (A) 国際保健協力の動向 (B) 国連の保健医療に関する専門機関 (C) わが国の国際保健協力 (松浦)	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	[事前学習]教科書第20章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習]教科書第20章にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。	事前学習 90分 事後学習 90分
10	学校保健 (A) 学校保健の意義と歴史 (B) 行政制度、組織と運営 (C) 学校保健管理 (D) 保健教育 (E) 学校安全 (梶原)	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	[事前学習]教科書第11章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習]教科書第11章にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。	事前学習 90分 事後学習 90分
11	成人保健・生活習慣病 (A) 健康日本21 (B) わが国の死因の概要 (C) 成人期の健康課題と保健活動 (D) 特定健康診査・特定保健指導 (原田)	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	[事前学習]教科書第14章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 [事後学習]教科書第14章にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。	事前学習 90分 事後学習 90分
12	災害と健康 (松浦・原田・梶原)	災害対応の実例を中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	[事前学習]教科書第16章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。また、平成29年7月に発生した九州北部豪雨災害についてインターネットで概要を調べておく。 [事後学習] 授業で配布されたスライド資料と授業中にとったノートを見返	事前学習 120分 事後学習 60分

			して災害対応の実際をまとめておく。	
13	保健と福祉－障害者福祉への対応 (A) 福祉の概念とその変遷 (B) 障害者の生活支援（原田）	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事前学習〕教科書第 18 章 (A) (B) を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 〔事後学習〕教科書第 18 章 (A) (B) にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
14	社会経済的要因と健康 (A) 健康の社会的決定要因 (B) 貧困と格差 (C) 人のつながりと健康 (D) ヘルスリテラシー（松浦）	教科書をまとめたスライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事前学習〕教科書第 8 章を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。同時に疑問点があれば書き出しておく。 〔事後学習〕教科書第 8 章にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。また、教科書中の図表から読み取ることができることをまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
15	保健と福祉－児童虐待への対応 (C) 児童虐待とその対応（松浦・原田・梶原）	虐待対応の実例を中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事前学習〕教科書第 18 章 (C) を事前に読み込み、赤字で記載されているキーワードを書き出してくる。また、近年生じた児童虐待のケースを 3 件取り上げ、インエーネットで各専門機関の対応について調べてくる。 〔事後学習〕教科書第 18 章 (C) にある赤字のキーワードについて、授業中にとったノートを見返して意味を確認しておく。	事前学習 120 分 事後学習 60 分
備考				

授業科目名	生態機能看護学 I			単位	2 単位
	Anatomy and Physiology I			授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	講義
開講年次	1 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：江上千代美 科目担当者：塩田 昇				
授業概要	看護の基礎となる人体の構造と機能について講義する。すべての生命体は外界からの刺激を受け止め、外界とのやりとりを通して個体の維持を行うとともに、種を存続させていく。人間が「生きている」および「よく・うまく・たくましく生きていく」ための脳の構造と機能を学び、動物としての人間が人間らしく存在するために必要な「運動」と「休息」についても学ぶ。				
到達目標	知識・理解	(DP 1)	人体の構造と機能（感覚、神経系、運動系、内分泌系など）の知識を具体的に述べることができる。		
		(DP 2)			
	思考・判断・表現	(DP 3)	指定されたレポートを作成することで、人体の構造と機能に関するメカニズムについて表現することができる。		
		(DP 4)			
	関心・意欲・態度	(DP 5)	これまで受けている講義内容を結びつけ、人に生じる健康問題に関心を持つことができる。		
		(DP 6)			
授業内容を理解するために必要な知識・技能					
テキスト	「新・看護生理学テキスト」南江堂・「カラー人体解剖学」西村書店				
参考図書・教材等	「トートラ人体解剖生理学」丸善、e-learning に UP したスライド資料、その他の配布資料				
実務経験を生かした授業	臨床経験 5 年以上の経験豊富な教員が、生態機能の正常と異常を看護に活かせるように講義する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70	10	15		5		100
知識・理解	(DP 1)	50	10					60
	(DP 2)							
思考・判断・表現	(DP 3)	20		10				30
	(DP 4)							
関心・意欲・態度	(DP 5)			5		5		10
	(DP 6)							
備考								
・レポート・ポートフォリオは、ルーブリックをもとに評価するので、授業初日に説明します。								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
到達目標 (C 評価レベル)	神経調節、液性調節、運動、睡眠と覚醒のメカニズムについて十分に理解できる（期末試験で 90% 以上得点し、レポート、ミニテストでも同等の評価を得る）。試験やレポートでの記述では、上述したメカニズムを具体的に日常または自分の生活現象と結びつけて他者にわかりやすく説明できる。
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

神経調節、液性調節、運動、睡眠と覚醒のメカニズムについて理解できる（期末試験で 60%以上得点し、レポート、ミニテストでも同等の評価を得る）。試験やレポートでの記述では、上述したメカニズムを日常または自分の生活現象と結びつけて他者に説明できる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	生きているということ： 解剖学的用語や体表の名称の理解と恒常性維持 (江上 千代美)	生態機能看護学の初回講義であるため、講義についてのオリエンテーションを実施する。内容は 1. 構造と機能の関係、2. 人体の構成とそれぞれの特徴、細胞が機能していく上には何が必要で、組織の分類と機能的特徴、3. 恒常性維持とその重要性、4. フィードバックシステム(ポジティブ・ネガティブフィードバック)について講義する。 授業後半に授業の理解度を確認するための小テストを行う。	事前学習：組織の分類と機能的特徴とそれぞれの臓器の機能と特徴を結び付けレポートにまとめてくる。(DP1,2) 事後学習：ポジティブ・ネガティブフィードバックについて 1 つずつ例を挙げる（レポート）。(DP3,4) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2) 1～15 回目までの CBT では正解率 80%を取ることが必要となります。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
2	からだの働きを整える： 神経性調節 ＜神経系の概要＞ (塩田 昇)	神経細胞興奮と伝達の基礎的な内容から、中枢神経の構成まで、ミクロからマクロまでの内容を講義する。神経が興奮するための基本的なメカニズムを分かりやすく説明する。神経システムの概要と形態を説明し、神経伝達のメカニズムを説明する。講義内容が終了した時点でミニテストを実施する。講義内容が広範に及ぶため、学習をしっかりとって頂きたい。	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) 電池のしくみ、なぜ電気が発生するか？生体がどのように電気を作り出しているのか、考えてレポートにまとめる。(DP3,4) 事後学習：静止膜電位と活動電位の発生について、レポートにまとめる。(DP1,2) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
3	外界からの刺激を受ける： 感覚＜視覚・嗅覚・味覚・皮膚感覚・痛覚＞ (塩田 昇)	講義内容は、1. 感覚の種類がいろいろ。感覚の一般的性質、2. 皮膚の感覚の種類と各受容器と刺激が受容されて感覚野に到達する経路について、3. 視覚、聴覚、平衡覚、味覚、嗅覚がどこで受容され、どのような経路で中枢に伝わっていくかについて、学生同士考える時間をつくり講義す	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) 感覚が中枢神経に伝達される経路を調べレポートにまとめる。(DP1,2) 事後学習：感覚の種類とその受容器を	事前学習 90 分 事後学習

		る。 授業開始時に神経の形態、活動電位、シナプス伝達に関する小テストを実施する。	調べる。脈拍を測定するときに関わる感覚受容器とその伝導路および、視覚において加齢が原因で起こりうる危険な場面の例について考えレポートをまとめる。(DP3,4,5,6) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	90 分
4	からだの働きを整える：神経性調節＜動く＞(塩田 昇)	随意的に体を動かすには一次運動野からの指令が錐体路と錐体外路を通り、四肢末梢に指令が伝わり運動が実行される。その過程には、末梢からの感覚刺激からの入力、視覚、聴覚、平衡感覚などの入力を大脳基底核と小脳が受け、大脳皮質を始めとする神経核に抑制性にフィードバックする機構がある。講義では運動と反射を中心にメカニズムを解説する。	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) 錐体路と錐体外路について調べレポートにまとめる。(DP1,2) 事後学習：運動のアウトプットに関与する神経経路を復習し、椅子から立ち上がる時に関与する神経経路を考えレポートにまとめる。(DP3,4) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
5	からだの働きを整える：神経性調節＜言葉を読む＞(塩田 昇)	中枢神経の機能について説明する。連合野や神経核の関連について説明を進める。 書かれている言葉や物体を言葉にする場合、聞いた言葉を読む場合など言葉を読むメカニズムについて理解する。 錐体路系と錐体外路系、運動しようと考えて(意図)から筋肉が収縮するなど、運動にはどのようなしくみが関与しているかを理解する。(運動)するまでのメカニズムを知るなどの内容を講義の中で進める。 授業開始時に錐体路、錐体外路に関する小テストを実施する。	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) 大脳、間脳、大脳基底核、大脳辺縁系、中脳、橋、延髄の機能を調べる。(DP1,2) 事後学習：会話できるが意味不明のコミュニケーションになる場合の理由をkey word(ウェルニッケ野、ブローカ野、発語)を使いレポートにまとめる。(DP3,4,5,6) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
6	からだの働きを整える：神経性調節＜情報を捉える・伝える：末梢神経・制御する：中枢 神経＞(塩田 昇)	末梢神経には脳と脊椎から出るものがある。また自律神経も末梢神経である。テキストと資料に沿って、末梢神経の分類、名称、働き、特徴を説明していく。 記憶の過程、末梢神経系にはどのようなものがあるか(体性神経系と自律神経系の違い)、(体性神経系：特に上肢と下肢の筋肉を支配する神経系)および、自律神経系に	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) 脳から出る体性神経について参考図書、テキストを参考に調べる。(DP1,2) 事後学習：食事および立ち眩みが起きている時の、自律神経(副交感神経と交感神経)の伝達経路と効果器への伝達について経路や伝達物質の特徴を	事前学習 90 分 事後学習 90 分

		は交感神経系と副交感神経系があり、それらの働きについて説明する。 授業後半に授業の理解度を確認するための小テストを行う。	まとめる。(DP1,2,3,4) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	
7	動くということ： 運動系の概要 (塩田 昇)	この講義では中枢からの刺激をうけて筋肉が収縮するメカニズムを説明する。人間にとっての運動の意味について、身体的・心理的・社会的視点から、「動く」ためにかかわることについて説明する。 授業後半に授業の理解度を確認するための小テストを行う。	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) 筋肉(骨格筋)の形態・構造、筋の収縮についてまとめる。(DP1,2) 事後学習：熱いものを触れたときに起こる反射について、日常生活場面を例に挙げ Key word(筋紡錘、アクチン、ミオシン)を用いて記述する。(DP1,2,3,4) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
8	動くということ： 骨格と関節 (塩田 昇)	人体の骨は約 206 個あるといわれている。からだの関節は骨と筋肉で形作られている。骨格でからだを維持し、筋肉で体を動かすが、関節が重要に関わる。これらの内容および、骨の構造、生理的な機能、成長、修復について概説する。 授業後半に破骨細胞と骨芽細胞の役割・機能について、小テストを行う。	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) 骨組織、構造(組織学的構成)、骨の成長についてまとめる。(DP1,2) 事後学習：子どもと高齢者に骨折が多い理由を考えてレポートにまとめる。(DP3,4) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
9	動くということ： 筋肉：筋生理・収縮と弛緩 (塩田 昇)	筋肉は神経末端よりアセチルコリンが放出され収縮する。精緻な筋肉の構造は巧みなメカニズムによって役割を果たす。この講義では 1. 筋肉の種類と特徴、2. 筋肉の構造について、3. 筋肉の働きについて、4. 筋肉の収縮と弛緩のメカニズム、5. 筋肉の種類と活動電位の特徴について、以上の 5 項目を講義する。	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) あなたの日常生活の動作を例に挙げて、そこに作用する筋肉と関節運動について調べる。(DP1,2) 事後学習：食べる(噛む、飲み込む)ことに関わる筋肉をまとめる。(DP3,4,5,6) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
10	動くということ： 筋肉：筋肉の寝たきりや加齢の変化・姿勢の保持・歩く (塩田 昇)	この講義では 1. 成長・加齢に伴う骨・筋肉の変化、2. 運動による変化と運動不足(寝たきり)状態が筋肉に及ぼす影響について、3. 基本動作を行う時の筋肉の名称とどこに付着しているか(起始と停止)について、4. ヒトの重心と姿勢保持の仕組みを知り、よい姿勢の意味について、5. ヒトの行う基本的運動時に作用している	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) 上肢と下肢の関節の屈曲、伸展に関与する筋肉の起始と停止を調べる。(DP1,2) 事後学習：褥瘡の好発部位と寝たきりに関連する筋肉を調べてレポートにまとめる。(DP3,4)	事前学習 90 分 事後学習 90 分

		筋肉がどのような収縮をしているかについて説明する。	CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	
11	からだの働きを整える： 液性調節＜内分泌の概要＞ (江上 千代美)	ホルモンを代表とする液性調節は長時間にわたる調節を可能とする。ホルモンとは何か、ホルモンは何でできているか、どのように作用し、どのように調節されているか、など、この講義では液性調節についてあらましを概説する。	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) 自律神経に作用するホルモンを調べ、レポートにまとめる。 (DP1,2) 事後学習：体液調節時のホルモンと、その分泌についてレポートをまとめる。(DP3,4,5,6) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
12	からだの働きを整える： 液性調節＜恒常性維持のためのホルモン：血糖コントロール＞ (江上 千代美)	血糖コントロールを理解するためには、栄養と代謝に関する基礎知識が必要となる。この授業では、血糖コントロールはどのように行われているか、ストレスに対してホルモンがどのように関わっているか、成長に対してホルモンがどのように関わっているか、について概説する。 授業後半に血糖コントロールについて小テストを実施する。	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) 空腹時・満腹時の血糖調節のしくみを調べてレポートにまとめる。(DP1,2) 事後学習：ストレスが生体にかかった時の神経とホルモンの一連のストレス軽減の過程を考えてレポートにまとめる。(DP3,4,5,6) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
13	種の保存＜生殖：受精～成長：性周期とホルモン＞ (江上 千代美)	哺乳類は雄と雌での生殖行為によって繁殖してきた。男性生殖器と女性生殖器の構造と機能、生殖に関するホルモン(性周期とホルモンの関係について)などを主に概説する。この授業では、生殖に関する内容を取り扱う。 授業後半に授業の理解度を確認するための小テストを行う。	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) 生殖に関与するホルモンをまとめる。 (DP1,2) 事後学習：性周期とホルモンおよび体温の関係から妊娠できる期間を調べレポートにまとめる。(DP3,4) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
14	生体リズム： 睡眠時の特徴 ＜脳波の変化＞ (江上 千代美)	この講義では、1. ヒトにとっての睡眠の意味について、2. 睡眠の種類とその時の脳波の特徴について、3. 睡眠の発達による特徴について説明する。 授業後半に授業の理解度を確認するための小テストを行う。	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) サーカディアンリズムに沿って分泌されるホルモンの分泌時間を調べてレポートにまとめる。(DP1,2) 事後学習：提示された睡眠表から睡眠状態を分析し、睡眠の問題点を考えレポートにまとめる。(DP3,4,5,6) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分

			出する(デジタル提出)。(DP1,2)	
15	睡眠・覚醒サイクル (江上 千代美)	この講義では、第 14 回の講義の続きを説明する。臨床で看護の対象の睡眠・覚醒サイクルが身体に及ぼす影響について説明する。	事前学習:事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) 睡眠中枢・ホルモンと、その分泌機序についてレポートにまとめる。(DP1,2) 事後学習:睡眠障害が日常生活に及ぼす影響とその対策について、新聞記事をもとにレポートにまとめる。(DP3,4,5,6) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
備考	Appointment をメールでとって質問に来ること。メールでの質問も可。連絡先、別途配布した連絡先資料参照してください。 初回の講義で事前課題、ポートフォリオの提出、ミニテスト、定期試験などの概要を説明する。提出、出席に関するルールを説明する。			

授業科目名	生態機能看護学Ⅱ Anatomy and Physiology Ⅱ			単位	2 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	講義
開講年次	1 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：江上千代美 科目担当者：塩田 昇				
授業概要	看護の基礎となる人体の構造と機能について講義する。人間は外部環境から生体に必要なものを取り入れ、 体内で使用した老廃物や不要物を排泄している。そのため人体には細胞をとりまく内部の状態（内部環境）をできるだけ恒常に保つ仕組みが備わっている。この内部環境の恒常性維持を中心に、物質の運搬とその経 路、及び物質の摂取と排泄について学ぶ。				
到達目標	知識・理解	(DP 1)	人体の構造と機能（体温調節、体液、血液、循環、呼吸、消化吸収、排泄系）の知識を具体的に述べることができる。		
		(DP 2)			
	思考・判断・表現	(DP 3)	指定されたレポートを作成することで、人体の構造と機能に関するメカニズムについて表現することができる。		
		(DP 4)			
	関心・意欲・態度	(DP 5)	これまで受けている講義内容を結びつけ、人に生じる健康問題に関心を持つ。		
		(DP 6)			
授業内容を理解するために必要な知識・技能	生態機能看護学Ⅰの知識				
テキスト	テキスト：「新・看護生理学テキスト」南江堂・「カラー人体解剖学」西村書店				
参考図書・教材等	「トートラ人体解剖生理学」丸善、e-learning に UP したスライド資料、その他の配布資料				
実務経験を生かした授業	臨床経験 5 年以上の経験豊富な教員が、生態機能の正常と異常を看護に活かせるように講義する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70	10	15		5		100
知識・理解	(DP 1)	50	10					60
	(DP 2)							
思考・判断・表現	(DP 3)	20		10				30
	(DP 4)							
関心・意欲・態度	(DP 5)			5		5		10
	(DP 6)							
備考								
・レポート・ポートフォリオは、ルーブリックをもとに評価するので、授業初日に説明します。								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
到達目標 (C 評価レベル)	内部環境の恒常性、物質の運搬とその経路、体温調節、物質の摂取と排泄について十分に理解できる（期末試験で 90% 以上得点し、レポート、ミニテストでも同等の評価を得る）。試験やレポートでの記述では、上述したメカニズムを具体的に日常または自分の生活現象と結びつけて他者にわかりやすく説明できる。
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

内部環境の恒常性、物質の運搬とその経路、体温調節、物質の摂取と排泄について理解できる（期末試験で60%以上得点し、レポート、ミニテストでも同等の評価を得る）。試験やレポートでの記述では、上述したメカニズムを日常または自分の生活現象と結びつけて他者に説明できる。

成績評価の基準 ルーブリック

S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	体温調節 <体熱の産生と放散・体温調節機能（発熱含む）> 江上 千代美	体温分布と熱産生と放熱のしくみ、熱産生（ふるえ、非ふるえ、褐色細胞）、体温調節（寒冷時、温暖時）について説明する。 温度受容器と感覚伝導路および体温調節中枢を説明し、体温調節の機構をまとめる。 概日・概月リズムと発達による違いを説明する。 発熱のしくみと体温の順化（低温時）を説明する。	事前学習：事前課題プリント（ミニテスト形式）をする。（DP1,2） 身体の部位での体温の違い、環境温度が変わることによる体温の変化をレポートにまとめる。 （DP1,2） 事後学習：暑い時（環境温度 38℃）の時の体温調節について、レポートを書く。（DP1,2,3,4） CBT: e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2） 1～15 回目までの CBT では正解率 80%を取ることが必要となります。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
2	内部環境の恒常性： 体液<体液の調節・体液の pH の調節> 江上 千代美	細胞内液と細胞外液の違いと区分について、体液の移動がどのように行われているか、特に毛細血管での体液の移動について説明する。 体液はどのように平衡を保っているか、それらが障害された時の生体の状態について説明する。	事前学習：細胞内液と細胞外液の違いを説明し、毛細血管における体液の移動を結び付けレポートにまとめてくる。（DP1,2,3,4） 事後学習：浮腫について 1 つずつ例を挙げ発生メカニズムを説明する（レポート）。（DP3,4） CBT: e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）	事前学習 90 分 事後学習 90 分
3	内部環境の恒常性： 体液<体液の調節・体液の pH の調節> 江上 千代美	酸と塩基のバランスがどのように調節されているか説明する。 酸と塩基のバランスが崩れた場合、生体でどのようなことが生じているかを説明する。	事前学習：事前課題プリント（ミニテスト形式）をする。（DP1,2） 事後学習：授業で提示された体内で起こる酸塩基の緩衝について例を挙げ、レポートにまとめる。 （DP1,2,3,4,5,6） CBT: e-learning によるレポートを	事前学習 30 分 事後学習 150 分

			提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	
4	物質の運搬とその経路： ポンプとしての心臓＜構造と機能・刺激伝導系・心電図＞・循環経路としての血管系＜構造と機能・血圧・物質の交換・静脈還流・循環調節＞ 江上 千代美	心臓の位置と心膜の構造、機能について説明する。 心臓の構造で心臓の壁の層や心室、心臓の弁の構造と機能について説明する。 心臓に出入りしている主要な血管の名前が言えるとともに、全身の循環系の主な動脈・静脈系を説明する。	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) 心臓の構造をイラストでレポートにまとめる(血管や弁、断面、まとめ方は自由)。(DP1,2) 事後学習：肺動脈と肺静脈と右心房と左心房と右心室と左心室の特徴とそれぞれの圧を調べてレポートにまとめる。(DP1,2,3,4) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
5	物質の運搬とその経路： ポンプとしての心臓 ＜構造と機能・刺激伝導系・心電図＞ ・循環経路としての血管系＜構造と機能・血圧・物質の交換・静脈還流・循環調節＞ 江上 千代美	心筋は、横紋筋と平滑筋の特徴を併せ持つだけでなく、刺激も伝導する。 心筋の特徴(固有心筋・特殊心筋)と刺激伝導系について説明する。心臓収縮の周期と弁の開閉および刺激の関係を説明する。	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) 刺激伝導系について、心臓のイラストをもとに図示しなさい。(DP1,2) 事後学習：心周期と弁の開閉について、レポートにまとめる。(DP1,2) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
6	物質の運搬とその経路： ポンプとしての心臓 ＜構造と機能・刺激伝導系・心電図＞ ・循環経路としての血管系＜構造と機能・血圧・物質の交換・静脈還流・循環調節＞ 江上 千代美	心臓から出る主な血管系を概説する。 体循環、肺循環、門脈系、脳、胎児循環など主要な血管系を説明する。 血管の分類、構造および、血管弁など、血管に関することを説明する。 血管だけでなく、リンパ管についても機能と構造を説明する。	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) 門脈の役割について、レポートにまとめる。(DP1,2) 事後学習：胎児循環と先天異常(心室または心房中隔欠損症)についてレポートにまとめる。(DP1,2,3,4) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
7	物質の運搬とその経路： ポンプとしての心臓 ＜構造と機能・刺激伝導系・心電図＞ ・循環経路としての血管系	血圧と血圧調節について、収縮期・拡張期・平均血圧、心拍出量に関する法則(スターリングの法則)を説明する。 心拍出に関して、神経調節と液性調節を説明する。	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2,3,4) 血圧を調節するホルモンと、その作用についてレポートにまとめる。(DP1,2)	事前学習 90 分

	<構造と機能・血圧・物質の交換・静脈還流・循環調節> 江上 千代美		事後学習：血圧が高い時の5反射についてレポートにまとめる。 (DP1,2,3,4) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事後学習 90 分
8	物質の運搬とその経路：物質を運ぶ血液 <血液の成分とその働き> 江上 千代美	血液は結合組織に分類される。生命維持には欠かせない組織である。血液の役割、造血幹細胞からの分化、一般的性状を概説する。また赤血球の役割について、詳しく説明する。授業中にミニテストを行い知識の固定を行う。	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) テキストを参照して赤血球が作られる過程と機能をレポートにまとめる。(DP1,2) 事後学習：赤血球が破壊され、処理される過程をレポートにまとめる。(DP3,4) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
9	物質の運搬とその経路：物質を運ぶ血液 <血液の成分とその働き> 江上 千代美	白血球と血小板の働きを主に説明する。白血球は免疫の役割を担っている。血小板は止血である。ここでは免疫と凝固のメカニズムにも触れる。	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) テキストを参照して白血球とリンパ球が作られる過程と機能をレポートにまとめる。(DP1,2) 事後学習：血液凝固をまとめ、血液凝固の事例を挙げて、どのようなメカニズムで凝固しているのかレポートで説明する。(DP3,4) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
10	物質の摂取と排泄：消化吸収 <口～肛門までの構造と食物が消化され吸収されるまで・排便のしくみ> 塩田 昇	外界から取り入れた物質を体内に取り入れる過程(消化と吸収)について、その意味と具体的な構造・働きと体内での不要物質の中でも主に難水溶性物質を排泄する過程(排便)について理解し、一連の過程として捉える事ができるよう説明する。	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) 嚥下の過程について調べ、レポートにまとめる。(DP1,2) 事後学習：胃全摘(胃を取った場合)	事前学習 90 分

		消化器系：口腔、食道、胃、十二指腸、空腸、回腸、大腸、肝臓・胆嚢・膵臓について説明する。 機械的消化、化学的消化、生物学的消化を説明する。	と貧血の関係をレポートにまとめる。(DP1,2,3,4) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事後学習 90 分
11	物質の摂取と排泄： 消化吸収<口～肛門までの構造と食物が消化され吸収されるまで・排便のしくみ> 塩田 昇	消化管でどのような消化が行われているかを具体的に説明する。また、吸収された物質がどのように運ばれていくかを説明する。	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) 小腸の免疫について調べてレポートにまとめる。(DP1,2) 事後学習：消化管の運動と神経による調節について調べてレポートにまとめる。(DP1,2,3,4) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
12	物質の摂取と排泄： 呼吸<呼吸器の構造・呼吸運動・ガス交換とガス運搬> 塩田 昇	呼吸器の機能と構造を中心に概説する。呼吸器の構造、導管部とガス交換部、肺胞の構造、胸郭、鼻腔、咽頭、喉頭、気管、気管上皮、毛細血管について説明する。 呼吸器の発生と新生児の生存率について説明する。肺胞の変化および喫煙者と健常者の呼吸機能の比較を説明する。	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) 呼吸器の構造、上気道と下気道、気管から肺胞までをレポートにまとめる。(DP1,2) 事後学習：肺胞や気管支の音と気管支の狭窄や痰の貯留との関係を調べてレポートにまとめる。 (DP1,2,3,4) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
13	物質の摂取と排泄： 呼吸<呼吸器の構造・呼吸運動・ガス交換とガス運搬> 塩田 昇	食事と呼吸時の喉頭の動きについて説明する。 胸郭の構造と、外肋間筋、内肋間筋の働きについて説明する。胸式・腹式呼吸に作用する筋肉について説明する。 胸腔、胸膜腔の機能と役割、肺胞内圧と胸腔内圧の関係について説明する。 分時換気量と肺胞換気量について説明する。 呼吸商と換気血流比について説明する。 授業中にミニテストを実施する。	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) 呼吸筋を調べて、レポートにまとめる。(DP1,2) 事後学習：肺に穴が開いた場合に、どのようにすれば肺に酸素を運ぶことができるか？調べてレポートにまとめる。 (DP1,2,3,4,5,6) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
14	物質の摂取と排泄： 呼吸<呼吸器の構造・呼吸運動・ガス交換とガス運搬> 塩田 昇	大気と肺胞気の酸素・二酸化炭素分圧について説明する。酸素・二酸化炭素の運搬について説明する。ヘモグロビンと酸素の結合、二酸化炭素と炭酸脱水素酵素による重炭酸の生成について説明する。酸素分圧と酸素飽和度、ボア効果とホールデン効果について説明する。	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) 右肺と左肺の構造を調べ、気管支や肺の構造の違いから、食事の時にどのような危険があるか調べてレポートにまとめる。(DP1,2,3,4) 事後学習：右肺に痰がたまって、自分	事前学習 90 分 事後学習

		酸素解離曲線と酸素飽和度、胎児ヘモグロビン、ミオグロビンとヘモグロビン F との関係について説明する。 呼吸の行動性・化学性・神経性調節について説明する。	で出せない人に、どのようにすれば良いか？調べてレポートにまとめる。(DP1,2,3,4,5,6) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	90 分
15	物質の摂取と排泄： 排泄系<尿の生成とその調節・排尿のしくみ> 江上 千代美	排泄系のその他の調節と排泄について講義する。内部環境の恒常性維持のための働きについて説明する。 1.腎臓、尿管、膀胱及び尿道などの位置関係を説明する。 2.傍糸球体装置を構成する細胞とその機能について説明する。 3.尿を生成する部分の構造とその仕組みである糸球体での濾過、尿細管での再吸収や分泌について説明する。 4.クリアランスについて説明する。 5.尿を貯留し、排尿をおこなう部分の構造とそのしくみについて説明する。	事前学習：事前課題プリント(ミニテスト形式)をする。(DP1,2) 膀胱に尿が貯留して、排尿されるまでの過程について、レポートにまとめる。(DP1,2) 事後学習：失禁の種類とその特徴、違いなどを調べ、排尿のメカニズムの知識を活用して失禁が起こる原因を調べてレポートにまとめる。(DP1,2,3,4) CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
備考	Appointment をメールでとって質問に来ること。メールでの質問も可。 連絡先、別途配布した連絡先資料参照してください。 初回の講義で事前課題、ポートフォリオの提出、ミニテスト、定期試験などの概要を説明する。提出、出席に関するルールを説明する。			

授業科目名	生態機能看護学Ⅲ Anatomy and PhysiologyⅢ			単位	1 単位
				授業コード	
履修	選択	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	演習
開講年次	4 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：江上千代美 科目担当者：塩田 昇				
授業概要	人間の健康状態を的確に把握するためには、胎生期・幼年期～老年期に至る人体の正常な状態の変化を理解し、看護学の立場から正常と異常の変化過程を考察できるようにならなければならない。そのためには、正常な人体の構造と機能を統合した形で理解する				
到達目標	知識・理解	(DP 1)	人体の構造と機能の知識を具体的に述べることができる。		
		(DP 2)			
	思考・判断・表現	(DP 3)	事例を検討することで、その事例に生じている問題を人体の構造と機能の分野から捉え直し、必要なケアを創造することができる。		
		(DP 4)			
	関心・意欲・態度	(DP 5)	これまで受けている講義内容を結びつけ、人に生じる健康問題に関心を持つ		
		(DP 6)			
授業内容を理解するために必要な知識・技能	生態機能看護学Ⅰ及びⅡ、病態看護学Ⅰ及びⅡを履修していること				
テキスト	e ラーニングに提示した資料				
参考図書・教材等	「トートラ人体解剖生理学」丸善、e-learning に UP したスライド資料、その他の配布資料				
実務経験を生かした授業	臨床経験 5 年以上の経験豊富な教員が、生態機能の正常と異常を看護に活かせるように講義する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				40	30	30		100
知識・理解	(DP 1)			25		30		55
	(DP 2)							
思考・判断・表現	(DP 3)				30			40
	(DP 4)							
関心・意欲・態度	(DP 5)			15				15
	(DP 6)							
備考								
・レポート・ポートフォリオは、ルーブリックをもとに評価するので、授業初日に説明します。								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
既習の生態機能看護学、病態看護学、成人看護学の知識を統合して、正常の生態機能（生理学）と異常の病態に関連させて、看護行為について事例を通して考えることができる。具体的には、ポートフォリオで既習の知識を整理し、授業の学びをレポートに表し、小テストや CBT で優秀な成績をあげる。 また、講義・演習では自らの考えを積極的に発表し、周囲の学生と知識の共有化をはかることができる。	

到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
既習の生態機能看護学、病態看護学、成人看護学の知識を正常の生態機能（生理学）と異常の病態を関連させて、看護行為について、考えることができる。具体的には、ポートフォリオで既習の知識を整理し、授業の学びをレポートに表し、小テストや CBT を行うことができる。 また、講義・演習では自らの考えを発表することができ、教員が促すことによって周囲の学生と知識の共有化をはかることができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	薬害被害者の講演 (特別講師)	授業方法：講演 実際に薬害の被害にあった当事者を招いて講演を聴き、看護師となったときに直面する臨床現場での倫理的問題を客観的・多角的視点から分析し対処方略を考える。 テーマ「薬害被害の実態について」	医療者・被害者の立場で、多角的視点で考えた自己の意見を他者に説明する力を養う目的で、講演を聴いた後に、グループで議論（意見交換）する。グループで A4 レポート 1 枚に意見をまとめ、コピーを提出する。	事後課題 45 分
1	オリエンテーション 物質の運搬 ＜循環器：心筋梗塞 急性期＞ (江上 千代美)	授業方法：講義、演習 オリエンテーション：講義の進め方、レポート提出時のルール、評価など。 e-learning で提示した虚血性心疾患の事例について 原因となる病態を、正常の機能（生理学）と比較しながら概説する。 心筋梗塞と狭心症の病態、原因、心電図・血液検査、治療について、原理（メカニズム）に戻りながら学んでいく。	事前学習： e-learning で提示した事例の検査値を調べる。そして、看護を含む関連図を作成する。 (DP1,2,5,6) 注) 授業を受けるにあたって。生態Ⅱ、病態Ⅰ、Ⅱ、成人看護学に関する資料をポートフォリオにまとめる。	事前課題 45 分
2	オリエンテーション 物質の運搬 ＜循環器：心筋梗塞 急性期＞ (江上 千代美)	授業方法：講義・演習 心筋梗塞・狭心症などの事例を用いて、グループで、看護の方法や諸問題の解決法を検討する。また、事前課題での関連図を検討する。	事後学習： CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事後課題 45 分
3	物質の運搬 ＜血液：貧血＞ (江上 千代美)	授業方法：講義・演習 e-learning で提示した貧血などの事例について 原因となる病態を、正常の機能（生理学）と比較しながら概説する。	事前学習： e-learning で提示した事例の検査値を調べる。そして、看護を含む関連図を作成する。 (DP1,2,5,6)	事前課題 45 分

		貧血の原因、病態、治療について、貧血と関連する疾患に戻りながら学んでいく。	注) 授業を受けるにあたって。生態Ⅱ、病態Ⅰ、Ⅱ、成人看護学に関する資料をポートフォリオにまとめる。	
4	物質の運搬 ＜血液：貧血＞ (江上 千代美)	授業方法：講義・演習 貧血などの事例を用いて、グループで、看護の方法や諸問題の解決法を検討する。また、事前課題での関連図を検討する。	事後学習： CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事後課題 45 分
5	運動器系 ＜高齢者の骨折の運動器疾患＞ (江上 千代美)	授業方法：講義・演習 e-learning で提示した変形性疾患などの事例について 原因となる病態を、正常の機能（生理学）と比較しながら概説する。 変形性疾患の原因、病態、検査、治療について、人体の機能と構造に戻りながら学んでいく。	事前学習： e-learning で提示した事例の検査、治療を調べる。そして、看護を含む関連図を作成する。 (DP1,2,5,6) 注) 授業を受けるにあたって。生態Ⅱ、病態Ⅰ、Ⅱ、成人看護学に関する資料をポートフォリオにまとめる。	事前課題 45 分
6	運動器系 ＜高齢者の骨折の運動器疾患＞ (江上 千代美)	授業方法：講義・演習 変形性疾患などの事例を用いて、グループで、看護の方法や諸問題の解決法を検討する。また、事前課題での関連図を検討する。	事後学習： CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事後課題 45 分
7	神経系への影響 ＜内頸動脈内膜剥離術直後から翌日＞ (塩田 昇)	授業方法：講義・演習 e-learning で提示した内頸動脈疾患などの事例について 原因となる病態を、正常の機能（生理学）と比較しながら概説する。 内頸動脈疾患の原因、病態、治療について、生態機能の知識に戻りながら学んでいく。	事前学習： e-learning で提示した事例の検査、治療を調べる。そして、看護を含む関連図を作成する。 (DP1,2,5,6) 注) 授業を受けるにあたって。生態Ⅱ、病態Ⅰ、Ⅱ、成人看護学に関する資料をポートフォリオにまとめる。	事前課題 45 分
8	神経系への影響 ＜内頸動脈内膜剥離術直後から翌日＞ (塩田 昇)	授業方法：講義・演習 内頸動脈疾患などの事例を用いて、グループで、看護の方法や諸問題の解決法を検討する。また、事前課題での関連図を検討する。	事後学習： CBT: e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事後課題 45 分
9	物質の摂取と排泄 ＜消化吸収障害＞ (塩田 昇)	授業方法：講義・演習 e-learning で提示した大腸がんなどの事例について 原因となる病態を、正常の機能（生理学）と比較しながら概説する。 大腸がんの原因、検査、病態、治療について、生態機能の知識に戻りながら学んでいく。	事前学習： e-learning で提示した事例の検査値、治療を調べる。そして、看護を含む関連図を作成する。 (DP1,2,5,6) 注) 授業を受けるにあたって。生態Ⅱ、病態Ⅰ、Ⅱ、成人看護学に関する資料をポートフォリオにまとめる。	事前課題 45 分

10	物質の摂取と排泄 ＜消化吸収障害＞ (塩田 昇)	授業方法：講義・演習 大腸がんなどの事例を用いて、 グループで、看護の方法や諸問題の解決法 を検討する。また、事前課題での関連図を 検討する。	事後学習： CBT: e-learning によるレポートを提 出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事後課題 45 分
11	物質の摂取と排泄 ＜COPD の急性増悪＞ (塩田 昇)	授業方法：講義・演習 e-learning で提示した COPD などの事例 について 原因となる病態を、正常の機能（生理学） と比較しながら概説する。 COPD の原因、検査、病態、治療につい て、生態機能の知識に戻りながら学んでい く。	事前学習： e-learning で提示した事例 の検査値、治療を調べる。そして、看 護を含む関連図を作成する。 (DP1,2,5,6) 注) 授業を受けるにあたって。生態Ⅱ、 病態Ⅰ、Ⅱ、成人看護学に関する資料 をポートフォリオにまとめる。	事前課題 45 分
12	物質の摂取と排泄 ＜COPD の急性増悪＞ (塩田 昇)	授業方法：講義・演習 COPD などの事例を用いて、 グループで、看護の方法や諸問題の解決法 を検討する。また、事前課題での関連図を 検討する。	事後学習： CBT: e-learning によるレポートを提 出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事後課題 45 分
13	内分泌 ＜糖尿病：高血糖による 合併症＞ (江上 千代美)	授業方法：講義・演習 e-learning で提示した糖尿病などの事例 について 原因となる病態を、正常の機能（生理学） と比較しながら概説する。 糖尿病の原因、検査、病態、治療につい て、生態機能の知識に戻りながら学んでい く。	事前学習： e-learning で提示した事例 の検査値、治療を調べる。そして、看 護を含む関連図を作成する。 (DP1,2,5,6) 注) 授業を受けるにあたって。生態Ⅱ、 病態Ⅰ、Ⅱ、成人看護学に関する資料 をポートフォリオにまとめる。	事前課題 45 分
14	内分泌 ＜糖尿病：高血糖による 合併症＞ (江上 千代美)	授業方法：講義・演習 糖尿病などの事例を用いて、 グループで、看護の方法や諸問題の解決法 を検討する。また、事前課題での関連図を 検討する。	事後学習： CBT: e-learning によるレポートを提 出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事後課題 45 分
備 考	Appointment をメールでとって質問に来ること。メールでの質問も可。 連絡先、別途配布した連絡先資料参照してください。 初回の講義で事前課題、ポートフォリオの提出などの概要を説明する。提出、出席に関するルールを説明する。			

授業科目名	看護生化学 Biochemistry			単位	2 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	講義
開講年次	1 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：芋川浩 科目担当者：芋川浩				
授業概要	生物のからだを構成する物質とその機能を理解するために必要な生化学の基礎的な知識を学び、さまざまな生命現象や疾病のしくみを理解できることを目的とする。また、最近の生命科学の発展は目覚しく、分子生物学などの方法を応用した医療技術が日々進歩している。本講義では、最新の医療技術とその成果についての理解を深め、応用できることも目標としている。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	生体を構成する基本物質である糖質、脂質、タンパク質、核酸に関し、その構造と機能を理解できる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	生体物質の代謝メカニズムを理解できるとともに、近年めざましく発展した分子生物学により解明された疾病のメカニズムや最新の医療技術についても理解し、応用できる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能					
テキスト	新刊のテキストを使用予定であるが、現時点では未定				
参考図書・教材等	臨床生化学（宮澤恵二編、メディカ出版）、e-learning に載せたスライド資料、その他の配布資料				
実務経験を生かした授業	各種臨床検査に関わった実務経験に基づいて、疾患に関する症状の具体例などを紹介しながら、代謝にかかわる疾患の状態や症状を紹介する。また、国立研究所勤務時に実施していた遺伝病などに関する具体的な解析方法の一端を体験できるように工夫している			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70	10	10			10	100
知識・理解	(DP 2)	50	10				5	65
思考・判断・表現	(DP 3)	20		10			5	35
備考 小テストやレポートは、授業到達度業況に応じて実施する。								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
① 糖質代謝、②脂質代謝、③アミノ酸代謝、③核酸代謝、④遺伝子と遺伝情報の発現、⑤遺伝病を含めた代謝に関する疾患などについて十分に理解しわかりやすく説明できる(定期試験で 90%以上得点し、小テスト、レポートでも同等の評価を得る)。定期試験やレポートの記述では、上述した各代謝や遺伝情報の発現などを具体的に日常生活または自分の健康状態などとして結び付けて他者にわかりやすく説明できる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
① 糖質代謝、②脂質代謝、③アミノ酸代謝、③核酸代謝、④遺伝子と遺伝情報の発現、⑤遺伝病を含めた代謝に関する疾患などについて理解し説明できる(定期試験で 60%以上得点し、小テスト、レポートでも同等の評価を得る)。定期試験やレポートの記述では、上述した各代謝や遺伝情報の発現などを日常生活または自分の健康状態などと結び付けて他者に説明でき	

る。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	オリエンテーション 及び 代謝総論 (芋川 浩)	初回講義であるため、オリエンテーションとして、①これからの講義内容、②成績評価方法、③教科書や参考文献の紹介、④出席や質問の取り方などを説明し、今後の講義にスムーズ入れるようにする。 初回の講義内容としては、代謝総論として、①代謝とは何か、②異化と同化、③代謝の制御、④代謝とホルモンなどについて学習する。	事前学習：初回の講義部分(代謝総論)に相当する教科書(未定)や参考書の部分を読み、重要なポイントや疑問点などをまとめる 事後学習：初回の講義(代謝総論)における内容およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
2	生命とは（生命と生化学の接点の理解） (芋川 浩)	生命活動の場である細胞の基本的な構造と機能を解説し、生化学反応の場となる細胞内小器官について説明する。 ①生命としての細胞 ②細胞質とは ③細胞内小器官 a.核 b.ミトコンドリア c.小胞体、ゴルジ体 d.細胞膜 など	事前学習：細胞やその機能にかかわる部分に相当する教科書や参考書の部分を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、細胞に関する講義内容およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
3	生体物質①（糖質） (芋川 浩)	栄養素としての糖質の性質を解説し、糖質と生命活動との関係を以下の項目を中心に説明する。 ①糖とは何か ②単糖類 ③オリゴ糖(少糖)類 a.二糖類 ④多糖類 a.ホモ多糖 b.ヘテロ多糖	事前学習：栄養素としての糖質やその機能にかかわる部分に相当する教科書や参考書の部分を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、糖質とその機能に関する講義内容およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次	事前学習 90 分 事後学習 90 分

			の講義などで質問できるようにまとめておく。	
4	生体物質②（脂質） （芋川 浩）	栄養素としての脂質の性質を解説し、脂質と生命活動との関係を以下の項目を中心に説明する。 ①脂質の構成 a.単純脂質 b.複合脂質 c.誘導脂質 ②脂肪酸 ③中性脂肪 ④ステロイド類とコレステロール ⑤リン脂質 ⑥糖脂質 ⑦エイコサノイド	事前学習：栄養素としての脂質やその機能にかかわる部分に相当する教科書や参考書の部分を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、脂質とその機能に関する講義内容およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
5	生体物質③（アミノ酸、タンパク質） （芋川 浩）	栄養素としてのタンパク質やアミノ酸の性質を解説し、タンパク質やアミノ酸と生命活動との関係を以下の項目を中心に説明する。 ①タンパク質とは何か ②アミノ酸 ③タンパク質の構造 a.ペプチド b.タンパク質の高次構造 ④タンパク質の性質 ⑤タンパク質の種類	事前学習：栄養素としてのタンパク質やアミノ酸とその機能にかかわる部分に相当する教科書や参考書の部分を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、タンパク質やアミノ酸とその機能に関する講義内容およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
6	生体物質④（核酸） （芋川 浩）	栄養素としての核酸とヌクレオチドの性質を解説し、核酸やヌクレオチドと生命活動との関係を以下の項目を中心に説明する。 ①核酸とは何か ②ヌクレオシドとヌクレオチド a. アデノシン三リン酸(ATP) b.サイクリックヌクレオチド c.その他のヌクレオチド	事前学習：核酸とヌクレオチドやその機能にかかわる部分に相当する教科書や参考書の部分を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、核酸とヌクレオチドとその機能に関する講義内容およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
7	生体物質⑤（酵素・ビタミンなど） （芋川 浩）	栄養素としてのビタミンの性質を解説し、ビタミンとその欠乏との関係を以下の項目を中心に説明する。	事前学習：ビタミンや酵素とその機能等にかかわる部分に相当する教科書や	事前学習 90 分

		①水溶性ビタミン ②脂溶性ビタミン さらに、 体の中で代謝の流れを作る酵素の働きやその基本的な性質を以下の項目を中心に解説する。また、酵素活性の測定が病気の診断にどのように役立っているのかを説明する。 ①酵素の役割 ②酵素の性質 a.酵素は主にタンパク質からできている b.酵素の基質特異性 c.酵素の作用特異性 d.酵素反応に影響を及ぼす因子 ③酵素の分類 ④アイソザイム ⑤臨床診断と酵素	参考書の部分を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、ビタミンとその欠乏症状および酵素の働きと臨床検査との関係等に関する講義内容、その質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。 ビタミンについては、レポート課題として、ビタミンとその欠乏症状についてまとめ、理解を深める。	事後学習 90分
8	生体物質の代謝①（糖質の代謝） （芋川 浩）	糖質がどのようにして消化吸収されるのか？どのように代謝され、生命活動に使われるのかを以下の項目を中心に説明する。さらに、生命活動のエネルギーであるATP生成、血糖値の調節についても解説する。 ①糖質代謝の概要 a.糖質の消化と吸収 b.糖質代謝の流れ ②解糖のしくみ a.嫌氣的解糖 b.好氣的解糖 ③グリコーゲンの合成と分解 a.グルコキナーゼとヘキソキナーゼ b.糖原病 ④ペントースリン酸回路 ⑤糖新生 a.糖新生のメカニズム b.糖新生と各臓器との関係 ⑥血糖値の調節とホルモンの作用 a.血糖値低下に関するホルモン b.血糖値増加に関するホルモン	事前学習：糖質代謝の概要と解糖系の仕組みにかかわる部分について教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、糖質代謝の概要と解糖系の仕組み等に関する講義内容、およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	事前学習 90分 事後学習 90分

9	生体物質の代謝②（脂質の代謝） （芋川 浩）	脂質がどのようにして消化吸収されるのか？どのように代謝され、生命活動に使われるのかを以下の項目を中心に解説する。さらに、コレステロールの働き、脂質の輸送などについても解説する。 ①脂質代謝の概要 ②脂質の消化・吸収と貯蔵 ③脂肪酸の分解 a. 脂肪の分解 b. β酸化 ④ケトン体の代謝 ⑤脂肪酸と脂肪の合成 ⑥コレステロールの代謝 a. コレステロールの合成 b. コレステロールの利用 ⑦リン脂質とエイコサノイド ⑧リポタンパク質 ⑨脂質異常症(高脂血症) ⑩脂肪細胞と生活習慣病 a. アディポサイトカイン	事前学習：脂質代謝の概要とコレステロールやリポタンパク質の働きにかかわる部分について教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、脂質代謝とコレステロールやリポタンパク質の働きなどに関する講義内容、およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
10	生体物質の代謝③（タンパク質の代謝） （芋川 浩）	タンパク質がどのようにして消化吸収されるのか？どのように代謝され、生命活動に使われるのかを以下の項目を中心に解説する。さらに、アミノ酸代謝異常による疾患、アミノ酸から合成させる生理活性物質などについても解説する。 ①タンパク質・アミノ酸代謝の概要 ②タンパク質の消化と吸収 a. 胃での消化 b. 十二指腸や小腸での消化 ③アミノ酸の代謝 a. アミノ基の転移と脱アミノ反応 b. 尿素回路 c. 炭素骨格の代謝 ④アミノ酸のその他の使われ方 a. プリン塩基とピリミジン塩基 b. ポルフィリン c. 生理活性アミン d. ホルモンなど ⑤アミノ酸の代謝と先天代謝異常 ⑥ヘムの生合成とビリルビンの代謝 a. ヘムの生合成	事前学習：タンパク質・アミノ酸の代謝の概要と尿素回路や生理活性物質の生合成などにかかわる部分について教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、タンパク質・アミノ酸の代謝の概要と尿素回路や生理活性物質の生合成などに関する講義内容、およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分

		b.ヘムの分解とビリルビンの代謝 c.臨床的意義		
11	生体物質の代謝④（核酸の代謝） (芋川 浩)	核酸やヌクレオチドの代謝の全体的な流れ、および病気との関係などを以下の項目を中心に解説する。さらに、ヌクレオチドの代謝と抗がん薬や免疫抑制薬の作用との関係などについても解説する。 ①ヌクレオチド代謝の役割と概要 ②ヌクレオチドの合成 ③ヌクレオチドの分解 ④抗がん薬や免疫抑制薬の作用	事前学習：核酸やヌクレオチドの合成と分解などにかかわる部分について教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、核酸やヌクレオチドの代謝の概要とヌクレオチドの代謝と抗がん薬や免疫抑制薬の作用との関係などに関する講義内容、およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
12	遺伝情報と分子生物学①（DNA と染色体） (芋川 浩)	遺伝情報が何に担われ、どのように保存されているのか、また遺伝情報はどのようにして次の世代に伝わるのかなどを以下の項目を中心に解説する。 ①DNA：遺伝情報を担う物質 a.DNA の構造 b.遺伝情報の保存と発現 ②DNA の複製 a.DNA 複製の基本的なメカニズム b.DNA の損傷と修復	事前学習：DNA の構造や複製などにかかわる部分について教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、DNA の構造や複製などに関する講義内容、およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
13	遺伝情報と分子生物学②（遺伝子発現の調節） (芋川 浩)	遺伝情報がどのようにして RNA やタンパク質として発現するのかなどを以下の項目を中心に解説する。 ①DNA から RNA への転写 a.転写反応 b.転写の基本的なメカニズム c.遺伝子発現の調節 ②RNA からタンパク質への翻訳 a.翻訳に関わる分子：mRNA など b.遺伝暗号(コドン) c.タンパク質合成の過程 d.RNA の新しい機能	事前学習：RNA の転写やタンパク質への翻訳などにかかわる部分について教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、RNA の転写やタンパク質への翻訳などに関する講義内容、およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分

14	遺伝情報と分子生物学③ (遺伝病と代謝) (芋川 浩)	遺伝子の変化が体にどのような変化を及ぼすのか、遺伝子に関する現代医学の課題や最新の生命科学の研究成果などを以下の項目を中心に解説する。 ①遺伝子の変化 a.病気と遺伝子 b.遺伝子の異常と DNA の変異 c.遺伝情報の初期化と iPS 細胞 ②遺伝子診断・遺伝子治療	事前学習：遺伝子の突然変異や遺伝病などにかかわる部分について教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点をまとめる 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、遺伝子の突然変異や遺伝病などに関する講義内容、およびその質問や問題点を各自で確認・整理する。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、次の講義などで質問できるようにまとめておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
15	まとめ (生化学と医学・看護学との関連) (芋川 浩)	最後の講義であるため、これまで学習してきた糖質や脂質など各栄養素の代謝や遺伝情報などに関するこれまでの講義と関連する内容を復習整理するとともに、この生化学分野の最新情報を解説する。 ①代謝の重要ポイントのまとめ ②遺伝子関連の重要ポイントのまとめ ② 生化学分野の最新研究結果などの解説	事前学習：これまで学習してきた糖質や脂質など各栄養素の代謝や遺伝情報などにかかわる部分について教科書や参考書を読み、重要ポイントや疑問点を再確認し、まとめる。 事後学習：講義で実施した小テストの復習に加え、これまで学習してきた糖質や脂質など各栄養素の代謝や遺伝情報などに関する半年間の講義内容、およびその質問や問題点を各自で再確認し、しっかりと整理・身につける。もし各自で質問や問題点等を解決できないときは、講義終了後でも質問し、解決する。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
備考	講義への参加度なども重視しているため、携帯電話等で出席や質問などをとることがあるので、携帯電話等を持っていること。高等学校で生物学・化学・遺伝学などを学んでいた方がよい。また、遺伝子発現等遺伝子にかかわる情報の理解を深めるためにも本学の遺伝学も併せて受講することを強く勧める。			

授業科目名	病態看護学 I Clinical Pathology I			単位	2 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	講義
開講年次	2 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：江上千代美				
授業概要	組織や細胞の変化、修復と再生などを理解し、先天異常、代謝異常、循環障害、炎症、腫瘍、免疫とアレルギーなどについて病因、経過、形態について学ぶ。さらに疾患における臓器、組織の形態と機能の変化について学ぶ				
到達目標	知識・理解	(DP 1)	基本的病変とその機序についての知識を具体的に述べることができる。看護を行う上で必要な 疾病について説明できる。		
		(DP 2)			
授業内容を理解するために必要な知識・技能					
テキスト	医学書院 系統看護学講座 「病理学」「病態生理学」「成人看護学」				
参考図書・教材等	e-learning に UP したスライド資料、その他の配布資料				
実務経験を生かした授業	臨床経験豊富な医療職者が講義する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80	20					100
知識・理解	(DP 1)	80	20					100
	(DP 2)							
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
先天異常、代謝異常、循環障害、炎症、腫瘍、免疫とアレルギーなどの基本的病変とその機序についての知識について十分に理解できる（期末試験で 90% 以上の評価を得る）。 事前と事後学習の CBT において、正解率 90～100% を全ての単元で達成することができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
先天異常、代謝異常、循環障害、炎症、腫瘍、免疫とアレルギーなどの基本的病変とその機序についての知識について理解できる（期末試験で 60% 以上の評価を得る）。 事前と事後学習の CBT において、概ね正解率 80%～を達成することができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している

A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	細胞の障害、その障害に対する修復・再生・適応 丸山晴司	細胞の損傷と原因、細胞の適応現象（物質沈着、アテローム性動脈硬化）、萎縮の原因、細胞の変性、化生（扁平上皮化生、種々の化生）、細胞の死（ネクロシスとアポトーシス）、変形・圧迫による臓器の障害、炎症、炎症組織での反応、創傷治癒（一次治癒と二次治癒）、創傷治癒過程、化膿について説明する。 膿胸、敗血症、椎間板ヘルニア、脳ヘルニア、腸閉塞などの疾患について紹介する。	事前学習：CBT（病態生理学第1章、病理学第2章に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2） 事後学習：授業資料、授業内容に関するe-learningによるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2） 1～15回目までのCBTでは正解率80%を取ることが必要となります。	事前学習 90分 事後学習 90分
2	基本的病変とその秩序 循環障害 田中利幸	循環障害：心臓の構造機能と浮腫や心不全が生じる仕組みを説明する。 膠質浸透圧（低アルブミン血症）と体液の移動、血液の循環障害から浮腫（症状、種類、原因、検査）を説明する。 循環障害が原因である腹水や胸水の検査や症状を説明する。 甲状腺機能低下症と粘液性水腫、ネフローゼと浮腫、腎疾患・肝疾患・心疾患から起こる浮腫、リンパ浮腫など、浮腫の種類と特徴と原因を説明する。	事前学習：CBT（病態生理学第1章、病理学第3章の循環に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2） 事後学習：授業資料、授業内容に関するe-learningによるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）	事前学習 90分 事後学習 90分
3	基本的病変とその秩序 炎症 松隈哲人	炎症の定義、症状、原因について基本的なことを説明する。 炎症細胞と炎症の経過および創傷治癒、それに影響する因子と炎症の治療と薬剤、滲出性、増殖性、特異性炎について説明する。	事前学習：CBT（病態生理学第1章、病理学第4章の炎症に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2） 事後学習：授業資料、授業内容に関するe-learningによるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）	事前学習 90分 事後学習 90分
4	基本的病変とその秩序 代謝障害 南陽平	糖尿病の概要、分類（空腹時血糖、75gOGTT）、診断について説明する。 血糖コントロールの指標、インスリン分泌評価、膵島関連自己抗体、1型糖尿病の病態、分類、2型糖尿病の病態、経過、脂肪・ブドウ糖毒性、妊娠中の糖代謝異常、症状、急性合併症、シックデイ、低血糖、ケトアシドーシス、高浸透圧高	事前学習：CBT（病態生理学第10章、病理学第6章の代謝障害に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2） 事後学習：授業資料、授業内容に関するe-learningによるレポー	事前学習 90分 事後学習 90分

		血糖症候群、慢性合併症、糖尿病性神経障害、網膜症、腎症、脂質・血圧管理について説明する。 治療（インスリン、インクレチン、GLP-1 作動薬、DDP-4 阻害薬、スルホニル尿素薬、グリニド薬、α-GI 阻害薬、チアゾリジン薬、ビグナイド薬、SGLT 阻害薬について説明する。	トを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	
5	基本的病変とその秩序 先天異常 尾上泰弘	遺伝子多型、21-trisomy (症状、合併症、特徴)、ターナー症候群 (症状、合併症、特徴)、クラインフェルター症候群 (症状、合併症、特徴) について説明する。 検査、遺伝子カウンセリング、タンデムマスによるスクリーニングについて説明する。 子どもの視力について、弱視予防の治療、検査、弱視の治療について説明する。 風疹の予防、検査、抗体について説明する。	事前学習：CBT (病態生理学第 1 章、病理学第 8 章の先天異常に関する) e-learning によるレポートを提出する。(デジタル提出) (DP1,2) 事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
6	基本的病変とその秩序 腫瘍 松隈哲人	腫瘍の定義、細胞異型と構造異型、腫瘍の悪性度、腫瘍の分類、がん腫と肉腫について説明する。 悪性腫瘍の広がりや影響、転移と再発、がんの進行度、増殖と進展、多発癌と重複癌について説明する。 腫瘍の発生病理、発がん、発癌因子 (内因・外因) について説明する。 腫瘍の診断と治療、症状あるいは身体所見、画像診断、組織学的検査、腫瘍マーカー、外科手術、放射線治療、化学療法、ホルモン療法、分子標的薬や免疫療法 (新しい癌治療) について説明する。	事前学習：CBT (病理学第 9 章の腫瘍に関する) e-learning によるレポートを提出する。(デジタル提出) (DP1,2) 事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
7	血液の障害 松隈哲人	造血のしくみ、骨髓機能の障害について説明する。 赤血球の機能とその障害、赤血球の機能と役割、貧血 (鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良性貧血、溶血性貧血、腎性貧血、無顆粒球症、伝染性単核球症について説明する。 白血球の機能とその障害、白血球の機能と役割、急性白血病、慢性骨髄性白血病、成人 T 細胞白血病、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫について説明する。 血小板と出血傾向、血小板の機能と役割、特発性血小板減少性紫斑病、血友病、播種性血管内凝固について説明する。 免疫のしくみ、液性免疫、細胞性免疫、免疫反応の過剰、自己免疫疾患、アレルギー疾患、免疫機能の低下、免疫不全、AIDS について説明する。	事前学習：CBT (病態生理学第 5 章、病理学第 3 章の血液に関する) e-learning によるレポートを提出する。(デジタル提出) (DP1,2) 事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
8	神経機能の障害 大仲正太郎	①認知と意識の正常性 (認知、意識、情報伝達のしくみ) について説明する。	事前学習：CBT (病態生理学第 12 章、病理学第 16 章の神経に関する) e-learning によるレポートを提出する。(デジタ	事前学習 90 分

		②脳循環の正常性（脳動脈、血液脳関門、脳室系と脳脊髄液の循環）について説明する。 ③運動制御の正常性（運動機能の制御、反射性運動）について説明する。 ④認知と意識の正常性の破綻（脳死と植物状態、脳死判定基準、JCS,GCS、脳腫瘍による脳・神経機能の障害、認知機能の障害、認知症の原因（画像）、高次脳機能障害（失語、失行、失認、記憶障害））について説明する。 ⑤脳循環の正常性の破綻（脳血管障害、脳梗塞、脳出血、くも膜下出血、水頭症、髄膜炎）について説明する。 ⑥運動制御の正常性の破綻（大脳基底核の異常（パーキンソン病）、内耳・小脳の異常、運動ニューロンの異常（ALS））について説明する。	ル提出）（DP1,2） 事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）	事後学習 90 分
9	呼吸機能の障害 小野貴大	①呼吸器の機能・構造、呼吸機能検査（換気機能検査、血液ガス検査）について説明する。 ②拘束性障害、閉塞性障害（慢性閉塞性肺疾患）、睡眠時無呼吸症候群について説明する。	事前学習：CBT（病態生理学第7章、病理学第12章の呼吸に関する）e-learning によるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2） 事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）	事前学習 90 分 事後学習 90 分
10	循環機能障害① 桑田孝一	心臓の構造・機能（位置、角度）、心室心房の働き、体循環・肺循環、弁の構造（半月弁・腱索）、房室の圧、心臓の動き、血管内膜の機能を説明する。 心臓疾患の原因、弁の逆流症・閉鎖不全症や急性大動脈解離（症状・メカニズム）、解離性大動脈瘤、心タンポナーデ、など疾患や症状・病態を説明する。	事前学習：CBT（病態生理学第6章、病理学第10章の循環に関する）e-learning によるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2） 事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）	事前学習 90 分 事後学習 90 分
11	循環機能障害② 桑田孝一	左心不全・右心不全の病態、症状、治療について説明する。 前負荷・後負荷、血管抵抗、血流と血圧・心拍出との関係を説明する。 心不全の主要な症状および疾患、浮腫、肺水腫、心筋症、三尖弁逆流症、細菌性心膜炎、リウマチ性心膜炎を説明する。 心筋梗塞・狭心症治療薬と利尿薬の作用とメカニズムを説明する。	事前学習：CBT（病態生理学第6章、病理学第10章の循環に関する）e-learning によるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2） 事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）	事前学習 90 分 事後学習 90 分
12	消化器の障害 高津典孝	消化管最近の進歩（検査）、ダブルバルーン小腸内視鏡、カプセル内視鏡について説明する。 消化・吸収・排泄のしくみ、嚥下と咀嚼、胃・十二指腸・小腸、大腸の機能と役割について説明する。 消化管の機能の正常性の破綻、①咀嚼・嚥下機能の破綻、誤嚥性肺炎、逆流性食道炎（症状）、食道癌（事例）、②胃の	事前学習：CBT（病態生理学第8章、病理学第13章の消化器に関する）e-learning によるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2） 事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポー	事前学習 90 分 事後学習 90 分

		はたらきの破綻、ピロリ菌、胃全摘による影響、胃癌、便秘、イレウスについて説明する。 炎症性腫瘍疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）、IBD の発生機序、潰瘍性大腸炎とクローン病の違い、IBD の疫学、クローン病の治療体系について説明する。	トを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	
13	膵胆肝の障害 小野貴大	①肝臓と胆嚢の解剖（肝小葉の構造、肝動脈・門脈・胆管・肝静脈）、肝臓の機能、胆道系と膵臓の構造、胆道系の機能（外分泌・内分泌）について説明する。 ②腹水のメカニズム、黄疸のメカニズム、意識障害（肝性脳症）、肝性脳症のメカニズムについて説明する。 ③肝疾患の病態と肝機能検査の関連、腹部超音波検査、胆道および膵管の検査、CT検査、MRI検査について説明する。 ④肝炎、肝炎の分類、肝炎ウイルスの比較、感染予防対策、A・B・C型肝炎ウイルスの特徴と経過、 ⑤急性肝不全、病態、症状、治療について説明する。 ⑥慢性肝炎、治療、原因（薬剤性肝障害、アルコール性肝障害、脂肪肝、非アルコール性脂肪性肝炎、自己免疫性肝炎）について説明する。 ⑦肝硬変、重症度、治療、症状（門脈圧亢進症）、肝不全について説明する。 ⑧肝臓がん（肝細胞癌の症状、診断、治療）、胆管細胞癌、転移性肝癌について説明する。 ⑨胆石症、症状、診断、治療、急性胆嚢炎、胆管炎について説明する。 ⑩胆管癌、胆嚢癌、胆嚢ポリープについて説明する。 ⑪急性膵炎（重症度、治療）、慢性膵炎、膵臓がん（治療）について説明する。	事前学習：CBT（病態生理学第8章、病理学第13章の循環に関する）e-learningによるレポートを提出する。(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：授業資料、授業内容に関するe-learningによるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
14	運動機能の障害 新井貴之	老人性骨折、骨粗鬆症、ロコモティブシンドローム、関節疾患、脊椎疾患と、その他の骨折について説明する。骨折の治療（保存療法と手術療法）を説明する。末梢神経障害と骨軟部腫瘍、関節リウマチの病態と治療について説明する。	事前学習：CBT（病態生理学第12章の運動に関する）e-learningによるレポートを提出する。(デジタル提出)。(DP1,2) 事後学習：授業資料、授業内容に関するe-learningによるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
15	排泄機能障害 足立知太郎	腎不全、慢性腎臓病、糸球体腎炎、ネフローゼ症候群、全身性疾患による腎障害、尿細管間質性腎炎、腎血管性病変、悪性高血圧、動脈硬化性腎動脈狭窄症、腎梗塞、妊娠高血圧症候群について説明する。	事前学習：CBT（病態生理学第9章、病理学第14章の排泄に関する）e-learningによるレポートを提出する。(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分

		神経因性膀胱、尿失禁、前立腺肥大症の原因、症状、検査、治療について説明する。 尿路腫瘍、腎細胞癌、その他の腎腫瘍の疫学、病理学、症状、検査、診断、治療（全身化学療法、膀胱尿道全摘除術）について説明する。 前立腺がんの特徴、検査、症状、治療について説明する。 尿路結石の原因、検査、治療について説明する。 尿路外傷・異物について説明する。	事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。(DP1,2)	事後学習 90 分
備考	Appointment をメールでとって質問に来ること。メールでの質問も可。連絡先、別途配布した連絡先資料参照してください。			

授業科目名	病態看護学Ⅱ Clinical Pathology Ⅱ			単位	2 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	講義
開講年次	2 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：塩田 昇				
	疾患の頻度や臨床的重要度にもとづいて、典型的な症例を中心に、症候から鑑別診断・確定診断へと至る思考の進め方や各種検査の意義、さらに治療方法について解説する。				
到達目標	知識・理解	(DP 1)	症候から鑑別診断・確定診断へと至る考え方（病気のみかた）と各種検査の意義を説明できる。		
		(DP 2)			
授業内容を理解するために必要な知識・技能					
テキスト	医学書院 系統看護学講座 「成人看護学」				
参考図書・教材等	e-learning に UP したスライド資料、その他の配布資料				
実務経験を生かした授業	臨床経験豊富な医療職者が講義する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80	20					100
知識・理解	(DP 1)	80	20					100
	(DP 2)							
備考 ・								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
腎・泌尿器、呼吸器、循環器、消化器、内分泌、血液・免疫、脳・神経、感覚器、生殖器、運動器疾患について十分に理解できる（期末試験で 90% 以上の評価を得る）。 事前と事後学習の CBT において、正解率 90～100% を全ての単元で達成することができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
腎・泌尿器、呼吸器、循環器、消化器、内分泌、血液・免疫、脳・神経、感覚器、生殖器、運動器疾患について理解できる（期末試験で 60% 以上の評価を得る）。 事前と事後学習の CBT において、概ね正解率 80%～を達成することができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している

A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	脳・神経 塩田昇	脳卒中、クモ膜下出血の病態、検査、治療について説明する。 授業では解剖生理を踏まえながら説明していく。クモ膜下出血以外の脳血管障害についても深く理解できるよう授業を進めて行く。	事前学習：CBT（成人看護学[7]の脳に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2） 事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2） 1～15 回目までの CBT では正解率 80%を取ることが必要となります。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
2	腎・泌尿器、生殖器（男性）①	腎臓の機能構造、尿の異常、排尿に関連した症状、水と電解質・循環器系・血液の異常について説明する。 尿路感染症の治療、尿の検査（採尿方法）。腎機能検査、画像検査、経尿道的操作および内視鏡、腎・泌尿器癌の治療などを説明する。	事前学習：CBT（成人看護学[8]の腎に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2） 事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）	事前学習 90 分 事後学習 90 分
3	腎・泌尿器、生殖器（男性）②	腎不全と慢性腎臓病、 糸球体腎炎、糖尿病性腎症など、 腎臓の血管系、 腎硬化症など、 腎の通過障害と機能障害 水腎症や神経因性膀胱など 尿路・性器の腫瘍 腎細胞癌、膀胱癌など	事前学習：CBT（成人看護学[8]の腎に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2） 事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）	事前学習 90 分 事後学習 90 分
4	呼吸器① 武富 章	呼吸器の解剖・生理について説明する。 慢性閉塞性肺疾患、病態、検査（X線、CT、肺機能検査、血液ガス、SpO ₂ ）、閉塞性障害・拘束性障害、COPDの病期分類、酸素解離曲線、CO ₂ ナルコーシス、NIPPV、酸素中毒、酸素管理、包括的呼吸リハビリテーション、酸塩基平衡、看護について説明する。 肺癌、事例（プリנקマン指数）、検査（X線、CT、喀痰細胞診、気管支鏡検査、腫瘍マーカー）、分類、治療（胸腔鏡下手術、放射線、化学療法）について説明する。	事前学習：CBT（成人看護学[2]の呼吸に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2） 事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）	事前学習 90 分 事後学習 90 分
5	呼吸器② 武富 章	結核、病態、動向、症状、検査（X線、喀痰塗抹検査、ツベルクリン検査）、法律、治療（DOTS）、予防（BCG接種）、空気感染対策について説明する。	事前学習：CBT（成人看護学[2]の呼吸に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2）	事前学習 90 分

		インフルエンザについて説明する。 呼吸器の代表的疾患の画像、肺炎、気管支拡張症について説明する。	事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事後学習 90 分
6	循環器① 武富 章	心臓の役割、しくみ、脱分極・刺激伝導系、心臓の血管、肺循環と体循環系について説明する。 心電図、波形の意味、12 誘導と装着部位、徐脈とブロック波形、人工ペースメーカーについて説明する。 不整脈について、刺激生成異常と刺激伝導異常、頻脈性不整脈（洞性頻脈、期外収縮、心房細動、心房粗動、心室性頻脈、心室細動）、アダムストークス症候群、ホルター心電図、治療（抗不整脈薬）について説明する。	事前学習：CBT（成人看護学[3]の循環に関する）e-learning によるレポートを提出する。（デジタル提出）(DP1,2) 事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
7	循環器② 武富 章	虚血性心疾患（狭心症・心筋梗塞）について、虚血性心疾患のリスクファクター、安定狭心症と不安定狭心症、冠攣縮性狭心症、治療（狭心症の治療薬、について説明する。 検査（心電図、心エコー、血液検査、冠動脈造影）について説明する。 冠動脈造影と治療および看護、注意点について説明する。 心筋梗塞の合併症、心臓リハビリテーションの注意点について説明する。 大動脈解離について、動脈の構造、動脈瘤の分類（スタンフォード・ドベキー分類）、大動脈解離の原因と症状、合併症、診断および治療（血圧・疼痛管理）、看護について説明する。 心タンポナーデについて、心タンポナーデの原因、症状、検査、治療について説明する。 心不全（左・右心不全）について、症状、観察のポイント、治療薬を説明する。 高血圧について、血圧を変動させる要因、血圧の正常範囲、特殊な高血圧、高血圧の合併症、腎性高血圧、高血圧とホルモン、高血圧の治療（薬物療法、生活習慣の改善）を説明する。	事前学習：CBT（成人看護学[3]の循環に関する）e-learning によるレポートを提出する。（デジタル提出）(DP1,2) 事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
8	消化器① 武富 章	消化器系の役割、解剖、消化酵素と栄養素の吸収について説明する。 摂食・嚥下障害の代表的疾患と嚥下機能低下の原因について説明する。 口腔疾患（口内炎、舌炎）について説明する。 食道の疾患（胃食道逆流症、食道裂孔ヘルニア）の治療、食道静脈瘤のメカニズム、所見、治療、食道癌の症状、検査、手術（再建術）、予後について説明する。バレット食道について説明する。 胃の疾患（急性胃粘膜病変、慢性胃炎、胃・十二指腸潰瘍）の分類、診断、原因について説明する。胃癌の肉眼分類、深達度	事前学習：CBT（成人看護学[5]の消化に関する）e-learning によるレポートを提出する。（デジタル提出）(DP1,2) 事後学習：授業資料、授業内容に関する e-learning によるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分

		分類、転移様式、治療（外科的治療・手術、内視鏡的粘膜切除術）、治療後の合併症、生存率について説明する。 大腸の疾患（炎症性腸疾患、食中毒）について説明する。 大腸癌の診断、手術療法について説明する。		
9	消化器② 武富 章	肝臓の解剖生理、肝臓の機能、肝循環、門脈圧について説明する。肝炎（A型、B型、C型）肝炎、肝炎発症のメカニズム、治療、劇症肝炎、黄疸の鑑別診断、針刺し事故について説明する。 肝不全の症状、検査、治療、アンモニア増加の機序、肝硬変、原因、症状、検査所見、非代償期の治療について説明する。肝細胞癌の分類、治療（経皮的エタノール注入療法、ラジオ波焼灼療法）について説明する。アルコール性肝障害（アルコール性肝炎）について説明する。 胆嚢・胆道系の機能について説明する。胆道系・膵疾患の画像検査（エコー・CT）について説明する。胆石症の症状、治療について説明する。胆嚢炎と胆管炎（急性胆管炎）、治療について説明する。胆嚢癌、エコー像について、胆管癌と胆嚢癌の違い、治療について説明する。急性膵炎の原因、症状、検査所見（CT画像）、治療について説明する。慢性膵炎、原因と検査（CT画像）について説明する。膵癌の診断、検査（CT画像）、治療成績について説明する。	事前学習：CBT（成人看護学[5]の消化に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2） 事後学習：授業資料、授業内容に関するe-learningによるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）	事前学習 90分 事後学習 90分
10	消化器③ 武富 章	消化管内視鏡検査、胃透視について説明する。 イレウスの種類、所見、治療について説明する。 食道癌の手術の術式、術後の合併症と化学放射線療法について説明する。 胃切除術後のダンピング症候群と長期合併症について説明する。 大腸癌の検査とストーマ（人工肛門）ケア、ストーマの造設位置と便の性状、造設前の準備、手術後の注意点、ストーマの観察点と退院後の注意点について説明する。	事前学習：CBT（成人看護学[5]の消化に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2） 事後学習：授業資料、授業内容に関するe-learningによるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）	事前学習 90分 事後学習 90分
11	内分泌・代謝疾患 武富 章	主なホルモンとその作用、特徴、feedback機構について説明する。下垂体と視床下部の解剖およびホルモンについて説明する。下垂体、甲状腺ホルモンに関する疾患の症状、検査、治療と看護を説明する。副腎疾患の病態を説明する。代謝疾患（糖尿病）の症状、合併症、検査、治療・看護について説明する。脂質異常・メタボリックシンドロームの治療、痛風の症状と治療について説明する。	事前学習：CBT（成人看護学[6]の内分泌・代謝に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2） 事後学習：授業資料、授業内容に関するe-learningによるレポートを提出する（デジタル提出）。（DP1,2）	事前学習 90分 事後学習 90分
12	血液・免疫 武富 章	血液検査の基準値、貧血（鉄、再生不良、溶血、自己免疫性溶血、二次性）の症状と治療、患者の看護を説明する。 出血性疾患と分類（アレルギー性紫斑病、DIC、血友病、出血傾向のある患者の看護を説明する。 白血病と分類（急性骨髄性白血病、慢性骨髄性白血病、成人T	事前学習：CBT（成人看護学[4]の血液に関する）e-learningによるレポートを提出する。（デジタル提出）（DP1,2） 事後学習：授業資料、授業内容に関するe-learningによる	事前学習 90分 事後学習 90分

		細胞白血病、白血病患者の看護、骨髄異形成症候群、悪性リンパ腫、多発性骨髄腫の診断、症状、治療を説明する。 骨髄移植とその看護、輸血、抗原抗体について説明する。 アレルギーについて、その仕組みと検査法、治療について説明する。自己免疫疾患の種類と薬物療法について説明する。	レポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	
13	感覚器 鳥谷陽一	耳鼻咽喉科の診察、耳・咽頭・喉頭の解剖について説明する。 耳の検査、難聴の種類を説明する。 急性・慢性中耳炎、メニエール病、鼻出血、慢性副鼻腔炎、鼻アレルギー、扁桃肥大、扁桃炎、耳鼻咽喉科悪性腫瘍の治療(喉頭癌)、唾液腺疾患などの耳鼻科で取扱う疾患を説明する。	事前学習: CBT(成人看護学[14]の感覚器に関する)e-learningによるレポートを提出する。(デジタル提出)(DP1,2) 事後学習: 授業資料、授業内容に関するe-learningによるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90分 事後学習 90分
14	生殖器 藤田	女性生殖器の機能構造、診察について説明する。事例を用いて、ホルモン、基礎体温、子宮頸癌の病態と経過を説明する。 婦人科疾患、尖圭コンジローマ、外陰部ヘルペス、トリコモナス膣炎、クラミジア感染症、淋病、カンジダ外陰炎を説明する。梅毒の動向、診断、検査、治療について説明する。 事例を用いて、卵巣癌の病態、診断、治療について説明する。 大腿骨頸部骨折にも触れる。	事前学習: CBT(成人看護学[9]の生殖器に関する)e-learningによるレポートを提出する。(デジタル提出)(DP1,2) 事後学習: 授業資料、授業内容に関するe-learningによるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90分 事後学習 90分
15	運動器 新井	高齢者の骨折と寝たきりになる原因、高齢者の骨折について、大腿骨近位部骨折の種類(大腿骨頸部、大腿骨転子部骨折)および治療(手術療法)について説明する。 脊椎圧迫骨折と保存療法、橈骨遠位端・上腕骨近位端骨折とその治療、骨粗鬆症と薬物治療、ロコモティブシンドローム、関節性疾患(変形性股関節・膝関節症)の治療と合併症、脊椎疾患(椎間板ヘルニア)と腰痛について説明する。	事前学習: CBT(成人看護学[10][11]の運動器に関する)e-learningによるレポートを提出する。(デジタル提出)(DP1,2) 事後学習: 授業資料、授業内容に関するe-learningによるレポートを提出する(デジタル提出)。(DP1,2)	事前学習 90分 事後学習 90分
備考	初回の講義でポートフォリオの提出、定期試験などの概要を説明する。提出、出席に関するルールを説明する。			

授業科目名	看護薬理学 Nursing Pharmacology			単位	2 単位	
				授業コード		
履修	必修	関連資格	「看護師国家試験受験資格」もしくは「なし」		授業方法	講義
開講年次	2 年次	開講時期	前期			
担当教員	科目責任者：竹内 弘 科目担当者：竹内 弘、東 泉					
授業概要	薬物治療において看護師の果たす役割は大きい。誤薬の防止、治療効果の確認、有害作用の早期発見と予防、服薬に関する患者指導、患者・家族に対する治療の説明など、に必要な薬理学の基礎知識と薬物治療の基本すなわち、1.薬物の体内動態と作用部位、2.薬物の作用機序と薬理作用（どうして薬が効くのか）、3.薬物の臨床適用（どのような効果を示すか）、4.薬物の副作用とその対策、について学ぶ。					
到達目標	知識・理解	(DP 1)	人体のしくみについて説明できる。			
		(DP 2)	薬の作用と作用機序・薬物相互作用や有害作用を理解し、薬の有益性と危険性（薬害を含む）を説明できる。			
	思考・判断・表現	(DP 3)	薬物相互作用や有害作用についての知識を活用し、薬物療法中に現れる諸症状について思考・判断できる。			
		(DP 4)	薬の作用・副作用を説明できる。薬害についての事実を述べることができる。			
授業内容を理解するために必要な知識・技能	関連性の高い科目：遺伝学、栄養学、生態機能看護学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ, 看護生化学、病態看護学Ⅰ,Ⅱ、感染・免疫看護学					
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 『疾病のなりたちと回復の促進〔3〕薬理学』第 14 版 吉岡充弘他著 医学書院 2018 年					
参考図書・教材等	『NEW 薬理学』改訂第 7 版 田中千賀子・加藤隆一・成宮周編 南江堂 2017 年 系統看護学講座 別巻 『臨床薬理学』第 1 版 井上智子・窪田哲朗編 医学書院 2017 年 『薬がみえる』vol. 1, 2, 3 第 1 版 医療情報科学研究所編 メディックメディア 各 2014, 2015, 2016 年					
実務経験を生かした授業					授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		90	10					100
知識・理解	(DP 1)	70	10					80
	(DP 2)							
思考・判断・表現	(DP 3)	20						20
	(DP 4)							
備考								
・小テストは随時実施しますが、事前に範囲などを告知します。								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
到達目標 (C 評価レベル)	1.薬物の体内動態と作用部位、2.薬物の作用機序と薬理作用（どうして薬が効くのか）、3.薬物の臨床適用（どのような効果を示すか）、4.薬物の副作用とその対策、について十分に理解し、他者にわかりやすく説明できる。総合評価で 90%以上獲得する。
到達目標 (C 評価レベル)	1.薬物の体内動態と作用部位、2.薬物の作用機序と薬理作用（どうして薬が効くのか）、3.薬物の臨床適用（どのような効果を示すか）、4.薬物の副作用とその対策、について理解し、他者に説明できる。総合評価で 60%以上獲得する。
成績評価の基準 ルーブリック	

S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	薬理学総論1:薬理学の概念、作用機序と薬物受容体（竹内 弘）	看護薬理学の講義について簡単なオリエンテーションを行う。配布資料とスライドを使用して講義を行う。薬理学の概念、薬物の作用機序の概略と代表的な薬物受容体についてテキストに沿って説明する。	【事前学習】テキストの関連範囲（p. 4～23）を読む（DP1, 2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）	事前学習 事後学習 計 60 分
2	薬理学総論2:薬物使用の有益性と危険性（薬害を含む）（竹内 弘）	薬物使用の有益性と危険性についてテキストに沿って説明する。代表的な薬害についても触れて、薬害の発生・拡大を予防するための取り組みや仕組みを説明する。	【事前学習】テキストの関連範囲（p. 48～54）を読む（DP1, 2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）	事前学習 事後学習 計 60 分
3	薬理学総論3:薬の体内での挙動（薬物動態学）（東 泉）	投与された薬物が、どのような生体内運命をたどるのか、吸収・分布・代謝・排泄の過程についてテキスト、資料スライドを用いて講義を行う。	【事前学習】テキストの関連範囲（p. 23～40）を読む（DP1, 2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）	50 分
4	薬理学総論4:薬物の相互作用と薬効に影響する因子（東 泉）	薬の効き方に影響する多様な生体側、薬剤側の因子について、テキスト、資料スライドを用いて講義を行う。	【事前学習】テキストの関連範囲（p. 40～48）を読む（DP1, 2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）	50 分
5	薬理学総論5:医薬品に関する法律と医薬品の取り扱い（竹内 弘）	薬物使用の有益性と危険性についてテキストに沿って説明する。代表的な薬害についても触れて、薬害の発生・拡大を予防するための取り組みや仕組みをテキスト、資料スライドを用いて説明する。	【事前学習】テキストの関連範囲（p. 54～61）を読む（DP1, 2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）	事前学習 事後学習 計 60 分
6	末梢神経系に作用する薬物Ⅰ：自律神経系と薬の作用（交感神経作用薬・副交感神経作用薬）、筋弛緩薬、局所麻酔薬（竹内 弘）	自律神経系に作用する薬物の分類と薬理作用、作用機序、副作用について、また局所麻酔薬についてテキスト、資料スライドを用いて説明する。	【事前学習】テキストの関連範囲（p. 137～156）を読む（DP1, 2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）	事前学習 事後学習 計 60 分
7	心臓・血管系に作用する薬物Ⅰ：抗高血圧薬、狭心	循環器系に作用する薬物のうち、降圧薬、狭心症治療薬、心不全治療薬の分類と薬理	【事前学習】テキストの関連範囲（p. 190～204）を読む（DP1, 2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章	事前学習 事後学習 計 60 分

	症治療薬、うっ血性心不全治療薬（竹内 弘）	作用、作用機序、副作用についてテキスト、資料スライドを用いて説明する。	末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）	
8	心臓・血管系に作用する薬物Ⅱ：抗不整脈薬・利尿薬・高脂血症治療薬・血液に作用する薬物（竹内弘）	循環器系に作用する薬物のうち、抗不整脈薬、利尿薬、脂質異常症治療薬、血液凝固系/線溶系に作用する薬物の分類と薬理作用、作用機序、副作用についてテキスト、資料スライドを用いて説明する。	【事前学習】テキストの関連範囲（p. 204～226）を読む（DP1, 2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）	事前学習 事後学習 計 60 分
9	中枢神経系に作用する薬物Ⅰ：全身麻酔薬、催眠薬・抗不安薬、麻薬性鎮痛薬（東 泉）	中枢神経系に作用する薬物のうち、全身麻酔薬、鎮静催眠薬、抗不安薬、鎮痛薬について資料スライドを用いて講義を行う。	【事前学習】テキストの関連範囲（第 8 章）の病態および基礎知識の箇所を重点的に読む（DP1, 2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）	50 分
10	中枢神経系に作用する薬物Ⅱ：抗精神病薬、抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬（東 泉）	中枢神経に作用する薬物のうち、抗精神病薬、抗うつ薬、パーキンソン症候群治療薬、抗てんかん薬について資料スライドを用いて講義を行う。	【事前学習】テキストの関連範囲（第 8 章）の病態および基礎知識の箇所を重点的に読む（DP1, 2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）	50 分
11	抗感染症薬（竹内 弘）	抗感染症薬の分類と薬理作用、作用機序、副作用についてテキスト、資料スライドを用いて説明する。	【事前学習】テキストの関連範囲（p.66～93）を読む（DP1, 2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）	事前学習 事後学習 計 60 分
12	抗がん薬、免疫治療薬（竹内 弘）	抗がん薬と免疫系に作用する薬物の分類と薬理作用、作用機序、副作用についてテキスト、資料スライドを用いて説明する。	【事前学習】テキストの関連範囲（p. 96～120）を読む（DP1, 2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）	事前学習 事後学習 計 60 分
13	抗アレルギー薬、抗炎症薬（竹内 弘）	抗アレルギー薬および抗炎症薬の分類と薬理作用、作用機序、副作用についてテキスト、資料スライドを用いて説明する。	【事前学習】テキストの関連範囲（p. 122～136）を読む（DP1, 2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）	事前学習 事後学習 計 60 分
14	呼吸器・消化器・物質代謝に作用する薬物（竹内弘）	呼吸器（気管支喘息など）・消化器（消化性潰瘍など）・物質代謝（糖尿病・骨粗鬆症など）に関連する治療薬の分類と薬理作用、作用機序、副作用についてテキスト、資料スライドを用いて説明する。	【事前学習】テキストの関連範囲（p. 230～264）を読む（DP1, 2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章末ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）	事前学習 事後学習 計 60 分
15	消毒薬（竹内 弘）	消毒薬の種類と応用・適用についてテキスト、資料スライドを用いて説明する。	【事前学習】テキストの関連範囲（p. 298～301）を読む（DP1, 2） 【事後学習】テキストの関連範囲の章	事前学習 事後学習 計 40 分

			未ゼミナール（復習と課題）で学習する（DP2）	
備考	・履修上、特別な配慮が必要な学生は、申し出の内容により対応しますので申し出てください。 ・出欠状況の管理を兼ねて、アンケート用紙を配布します。授業改善の参考としますのでご協力ください。 ・質問は随時受け付けます。口頭、小テスト・アンケート用紙への記入、メール等で質問して下さい。詳細は初回講義時に説明します。			

授業科目名	感染・免疫看護学演習			単位	1 単位
	Infection and Immunology Nursing Science			授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	演習
開講年次	1 年	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：杉野浩幸 科目担当者：杉野浩幸				
授業概要	看護師として知っておくべき細菌・ウイルス・真菌感染症、免疫の基礎について概説する。感染症の症状について理解し、第三者に的確に説明できることを目標とする。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	各種感染症について、病名、原因となる細菌・ウイルス・真菌、免疫応答について理解する。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	生態機能看護学Ⅰ、遺伝学、看護生化学、における学修内容				
テキスト	講義担当者が作成したテキストを配付する。（内容は以下の参考図書を要約）				
参考図書・教材等	新クイックマスター、微生物学』、医学芸術社、『系統看護学講座、微生物学』、医学出版、『看護の基礎固め、6. 微生物学編』、メディカルレビュー社				
実務経験を生かした授業	医学部細菌学教室に所属し、細菌・ウイルス実験・講義を担当した教員が、医学部および医学研究科大学院博士課程における指導経験、附属病院等における医師・看護師との連携において得られた知見を基に、看護の現場において必要な感染症や感染対策における基礎について教授する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合								
知識・理解	(DP 2)		60				40	100
備考 1 回の欠席につき 5 点減点する。試験の点数（100 点満点）から欠席分の点数を引き、60 点以上を合格とする。試験は第 13 回目に実施する、								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
細菌・ウイルス・真菌感染症、免疫の基礎について解剖学や病態生理学における学修内容を踏まえ深く理解しており、高齢者、乳幼児、免疫力低下状態にある患者、およびその看護を実践する際に、それぞれの理解力を考慮した上で、病因微生物との関連性や、疾患の特徴、予防接種や免疫系等について適切な説明、指導が可能であること。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
細菌・ウイルス・真菌感染症、免疫の基礎について現状を把握しており、現場において適切に説明することができる能力を得ること。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している

- B 履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
- C 到達目標を達成している
- D 到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	オリエンテーション、HIV 感染症について（杉野）	1. オリエンテーション テキスト配布、授業の進め方、予習・復習の方法について解説する。 2. 講義 パワーポイント資料を用いた HIV 検査、および、テキストによる HIV 感染者の国内、海外動向について詳細な解説を行う。	事前学習：HIV および AIDS について簡単に調べておく（DP2） 事後学習：各自治体におけるエイズ検査の実施状況について調べておく（DP2）	事前学習 22.5 分 事後学習 22.5 分
2	細菌感染症-1（杉野）	講義 以下の細菌について、形態、感染経路、感染後の症状、特有の症状、治療等について詳細な解説を行う。 黄色ブドウ球菌、表皮ブドウ球菌、A 群・B 群レンサ球菌、肺炎球菌、腸球菌	事前学習：細菌、ウイルス、カビ、酵母、真菌、微生物、バクテリアについて、その分類を調べておく（DP2） 事後学習：MRSA について、その危険性、治療薬、予防法などを調べておく（DP2）	事前学習 22.5 分 事後学習 22.5 分
3	細菌感染症-2（杉野）	講義 以下の細菌について、形態、感染経路、感染後の症状、特有の症状、治療等について詳細な解説を行う。 百日咳菌、緑膿菌、ブルセラ菌、野兔病菌、レジオネラ菌、大腸菌	事前学習：O157 について調べておく（DP2） 事後学習：レジオネラ菌感染に関するニュースを調べておく（DP2）	事前学習 22.5 分 事後学習 22.5 分
4	細菌感染症-3（杉野）	講義 以下の細菌について、形態、感染経路、感染後の症状、特有の症状、治療等について詳細な解説を行う。 赤痢菌、チフス菌、パラチフス菌、ネズミチフス菌、ペスト菌、肺炎桿菌、コレラ菌	事前学習：海外に出かける際に必要な予防接種について調べておく（DP2） 事後学習：飛沫感染と空気感染について確認しておく（DP2）	事前学習 22.5 分 事後学習 22.5 分
5	細菌感染症-4（杉野）	講義 以下の細菌について、形態、感染経路、感染後の症状、特有の症状、治療等について詳細な解説を行う。 腸炎ビブリオ、インフルエンザ菌、軟性下痢菌、淋菌、髄膜炎菌、カンピロバクター、ヘリコバクター・ピロリ菌、梅毒トレポネーマ	事前学習：ピロリ菌について簡単に調べておく（DP2） 事後学習：ヒブワクチンについて再度確認しておく（DP2）	事前学習 22.5 分 事後学習 22.5 分
6	細菌感染症-5（杉野）	講義 以下の細菌について、形態、感染経路、感染後の症状、特有の症状、治療等について詳細な解説を行う。	事前学習：芽胞について調べておく（DP2）	事前学習 22.5 分

		炭疽菌、セレウス菌、破傷風菌、ボツリヌス菌、ウェルシュ菌、デフィシル菌、リステリア菌	事後学習：ワクチン、免疫グロブリン、抗毒素血清などの用語について調べておく（DP2）	事後学習 22.5 分
7	細菌感染症-6（杉野）	講義 以下の細菌について、形態、感染経路、感染後の症状、特有の症状、治療等について詳細な解説を行う。 ジフテリア菌、結核菌、らい菌、肺炎マイコプラズマ、発疹チフスリケッチア、トラコーマクラミジア	事前学習：結核、BCG について調べておく（DP2） 事後学習：リケッチア、クラミジアについて簡単に調べておく（DP2）	事前学習 22.5 分 事後学習 22.5 分
8	ウイルス感染症-1（杉野）	講義 以下のウイルスについて、形態、感染経路、感染後の症状、特有の症状、治療等について詳細な解説を行う。 痘瘡ウイルス、単純ヘルペスウイルス、水痘・帯状疱疹ウイルス、EB ウイルス、サイトメガロウイルス、アデノウイルス、JC ウイルス、ヒトパピローマウイルス、ヒトパルボウイルス B19	事前学習：ウイルスの大きさ、形、ゲノムの種類などを簡単に調べておく（DP2） 事後学習：HPV に対する予防接種について、最近の動向を調べておく（DP2）	事前学習 22.5 分 事後学習 22.5 分
9	ウイルス感染症-2（杉野）	講義 以下のウイルスについて、形態、感染経路、感染後の症状、特有の症状、治療等について詳細な解説を行う。 ポリオウイルス、コクサッキーウイルス、エンテロウイルス、ライノウイルス、ロタウイルス、ノロウイルス、風疹ウイルス	事前学習：ウイルス性食中毒について調べておく（DP2） 事後学習：ノロウイルス、ロタウイルスの消毒法について調べておく（DP2）	事前学習 22.5 分 事後学習 22.5 分
10	ウイルス感染症-3（杉野）	講義 以下のウイルスについて、形態、感染経路、感染後の症状、特有の症状、治療等について詳細な解説を行う。 デングウイルス、黄熱ウイルス、日本脳炎ウイルス、インフルエンザウイルス、ムンプスウイルス、麻疹ウイルス、RS ウイルス	事前学習：ウイルス関連の予防接種について調べておく（DP2） 事後学習：ウイルス関連の予防接種について調べておく（DP2）	事前学習 22.5 分 事後学習 22.5 分
11	ウイルス感染症-4（杉野）	講義 以下のウイルスについて、形態、感染経路、感染後の症状、特有の症状、治療等について詳細な解説を行う。 狂犬病ウイルス、SARS コロナウイルス、出血熱、ヒト T リンパ球向性ウイルス 1 型、ヒト免疫不全ウイルス	事前学習：レトロウイルスについて簡単に調べておく（DP2） 事後学習：外務省の海外渡航情報をホームページ等で検索し、掲載されている情報を確認しておく（DP2）	事前学習 22.5 分 事後学習 22.5 分
12	ウイルス感染症-5（杉野）	講義 以下のウイルスについて、形態、感染経路、感染後の症状、特有の症状、治療等について詳細な解説を行う。	事前学習：病院における針刺し事故について調べておく（DP2） 事後学習：血液検査における肝機能の評価（ALT、AST、 γ -GTP）につ	事前学習 22.5 分 事後学習 22.5 分

		A 型肝炎ウイルス、B 型肝炎ウイルス、 C 型肝炎ウイルス、D 型肝炎ウイルス、 E 型肝炎ウイルス	いて調べておく (DP2)	
13	細菌・ウイルス感染症のまとめと小テストによる理解度チェック (杉野)	小テスト、解答・解説 第1回から第12回までに解説した細菌、ウイルス感染症について、その理解度を 確認するため小テスト、解答、解説を行う。	事前学習:細菌、ウイルス感染について再度テキスト全体を読み直し不明点を解決しておくこと (DP2) 事後学習:小テストにおいて誤答した設問について再確認すること (DP2)	事前学習 22.5 分 事後学習 22.5 分
14	真菌感染症 (杉野)	講義 以下の真菌について、形態、感染経路、感染後の症状、特有の症状、治療等について詳細な解説を行う。 皮膚糸状菌、カンジダ、アスペルギルス、クリプトコックス、ムーコル、ニューモシスチス、輸入真菌症、コクシジオイデス	事前学習:カビと酵母の違いについて調べておくこと (DP2) 事後学習:抗菌薬、抗ウイルス薬、抗真菌薬、ステロイドホルモンの違いを再度確認しておく (DP2)	事前学習 22.5 分 事後学習 22.5 分
15	免疫学の基礎 (杉野)	講義 急性期反応、液性免疫・細胞性免疫の基礎、貪食、獲得免疫、粘膜免疫について詳細な解説を行う。	事前学習:液性免疫と細胞性免疫について簡単に調べておく (DP2) 事後学習:IgA 抗体について調べておくこと (DP2)	事前学習 22.5 分 事後学習 22.5 分
備考	不明点等については、研究室、授業終了後の教室等において随時対応する。			

授業科目名	生態・病態看護学実験 Anatomy, Physiology and Pathology Laboratories			単位	1 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	実験
開講年次	2 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：江上千代美 科目担当者：芋川 浩・杉野浩幸・塩田 昇				
授業概要	人体の構造と機能をより理解するために、自ら経験する実習を通して、人体の生理的反応を捉える。また、人体解剖見学及び動物の解剖を通して、正常な臓器や組織の観察を行い、生体の構造や機能の理解を深める。さらに、手指・鼻腔などから細菌の検出を行い、感染防御の基礎的知識を修得する。				
到達目標	知識・理解	(DP 1)	人体の構造と機能の知識を具体的に述べることができる。感染防御の知		
		(DP 2)	識を説明できる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	指定されたレポートを作成することで人体の構造と機能及び感染看護学		
		(DP 4)	に關す課題を完成することができる。		
	技能	(DP 8)	生理学実験で得られた生体情報を分析し、学んだ知識にもとづいて考察す		
		(DP10)	ることができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	授業を学ぶにあたって、生態機能看護学Ⅰ・Ⅱを履修しておくことが望ましい。				
テキスト	「新・看護生理学テキスト」南江堂・「カラー人体解剖学」西村書店				
参考図書・教材等	担当教員が作成した実験・実習マニュアル				
実務経験を生かした授業	生理学実験では、臨床経験 5 年以上の経験豊富な教員が、看護に活かせるように実験を指導する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				60	20	10	10	100
知識・理解	(DP 1)			30	10			40
	(DP 2)							
思考・判断・表現	(DP 3)			30	10	10		50
	(DP 4)							
技能	(DP 8)						5	5
	(DP10)						5	5
備考								
4 名の教員が担当するので、詳しくは各教員から説明がある。履修の順番が変更になることもある。								
生理学実験では、ルーブリックにより評価するので、実験初日に説明します。								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。

実験環境と生活の中での生体反応を捉え、メカニズムを理解することができる。様々な刺激と人間の生理反応について、得られたデータをもとに、既修の知識と日常生活の生体反応を結び付けて考察することができる。実験手順をよく理解して、検査を適切に実施し、データを取ることができる。

12-15 回

常在菌の存在について認識し、手指消毒の重要性、日和見感染症の原因菌が普遍的に存在することなどを理解し、現場において高齢者、乳幼児、免疫力低下状態にある患者、およびその看護を実践する際に、それぞれの理解力を考慮した上で、疾患別に適切な感染予防対策を提案できること。また院内感染予防についても熟練者とある程度専門的な議論ができる能力を有すること。

到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

実験環境での生体反応を捉え、メカニズムを理解することができる。様々な刺激と人間の生理反応について、得られたデータをもとに、既修の知識を用い考察することができる。実験手順を理解して、検査を実施し、データを取ることができる。

12-15 回

常在菌の存在について認識し、手指消毒の重要性、日和見感染症の原因菌が普遍的に存在することなどを理解し、現場において適切に説明することができる能力を得ること。

成績評価の基準 ルーブリック

S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業の進め方

1	オリエンテーション(実験内容・評価方法の提示、参考文献の紹介) および 解剖① (芋川 浩) (江上千代美・杉野浩幸・塩田昇)	○解剖に関する実験マニュアルを e-learning より学生各自でダウンロード・印刷し、テキストは必ず事前に一読して、実験等の内容や必要と思われる試技を理解しておくこと。 ○初回の実験等であるため、オリエンテーションとして、①これからの講義内容、②成績評価方法、③テキストや参考文献の紹介、④出席や質問の取り方などを説明し、今後の講義にスムーズ入れるようにする。 初回の講義内容としては、 ①実物大の人体模型による人体全体像の理解と把握、 ②実物大の人体模型を解体し、各臓器の大きさや機能を把握しながら、元に戻す、 ③3次元解剖教材である visible body の使用方法の解説、 ④visible body を活用した人体全体像の把握と腹部内臓全体のスケッチ、 ⑤3D 臨床解剖アトラス(杉本真樹編著、メディカ出版)の DVD と iPad によるビジュアルな 3 次元解剖システムをフル活用し、骨格系、筋系など全身にわたる組織器官系の詳細な観察とそのスケッチを行うなどについて実施する。 ⑥実物大の人体模型による人体全体像の理解と把握したのち、実物大の人体模型を解体し、各臓器の大きさや機能を詳細に理解把握しながら、人体模型を元の形や臓器の位置に戻す。
2	解剖② 3D 臨床解剖アトラス(杉本真樹編著、メディカ出版)とビジュアルな 3 次元解剖システム(visible body)を用いた腹部の詳細な観察とスケッチを実施する (芋川 浩) (江上千代美・杉野浩幸・塩田昇)	○各回ともテキストは必ず事前に一読して、実験等の内容や必要と思われる試技を理解しておくこと。 ○解剖②の講義内容としては、 3D 臨床解剖アトラス(杉本真樹編著、メディカ出版)の DVD と iPad によるビジュアルな 3 次元解剖システム(visible body)をフル活用し、 ①腹部の詳細な観察とそのスケッチを行う(特に、消化器系、泌尿器系)、 ②胸部の詳細な観察とそのスケッチを行う(特に、循環器系、呼吸器系)などについて実施する。 その際、実物大の人体模型による人体全体像の把握イメージしながら、実施する。
3	解剖③ 3D 臨床解剖アトラス(杉本真樹編著、メディカ出版)とビジュアルな 3 次元解剖システム(visible body)を用いた腹部の詳細な観察とスケッチを実施する (芋川 浩) (江上千代美・杉野浩幸・塩田昇)	○各回ともテキストは必ず事前に一読して、実験等の内容や必要と思われる試技を理解しておくこと。 ○解剖③の講義内容としては、 3D 臨床解剖アトラス(杉本真樹編著、メディカ出版)の DVD と iPad によるビジュアルな 3 次元解剖システムをフル活用し、 ①胸部の詳細な観察とそのスケッチを行う(特に、循環器系、呼吸器系)、 ②脳を含めた神経系の詳細な観察とそのスケッチを行うなどについて実施する。 その際、実物大の人体模型による人体全体像の把握イメージしながら、実施する。
4	感覚：二点弁別法・味覚 (江上千代美・塩田昇) (芋川 浩・杉野浩幸) (180 分)	○事前・事後学習は特に指示しないが、実験マニュアルに実験の詳細を記載している。E-learning に動画を up している。 実験に必要な知識は以下の通りである； ①二点弁別法とは何か？②体性感覚野は脳のどの部分に位置し、どのような特徴があるか？③感覚受容器から体性感覚野までどの

	体温調節：冷却時皮膚温の変化 (江上千代美・塩田昇) (芋川 浩・杉野浩幸)	ような経路で情報が伝えられるか？④味はどこで受容され、どの神経を介して、中枢のどこに送られるかという一連の経路、 以上である。 ○感覚の実験では5種類（塩味、甘味、酸味、苦味、旨味）の味を感知する味覚の分布と2点弁別刺激による知覚を実験によりデータを取り解析する。感覚は主観であるため、個人差があることを実感しながら、それでも共通性があることを実験によりデータを取り解析する。その結果に考察を加えた内容をレポートする。 ①2点弁別閾と触-圧覚の分布の関係を考察する。②受容野と2点弁別閾との関係を考察する。③測定結果とテキストや過去の論文の結果と比較し考察する。④五味と舌の部位との関係性を考察する。舌で知覚された刺激がどのように脳に伝わるか考察する。⑤学んだことを看護にどのようにつなげるか説明できる。 実験に必要な知識は以下の通りである； ①核心温の概日リズムについて、②温度受容器の分布について、③四肢末端部での対向流性熱交換と動静脈吻合のメカニズムについて、④環境の違いによる体部の温度について、⑤体温調節の神経メカニズムについて、⑥体温測定方法とその特徴について（腋窩、直腸、鼓膜温度）などの知識である。 ○体温調節：冷却時皮膚温の変化の実験では、手指部分冷却が末梢の皮膚表面温度に影響を与えることを知る。体温が周辺環境、概日リズムによって影響を受けることを知る。深部温度、末梢温度の変化の違いから体温調節機構の特徴を考察する。以上の目的で実験データを取り解析する。その結果に考察を加えた内容をレポートする。 ①末梢温度の変化を体温調節のメカニズムの知識を使って考察する。 ②中枢温度の変化を体温調節のメカニズムの知識を使って考察する。 ③体温と主観的データ、ヘルスメーターからのデータ、外部環境のデータと関連させて考察する。④学んだことを看護にどのようにつなげるか説明できる。④学んだことを看護にどのようにつなげるか説明できる。
5	感覚：二点弁別法・味覚（135分） (江上千代美・塩田昇) (芋川 浩・杉野浩幸) 体温調節：冷却時皮膚温の変化 (江上千代美・塩田昇) (芋川 浩・杉野浩幸)	○アクティブラーニング①：実験室、情報処理室、図書館（ラーニングコモンズ）のいずれかで、グループワークを行う。感覚の実験（二点弁別法、味覚）で得たデータをもとに解析し、既修の知識と関連させ、発表資料（グラフ・表）を Excel や Power point 等のソフトを用い作成する。（60分） ○アクティブラーニング②：実験室、情報処理室、図書館（ラーニングコモンズ）のいずれかで、グループワークを行う。水負荷で得たデータをもとに解析し、既修の知識と関連させ、発表資料（グラフ・表）を Excel や Power point 等のソフトを用い作成する。（60分） アクティブラーニング①②の発表会（75分：合計135分）
6	循環：心電図の測定と呼吸性不整脈の観察 (江上千代美・塩田昇) (芋川 浩・杉野浩幸)	○事前・事後学習は特に指示しないが、実験マニュアルに実験の詳細を記載している。E-learning に動画を up している。 実験に必要な知識は以下の通りである；①心電図とはどのようなものか。②心臓のリズムはどこが歩調をとっているか。③心電図の波形（P波、QRS波、T波）

	(180 分) 運動負荷：血圧および心拍数の変化 (江上千代美・塩田昇) (芋川 浩・杉野浩幸)	の意味。④PQ 間隔、QRS 間隔、QT 間隔とは⑤不整脈とは、呼吸性不整脈とは⑥期外収縮とは。⑦房室ブロックとは、などの知識である。 ○循環：心電図の測定と呼吸性不整脈の観察の実験では、①RR 間隔：数心拍の平均から心拍数を算出する。正常範囲外である場合は、どういう異常が考えられるかについても調べて考察する。②PR (PQ) 間隔は房室伝導時間を表現しており、正常で 0.11～0.20 秒である。伝導ブロック、加速伝導はないか。正常範囲外である場合は調べて考察する。③QRS 間隔が広い場合は伝導障害などが疑われる。期外収縮があった場合、それが心室起源のものか、上室性起源のものかを QRS 波形から判定し考察する。 ④深呼吸を行った呼気と吸気からどのような呼吸周期に伴う RR 間隔の変化があったか。深呼吸で心拍数が変化したのは、どのような仕組みによるか、正常範囲外である場合は、どういう異常が考えられるかについても調べて考察する。 実験に必要な知識は以下の通りである；運動負荷の強度により、心拍数や血圧の変化する仕組み、②基礎代謝量や安静坐位時の代謝について、などの知識である。 ○循環：運動負荷：血圧および心拍数の変化の実験では、運動負荷による血圧及び心拍数増加のメカニズムを考察する。
7	循環：心電図の測定と呼吸性不整脈の観察 (135 分) (江上千代美・塩田昇) (芋川 浩・杉野浩幸) 運動負荷：血圧および心拍数の変化 (江上千代美・塩田昇) (芋川 浩・杉野浩幸)	○アクティブラーニング①：実験室、情報処理室、図書館（ラーニングコモンズ）のいずれかで、心電図で得たデータをもとに解析し、既修の知識と関連させ、発表資料（グラフ・表）を Excel や Power point 等のソフトを用い作成する。（60 分） ○アクティブラーニング②：実験室、情報処理室、図書館（ラーニングコモンズ）のいずれかで、グループワークを行う。運動負荷で得たデータをもとに解析し、既修の知識と関連させ、発表資料（グラフ・表）を Excel や Power point 等のソフトを用い作成する。（60 分） アクティブラーニング①②の発表会（75 分：合計 135 分）
8	解剖④ 人体解剖実習 (芋川 浩) (江上千代美・杉野浩幸・塩田昇)	○各回ともテキストは必ず事前に一読して、実験等の内容や必要と思われる試技を理解しておくこと。 ○解剖④の講義内容としては、 前 3 回の実験(解剖①～解剖③)で学び、理解したことを、実際の人体(献体)を観察・解剖して、その理解をさらに深める。 ① 実物の人体について詳細な観察をし、観察結果をレポートにまとめる。 ② 実物の人体を詳細な観察しながら、その人体構造と機能を学習・理解するため、実際の人体において簡単な解剖実習を行う。 などについて実施する。
9	腎機能：水負荷試験による尿量の変化 (180 分) (江上千代美・塩田昇) (芋川 浩・杉野浩幸)	○事前・事後学習は特に指示しないが、実験マニュアルに実験の詳細を記載している。E-learning に動画を up している。 実験に必要な知識は以下の通りである； ①脱水時の体液調節の機序、②水分摂取が多量だった時の体液調節機序、③浸透圧濃度とは、などの知識である。

		○飲水を行った後の尿量、尿比重及び浸透圧濃度を捉えることで、生体内での排泄の機序について理解する。体内が水分過多、脱水の状態ではどのように生体が恒常性を維持しようとしているかを理解する。以上の目的で腎機能：水負荷による実験でデータを取り解析する。その結果に考察を加えた内容をレポートする。 ①水負荷を行った被検者において、負荷後 120 分間で排泄した尿量の合計は負荷した水分量の約何%にあたるか、尿の排泄がピークをむかえるのは、負荷を行ってからおよそ何分後かを考察する。②負荷の有無による反応の違いを比較しその原因を考察する。③通常の生活時における分時尿量ならびに 1 日あたりの不可避尿と比較して結果を考察する。④学んだことを看護にどのようにつなげるか説明できる。
10	水負荷試験による尿量の変化 (135 分) (江上千代美・塩田昇) (芋川 浩・杉野浩幸)	○アクティブラーニング：実験室、情報処理室、図書館（ラーニングコモンズ）のいずれかで、グループワークを行う。水負荷で得たデータをもとに解析し、既修の知識と関連させ、発表資料（グラフ・表）を Excel や Power point 等のソフトを用い作成する。 疑問・質問については教員が対応する。 アクティブラーニングの発表会（75 分：合計 135 分）
11	4・6・9 回目の実験が 45 分延長するため 11 回の実験は実施しない	
12	実験に関する注意点や内容について 手指、咽頭、口腔常在菌の検出（培養まで）（杉野浩幸） (江上千代美・芋川 浩・塩田昇)	○事前・事後学習の指定や課題提出等の指定はありません。時間内にすべての説明、実験、観察、結果のまとめまで行います。また、授業で使用したテキスト原本（PDF）、使用スライドおよび動画はすべて研究室ホームページ（http://lab.hsugino.net/）から閲覧可能です。 ○手指常在菌の検出と消毒効果（培養まで） 医療の現場では感染症の防止が重要である。手指に付着している細菌は院内感染や医療事故の原因となる。手指の常在細菌を調べるとともに、手洗いや消毒薬（ウェルパス）の効果を調べる。 ○咽頭常在菌の検出（培養まで） ヒトの咽頭や鼻腔にはブドウ球菌やナイセリア属細菌などの常在菌が存在しており、皮膚感染症、骨髄炎、敗血症、肺炎、胃腸感染症、髄膜炎などの原因となる。このような咽頭常在菌の存在確認を行う。 ○口腔常在菌の検出（培養まで） ヒトの口腔には様々な細菌が常在菌として存在する。このような細菌は誤嚥性肺炎や口腔内疾患の原因となる事実を把握しておく必要がある。そこで、健康なヒトの口腔内に常在するインフルエンザ菌、溶血性連鎖球菌の検出を行う。
13	手指、咽頭、口腔常在菌の検出（結果観察と解説）（杉野浩幸） (江上千代美・芋川 浩・塩田昇)	○事前・事後学習の指定や課題提出等の指定はありません。時間内にすべての説明、実験、観察、結果のまとめまで行います。また、授業で使用したテキスト原本（PDF）、使用スライドおよび動画はすべて研究室ホームページ（http://lab.hsugino.net/）から閲覧可能です。

		○手指常在菌の検出と消毒効果（結果の観察、記録、解説） ○咽頭常在菌の検出（結果の観察、記録、解説） ○口腔常在菌の検出（結果の観察、記録、解説） 上記、3つの実験において、培養プレートの観察、結果について記録（画像など）を行い、その結果、考察を記述する。実際に培養を行った結果、どのような微生物が成育し、その形態を観察し、日和見感染症との関連や感染対策の必要性について理解する。
14	携帯端末に付着した細菌、口腔内真菌、薬剤感受性テスト（培養まで）（杉野浩幸） （江上千代美・芋川 浩・塩田昇）	○事前・事後学習の指定や課題提出等の指定はありません。時間内にすべての説明、実験、観察、結果のまとめまで行います。また、授業で使用したテキスト原本（PDF）、使用スライドおよび動画はすべて研究室ホームページ（http://lab.hsugino.net/）から閲覧可能です。 ○携帯端末に付着した細菌の検出（培養まで） 手はあらゆるものに触ることができ、その汚染を拭けることができる。手指で直接触るボタンやレバー、スイッチなどにはMRSAや大腸菌群などが付着していることが多い。健常者には何ら問題はないが、医療の現場では院内感染を拡大させる原因となる。今回は、各自が所有している携帯端末の表面、ボタン等に付着している細菌を検出する。 ○口腔内に常在する真菌の検出（Candida 属）（培養まで） 口腔内に真菌が常在していることを確認し、培養することで真菌のコロニーを観察する。細菌と真菌の培地の違い、コロニーの形態、培養温度の違いを理解する。 ○薬剤感受性テスト（培養まで） 微生物の種類によって抗菌薬に対する耐性、感受性が異なる。大腸菌（グラム陰性桿菌）および表皮ブドウ球菌（グラム陽性球菌）に対する感受性の違いを観察する。
15	携帯端末に付着した細菌、口腔内真菌、薬剤感受性テスト（結果観察と解説） 微生物実験に関する総括（杉野浩幸） （江上千代美・芋川 浩・塩田昇）	○事前・事後学習の指定や課題提出等の指定はありません。時間内にすべての説明、実験、観察、結果のまとめまで行います。また、授業で使用したテキスト原本（PDF）、使用スライドおよび動画はすべて研究室ホームページ（http://lab.hsugino.net/）から閲覧可能です。 ○携帯端末に付着した細菌の検出（結果の観察、記録、解説） ○口腔内に常在する真菌の検出（Candida 属）（結果の観察、記録、解説） 上記、2つの実験において、培養プレートの観察、結果について記録（画像など）を行い、その結果、考察を記述する。実際に培養を行った結果、どのような微生物が成育し、その形態を観察し、日和見感染症との関連や感染対策の必要性について理解する。 ○薬剤感受性テスト（結果の観察、記録、解説） 培養プレートの観察、結果について記録（画像など）を行い、その結果、考察を記述する。抗菌薬に対する耐性、感受性の違いから適切な抗菌薬の使用法、耐性菌およびその耐性メカニズムの理解等を深める。
備考	8回目の人体解剖実習と9回目の水負荷の実験では体液に触れる可能性があるため、ディスポーザブル白衣を着用する。 12-15回実験について	

	微生物実験ではスライド、動画など、マルチメディアを多用した実験を展開し、事前事後学習（任意）が行えるよう、e-learning システムに上記テキスト、スライド、動画を掲載しています。これらは PC・スマートフォンでの閲覧に対応しています。

授業科目名	基礎看護学概論 Fundamental Nursing			単位	2
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験科目	授業方法	講義
開講年次	1 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：永嶋由理子 科目担当者：淵野由夏・加藤法子				
授業概要	看護は対象の健康的な生活や自立の獲得に向け、直接的なかかわりを通して実現される実践活動である。この科目では、実践活動の基盤となっている「ホリスティックな人間の見方」「健康のとらえ方」「環境のとらえ方」「看護とは何か」を柱に、目的論・対象論・方法論をふまえながら学ぶ。また看護はどのような歴史的変遷をたどってきたのか、保健医療の中における看護の専門性・独自性についても学んでいく。さらに看護の役割は何かについても理解を深めていく。				
到達目標	知識・理解	(DP 1)			
		(DP 2)	・「人間」「健康」「環境」「看護」の主要概念について理解できる。 ・主要概念と生活者や生活との関連について理解できる。 ・看護の歴史的変遷および社会における看護の役割について理解できる。		
	思考・判断・表現	(DP 4)	・グループワークを通じて自己の意見を他者に説明することができる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	・保健医療の中において求められる看護の専門性および独自性について探究できる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能					
テキスト	1) 松木光子、『看護学概論』第5版、ヌーヴェルヒロカワ、2011 年、2,200 円（税別） 2) F・ナイチンゲール著、湯楨ます他訳『看護覚え書改訂第7版』現代社、2011 年、1,700 円（税別） 3) ヴァージニア・ヘンダーソン著、湯楨ます・小玉香津子訳『看護の基本となるもの』日本看護協会出版会、2016 年、1,200 円（税別）				
参考図書・教材等	必要時、別途資料を配布する。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合	試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70		30				100
知識・理解 (DP 2)	70		10				80
思考・判断・表現 (DP 3)			20				20
備考 3名の教員がオムニバス形式で講義を担当する。講義の詳しい進め方については各回の担当教員が講義の初めに説明する。							

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。

看護の主要概念である「人間」「健康」「環境」「看護」および生活の視点から看護を捉えたうえで、看護職に必要とされる役割や機能について考察できる。また、保健医療の中において求められる看護の専門性や独自性について、歴史的変遷と今日の現状を踏まえながら探究することができる。

到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

看護の主要概念である「人間」「健康」「環境」「看護」および生活の視点から看護を捉えたうえで、看護職に必要とされる役割や機能について考えられる。また看護の専門性について歴史的変遷や現状を踏まえながら検討できる。

成績評価の基準 ルーブリック

S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	ガイダンス（永嶋） 看護とは何か（永嶋）	・基礎看護学概論をどのように学習していくかを理解するためにガイダンスを行う。 ・看護とは何かについて理解を深めていくために、看護の定義や看護学という学問の観点から学んでいく。また、看護教育制度や看護専門職とは何かなどの学びを通して、看護についてイメージしこれから学んでいく看護への導入とする。	事後学習 事後課題を課す。（DP2・DP5）	事後学習 180分
2 3	看護の歴史的変遷（永嶋）	看護の歴史を時代背景とともに辿ることにより、どのように看護が成り立ちまた今日に至っているのかを理解するための学びをしていく。	事前学習 事前課題を課す。（DP2） 事後学習 事後課題を課す。（DP2・DP5）	事前学習 180分 事後学習 180分
4	看護のメタパラダイム： 人間（永嶋）	看護の主要概念である「人間」の捉え方について基礎的知識を修得し理解を深めるために、人間の欲求からの視点・人間の成長・発達からの視点・人間存在の視点・看護の視点などから幅広く人間を捉えるための学びをする。	事前学習 事前課題を課す。（DP2） 事後学習 事後課題を課す。（DP2）	事前学習 90分 事後学習 90分
5	看護のメタパラダイム： 健康（永嶋）	看護の主要概念である「健康」の捉え方について基礎的知識を修得し理解を深めるために、健康の捉え方の歴史的変遷やWHOの定義する健康の考え方・主観的および客観的健康の捉え方・健康と病気・看護の視点などから健康について学んでいく。	事前学習 事前課題を課す。（DP2） 事後学習 事後課題を課す。（DP2）	事前学習 90分 事後学習 90分

6 7	看護のメタパラダイム： 環境（永嶋）	講義：看護の主要概念である「環境」の捉え方について基礎的知識を修得し理解を深めるために、環境の構成要素の視点から・内部環境と外部環境の視点から・看護の視点などから環境について学んでいく。 グループディスカッション：講義で学んだ内容を踏まえ、看護の対象となる生活者の快適な環境についてグループで検討・発表し、学びを共有する。	事前学習 事前課題を課す。(DP2) 事後学習 事後課題を課す。(DP2)	事前学習 180 分 事後学習 180 分
8 9	看護のメタパラダイム： 看護（永嶋）	講義：看護の主要概念である「看護」の捉え方について基礎的知識を修得し、理解を深めるために、代表的な看護理論家の考える看護の内容について学んでいく。 グループディスカッション：これまで学んできた4つの主要概念を踏まえて提供事例を解釈する。そのうえで必要とされる看護をグループで検討・発表し学びを共有する。	事前学習 事前課題を課す。(DP2) 事後学習 事後課題を課す。(DP2・DP5)	事前学習 180 分 事後学習 180 分
10	生活と看護（1）（加藤）	この講義では、生活とは何か、生活者を理解する視点とは何かを講義し、看護における生活の視点を育む。さらに、人間・健康・環境・看護と生活との関連についてグループワークなどを通して考察し、学びを深める。	事前学習 事前課題を課す (DP2) 事後学習 事後課題を課す (DP2, DP5)	事前学習 180 分 事後学習 180 分
11	生活と看護（2）（加藤）			
12	保健医療福祉における看護の専門性（1）（淵野）	この講義では、保健医療福祉サービスを提供するシステムやそれらに関わる制度・関連施設および関係職種について学び、保健医療福祉サービスの中での看護の専門性について学習する。	事前学習 事前課題を課す (DP2) 事後学習 事後課題を課す (DP2, DP5)	事前学習 180 分 事後学習 180 分
13	保健医療福祉における看護の専門性（2）（淵野）			
14	看護の機能と看護活動（1） （淵野）	この講義では、医療チームにおける看護の機能や役割、看護目標を達成するための看護活動について具体的な事例をもとに学習する。	事前学習 事前課題を課す (DP2) 事後学習 事後課題を課す (DP2, DP5)	事前学習 180 分 事後学習 180 分
15	看護の機能と看護活動（2） （淵野）			
備考	授業に対する理解度を確認するために、毎回 response card に記入してもらう。 質問がある場合は、次回の講義で回答する。状況によっては個別に対応する。			

授業科目名	基礎看護技術論 Fundamental Nursing Skills			単位	2 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	演習
開講年次	1 年	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：永嶋由理子 科目担当者：瀧野由夏・加藤法子・藤野靖博・於久比呂美・宮崎千尋・清水夏子・清原智佳子				
授業概要	看護技術の理論的な根拠を理解し、対象の健康状態や発達段階等の個別性に応じて臨機応変に活用できるように看護の基本技術を修得する。現在用いられている看護技術は、実践の中で検証が重ねられているが、そのような成果を学ぶとともに、看護技術を検証する能力も身につける。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	・看護技術に必要な基礎的知識について理解できる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	・看護行為の裏付けについて考えることができる。 ・対象に適した看護技術の方法について考えることができる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	・基礎看護技術の行為の根拠を説明でき、疑問が生じた場合は、解決のための主体的な行動をとることができる。		
	技能	(DP10)	・対象の安全・安楽を考えた基礎的技術を身につけることができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	基礎看護学概論で学んだことについて理解しておく。				
テキスト	・茂野香おる他『基礎看護技術Ⅰ』、医学書院、2015 年、2,600 円（税別） ・任和子他『基礎看護技術Ⅱ』、医学書院、2017 年、2,900 円（税別）				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他 (技術チェック)	合計
総合評価割合		70		10			20	100
知識・理解	(DP 2)	70		5				
思考・判断・表現	(DP 3)			5				
関心・意欲・態度	(DP 5)						5	
技能	(DP10)						15	
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
看護技術の理論的な根拠を理解し、対象の健康状態や発達段階等の個別性に応じた看護技術の方法について考えることができる。そのうえで、対象の安全・安楽・自立に向けた基礎的技術が実施できる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
看護技術の基礎的知識を踏まえたうえで、安全・安楽な基礎的技術が実施できる。	

成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1 ・ 2	基礎看護技術概説 環境を整える技術①（永嶋） （ベッドメイキング）	1. 講義 ・基礎看護技術の概要に関わる基礎的知識について講義する。 ・環境を整える技術を実施するうえで必要な基礎的知識について講義する。 2. 技術演習 ・環境を整える技術（ベッドメイキング）を実施する。	〈事前学習〉 ・テキスト『基礎看護技術Ⅱ』第1章 環境調整技術を読む（DP2）。	45 分
			〈事後学習〉 ・ベッドメイキングを反復練習する（DP10）。	45 分
3 ・ 4	活動・休息の援助技術①（於久） （体位変換、床上移動）	1. 講義 ・活動・休息の援助技術を実施するうえで必要な基礎的知識について講義する。 2. 技術演習 ・模擬患者を設定し、活動・休息の援助技術（体位変換、床上移動）を実施する。	〈事前学習〉 ・テキスト『基礎看護技術Ⅱ』第4章 活動・休息援助技術を読む（DP2）。	45 分
			〈事後学習〉 ・レポート(演習記録)を作成し、指示された期日までに提出する（DP2、DP3）。	45 分
5 ・ 6	活動・休息の援助技術②（於久） （移動・移送・歩行の援助）	・模擬患者を設定し、活動・休息の援助技術（移動・移送・歩行の援助）を実施する。	〈事前学習〉 ・なし 〈事後学習〉 ・レポート(演習記録)を作成し、指示された期日までに提出する（DP2、DP3）。	45 分
7 ・ 8	環境を整える技術②（於久） （就床患者のシーツ交換）	1. 講義 ・環境を整える技術を実施するうえで必要な基礎的知識について講義する。 2. 技術演習 ・模擬患者を設定し、環境を整える技術（就床患者のシーツ交換）を実施する。	〈事前学習〉 ・なし 〈事後学習〉 ・レポート(演習記録)を作成し、指示された期日までに提出する（DP2、DP3）。 ・就床患者のシーツ交換を反復練習し、ビデオを作成後に提出し、修得状況の評価を受ける（DP10）。	270 分 (45 分×6)
9 ・ 10	安全を守る技術①（刈野） （手洗い法、滅菌手袋の装着）	1. 講義 ・安全を守る技術を実施するうえで必要な基礎的知識について講義する。	〈事前学習〉 ・テキスト『基礎看護技術Ⅱ』第13章 感染防止の技術を読む（DP2）。	45 分

		2. 技術演習 ・安全を守る技術（手洗い法、滅菌手袋の装着）を実施する。	〈事後学習〉 ・レポート(演習記録)を作成し、指示された期日までに提出する（DP2、DP3）。	45 分
11 ・ 12	安全を守る技術②（淵野） （ガウンテクニック、無菌操作）	・安全を守る技術（ガウンテクニック、無菌操作）を実施する。	〈事前学習〉 ・なし 〈事後学習〉 ・レポート(演習記録)を作成し、指示された期日までに提出する（DP2、DP3）。	45 分
13 ・ 14	食の援助技術①（宮崎） （食事介助）	1. 講義 ・食の援助技術を実施するうえで必要な基礎的知識について講義する。 2. 技術演習 ・模擬患者を設定し、食の援助技術（食事介助）を実施する。 ・模擬患者を設定し、食の援助技術（食事介助、口腔ケア）を実施する。	〈事前学習〉 ・テキスト『基礎看護技術Ⅱ』第2章 食事援助技術を読む（DP2）。 ・テキスト『基礎看護技術Ⅱ』第6章 清潔・衣生活援助技術（口腔ケア）を読む（DP2）。 〈事後学習〉 ・レポート(演習記録)を作成し、指示された期日までに提出する（DP2、DP3）。	45 分 45 分
15 ・ 16	食の援助技術②（宮崎） （食事介助、口腔ケア）		〈事前学習〉 ・なし 〈事後学習〉 ・レポート(演習記録)を作成し、指示された期日までに提出する（DP2、DP3）。	45 分
17 ・ 18	排泄の援助技術（藤野） （便器・尿器の使用法）	1. 講義 ・排泄の援助技術を実施するうえで必要な基礎的知識について講義する。 2. 技術演習 ・模擬患者を設定し、排泄の援助技術（便器・尿器の使用法）を実施する。	〈事前学習〉 ・テキスト『基礎看護技術Ⅱ』第3章 排泄援助技術を読む（DP2）。 〈事後学習〉 ・レポート(演習記録)を作成し、指示された期日までに提出する（DP2、DP3）。	45 分 45 分
19 ・ 20	清潔の援助技術①（加藤） （全身清拭、寝衣交換）	1. 講義 ・清潔の援助技術を実施するうえで必要な基礎的知識について講義する。 2. 技術演習 ・模擬患者を設定し、清潔の援助技術（全身清拭、寝衣交換）を実施する。	〈事前学習〉 ・テキスト『基礎看護技術Ⅱ』第6章 清潔・衣生活援助技術を読む（DP2）。 〈事後学習〉 ・レポート(演習記録)を作成し、指示された期日までに提出する（DP2、DP3）。	45 分 45 分
21 ・ 22	清潔の援助技術②（加藤） （全身清拭、寝衣交換）	・模擬患者を設定し、清潔の援助技術（洗髪、整容）を実施する。 ・模擬患者を設定し、清潔の援助技術（手浴、足浴）を実施する。 ・模擬患者を設定し、清潔の援助技術（陰部	〈事前学習〉 ・なし 〈事後学習〉 ・レポート(演習記録)を作成し、指示された期日までに提出する（DP2、DP3）。	45 分

23 ・ 24	清潔の援助技術③（加藤） （洗髪、整容）	洗浄、おむつ交換）を実施する。	〈事前学習〉 ・なし 〈事後学習〉 ・レポート(演習記録)を作成し、指示された期日までに提出する（DP2、DP3）。	45 分
25 ・ 26	清潔の援助技術④（加藤） （手浴、足浴）		〈事前学習〉 ・なし 〈事後学習〉 ・レポート(演習記録)を作成し、指示された期日までに提出する（DP2、DP3）。	45 分
27 ・ 28	清潔の援助技術⑤（藤野） （陰部洗浄、おむつ交換）		〈事前学習〉 ・テキスト『基礎看護技術Ⅱ』第6章 清潔・衣生活援助技術（陰部洗浄）を読む（DP2）。 ・テキスト『基礎看護技術Ⅱ』第3章 排泄援助技術（おむつ交換）を読む（DP2）。 〈事後学習〉 ・レポート(演習記録)を作成し、指示された期日までに提出する（DP2、DP3）。	45 分 45 分
29 ・ 30	まとめ（淵野） （総合技術演習）	1. 技術演習 ・安全を守る技術（滅菌手袋の装着）を実施し、評価を受ける。	〈事前学習〉 ・滅菌手袋の装着を反復練習する（DP10）。 〈事後学習〉 ・滅菌手袋の装着を修得できるまで練習する（DP10）。	90 分 (45 分×2) 90 分 (45 分×2)
備考	・技術演習は、担当教員全員で指導にあたる。 ・週1回（開講後に曜日は決定）演習後のフォローアップとして実技修得支援を行う。 希望者は事前にアポイントメントをとること（担当：宮崎、於久）。			

授業科目名	シンプトンマネジメント論 Symptom Management			単位	1 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家受験資格	授業方法	演習
開講年次	2 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：永嶋由理子 科目担当者：永嶋由理子・洲野由夏・加藤法子・藤野靖博・於久比呂美・宮崎千尋				
授業概要	さまざまな疾病や治療に付随するシンプトン(Symptom)を理解し管理・緩和することは、患者に安楽をもたらし QOL の向上を目指す看護にとって非常に重要なことである。この授業では、看護の視点から、症状マネジメントの概念、構成要素、そして患者の症状体験の全容を理解し、症状を管理・緩和する実践についてその科学的根拠とともに学ぶ。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	症状マネジメントについて理解できる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	対象者に応じた症状マネジメントを行い、必要な看護ケアを見出すことができる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	症状マネジメントから導き出された看護ケアについて提案できる。		
	技能	(DP10)	症状を管理・緩和する看護技術を修得することができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	基礎看護技術論、看護過程、フィジカルアセスメント論で学んだことについて理解しておく。				
テキスト	講義時に資料を配布する。				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他 (技術修得)	合計
総合評価割合		60	10		20		10	100
知識・理解	(DP 2)	60	10					70
思考・判断・表現	(DP 3)				10			10
関心・意欲・態度	(DP 5)				10			10
技能	(DP10)						10	10
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
到達目標 (C 評価レベル)	看護の視点から、症状マネジメントの概念、構成要素、そして患者の症状体験の全体像を理解することができる。その上で症状マネジメントモデルの考え方に沿って、安楽をもたらす QOL を向上させる個別性のある症状管理・緩和のための看護援助を実践することができる。
成績評価の基準	看護の視点から、症状マネジメントの概念、構成要素、そして患者の症状体験を理解することができる。その上で症状マネジメントモデルの考え方に沿って、症状を管理・緩和するための看護援助を実施することができる。
S	履修目標を越えたレベルを達成している

- A 履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
- B 履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
- C 到達目標を達成している
- D 到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	1. 症状・シンプトンとは 2. 症状マネジメントモデル 3. 症状マネジメントにおける看護師の役割と責任 (永嶋)	シンプトンマネジメントの目的、症状マネジメントを用いた看護ケア、症状マネジメントの実際、シンプトンマネジメントの進め方、シンプトンマネジメントの各ステップについて講義する。	事後学習：授業で配布資料された資料を読み復習する。（DP2,3,5）	事後学習 45 分
2	外皮系の症状をもつ患者のシンプトンマネジメント① (於久)	症状マネジメントモデルの考え方に沿って、症状の定義、症状・状況、フィジカルイグザミネーション、外皮系の基礎知識、症状のメカニズム（病態）、今後の予測、日常生活への影響、必要な援助の立案・提案、効果の評価について講義する。	事前学習：生体機能看護学、病態看護学で学習した外皮系を含む内容について復習する。（DP3） 事後学習：授業で配布資料された資料を読み復習する。（DP2,3,5）	事前学習 15 分 事後学習 30 分
3	外皮系の症状をもつ患者のシンプトンマネジメント② (於久)	外皮系の症状を管理・緩和するための看護技術について演習する。 外皮系の授業の理解度を確認するために小テストを行う。	事前学習：基礎看護技術論、フィジカルアセスメント論で学習した褥瘡を予防する技術を含む内容について復習する。（DP3） 事後学習：授業で配布資料された資料を読み復習する。（DP10）	事前学習 15 分 事後学習 30 分
4	外皮系の症状をもつ患者のシンプトンマネジメント③ (淵野)	外皮系の症状を管理・緩和する看護技術について演習する。	事前学習：基礎看護技術論で創傷管理の技術を含む内容について読む。 事後学習：授業で配布資料された資料を読み復習する。（DP10）	事前学習 15 分 事後学習 30 分
5	消化器系の症状をもつ患者のシンプトンマネジメント (淵野)	症状マネジメントモデルの考え方に沿って、症状の定義、症状・状況、フィジカルイグザミネーション、消化器系の基礎知識、症状のメカニズム（病態）、今後の予測、日常生活への影響、必要な援助の立案・提案、効果の評価について講義する。	事前学習：生体機能看護学、病態看護学で学習した外皮系を含む内容について復習する。（DP3） 事後学習：授業で配布資料された資料を読み復習する。（DP2,3,5）	事前学習 15 分 事後学習 30 分
6	循環器系の症状をもつ患者のシンプトンマネジメント	症状マネジメントモデルの考え方に沿って、症状の定義、症状・状況、フィ	事前学習：生体機能看護学、病態看護学で学習した循環器系を含む内容に	事前学習 15 分

	(宮崎)	ジカルイグザミネーション、循環器系の基礎知識、症状のメカニズム(病態)、今後の予測、日常生活への影響、必要な援助の立案・提案、効果の評価について講義する。 消化器系の授業の理解度を確認するために小テストを行う。	ついて復習する、(DP3) 事後学習：授業で配布資料された資料を読み復習する。(DP2,3,5)	事後学習 30 分
7	呼吸器系の症状をもつ患者のシンプトンマネジメント① (藤野)	症状マネジメントモデルの考え方に沿って、症状の定義、症状・状況、フィジカルイグザミネーション、呼吸器系の基礎知識、症状のメカニズム(病態)、今後の予測、日常生活への影響、必要な援助(立案・提案)、効果の評価について講義する。 循環器系の授業の理解度を確認するために小テストを行う。	事前学習：生体機能看護学、病態看護学で学習した呼吸器系を含む内容について復習する。(DP3) 事後学習：授業で配布資料された資料を読み復習する。(DP2,3,5)	事前学習 15 分 事後学習 30 分
8	呼吸器系の症状をもつ患者のシンプトンマネジメント② (藤野)	呼吸困難の症状を管理・緩和する看護技術について講義する。 呼吸器系の授業の理解度を確認するために小テストを行う。	事前学習：基礎看護技術論で呼吸管理の技術を含む内容について読む。 事後学習：授業で配布資料された資料を読み復習する。(DP10)	事前学習 15 分 事後学習 30 分
9	呼吸器系の症状をもつ患者のシンプトンマネジメント③ (藤野)	呼吸器系の症状を管理・緩和する看護技術について演習する。	事前学習：基礎看護技術論で呼吸管理の技術を含む内容について読む。 事後学習：授業で配布資料された資料を読み復習する。(DP10)	事前学習 15 分 事後学習 30 分
10	感覚器系の症状をもつ患者のシンプトンマネジメント (加藤)	症状マネジメントモデルの考え方に沿って、症状の定義、症状・状況、フィジカルイグザミネーション、神経系の基礎知識、症状のメカニズム(病態)、今後の予測、日常生活への影響、必要な援助(立案・提案)、効果の評価について講義する。	事前学習：生体機能看護学、病態看護学で学習した感覚器系を含む内容について復習する。(DP3) 事後学習：授業で配布資料された資料を読み復習する。(DP2,3,5)	事前学習 15 分 事後学習 30 分
11	シンプトンマネジメント演習①	シンプトンマネジメント演習の概要を説明する。 症状マネジメントモデルの考え方に沿って事例を用いてグループワークを行う。 感覚器系の授業の理解度を確認するために小テストを行う。	事前学習：提示された事例を読む。グループワークに必要な知識について提示された事前課題を行う。(DP2,3,5) 事後学習：演習事例を症状マネジメントの考え方に沿ってまとめる(DP2,3,5)	事前学習 45 分 事後学習 45 分

12	シンプトンマネジメント演習 ②	症状マネジメントモデルの考え方に沿って事例を用いてグループワークを行う。	事後学習：演習事例を症状マネジメントの考え方に沿ってまとめる (DP2,3,5)	事後学習 45 分
13	シンプトンマネジメント演習 ③	症状マネジメントモデルの考え方に沿って事例を用いてグループワークを行う。	事後学習：演習事例を症状マネジメントの考え方に沿ってまとめる (DP2,3,5)	事後学習 45 分
14	シンプトンマネジメント演習 ④	事例を用いて行ったグループワークの内容をグループごとにロールプレイ形式で発表する。	事前学習：ロールプレイ内容を練習する (DP2,3,5,10)	事前学習 45 分
15	シンプトンマネジメント演習 ⑤	事例を用いて行ったグループワークの内容をグループごとにロールプレイ形式で発表する。		
備考	・看護技術演習（3，4，9 回）及びシンプトンマネジメント演習（11～15 回）は、担当教員全員で指導にあたる。			

授業科目名	フィジカルアセスメント論 Physical Assessment			単位	2 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	演習
開講年次	2 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：永嶋由理子 科目担当者：瀧野由夏・加藤法子・藤野靖博・於久比呂美・宮崎千尋・清水夏子・清原智佳子				
授業概要	対象者の健康状態を把握するために必要なフィジカルアセスメントの知識と技術について学ぶ。ここでは、フィジカルアセスメントの目的と意義、解剖・生理学的知識に基づくフィジカルアセスメントの実際と援助技術について学ぶ。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	・フィジカルアセスメントを実施するうえで必要な基礎的知識を理解できる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	・フィジカルイグザミネーションで得た情報をアセスメントできる。		
	技能	(DP10)	・対象に必要なフィジカルイグザミネーションを実施することができる。 ・対象に必要な援助技術を実施することができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	基礎看護技術論、生態機能看護学Ⅰ・Ⅱで学んだことについて理解しておく。				
テキスト	・茂野香おる他『基礎看護技術Ⅰ』、医学書院、2015 年、2,600 円（税別） ・任和子他『基礎看護技術Ⅱ』、医学書院、2017 年、2,900 円（税別）				
参考図書・教材等	・配布資料 ・リン S.ピックリー他「ベイツ診察法 第 2 版」メディカル・サイエンス・インターナショナル、2015 年				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他 (技術チェック)	合計
総合評価割合		60		20			20	100
知識・理解	(DP 2)	60		10			5	75
思考・判断・表現	(DP 3)			10				10
技能	(DP10)						15	15
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
フィジカルアセスメントを実施するための基礎的知識に既存の知識を連関させ理解したうえで、対象に必要な援助を考え、積極的に実施することができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
フィジカルアセスメントの実施に必要な基礎的知識をふまえ、対象に必要な援助を考え実施することができる。	

成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1 ・ 2	1. フィジカルアセスメント 論概説 2. ヘルスインタビュー (永嶋)	1. フィジカルアセスメントの概要に関 わる基礎的知識について講義する。 2. ヘルスインタビューを実施するう えで必要な基礎的知識について講義 する。	<事前・事後学習> なし	
3 ・ 4	生命危機状態にある患者の フィジカルアセスメントと 援助技術① (渕野)	1. 講義 生命危機状態にある患者にフィジカ ルアセスメントおよび看護援助を実施 するうえで必要な基礎的知識について 講義する。	<事前学習> なし <事後学習> 血圧測定技術を身につけるまで反 復練習する	180 分 (45 分×4)
5 ・ 6	生命危機状態にある患者の フィジカルアセスメントと 援助技術② (渕野)	2. 技術演習 講義内容をもとに生命危機状態にあ る患者を想定し、フィジカルアセスマ ントおよび看護援助（電法）を実施する。	(DP2・3・10)	
7 ・ 8	外皮系器官に障害をもつ患 者のフィジカルアセスマ ントと援助技術 (加藤)	1. 講義 外皮系器官に障害をもつ患者にフィ ジカルアセスメントを実施するうえで 必要な基礎的知識について講義する。 2. 技術演習 講義内容をもとに外皮系器官に障害 をもつ患者を想定して、フィジカルアセ スマントを実施する。	<事前学習> 外皮系器官に関する解剖生理につ いて学習する (DP2) <事後学習> 実施したフィジカルアセスマン トおよび看護援助に関するレポートを 作成し、指示された期日までに提出 する (DP2・3)	45 分 45 分
9 ・ 10	消化器系器官に障害をもつ 患者のフィジカルアセスマ ントと援助技術① (加藤)	1. 講義 消化器系器官に障害をもつ患者にフ ィジカルアセスマントおよび看護援助 を実施するうえで必要な基礎的知識に ついて講義する。 2. 技術演習	<事前学習> 消化器系器官に関する解剖生理に ついて学習する (DP2) <事後学習> 実施したフィジカルアセスマン ト	45 分 45 分

11 ・ 12	消化器系器官に障害をもつ患者のフィジカルアセスメントと援助技術② (加藤)	講義内容をもとに消化器系器官に障害をもつ患者を想定して、フィジカルアセスメント及び看護援助(浣腸)を実施する。	および看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する(DP2・3)	
13 ・ 14	腎・泌尿器系器官に障害をもつ患者のフィジカルアセスメントと援助技術 (藤野)	1. 講義 腎・泌尿器系器官に障害をもつ患者にフィジカルアセスメントおよび看護援助を実施するうえで必要な基礎的知識について講義する。 2. 技術演習 講義内容をもとに腎・泌尿器系器官に障害をもつ患者を想定して、フィジカルアセスメントおよび看護援助(導尿)を実施する。	<事前学習> 腎・泌尿器系器官に関する解剖生理について学習する(DP2) <事後学習> 導尿技術を身につけるまで反復練習し、修得状況の評価を受ける。 (DP2・3・10)	45 分 315 分 (45 分×7)
15 ・ 16	呼吸器系器官に障害をもつ患者のフィジカルアセスメントと援助技術 (宮崎)	1. 講義 呼吸器系器官に障害をもつ患者にフィジカルアセスメントを実施するうえで必要な基礎的知識について講義する。 2. 技術演習 講義内容をもとに呼吸器系器官に障害をもつ患者を想定して、フィジカルアセスメントを実施する。	<事前学習> 呼吸器系器官に関する解剖生理について学習する(DP2) <事後学習> 実施したフィジカルアセスメントおよび看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する(DP2・3)	45 分 45 分
17 ・ 18	循環器系器官に障害をもつ患者のフィジカルアセスメントと援助技術 (宮崎)	1. 講義 循環器系器官に障害をもつ患者にフィジカルアセスメントを実施するうえで必要な基礎的知識について講義する。 2. 技術演習 講義内容をもとに循環器系器官に障害をもつ患者を想定して、フィジカルアセスメントを実施する。	<事前学習> 循環器系器官に関する解剖生理について学習する(DP2) <事後学習> 実施したフィジカルアセスメントおよび看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する(DP2・3)	45 分 45 分
19 ・ 20	フィジカルアセスメント 中間実践演習 (淵野)	1. 技術演習 血圧測定技術の修得状況評価を行う。	<事前学習> 血圧測定技術を身につけるまで反復練習する (DP2・3・10) <事後学習>	90 分 (45 分×2) 90 分

			血圧測定技術を身につけるまで反復練習する (DP2・3・10)	(45分×2)
21 ・ 22	神経系器官に障害をもつ患者のフィジカルアセスメントと援助技術 (藤野)	1. 講義 神経系器官に障害をもつ患者にフィジカルアセスメントを実施するうえで必要な基礎的知識について講義する。 2. 技術演習 講義内容をもとに神経系器官に障害をもつ患者を想定して、フィジカルアセスメントを実施する。	<事前学習> 神経系器官に関する解剖生理について学習する (DP2) <事後学習> 実施したフィジカルアセスメントおよび看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する (DP2・3)	45分 45分
23 ・ 24	筋・骨格系器官に障害をもつ患者のフィジカルアセスメントと援助技術 (藤野)	1. 講義 筋・骨格系器官に障害をもつ患者にフィジカルアセスメントを実施するうえで必要な基礎的知識について講義する。 2. 技術演習 講義内容をもとに筋・骨格系器官に障害をもつ患者を想定して、フィジカルアセスメントを実施する。	<事前学習> 筋・骨格系器官に関する解剖生理について学習する (DP2) <事後学習> 実施したフィジカルアセスメントおよび看護援助に関するレポートを作成し、指示された期日までに提出する (DP2・3)	45分 45分
25 ・ 26	薬物療法が必要な患者のフィジカルアセスメントと援助技術① (於久)	1. 講義 薬物療法が必要な患者にフィジカルアセスメントおよび看護援助を実施するうえで必要な基礎的知識について講義する。 2. 技術演習 講義内容をもとに薬物療法が必要な患者を想定して、フィジカルアセスメントおよび看護援助(経口与薬)を実施する。	<事前学習> 内服薬の作用・副作用について学習する (DP2) <事後学習> なし	45分
27 ・ 28	薬物療法が必要な患者のフィジカルアセスメントと援助技術② (於久)	1. 講義 薬物療法が必要な患者にフィジカルアセスメントおよび看護援助を実施するうえで必要な基礎的知識について講義する。	<事前学習> 注射部位とその根拠について学習する (DP2)	45分
29 ・ 30	薬物療法が必要な患者のフィジカルアセスメントと援助技術③ (於久)	2. 技術演習	<事後学習> なし	

		講義内容をもとに薬物療法が必要な患者を想定して、フィジカルアセスメントおよび看護援助（注射）を実施する。		
備考	・技術演習は、担当教員全員で指導にあたる。 ・毎週水曜日に演習後のフォローアップとして実技修得支援を行う。希望者は事前にアポイントメントをとること（担当：宮崎・於久）			

授業科目名	看護過程　Nursing Process			単位	1 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	演習
開講年次	2 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：永嶋由理子　科目担当者：淵野由夏　加藤法子　藤野靖博　於久比呂美　宮崎千尋				
授業概要	看護を系統的かつ科学的に看護実践できる基礎的能力を養うために、方法論としての看護過程を講義・演習を通して学ぶ。ここでは、看護過程の意義や目的を理解するとともに事例を用いて具体的な展開方法を習得していく。また、演習を行うなかで、問題解決能力や批判的思考能力を育成する。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	・看護過程の意義と目的、看護過程の各段階について理解できる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	・看護の視点で事例患者の情報を収集し整理することができる。 ・事例患者の健康問題を客観的にアセスメントできる。 ・アセスメントの内容を踏まえ、事例患者の看護問題を抽出し、看護計画を立案することができる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	・文献学習やグループディスカッションを通して主体的に学習できる。		
	技能	(DP10)	・事例患者の看護過程を一連の流れに沿って展開できる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	基礎看護学概論、生体機能看護学Ⅰ・Ⅱで学んだことについて理解しておく。				
テキスト	・マージョリー・ゴードン著、江川隆子監訳『ゴードン博士の看護診断アセスメント指針』、照林社、2006 年、2,600 円（税別）　＊テキスト及び配布資料にて講義・演習を進める。				
参考図書・教材等	・配布資料 ・リンダ J.カルペニート＝モイエ編集、新道幸恵監訳「カルペニート　看護診断マニュアル」、医学書院、2008 年 ・蔵谷範子編著「関連図の書き方をマスターしよう」、サイオ出版、2015 年				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他 (演習への 取り組み、 演習記録)	合計
総合評価割合				20			80	100
知識・理解	(DP 2)						20	20
思考・判断・表現	(DP 3)			10			30	40
関心・意欲・態度	(DP 5)			10			10	20
技能	(DP10)						20	20
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
事例患者に必要な看護を導き出すために、論理的思考を用いながら、看護過程の一連の流れを展開することができる。その過程において、既存の知識や文献等を活用し、看護の視点から多角的、客観的視点に分析し、論理的に記述することができる。	

到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
事例患者に必要な看護を導き出すために、既存の知識を用いて看護過程の一連の流れを展開することができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	1. コースガイダンス（永嶋） 2. 看護過程の概要（永嶋） 3. 看護過程の実際（永嶋） 4. 演習事例の説明（藤野）	1. 講義 ・コースガイダンスにより、科目概要や評価方法について説明する。 ・看護過程の目的や定義、看護過程の実際（情報の収集と整理、健康逸脱の有無、分析解釈）について講義する。 ・演習事例の説明を行う	事後学習 ・演習事例を読み、事例を理解する上で必要な項目を挙げ、調べ、レポートする。レポートは提出日を設定する。（DP 3、DP 5） ・演習事例を S、O 情報に分類する。（DP 2、DP 3、DP10）	90 分
2				
3				
4	1. 看護過程の展開 情報収集と情報の整理 健康逸脱の有無の判断	1. グループワーク ・ゴードンの 11 の機能パターンに基づき事例患者の情報収集と健康逸脱の有無についての過程を展開する。 ・機能パターンごとに情報を分類・整理する。 ・機能パターン毎に整理した情報について、健康逸脱の有無を判断する。 ・情報収集と整理、健康逸脱の有無については、事前学習の内容やグループワークでのディスカッションした内容を踏まえて行う。 ・健康逸脱の有無の発表会に向けた話し合いと発表会の資料作成を行う。	事前学習 ・テキストのゴードンの 11 の機能パターンのそれぞれの定義を読む。（DP 2、DP 5） 事後学習 ・事例患者の健康逸脱の有無を判断するために必要な情報（例：検査値の正常値など）について調べる。（DP 3、DP 5） ・11 の機能パターンについての情報収集と整理、健康逸脱の有無について演習記録を完成させる。（DP 2、DP 3、DP10）	165 分
5				
6				

7	看護過程の展開 発表会（健康逸脱の有無）	1. 発表会 ・ 11 の機能パターンの健康逸脱の有無についてグループごとに発表し、共有する。 ・ 各グループの発表を受け、11 の機能パターンの捉え方、情報の整理の仕方、健康の逸脱の有無の考え方について担当教員がコメントし学びを深める。	事後学習 発表会での学びを踏まえ、自己の演習記録の追加及び修正を行う。 (DP2、DP3、DP10)	90 分
8				
9	看護過程の実際（永嶋）	1. 講義 看護過程の実際（看護問題の明確化、計画立案、実施及び評価）について講義する。		
10	看護過程の展開 関連図、分析解釈	1. グループワーク ・ 事例患者の看護問題（一部）を導き出すための分析解釈の過程を展開する。 ・ 提示した健康逸脱について、4 つの側面（病態・生理学的側面、治療関連側面、状況的側面、発達の側面）から分析解釈を行う。 ・ 分析解釈については、事前学習やグループワークでのディスカッションを踏まえて行う。 ・ 分析・解釈の発表会に向けた話し合いと発表会の資料作成を行う。 ・ 提示した健康逸脱に関連する情報を中心に、全体関連図を作成する。	事前学習 ・ 事例患者の病態生理、治療、発達面での特徴等について調べ、レポートする。レポートは提出日を設定する。(DP3、DP5) 事後学習 ・ 提示された健康逸脱の分析解釈について演習記録を完成させる。 (DP2、DP3、DP10)	165 分
11				
12				
13	看護過程の展開 発表会（健康逸脱の有無）	1. 発表会 ・ 提示した事例患者の健康逸脱について 4 つの側面から分析・解釈した内容をグループごとに発表し、共有する。 ・ 各グループの発表を受け、4 つの側面の分析・解釈の視点について担当教員がコメントし、学びを深める。	事後学習 ・ 発表会での学びを踏まえ、自己の演習記録の追加及び修正を行う。 (DP2、DP3、DP10)	45 分
14	看護過程の展開 看護問題の明確化と目標設定	1. グループワーク ・ 分析解釈した内容から、看護問題を抽出し、看護目標を設定する。 ・ 看護問題の明確化、看護目標の設定については、事前学習やグループディスカッションを踏まえて行う。	事後学習 ・ 別途提示された健康逸脱についての分析解釈及び、看護問題の抽出を行い、演習記録に整理する。 (DP2、DP3、DP10)・	120 分

15	看護過程の展開 看護計画立案	1. グループワーク ・看護問題、看護目標についての看護計画を立案する。 ・看護計画の立案にあたっては、事前学習やグループディスカッションを踏まえて行う。	
備考	・グループワークでは、グループ担当教員（淵野、加藤、藤野、於久、宮崎）が指導にあたり、疑問や質問等に対応し学びの促進を図る。 ・看護過程の展開では、演習記録用紙を配布する。 ・演習記録用紙は、演習の進行に合わせて提出を求める事がある。 ・授業終了後、全ての記録用紙を提出する。		

授業科目名	看護研究			単位	2 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	講義
開講年次	3 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者： 石田智恵美 科目担当者：福田和美 杉野浩幸 四戸智昭 小出昭太郎				
授業概要	看護師が科学的な実践を行っていくうえで、その基盤となる知識を形成する看護研究は非常に重要である。この科目では、将来学生が、実践者として研究から見出された知識を正しく理解し臨床で活用できる能力を身に付けることをねらいとする。また、看護の事象を科学的に捉え分析するための基礎知識として、看護研究における様々な研究方法についても学ぶ。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	看護研究の意義と基本的な研究方法について理解できる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	研究論文の意図を解釈するとともに批判的に読解することができる。		
		(DP 4)	グループワークを通して自己の考えを他者に説明することができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能					
テキスト	配布テキスト（実験研究）				
参考図書・教材等	よくわかる看護研究の進め方・まとめ方 第2 版、横山美江、医歯薬出版（実験研究）				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				30			70	100
知識・理解	(DP 2)			15			20	35
思考・判断・表現	(DP 3)			15			30	45
	(DP 4)						20	20
備考								
レポート：授業内レポート								
その他：課題レポート 50% グループワークへの参加度 20%								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している

- B 履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
- C 到達目標を達成している
- D 到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	研究・看護研究とは 研究倫理 (石田智恵美)	○研究とは 研究の目的 分類 概要 ○論文の目的 構成 論文を書く ○研究倫理 スライドと資料を基に、講義形式で進める。	事前学習：看護研究について既知の事柄について整理しておく。(DP2) 事後学習：研究の目的と意義について整理する。(DP2)	事前学習 60 分 事後学習 60 分
2	論理的思考① (石田智恵美)	○文章を論理的に読む 物語を論理的に読む ○文章を論理的に書く 書くことのメカニズムを体験する。 資料を基に、個人ワークで進める	事前学習：自己の文章の読み方の傾向について整理しておく。(DP3) 事後学習：論理的に読む・書くことに関する自己の課題を考察する。(DP3)	事前学習 60 分 事後学習 60 分
3	論理的思考② (石田智恵美)	○文章を論理的に書く リレー作文を通して、文章のつながりと整合性について体験的に学習する。 個人ワークおよびグループワークで進める。	事後学習：文章の論理的なつながりについて整理し、自己の課題を考察する。(DP3)	事後学習 90 分
4	文献検討 (石田智恵美)	○文献を読み解く 資料を基に、研究の意図を理解し批判的に読み解く。講義および個人ワークで進める。	事前学習：配布資料を読んでおく。(DP3) 事後学習：文献を読み解く際に気付いた事柄について整理する。(DP3)	事前学習 60 分 事後学習 60 分
5	統計的研究-1、統計的研究概論 (小出昭太郎)	講義 配布資料を用いて、統計的研究の目的、調査の流れ、統計ソフトの使い方について講義する。	事前学習：統計学についてこれまでに各自が学習した内容を復習すること。学習したのが高校までだけであれば、それを復習すること。高校での学習の復習については後日連絡します。 事後学習：配布資料を見直すなどして復習を行い、理解を確実なものにすること。特に2変数間の関連について復習すること。	事前学習 180 分 事後学習 30 分
6	統計的研究-2、統計的分析方法 (小出昭太郎)	講義 配布資料を用いて、統計的分析方法の選び方の概要、基本的な統計的分析方法について講義する。	事後学習：配布資料を見直すなどして復習を行い、理解を確実なものにすること。特に相関係数とクロス集計について復習すること。	事後学習 30 分
7	統計的研究-3、統計的推測、統計の実験 (小出昭太郎)	講義 配布資料を用いて、統計的推測、統計の実験について講義する。	事後学習：配布資料を見直すなどして復習を行い、理解を確実なものにすること。特に検定の考え方について復習すること。	事後学習 30 分

8	質的研究とは① ・質的研究の特徴 ・質的研究における研究課題と方法論についての概説 (福田和美)	1.講義 ・質的研究の定義、特徴、留意点について説明を行う。 ・研究課題の設定と質的研究手法（グラウンデッドセオリー、現象学、ナラティブ研究、事例研究など）について説明を行う。	事前学習 ・看護研究および文献検討についての復習。(DP2、3) 事後学習 ・様々な質的研究手法の特徴についての復習。(DP2)	事前学習 45分 事後学習 45分
9	質的研究とは② ・質的研究におけるデータ収集と分析 ・質的研究の質の確保 (福田和美)	1. 講義 ・質的研究におけるデータ収集と分析方法および質の確保について説明を行う。 2. グループワーク ・疑似データを用いて質的に分析を行い、質的分析を体験する。	事前学習 ・質的研究を行った文献を精読する。(DP3) 事後学習 ・グループでデータ分析を行い、カテゴリーを抽出する。(DP3)	事前学習 45分 事後学習 45分
10	実験研究-1、実験テーマと研究倫理について (杉野浩幸)	講義 自作テキストを配布し、実験研究と他の研究方法との相違、テーマの設定方法、倫理的配慮について解説を行う。	事前学習：質的データ、量的データ、パラメトリック、ノンパラメトリック、カテゴリカルデータ、名義尺度、順序尺度等、統計学的分析について復習しておくこと。(DP2) 事後学習：テキストを再度読み返し不明点を再確認し、人を対象とする研究を実施する場合の研究倫理規程について再確認しておくこと。(DP2)	事前学習 45分 事後学習 45分
11	実験研究-2、実験準備、予備実験、実例について (杉野浩幸)	講義 自作テキストを配布し、実験条件の統制、コントロール実験の意義、予備実験の必要性、卒業論文レベルでの実例をもとに解説を行う。	事前学習：ポジティブコントロール、ネガティブコントロールについてその意味と必要性について調査しテキストの該当部分について予習しておくこと。(DP2) 事後学習：テキストを再度読み返し不明点を再確認し、コントロール実験および予備実験の必要性について復習しておくこと。(DP2)	事前学習 45分 事後学習 45分
12	測定尺度-1、各種心理測定尺度を知る (四戸智昭)	講義 臨床で用いられる様々な心理測定尺度に回答し、集計し、心理傾向を測定する方法についてワークを通じて試みるとともに、それら心理測定尺度の意味や測定尺度で重要な要点について解説を行う。	事前学習：心理測定尺度について、どのような心理測定尺度があるのかについて、文献やインターネット情報を元に調べておくこと。(DP2) 事後学習：講義で学習した内容についてノートを作成する。特に、心理測定尺度を利用する際に必要なポイント（測定概念、信頼性、妥当性）について復習すること。(DP2)	事前学習 30分 事後学習 45分

13	心理測定尺度-2、心理測定尺度の開発と構成概念について (四戸智昭)	講義とグループワーク 心理測定尺度の開発や、心理測定尺度を用いる際に必要な因子分析や構成概念について解説を行う。また、自分で作成した構成概念について、グループワークによって他者に説明する。(DP4)	事前学習：構成概念についての仮説を立てる。測ろうとする概念を自分の言葉で説明し、その概念がいくつかの構成要素から構成されるのかについて仮説をたてレポートにまとめる。(DP2) 事後学習：講義で学習した内容についてノートを作成する。自分が卒業研究で学びたいテーマについてどのような心理測定尺度があるかについて調べる。(DP2)	事前学習 60 分 事後学習 45 分
14	アクションリサーチ (石田智恵美)	○アクションリサーチとは（定義など） ○アクションリサーチの進め方 スライドおよび資料を基に、発問と応答の系列で進める。	事前学習：アクションリサーチについて調べ学習をしておく。(DP2) 事後学習：アクションリサーチの概要を整理する。(DP2)	事前学習 60 分 事後学習 60 分
15	アクションリサーチ 研究のまとめ (石田智恵美)	○事例を読み解く 資料を基に、発問と応答の系列で進める。	事前学習：配布資料を読んでおく。(DP3) 事後学習：研究の目的・方法・進め方・書き方について整理する。(DP2)	事前学習 60 分 事後学習 60 分
備考	課題レポート：各自で興味・関心のある文献を1つ選択し、文献を読み解く。20 時間 ・焦点を絞りテーマをつける ・表紙には、テーマ・学籍番号・氏名を明記する。 ・提出期限および方法は授業の中で説明する。			

授業科目名	基礎看護学実習Ⅰ Fundamental Nursing Practice Ⅰ			単位	1 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	実習
開講年次	1 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：永嶋由理子 科目担当者：洲野由夏・加藤法子・藤野靖博・於久比呂美・宮崎千尋・増満 誠・塩田 昇・清水夏子・松山美幸・清原智佳子				
授業概要	実習を通して「人間」「環境」「健康」「看護」の実際について知り、看護への理解を深めることができる。また、その過程で看護について関心を高め、主体的な学習態度を身につけることができる。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	「人間」「環境」「健康」「看護」の実際について知ることができる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	対象となる人々に対して看護はどのような役割と機能を果たす必要があるのか考えることができる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	看護への興味・関心を持ち、学習への積極的態度を示すことができる。		
	技能	(DP10)	基礎的なコミュニケーション技術を使って対象と接することができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	基礎看護学概論で学んだことについて理解しておく。				
テキスト	必要な参考文献や資料等は、その都度紹介する。				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他 (実習への取り組み)	合計
総合評価割合				60			40	100
知識・理解	(DP 2)			35				35
思考・判断・表現	(DP 3)			25				25
関心・意欲・態度	(DP 5)						35	35
技能	(DP10)						5	5
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。 実習を通して「人間」「環境」「健康」「看護」の実際について知り、看護への理解を深め、その内容を考察し、実習記録にまとめことができる。また、その過程で看護について関心を高め、フィールド実習での積極的な質問や対象者とのコミュニケーションなどを通して主体的な学習態度を身につけることができる。
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。 実習を通して「人間」「環境」「健康」「看護」の実際について知り、看護への理解を深め、その内容が実習記録・まとめに書かれている。また、その過程で看護について関心を高め、フィールド実習での質問や対象者とのコミュニケーションなどを通して主体的な学習態度を養うことができる。
成績評価の基準 ルーブリック	

S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

日	授業内容（担当教員）	授業の進め方
1 ～ 5	詳細については、基礎看護学実習Ⅰ要項を参照 1. 実習期間は1週間とし、一斉実習を行う。 2. 実習時間：8：30～16：30 (実習開始時間は、施設によって異なる) 3. 実習施設は保健・医療活動に関わる各種施設で行う。 4. 実習方法は見学実習を中心として行う。	1. オリエンテーション 1) 全体オリエンテーション ・実習目的と目標について ・実習方法について ・実習記録と評価について ・実習中の諸注意について 2) 施設別オリエンテーション ・交通手段について ・集合場所と時間について ・服装、持ち物について ・施設での諸注意につて 2. フィールド実習 それぞれの施設で見学実習を中心に実習を行う ・施設の概要について説明を受ける ・指導者から指導を受けながら実習を行う ・カンファレンスにおいて、実習で学んだことを共有し、疑問ティンについて解決する ・実習で学んだことを整理し、記録する
備考	・実習は科目担当教員が指導にあたる。	

授業科目名	基礎看護学実習Ⅱ Fundamental Nursing Practice Ⅱ			単位	2 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	実習
開講年次	2 年次	開講時期	通年		
担当教員	科目責任者：永嶋由理子 科目担当者：瀧野由夏・加藤法子・藤野靖博・於久比呂美・宮崎千尋・増満誠・塩田昇・清水夏子・清原智佳子				
授業概要	受け持ち患者に対する理解を深め、患者の看護の必要性をニードの視点から見出す。さらに、患者のニード充足のために既習得技術を活用して看護援助を実践できる基礎的能力を身につける。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	・看護を展開する方法について理解することができる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	・患者の全体像について、理論を活用し適切に把握することができる。 ・患者のニード充足・不足についてアセスメントすることができる。 ・受け持ち患者に必要な看護援助を見出すことができる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	・他者に対する深い思いと関心をもち、よりよい人間関係を構築するための態度を示すことができる。		
	技能	(DP10)	・受け持ち患者に必要な看護援助について、日常生活援助を中心に実施することができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	生体機能看護学Ⅰ・Ⅱ、病態看護学Ⅰ・Ⅱ、基礎看護技術論、フィジカルアセスメント論、看護過程で学んだことについて理解しておく。				
テキスト	・基礎看護学実習Ⅱ実習要項				
参考図書・教材等	・茂野香おる他『基礎看護技術Ⅰ』、医学書院、2015 年、2,600 円（税別） ・任和子他『基礎看護技術Ⅱ』、医学書院、2017 年、2,900 円（税別） ・マージョリー・ゴードン著、江川隆子監訳『ゴードン博士の看護診断アセスメント指針』、照林社、2006 年、2,600 円（税別）				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他 (実習への取り組み)	合計
総合評価割合				50			50	100
知識・理解	(DP2)			25				25
思考・判断・表現	(DP3)			25				25
関心・意欲・態度	(DP5)						25	25
技能	(DP10)						25	25
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。 主体的に学修を進め、受け持ち患者に対する看護の必要性やニードを充足するための看護援助を見出し、受け持ち患者に積極的に看護援助を実践することができる。

到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
指導・助言を受けながら学修を進めることで、受け持ち患者に対する看護の必要性やニーズを充足するための看護援助の抽出、ならびに看護援助の実践ができる。	
成績評価の基準	ルーブリック
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

日	授業内容（担当教員）	授業の進め方
1 10	1. 実習期間：2019 年 9 月～10 月のうち、10 日間 2. 実習時間：8：30～16：30 * 開始時間は実習施設により異なる場合がある。 3. 実習内容 1) 学生 5～6 名で編成されたグループ毎に病棟実習を行う。 2) 各学生は 1 人の患者を受け持ち、看護を展開する（授業の進め方参照）。 3) 実習最終日に病院毎に全体発表会を行う。 * 詳細については、基礎看護学実習Ⅱ実習要項を参照	1. 受け持ち患者を理解するために必要な学習を行う。 2. 臨床指導者の立ち合いのもとに、受け持ち患者に実習の説明を行い、同意を得る（同意書への署名）。 3. 患者や家族、病棟の記録物等から患者を把握するための情報を看護の視点から収集し、記録する。 4. 収集した情報から充足できていないニーズを見出し、必要な看護援助と留意点について記録する。 5. その日の実習計画を、臨床指導者・受け持ち看護師・担当教員（以下、指導者とする）に提示し、指導を受けてから実習を行う。なお、患者への看護ケアは指導者の指導のもと実施する。 6. カンファレンスを行う。 7. 実習計画の評価および看護援助の一場面の振り返りについて記録する。 8. 実習発表会にて、実習での学びをグループ毎に発表する。
備考	・各グループに 1 名の科目担当教員が実習指導にあたる。	

授業科目名	成人看護学概論 Introduction to Adult Nursing			単位	1 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	講義
開講年次	2 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者： 福田和美 科目担当者：古庄夏香				
授業概要	成人各期の身体的機能の特徴、成人期の社会および生活状況からの特徴、役割をホリスティックに理解する。成人期にある個人とその家族を対象とし、成人期の健康の特徴や起こりやすい健康の危機的状況をふまえ、成人期の健康の保持・強化、疾病予防について理解を深め、健康を支援していくための援助について学ぶ。				
到達目標	知識・理解	(DP 1)	ライフサイクルにおける成人期の位置づけと特徴について説明できる		
		(DP 2)	成人期にある人々の理解やケアを行ううえでの必要な概念や理論が説明できる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	様々な健康レベルの成人期にある人々への看護を考えることができる。		
		(DP 4)	グループワークを通して自己の意見を他者に伝えることができる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	主体的に学習を進めることができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	生態機能看護学Ⅰ・Ⅱ、基礎看護学概論を履修していること				
テキスト	・成人看護学 成人看護学概論 改訂第2版, 南江堂.				
参考図書・教材等	・ナースンググラフィカ『成人看護学－成人看護学概論』, メディカ出版. ・ナースンググラフィカ『成人看護学②健康危機状況/セルフケアの再獲得』, メディカ出版. ・ナースンググラフィカ『成人看護学④セルフマネジメント』, メディカ出版. ・ナースンググラフィカ『成人看護学⑤リハビリテーション看護』, メディカ出版.				
実務経験を生かした授業	臨床経験5年以上で成人看護学領域での実務経験のある教員が講義を担当する。授業のテーマに沿った患者の事例を提示し、授業を進めるため臨床をイメージしながら学ぶことができる。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70		30				100
知識・理解	(DP 1)	20						20
	(DP 2)	30		10				40
思考・判断・表現	(DP 3)	20		20				40
関心・意欲・態度	(DP 5)							
	(DP 6)							
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
S 評価レベル：成人各期の特徴を理解し、成人期の人々の理解やケアを行う上で必要な理論について説明できる。主体的に様々な健康レベルにある対象者を理解し、各健康レベルに応じた看護を根拠にもとづいて説明できる。 A 評価レベル：成人各期の特徴を理解し、成人期の人々の理解やケアを行う上で必要な理論について説明できる。様々な健康レベルにある対象者を理解し、各健康レベルに応じた必要な看護について説明できる。 B 評価レベル：成人各期の特徴を理解し、成人期の人々の理解やケアを行う上で必要な視点について説明できる。様々な健康レベルにある対象者を理解し、各健康レベルに応じた必要な看護について説明できる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
C 評価レベル：成人各期の特徴を理解し、成人期の人々の理解やケアを行う上で必要な視点について説明できる。様々な健康レベルにある対象者を理解し、必要な看護について説明できる。	

成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	ガイダンス 成人期の特徴、成人を取り巻く状況 (福田和美)	1.講義 ・授業のすすめかたについて説明する。 ・成人期の特徴については心身の機能の変化を中心に成人各期の特徴を説明する。 人期を取り巻く環境については家族、就労、ライフスタイルなどが国の統計的データを用い、発問しながら授業を行う。	事前学習 ・テキストの該当箇所の精読 (DP1,5) 事後学習 ・授業内容に関連した課題レポート (DP1)	事前学習 90分 事後学習 90分
2	成人期にある人の健康 (福田和美)	1. 講義 ・健康の定義、成人保健の動向について説明する。 2. グループワーク ・成人保健の動向から成人期の健康と健康課題について検討する。 3. 講義 ・ヘルスプロモーションの観点から成人期の健康の保持・増進、疾病予防に向けた看護について説明する。	事前学習 ・テキストの該当箇所の精読 (DP1,5) 事後学習 ・授業内容に関連した課題レポート (DP1)	事前学習 90分 事後学習 90分
3	成人期にある人の看護するために必要な概念① エンパワメント、ストレス-コーピング理論、危機理論 (福田和美)	1. 講義 ・各理論について説明する。 2. グループワーク ・身近な事例を提示し、ストレス-コーピング理論を用いて成人期にある対象の状況を検討し、発表する。 3. まとめ ・グループワークの発表内容をもとに授業内容のまとめを行う。	事前学習 ・テキストの該当箇所の精読 (DP2,5) 事後学習 ・授業内容に関連した課題レポート (DP2)	事前学習 90分 事後学習 90分
4	成人期にある人の看護するために必要な概念② セルフケア理論、成人学習理論、家族看護 (古庄夏香)	1. 講義 ・各理論について説明する 2. グループワーク ・事例を提示し、セルフケア理論を用いて成人期にある対象への支援についてグループ内で検討し、発表する。 3. まとめ	事前学習 ・テキストの該当箇所の精読 (DP2,5) 事後学習 ・授業内容に関連した課題レポート (DP2)	事前学習 90分 事後学習 90分

		・グループワークの発表内容をもとに授業内容のまとめを行う。		
5	健康レベルに応じた看護 ①急性状態にある人の看護・生体侵襲 (福田和美)	1. 講義 ・急性期の特徴、看護の場の特徴について説明する。 ・生体侵襲についてムーアの分類および生体メカニズムについて説明する。 2. グループワーク ・急性期にある対象者の事例を提示し、侵襲時の生体メカニズムをもとにディスカッションを行い、発表する。 3. まとめ グループワークの発表内容をもとに授業内容のまとめを行う。	事前学習 ・テキストの該当箇所の精読(DP3,5) 事後学習 ・授業内容に関連した課題レポート(DP3)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
6	健康レベルに応じた看護 ②慢性的な経過をたどる人の看護 病みの軌跡理論、アドヒアランス、セルフマネジメントなど (古庄夏香)	1. 講義 ・慢性期の特徴、慢性疾患における医療の動向とその対策について説明する。 ・慢性疾患を有する人の特徴と患者理解のための概念について説明する。 ・セルフマネジメントに必要なアドヒアランスについて説明する。 2. グループワーク ・慢性期にある対象者の事例を提示し、グループでディスカッションを行い、発表する。 3. まとめ グループワークの発表内容をもとに授業内容のまとめを行う。	事前学習 ・テキストの該当箇所の精読(DP2,5) 事後学習 ・授業内容に関連した課題レポート(DP3)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
7	健康レベルに応じた看護 ③生活機能障害を有する人(リハビリ)への看護 (福田和美)	1. 講義 ・リハビリテーション看護に必要な概念と患者の特徴について説明する。 2. グループワーク ・リハビリテーションを行う患者の事例を提示し、グループでディスカッションを行い、ICFの枠組みを用いて対象者の全体像を捉える。 3. まとめ ・グループワークの発表内容をもとに授業内容のまとめを行う。	事前学習 ・テキストの該当箇所の精読(DP3,5) 事後学習 ・授業内容に関連した課題レポート(DP3)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
8	健康レベルに応じた看護 ④終末期を迎える人への看護、まとめ	1. 講義 ・終末期看護についての概要を説明し、終末期看護に関するDVDを視聴する。	事前学習 ・テキストの該当箇所の精読(DP3,5)	事前学習 90 分 事後学習

	(福田和美)	2. グループワーク ・視聴した DVD の内容をベースに終末期を迎える人に対する看護師の役割についてディスカッションを行い、発表する。 3. まとめ ・成人看護学概論の総括を行う。	事後学習 ・授業内容に関連した課題レポート (DP3)	90 分
備考				

授業科目名	成人急性看護学 Adult Nursing for Patients with Acute Illnesses			単位	2 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	講義
開講年次	2 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：福田和美 科目担当者：古庄夏香、中井裕子、政時和美、村田和子				
授業概要	成人期の特徴をふまえ、健康障がい急性期にある対象者の看護について学ぶ。特に周手術期の看護を中心に、侵襲からの回復過程と回復を促すケアについて学ぶ。また、対象者を取り巻く家族、重要他者を含めた心理的、社会的支援について学ぶ。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	既習の専門科目の内容をもとに急性期看護に必要な知識を習得することができる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	・急性期にある対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理・社会的側面への影響について述べられる ・急性期にある対象者および家族に必要な看護ケアについて根拠を示して述べられる		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	・自主的に学習を進めることができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	病態機能看護学Ⅰ・Ⅱ、生体機能看護学Ⅰ・Ⅱ、成人看護学概論を履修していること				
テキスト	・成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周術期看護，南江堂. ・成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護，南江堂. ・成人看護学 成人看護技術，南江堂.				
参考図書・教材等	・系統看護学講座成人看護学 シリーズ、医学書院.				
実務経験を生かした授業	急性期看護の実務経験のある教員が各専門領域の単元を担当し、臨床に即したより専門性の高い看護を学ぶことができる。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		7 0		3 0				1 0 0
知識・理解	(DP 1)	3 0		1 0				4 0
思考・判断・表現	(DP 3)	4 0		1 0				5 0
関心・意欲・態度	(DP 5)			1 0				1 0
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
S 評価レベル：急性期看護について自主的に学習し、対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理、社会的側面への影響について手術侵襲や回復過程をふまえて説明できる。また、対象者や家族への個別性のある看護について 根拠に基づき説明できる。	
A 評価レベル：急性期看護について自主的に学習し、対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理、社会的側面への影響について説明できる。また、対象者や家族への個別性のある看護について 根拠に基づき説明できる。	
B 評価レベル：急性期看護について学習し、対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理、社会的側面への影響について説明できる。また、対象者や家族への個別性のある看護について説明できる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
C 評価レベル：急性期看護について学習し、対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理、社会的側面への影響について説明できる。また、対象者や家族への看護について説明できる。	

成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	急性期にある患者・家族の看護 周手術期(1) 手術前の看護 (福田)	1. 講義 ・ ガイダンスにて授業の進め方を説明する。 ・ 成人看護概論で習得した侵襲による生体反応を復習しながら、手術や麻酔による患者の身体的変化について説明する。 ・ 手術前に必要な看護について説明を行う。 2. グループワーク ・ 手術を受ける患者の事例を提示し、事例患者に必要な看護について検討する。	事前学習 ・ 成人看護学概論で学んだ侵襲による生体反応の復習 (DP2) 事後学習 ・ 授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） (DP3)	事前課題 45 分 事後課題 45 分
2	急性期にある患者・家族の看護 周手術期(2) 手術中の看護 (特別講師)	1. 講義 ・ JCHO 九州病院手術室認定看護師による「手術を受ける患者の術中看護」について講義を行う。手術室の環境や特殊性、看護師の専門性を中心にスライドや実際の動画を用いて授業をすすめる。	事前学習 ・ 教科書の指定ページの精読 (DP2,3) 事後学習 ・ 授業内容に関連した課題（レポート） (DP3)	事前課題 45 分 事後課題 45 分
3	急性期にある患者・家族の看護 周手術期(3) 手術後の看護 (福田)	1. グループワーク ・ 手術を受けた事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する。 2. 講義 ・ 1のグループワークで出された問題を全身麻酔による手術後に生じる術後合併症について発症メカニズムとともに必要な看護について説明を行う。 3. グループワーク ・ 手術を受けた患者の事例について、講義内容をふまえてアセスメントを行い、合併症予防に向けた看護について検討する。 アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	事前学習 ・ 教科書の指定ページの精読 ・ 事例患者の情報の精読 (DP2,3) 事後学習 ・ 授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） (DP3)	事前課題 45 分 事後課題 45 分

4	急性期にある患者・家族の看護 脳・神経機能障害 (福田)	1. グループワーク ・クモ膜下出血の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する。 2. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ、クモ膜下出血を発症した患者の術前、術後の看護について説明する。 3. グループワーク ・クモ膜下出血術後（クリッピング術）の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解：脳の解剖生理、クモ膜下出血の病態、検査、治療の復習（レポート） (DP2,3) 事後学習 ・授業内容に関連した課題 (DP3)	事前課題 45 分 事後課題 45 分
5	急性期にある患者・家族の看護 呼吸機能障害 (中井)	1. グループワーク ・肺がん事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する。 2. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ、肺がん患者の術前、術後の看護について説明する。 3. グループワーク ・胸腔鏡下肺切除術後の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解：肺の解剖生理、肺がんの病態、検査、治療の復習（レポート） (DP2,3) 事後学習 ・授業内容に関連した課題 (DP3)	事前課題 45 分 事後課題 45 分
6	急性期にある患者・家族の看護 循環機能障害 (村田)	1. グループワーク ・急性心筋梗塞の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する。 2. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ、急性心筋梗塞を発症した患者の術前、術後の看護について説明する。 3. グループワーク ・経皮冠動脈形成術（PCI）後の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセス	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解：心臓の解剖生理、急性心筋梗塞の病態、検査、治療の復習（レポート） (DP2,3) 事後学習 ・授業内容に関連した課題 (DP3)	事前課題 45 分 事後課題 45 分

		メントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。		
7	急性期にある患者・家族の看護 消化・吸収機能障害(1): 食道 (福田)	1. グループワーク 食道がんの事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する。 2. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ食道がん患者の術前、術後の看護について説明する。 3. グループワーク ・食道がん術後(食道切除再建術)の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解: 食道の解剖生理、食道がんの病態、検査、治療の復習(レポート) (DP2,3) 事後学習 ・授業内容に関連した課題(国試形式の問題の解答と解説) (DP3)	事前課題 45 分 事後課題 45 分
8	急性期にある患者・家族の看護 消化・吸収機能障害(2): 大腸 (政時)	1. グループワーク ・大腸がん(ストーマ造設術)の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する。 2. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ大腸がん患者(特にストーマ造設術)の検査、術前、術後の看護について説明する。 3. グループワーク ・大腸がん術後(ストーマ造設術)の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解: 大腸の解剖生理、大腸がんの病態、検査、治療の復習(レポート) (DP2,3) 事後学習 ・授業内容に関連した課題(国試形式の問題の解答と解説) (DP3)	事前課題 45 分 事後課題 45 分
9	急性期にある患者・家族の看護 消化・吸収機能障害(3): 肝・胆・膵 (中井)	1. グループワーク ・膵がん事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する。 2. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ、膵がんと胆石症の患者の術前、術後の看護について説明する。 3. グループワーク	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解: 膵臓および胆のうの解剖生理、すい臓がんの病態、検査、治療の復習(レポート) (DP2,3) 事後学習 ・授業内容に関連した課題	事前課題 45 分 事後課題 45 分

		膵頭十二指腸切除術後の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	(DP2,3)	
10	急性期にある患者・家族の看護 腎・排尿機能障害 (古庄)	1. グループワーク 膀胱がんの事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する。 2. 講義 事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ膀胱がん患者の術前、術後の看護について説明する。 3. グループワーク 膀胱がん術後の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	前学習 - 教科書の指定ページの精読 - 事例患者の情報の精読 - 疾患の理解：膀胱の解剖生理、膀胱がんの病態、検査、治療の復習（レポート） (DP2,3) 事後学習 - 授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） (DP3)	事前課題 45 分 事後課題 45 分
11	急性期にある患者・家族の看護 性・生殖機能障害 (政時)	1. グループワーク 乳がん（乳房全摘手術・センチネルリンパ節郭清術）の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する。 2. 講義 事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ乳がん（乳房全摘手術・センチネルリンパ節郭清術）	事前学習 - 教科書の指定ページの精読 - 事例患者の情報の精読 - 疾患の理解：乳房の解剖生理、乳がんの病態、検査、治療の復習（レポート） (DP2,3)	事前課題 45 分 事後課題 45 分
		の検査、術前、術後の看護について説明する。また、子宮がんの疾患の理解や子宮がんの検査、術前、術後の看護について説明する。 3. グループワーク 乳がん術後（乳房全摘手術・センチネルリンパ節郭清術）の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	事後学習 授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） (DP3)	
12	急性期にある患者・家族の看護 喉頭機能障害 (福田)	1. グループワーク	事前学習 - 教科書の指定ページの精読 - 事例患者の情報の精読	事前課題 45 分 事後課題

		・喉頭がんの事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する。 2. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ咽頭がん患者の術前、術後の看護について説明する。 3. グループワーク ・喉頭がん術後の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	・疾患の理解：解剖、病態、治療の復習（レポート） (DP2,3) 事後学習 ・授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） (DP3)	45 分
13	急性期にある患者・家族の看護 運動機能障害（福田）	1. グループワーク ・変形性股関節症の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する 2. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ変形性股関節症患者の術前、術後の看護について説明する。 3. グループワーク ・変形性股関節症術後（人工関節全置換術）の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解：骨および関節の解剖生理、変形性股関節症の病態、検査、治療の復習（レポート） (DP2,3) 事後学習 ・授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） (DP3)	事前課題 45 分 事後課題 45 分
14	クリティカルケア（1） クリティカルケアの実際（特別講師）	1. 講義 ・済生会福岡総合病院集中治療認定看護師による「クリティカルケア」について講義を行う。クリティカルな場の特殊性やそこでの看護を中心にスライドや実際の写真を用いて授業をすすめる。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 (DP2,3) 事後学習 ・授業内容に関連した課題（レポート） (DP3)	事前課題 45 分 事後課題 45 分
15	クリティカルケア（2）外傷、熱中症、熱傷患者の看護（福田）	1・講義 ・外傷、熱中症、熱傷患者について事前学習の各疾患の病態をふまえ、アセスメント、看護について説明する。 2. グループワーク	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・外傷、熱中症、熱傷の病態、検査、治療の復習 (DP2,3)	事前課題 45 分 事後課題 45 分

		・ 外傷患者の事例を提示し、アセスメント、必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	事後学習 ・ 授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） (DP3)	
備考	本授業は成人慢性看護学の内容とリンクしてすすめる。			

授業科目名	成人慢性看護学 Adult Nursing for Patients with Chronic Illnesses			単位	2 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	講義
開講年次	2 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：福田和美 科目担当者：古庄夏香、中井裕子、政時和美、村田和子				
授業概要	成人期において慢性の健康障害や機能障害を有する対象およびその家族の特徴について理解し、その看護について学ぶ。終末期にある対象およびその家族の特徴について理解し、その看護について学ぶ。終末期の患者の家族への支援、チームアプローチ、倫理的問題について学ぶ。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	既習の専門科目の内容をもとに、慢性期看護に必要な知識を習得することができる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	・慢性期にある対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理・社会的側面への影響について述べられる。 ・慢性期にある対象者および家族に必要な看護ケアについて根拠を示して述べられる。 ・終末期にある患者および家族への支援と倫理的課題について述べられる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	・自主的に学習を進めることができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	病態機能看護学Ⅰ・Ⅱ、生体機能看護学Ⅰ・Ⅱ、成人看護学概論を履修していること				
テキスト	・成人看護学 慢性期 看護病気とともに生活する人を支える，南江堂. ・成人看護学 成人看護技術，南江堂.				
参考図書・教材等	・系統看護学講座成人看護学 シリーズ、医学書院.				
実務経験を生かした授業	慢性期看護の実務経験のある教員が各専門領域の単元を担当し、臨床に即したより専門性の高い看護を学ぶことができる。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合	試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	7 0		3 0				1 0 0
知識・理解 (DP 2)	3 0		1 0				4 0
思考・判断・表現 (DP 3)	4 0		1 0				5 0
関心・意欲・態度 (DP 5)			1 0				1 0
備考							

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
S 評価レベル：	慢性期看護について自主的に学習し、対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理、社会的側面への影響について疾病の経過をふまえて説明できる。また、対象者や家族への個別性のある看護について 根拠に基づき説明できる。さらに主体的学習を通して終末期看護について自己の考えを論理的に述べることができる。
A 評価レベル：	慢性期看護について自主的に学習し、対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理、社会的側面への影響について説明できる。また、対象者や家族への個別性のある看護について 根拠に基づき説明できる。さらに学習を通して終末期看護について自己の考えを論理的に述べることができる。
B 評価レベル：	慢性期看護について学習し、対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理、社会的側面への影響について説明できる。また、対象者や家族への個別性のある看護について説明できる。さらに学習を通して終末期看護について自己の考えを述べることができる。

到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
C 評価レベル：慢性期看護について学習し、対象者の健康問題と健康問題が及ぼす身体・心理、社会的側面への影響について説明できる。また、対象者や家族への看護について説明できる。さらに学習を通して終末期看護についての学びを述べるができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	慢性期にある患者・家族の看護 がん看護 (特別講師)	1. 講義 ガイダンスにて授業の進め方を説明する。 ・久留米大学認定看護師教育センターのがん看護認定看護師による「がん看護」に関する講義を行う。がん患者の特徴や治療とその看護を中心に説明を行う。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 (DP2) 事後学習 ・授業内容に関連した課題(レポート) (DP2,3)	事前課題 45 分 事後課題 45 分
2	慢性期にある患者・家族の看護 糖代謝機能障害（1） (古庄)	1. グループワーク ・糖尿病の事例患者の情報の中から問題と思われる箇所について検討し、発表する。 2. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ糖尿病患者の看護について説明する。 3. グループワーク ・糖尿病の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解：膵臓の解剖、糖尿病の病態、検査、治療の復習（レポート） (DP2) 事後学習 ・授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） (DP2,3)	事前課題 45 分 事後課題 45 分
3	慢性期にある患者・家族の看護 糖代謝機能障害（2） (特別講師)	1. 講義 ・九州大学病院栄養管理室長の経験のある栄養士による糖尿病患者栄養指導について講義を行う。また、糖尿病だけでなく、	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 (DP2) 事後学習	事前課題 45 分 事後課題 45 分

		消化器疾患や腎疾患など栄養管理の必要な患者の食事指導についても説明を行う。	・授業内容に関連した課題（レポート） （DP2,3）	
4	慢性期にある患者・家族の看護 脳機能障害 （福田）	1. グループワーク ・脳梗塞の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する 2. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ脳梗塞患者の看護について説明する。 3. グループワーク ・脳梗塞の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・疾患の理解：脳の解剖生理、脳梗塞の病態、検査、治療の復習（レポート） ・事例患者の情報の精読 （DP2） 事後学習 ・授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） （DP2,3）	事前課題 45 分 事後課題 45 分
5	慢性期にある患者・家族の看護 呼吸機能障害 （福田）	1. グループワーク ・慢性閉塞性肺疾患の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する 2. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ慢性閉塞性肺疾患患者の看護について説明する。 3. グループワーク ・慢性閉塞性肺疾患の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・疾患の理解：肺の解剖生理、慢性閉塞性肺疾患の病態、検査、治療の復習（レポート） ・事例患者の情報の精読 （DP2） 事後学習 ・授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） （DP2,3）	事前課題 45 分 事後課題 45 分
6	慢性期にある患者・家族の看護 循環機能障害 （村田）	1. グループワーク ・心不全の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する。 2. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ心不全患者の看護について説明する。 3. グループワーク ・心不全の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護につ	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・疾患の理解：心臓の解剖生理、体循環と肺循環、心不全の病態、検査、治療の復習（レポート） ・事例患者の情報の精読 （DP2） 事後学習 ・授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説）	事前課題 45 分 事後課題 45 分

		いて検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	(DP2,3)	
7	慢性期にある患者・家族の看護 消化・吸収機能障害① 大腸（福田）	1. グループワーク ・クローン病の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する 2. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえクローン病患者の看護について説明する。 3. グループワーク ・クローン病の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・疾患の理解：大腸の解剖生理、クローン病の病態、検査、治療の復習（レポート） ・事例患者の情報の精読（DP2） 事後学習 ・授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説）（DP2,3）	事前課題 45 分 事後課題 45 分
8	慢性期にある患者・家族の看護 消化・吸収機能障害② 膵（中井）	1. グループワーク ・膵炎の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する 2. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題を膵炎患者の看護について説明する。 3. グループワーク ・膵炎の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解：膵臓の解剖生理、膵炎の病態、検査、治療の復習（レポート）（DP2） 事後学習 ・授業内容に関連した課題（DP2,3）	事前課題 45 分 事後課題 45 分
9	慢性期にある患者・家族の看護 消化・吸収機能障害③ 肝（古庄）	1. グループワーク ・肝硬変の事例患者の情報の中から問題と思われる個所について検討し、発表する。 2. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ肝疾患病患者の看護について説明する。 3. グループワーク ・肝硬変の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解：肝臓の解剖生理、肝硬変の病態、検査、治療の復習（レポート）（DP2） 事後学習 ・授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説）（DP2,3）	事前課題 45 分 事後課題 45 分

		し、アセスメントの内容や視点の解説をする。		
10	慢性期にある患者・家族の看護 腎・排尿機能障害 (古庄)	1. グループワーク ・腎不全の事例患者の情報の中から問題と思われる個所について検討し、発表する。 4. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ腎不全患者の看護について説明する。 3. グループワーク ・腎不全の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の読 ・疾患の理解：腎臓の解剖生理、じん不全の病態、治療の復習（レポート）（DP2） 事後学習 ・授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説）（DP2,3）	事前課題 45 分 事後課題 45 分
11	慢性期にある患者・家族の看護 血液・造血機能障害 (中井)	1. グループワーク ・急性骨髄性白血病の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する。 2. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ造血器腫瘍患者の看護について説明する。 3. グループワーク ・急性骨髄性白血病の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解：血液の機能と造血のしくみ、造血器腫瘍（主に急性白血病）の病態、検査、治療の復習（レポート）（DP2） 事後学習 ・授業内容に関連した課題（DP2,3）	事前課題 45 分 事後課題 45 分
12	慢性期にある患者・家族の看護 免疫機能障害 (古庄)	1. グループワーク ・全身性エリテマトーデス（SLE）の事例患者の情報の中から問題と思われる個所について検討し、発表する。 2. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ免疫機能に障害のある患者の看護について説明する。 3. グループワーク ・SLE の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護につい	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解：免疫機能、全身性エリテマトーデスの病態、検査、治療の復習（レポート）（DP2） 事後学習 ・授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説）（DP2,3）	事前課題 45 分 事後課題 45 分

		て検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。		
13	慢性期にある患者・家族の看護 内分泌機能障害（政時）	1. グループワーク ・甲状腺機能亢進症の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する 2. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ甲状腺機能障害（亢進症・低下症）患者の看護について説明する。 3. グループワーク ・甲状腺機能亢進症の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解：甲状腺の解剖生理、甲状腺機能亢進症および甲状腺機能低下症の病態、検査、治療の復習（レポート） （DP2） 事後学習 ・授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） （DP2,3）	事前課題 45 分 事後課題 45 分
14	慢性期にある患者・家族の看護 神経機能障害（福田）	1. グループワーク ・筋委縮性側索硬化症（ALS）の事例患者の情報の中から問題だと思われる個所について検討し、発表する 2. 講義 ・事前課題の疾患の理解や1のグループワークで出された問題をふまえ筋委縮性側索硬化症患者の看護について説明する。 3. グループワーク ・筋委縮性側索硬化症の事例患者について、講義内容をふまえてアセスメントと必要な看護について検討する。アセスメントの例を提示し、アセスメントの内容や視点の解説をする。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・疾患の理解：運動神経機能、筋委縮性側索硬化症の病態、検査、治療の復習（レポート） （DP2） 事後学習 ・授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） （DP2,3）	事前課題 45 分 事後課題 45 分
15	終末期看護と倫理的課題（古庄）	1. 講義 ・終末期看護の対象となる人および家族の特徴と療養の場、行われている医療・看護について説明する。 ・終末期にある人のアドバンス・ケア・プランニング（ACP: Advance Care Planning）について説明する。 2. グループワーク ・終末期にある人の事例について、講義内容をふまえ必要な看護と看護師の役割について検討する。	事前学習 ・教科書の指定ページの精読 ・事例患者の情報の精読 ・終末期にある患者の身体的特徴、心理・社会的な特徴について（レポート） （DP2） 事後学習 ・授業内容に関連した課題（国試形式の問題の解答と解説） （DP2,3）	事前課題 45 分 事後課題 45 分

備考	本授業は成人急性看護学の内容とリンクしてすすめる

授業科目名	成人看護学演習Ⅰ Practicum in Adult NursingⅠ			単位	1 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	講義
開講年次	3 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：福田和美 科目担当者：古庄夏香、中井裕子、政時和美、村田和子				
授業概要	成人期にある対象者の疾患や治療の状況を把握しながら、病態に応じた看護過程の展開を学ぶ。また、基礎看護学で学んだ看護技術を対象者の看護の状況に合わせて選択するための根拠と評価のポイントを学ぶ。				
到達目標	知識・理解	(DP2)	基礎看護学で習得した看護過程の知識を用いて、適切に紙上事例の情報を収集・整理できる。		
	思考・判断・表現	(DP3)	整理した情報を専門的に解釈し、用語を用いて分析、統合し、紙上事例の看護上の問題および目標を記述できる。		
		(DP4)	用語を正しく用いて看護計画を立案し、説明および記述できる。		
	関心・意欲・態度	(DP5)	グループメンバーと良好な関係性を築き、主体的に学習を進めることができる。		
	技能	(DP10)	立案した看護計画に沿って事例患者の看護援助を安全安楽に留意し、実践・評価することができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	人体の構造と機能、病態、成人看護学概論、成人急性看護学、成人慢性看護学、基礎看護学での学修内容				
テキスト	・アセスメント覚え書 ゴードン機能的健康パターンと看護診断，医学書院。 ・NANDA-I 看護診断 定義と分類 原書 第11 版，2018-2020。 ・野崎真奈美他：成人看護学 成人看護技術，南江堂				
参考図書・教材等	・ゴードン博士の看護アセスメント指針，照林社。 ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学（1）～（11），医学書院。 ・系統看護学講座 別巻 10 緩和ケア，医学書院。				
実務経験を生かした授業	看護師としての実務経験を有する教員が、急性期および慢性期にある対象者の看護の展開について教授する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				70			30	100
知識・理解	(DP2)			30				30
思考・判断・表現	(DP3)			30				30
	(DP4)			10				10
関心・意欲・態度	(DP5)						10	10
技能	(DP10)						20	20
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
・S評価レベル：疾患に罹患したことによる身体・精神の機能の変化を踏まえ、情報を整理し、適切な理論を用いて全人的にアセスメントを行った結果から看護上の問題を明確にし、個別性を考慮した看護目標の設定、看護計画の立案ができる。また、立案した計画を、安全安楽に個別性を反映して実施し、評価・修正することができる。 ・A評価レベル：疾患に罹患したことによる身体・精神の機能の変化を踏まえ、情報を整理し、理論を用いて全人的にアセスメントを行った結果から看護上の問題を明確にし、個別性を考慮した看護目標の設定、看護計画の立案ができる。また、立案した計画を、安全安楽に個別性を反映して実施し、評価することができる。	

・ B 評価レベル：疾患に罹患したことによる身体・精神の機能の変化を踏まえ、情報を整理し、全人的にアセスメントを行った結果から看護上の問題を明確にし、個別性を考慮した看護目標の設定、看護計画の立案ができる。また、立案した計画を、安全安楽に実施し、評価することができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
・ C 評価レベル：情報を整理し、看護上の問題を明確にし、看護目標の設定、看護計画の立案ができる。また、立案した計画の一部を安全安楽に実施し、評価することができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	1.ガイダンス（福田） 2.看護過程について（古庄） 3.慢性期の看護過程の特徴（古庄） 4.急性期の看護過程の特徴（福田） 5. 急性期：消化機能障害のある患者の看護（胃がん）（中井）	1. 講義 ・成人看護学の看護過程に関するガイダンスで科目概要や評価方法について説明を行う。また看護過程の方法について説明を行い、復習とする。 ・慢性期・急性期それぞれの看護過程の特徴を説明する。（情報分類の視点、各パターンで用いる解剖生理・病態生理について例を示しながら解説を行う。 ・胃がんで手術を受ける患者の看護について、疾病の理解の確認、アセスメントの視点、看護について説明を行う。	事前学習： ・紙上事例の疾患（胃がん、糖尿病）の解剖生理、病態生理を復習し、理解を深める。 (DP2,3) 事後学習： ・グループワークでの内容を踏まえ、個人での紙上事例の情報を、再度分類する。 (DP2)	事前学習 30 分 事後学習 30 分
2	急性期の看護過程 1 情報整理（全員）	1. グループワーク ・急性期患者の紙上事例患者（胃がん）の情報をゴードンの 11 の健康機能パターンを基もとにまず身体的側面の情報整理を行い、次に心理的側面の情報整理を行う。		
3	急性期の看護過程 2 アセスメント（全員）	1. グループワーク ・前回の授業で行ったグループワークの内容および事前課題をもとに、11 の健康機能パターンの各パターンのアセスメントを、科学的根拠（解剖生理、病態生理）を明確にして進める。	事前課題 ・11 の健康機能パターンに整理した情報をパターンごとに科学的根拠に基づきアセスメントを行う。 (DP 3)	事前学習 30 分 事後学習 30 分
4	急性期の看護過程 3	1. グループワーク	事後課題 ・グループワークの内容をふまえ、	

	関連図・看護問題の明確化 (全員)	・各パターンのアセスメントを基に関連図を作成し、看護問題を導き出す。明確になった看護問題の優先順位を決める。	個人で、紙上事例関連図を作成する。 (DP3)	
5	急性期の看護過程 4 看護計画立案 (全員)	1. グループワーク ・明確になった看護問題に対して、長期目標、短期目標を設定し、紙上事例の個別性を反映した看護計画を立案する。看護計画は具体的に立案する。	事前課題 ・明確化した看護問題に対する目標と看護計画を各自で立案する。 (DP 3, 4)	事前学習 30 分 事後学習 30 分
6	急性期の看護過程 5 看護計画の実施・評価 術後の看護①観察 (全員)	1. グループワーク ・立案した看護計画のうち、術後の観察項目の内容、患者の状況に応じた観察方法についてグループ内で確認する。	事後課題 ・術後の観察項目の内容、観察方法の復習。 (DP 4)	
7	急性期の看護過程 6 看護計画の実施・評価 術後の看護①観察 (全員)	1. ベッドサイドでの技術演習 ・グループワークで確認した観察内容をもとに看護師役、患者役、観察者役を決めて術後 1 日目の観察を行う。 2. グループワーク ・終了後、グループ内およびグループ間で振り返りを行い、評価を行う。	事前課題 ・術後患者を想定したシミュレーターの観察を行い、情報収集した内容をアセスメントする。 (DP 2, 3) 事後課題	事前学習 30 分 事後学習 30 分
8	急性期の看護過程 7 看護計画の実施・評価 術後の看護②合併症予防 (全員)	1. グループワーク ・立案した看護計画のうち、術後合併症予防の内容、個別性のある看護援助方法についてグループ内で確認し、援助の手順を検討する。	・術後合併症予防の内容、個別性のある看護援助方法についての復習。 (DP 2, 3)	
9	急性期の看護過程 8 看護計画の実施・評価 術後の看護②合併症予防 (全員)	1. ベッドサイドでの技術演習 ・グループワークで確認した観察内容をもとに看護師役、患者役、観察者役を決めて術後 1 日目の観察を行う。 ・複数のグループがデモンストレーションを行い、合併症予防に向けた援助方法を共有する。 2. グループワーク ・終了後、グループ内およびグループ間で振り返りを行い、評価を行う。	事前課題 ・グループで検討した援助手順をもとに合併症予防に向けた援助の自己練習を行う。 (DP10)	事前学習 30 分 事後学習 30 分
10	慢性期の看護過程 1 情報整理 (全員) (全員)	1. グループワーク ・慢性期患者の紙上事例患者 (胃がん) の情報をゴードンの 11 の健康機能パターンをもとにまず身体的側面の情報整理を行い、次に心理的側面の情報整理を行う。	事後学習： ・援助の振り返りレポート (DP10) ・グループワークでの内容を踏まえ、個人での紙上事例の情報を、再度分類する。 (DP2)	

11	慢性期の看護過程 2 アセスメント (全員)	1. グループワーク ・前回の授業で行ったグループワークの内容をもとに、11 の健康機能パターンの各パターンのアセスメントを、科学的根拠（解剖生理、病態生理）を明確にして進める。	事前課題 ・ 11 の健康機能パターンに整理した情報をパターンごとに科学的根拠に基づきアセスメントを行う。 (DP3)	事前学習 30 分 事後学習 30 分
12	慢性期の看護過程 3 関連図・看護問題の明確化 (全員)	1. グループワーク ・各パターンのアセスメントを基に関連図を作成し、看護問題を導き出す。明確になった看護問題の優先順位を決める。	事後課題 ・ グループワークの内容をふまえ、個人で、紙上事例関連図を作成する。 (DP3)	
13	慢性期の看護過程 4 看護計画立案 (全員)	1. グループワーク ・明確になった看護問題に対して、長期目標、短期目標を設定し、紙上事例の個性を反映した看護計画を立案する。看護計画は具体的に立案する。	事前課題 ・ 明確化した看護問題に対する目標と看護計画を各自で立案し、事例患者に応じた生活指導に関するパンフレットの作成。(DP3,4)	事前学習 30 分 事後学習 30 分
14	慢性期の看護過程 5 看護計画の実施・評価 生活指導① (全員)	1. グループワーク ・立案した看護計画のうち、事前課題内容をグループ内で共有し、生活指導の内容、指導方法についてグループ内で確認する。 ・指導場面のシナリオを作成する。	事後課題 ・生活指導内容、方法の復習と作成したパンフレットの見直し。 (DP4)	
15	慢性期の看護過程 6 看護計画の実施・評価 生活指導② (全員)	1. ベッドサイドでの技術演習 ・グループ内で看護師、患者、家族、ナレーターの役割を決め、シナリオに沿って生活指導を行う。 2. グループワーク ・終了後、グループ内およびグループ間で振り返りを行い、評価を行う。	事前課題 ・グループでシナリオに沿って生活指導場面の練習を行う。(DP10) 事後課題 ・生活指導の振り返りレポート (DP10)	事前学習 15 分 事後学習 15 分
備考	・成人看護学演習Ⅱとリンクして演習をすすめる。			

授業科目名	成人看護学演習Ⅱ Practicum in Adult Nursing Ⅱ			単位	1 単位	
				授業コード		
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		授業方法	演習
開講年次	3 年次	開講時期	前期			
担当教員	科目責任者：福田和美 科目担当者：古庄夏香、中井裕子、政時和美、村田和子					
授業概要	基礎看護学で学んだ技術を用いて、成人期の看護の状況に応じた看護技術の実践を学ぶ。対象者の状態に即した看護技術の選択とその根拠を明確にしながらシミュレーションし、安全で安楽な実践方法について学ぶ。看護技術を実践する場合の対象者への倫理的配慮について学ぶ。					
到達目標	知識・理解	(DP 2)	既に学習した成人看護学と関連学問に関する知識を活用することができる。			
	思考・判断・表現	(DP 3)	事例患者の状況をアセスメントし、根拠に基づいた看護の方法を選択できる。			
		(DP 4)	グループメンバーに自己の考えを伝え、事例患者の看護に関してディスカッションができる。			
	関心・意欲・態度	(DP 5)	グループメンバーと協力して、主体的に演習を進めることができる。			
	技能	(DP10)	あらゆる健康レベルに応じた事例患者に対して、安全、安楽に基づいた看護技術を実施し、評価することができる。			
授業内容を理解するために必要な知識・技能	人体の構造と機能、病態、成人看護学概論、成人急性看護学、成人慢性看護学、基礎看護学での学修内容					
テキスト	・成人看護学 急性期看護Ⅰ 概論・周術期看護，南江堂. ・成人看護学 急性期看護Ⅱ 救急看護，南江堂. ・成人看護学 慢性期看護病気とともに生活する人を支える，南江堂. ・成人看護学 成人看護技術，南江堂.					
参考図書・教材等	・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学（1）～（11），医学書院.					
実務経験を生かした授業	看護師としての実務経験を有する教員が、急性期および慢性期にある対象者への看護について教授する。			授業中の撮影	無	

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		40		50			10	100
知識・理解	(DP 2)			20				20
思考・判断・表現	(DP 3)			20				20
	(DP 4)			10				10
関心・意欲・態度	(DP 5)						10	10
技能	(DP10)	40						40
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
・ S 評価レベル：紙上患者の状況について既習の知識を十分活用し、適切にアセスメントを行い、安全安楽に基づいた根拠ある看護援助を検討することができる。また、倫理的配慮を行いながら主体的に成人看護実践に必要な看護技術を習得することができる。 ・ A 評価レベル：紙上患者の状況について既習の知識を活用し、アセスメントを行い、安全安楽に基づいた根拠ある看護援助を検討することができる。また、倫理的配慮を行いながら成人看護実践に必要な看護技術を習得することができる。 ・ B 評価レベル：紙上患者の状況についてアセスメントを行い、安全安楽に基づいた看護援助を検討することができる。また、成人看護実践に必要な看護技術を習得することができる。	

到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
・ C 評価レベル：紙上患者の状況を捉え、成人看護実践に必要な基本的な看護技術を習得することができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	1. ガイダンス（福田） 2. 手術を受けた患者の看護 ：術後合併症予防に向けた看護 （全員）	1. 講義 ・成人看護学演習Ⅱに関するガイダンスで科目概要や評価方法について説明を行う。 2. グループワーク① ・事前課題をもとに紙上患者の状況から考えられる術後合併症と予防的な看護について検討する。 3. ベッドサイドでの技術演習 ・グループワークで検討した術後合併症予防に向けた看護を看護師役、患者役、観察者役を決めて実施し、評価する。 4. 発表 代表グループがデモンストレーションを行い、紙上患者の状況に応じた術後合併症予防に向けた看護を共有する。 5. グループワーク② ・本日の演習を振り返り、紙上患者の状況に応じた術後合併症予防に向けた看護のポイントをまとめる。	事前課題 ・紙上患者の状況から考えられる術後合併症とその予防についての学習（DP2） 事後課題 ・実践した内容と振り返りレポート（DP3,5）	事前学習 60 分 事後学習 60 分
2				

3	慢性疾患患者に対する教育的支援 自己血糖測定、インスリンの自己注射に向けた指導 (全員)	1. グループワーク① ・事前課題をもとに紙上患者の状況から考えられる自己血糖測定、インスリンの自己注射に向けた指導方法を検討する。 2. ベッドサイドでの技術演習 ・グループワークで検討した自己血糖測定、インスリンの自己注射に向けた指導を看護師役、患者役、観察者役を決めて実施し、評価する。 3. 発表 ・代表グループがデモンストレーションを行い、紙上患者の状況に応じた自己血糖測定、インスリンの自己注射に向けた指導方法を共有する。	事前課題 ・紙上患者の状況から考えられる自己血糖測定、インスリンの自己注射に向けた指導方法についての学習 (DP2) 事後課題 ・実践した内容と振り返りレポート (DP3,5)	事前学習 60分 事後学習 60分
4		4. グループワーク② ・本日の演習を振り返り、紙上患者の状況に応じた自己血糖測定、インスリンの自己注射に向けた指導方法のポイントをまとめる。		
5	療養中の患者の急変時の対応 (全員)	1. 講義/動画視聴 ・療養中の患者の急変時のケアの概要を説明する。 ・療養中の患者が急変した事例の動画を視聴する(救命処置前まで)。 ・シミュレーター、バグバルブマスクの使用方法について説明を行う。 2. グループワーク ・DVD 視聴後の患者の急変時の対応について事前課題をもとにグループで検討する。救命の手順を作成する。 3. ベッドサイドでの技術演習 ・グループワークで検討した患者の急変時の対応について作成した手順をもとに看護師役、患者役、観察者役を決めて実施し、評価する。 4. 発表 ・代表グループがデモンストレーションを行い、患者の急変時の対応を共有する。	事前課題 ・一次救命、二次救命のアルゴリズムについての学習 (DP2) 事後課題 ・実践した内容と振り返りレポート (DP3,5)	事前学習 60分 事後学習 60分
6				

7	技術試験 (全員)	1. 講義 ・技術試験の方法について説明を行う。	事前課題 成人看護学演習Ⅱで修得した技術の 復習 (DP3,10)	事前学習 60分 事後学習 60分
8		2. 技術試験 ・グループ別に指定された技術試験を受ける（詳細は試験前に伝える。） 3. 講評 ・技術試験の状況を踏まえ、講評を行う。 グループを担当した教員が講評を行う。	事後課題 技術試験の振り返り (DP10)	
備考	成人看護学演習Ⅰとリンクして授業を進める。			

授業科目名	成人急性看護学実習 Clinical Nursing Practicum in Adult Nursing for Patients with Acute Illnesses			単位	3 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	実習
開講年次	3～4 年次	開講時期	通年		
担当教員	福田和美、古庄夏香、中井裕子、政時和美、村田和子、笹山万紗代、大場美緒、山口馨子				
授業概要	健康障害や機能障害を持ちながら生活している人をホリスティックに理解し、対象者及びその家族が直面している健康問題とその援助方法を具体的に学び、実践するための基本的な能力を身につける。特に急性期においては、急性期にある対象者の特徴を理解し、対象者の生命力の消耗を最小限にして、生命維持・健康回復を促すための援助を身につける。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	治療によって対象者に起こった身体的・心理的・社会的影響や回復の過程について説明できる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	対象者のデータを専門的に解釈し、看護計画の立案・実施・評価を行うことができる。		
		(DP 4)	用語を正しく使用し、自己の学びをレポートに記述し指導者への報告ができる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	目標達成のために積極的に質問や学習を行い、実習終了後には新たな課題を明確にできる。		
		(DP 6)	看護倫理に基づき保健医療チームの一員としての看護の技能と役割を説明し、自分の看護観を述べられる。		
	技能	(DP10)	対象者の看護計画に沿った適切な看護援助を根拠をもとに選択または実施できる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	人体の構造と機能、病態、基礎看護技術、看護過程、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱなど、既習の知識・技術・態度を確実に身につけて実習に臨むことが前提であり、さらに成人看護学概論、成人急性看護学、成人慢性看護学、成人看護学演習Ⅰ・Ⅱで学んだ看護や看護技術が必要となる。				
テキスト	・系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論, 医学書院. ・成人看護学 成人看護技術, 南江堂.				
参考図書・教材等	・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学 (1) ～ (11) , 医学書院. ・NANDA-1 時看護診断 定義と分類, 医学書院. そのほか既習科目のすべてのテキスト				
実務経験を生かした授業	看護師としての実務経験を有する教員が、急性疾患を有する対象者への看護について教授する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				60	20		20	100
知識・理解	(DP 2)			10	5			15
思考・判断・表現	(DP 3)			40	15			55
	(DP 4)			5				5
関心・意欲・態度	(DP 5)			5				5
	(DP 6)							
技能	(DP10)						20	20
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
・ S 評価レベル：主体的に学修を進めることができ、教員や実習指導者からのごくわずかな助言・指導があれば実習要項の行動目標を達成できる。既習の知識・技術・理論などを用いて急性疾患による健康障害や機能障害を有する対象者（家族）を理解し、対象者の生命維持・健康回復を促すための援助ができる。 ・ A 評価レベル：必要時に教員や実習指導者に助言・指導を受け、実習要項の行動目標を達成できる。既習の知識・技	

術・理論などを用いて急性疾患による健康障害や機能障害を有する対象者（家族）を理解し、対象者の生命維持・健康回復を促すための援助ができる。 ・ B 評価レベル：教員や実習指導者の助言・指導を受けながら実習要項の行動目標を達成できる。既習の知識・技術・理論などを用いて急性疾患による健康障害や機能障害を有する対象者（家族）を理解し、対象者の生命維持・健康回復を促すための援助ができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
・ C 評価レベル：常時、教員や実習指導者の助言・指導を受け実習要項の行動目標を達成できる。既習の知識・技術などを用いて急性疾患による健康障害や機能障害を有する対象者（家族）を理解し、対象者の生命維持・健康回復を促すための援助ができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

日	授業内容（担当教員）	授業の進め方
15	詳細については、成人急性看護学実習要項を参照 1.実習期間：3 年次後期～4 年次前期 2.実習時間：臨地実習 8：30～16:30 (15:30～16:30 記録の整理) 学内実習 8：50～17:00 3.実習内容： <第 1 週> 月曜日：実習オリエンテーション（臨地にて） 病棟オリエンテーション、受持ち患者情報提示 火曜日～金曜日：臨地実習（受け持ち患者の看護展開） ※受け持ち患者の計画発表 <第 2 週> 月曜日・火曜日：臨地実習（受け持ち患者の看護展開） ※受け持ち患者の計画発表 水曜日：学内実習 看護計画の立案 木曜日・金曜日：臨地実習（受け持ち患者の看護展開） 看護計画の実施・評価 <第 3 週> 月曜日～水曜日：臨地実習（受け持ち患者の看護展開） 最終カンファレンス 木曜日・金曜日：学内実習（実習の振り返り、個人面接、	臨地実習 ・毎朝、臨床実習指導者および教員に対して行動計画の発表を行い、1 日のスケジュールの調整を行う。 ・対象者に対するケアについては、臨床実習指導者の指導の下で実施する。 ・計画実施や、計画以外のケアが必要と判断された場合には、必ず実施前に教員もしくは臨床実習指導者に報告・相談する。 ・実習記録に関しては、毎日、教員の指導を受ける。 ・受け持ち患者の状況により、計画の追加・修正が必要となった場合は、教員や実習指導者からの指導をもとに、計画の修正を行う。 ・毎日の記録は実習終了までに記載し、指導者に提出する。

	記録の整理、学びの共有) ※受け持ち患者の看護計画の発表は、受け持ち患者の手術日より異なる。原則術後 1 日目の看護を行い、看護計画を立案する。 ※実習期間中にクリティカルケア実習を行う。 ICU と救急外来において、各 1 日（または半日）の見学実習を行う。実習施設や実習グループにより日程・実習内容が異なるため、詳細は成人急性看護学実習要項やオリエンテーションで確認する。 (全員)
備考	

授業科目名	成人慢性看護学実習 Clinical Nursing Practicum in Adult Nursing for Patients with Chronic Illnesses			単位	3 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	実習
開講年次	3～4 年次	開講時期	通年		
担当教員	福田和美、古庄夏香、中井裕子、政時和美、村田和子、大場美緒、山口馨子				
授業概要	慢性疾患による健康障害や機能障害を持ちながら、長期にわたってコントロールしながら生活している成人をホリスティック（全人的）に理解し、対象およびその家族の生活の質（QOL）の維持・向上を支援する看護を身に付ける。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	慢性疾患や障がいを持ちながら生活する対象者（家族）の特徴、治療に伴う身体影響を述べられる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	対象者（家族）の健康問題を明確にし、論理的に看護計画の立案、実施、評価ができる。		
		(DP 4)	保健医療チームの一員としての看護の役割、自己の看護観・課題を述べられる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	対象者（家族）への看護を通じて、疑問や興味関心をもってさらに学びを深めることができる。		
	技能	(DP10)	適切な看護技術により生活の質の維持・向上を支援する看護のスキルを身に付けることができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	人体の構造と機能、病態、基礎看護技術、看護過程、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱなど、既習の知識・技術・態度を確実に身に付けて実習に臨むことが前提であり、さらに成人看護学概論、成人急性看護学、成人慢性看護学、成人看護学演習Ⅰ・Ⅱで学んだ看護や看護技術が必要となる。				
テキスト	・成人看護学 慢性期看護 病気とともに生活する人を支える， 南江堂. ・成人看護学 成人看護技術， 南江堂.				
参考図書・教材等	・系統看護学講座 別巻 10 緩和ケア，医学書院. ・系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学（1）～（11），医学書院 ・NANDA-1 時看護診断 定義と分類，医学書院. その他既習科目のすべてのテキスト				
実務経験を生かした授業	看護師としての実務経験を有する教員が、慢性疾患を有する対象者および終末期にある対象者への看護について教授する。			授業中の撮影	×

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				60	20		20	100
知識・理解	(DP 2)			10	5			15
思考・判断・表現	(DP 3)			40	15			55
	(DP 4)			5				5
関心・意欲・態度	(DP 5)			5				5
技能	(DP10)						20	20
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
・ S 評価レベル：主体的に学修を進めることができ、教員や実習指導者からのごくわずかな助言・指導があれば実習要項の行動目標を達成できる。既習の知識・技術・理論などを用いて慢性疾患による健康障害や機能障害を有する対象者（家族）を理解し、対象者（家族）の QOL 向上のための個別性を踏まえた目標を達成することができる支援ができる。	

・ A 評価レベル：必要時に教員や実習指導者に助言・指導を受け、実習要項の行動目標を達成できる。既習の知識・技術・理論などを用いて慢性疾患による健康障害や機能障害を有する対象者（家族）を理解し、対象者（家族）の QOL 向上のための個別性を踏まえた目標を達成することができる支援ができる。 ・ B 評価レベル：教員や実習指導者の助言・指導を受けながら実習要項の行動目標を達成できる。既習の知識・技術・理論などを用いて慢性疾患による健康障害や機能障害を有する対象者（家族）を理解し、対象者（家族）の個別性を踏まえた目標を達成することができる支援ができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
・ C 評価レベル：常時、教員や実習指導者の助言・指導を受け実習要項の行動目標を達成できる。既習の知識・技術などを用いて慢性疾患による健康障害や機能障害を有する対象者（家族）を理解し、対象者（家族）の支援ができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

日	授業内容（担当教員）	授業の進め方
1 月 15	詳細については、成人慢性看護学実習要項を参照 1.実習期間：3 年次後期～4 年次前期 2.実習時間：臨地実習 8:30～16:30 (15：30～16：30 記録の整理) 学内実習 8:50～17:00 3.実習内容： <第 1 週> 月曜日：オリエンテーション（臨地にて） 火曜日：健康管理センター見学実習 水曜日：緩和ケア病棟見学実習 木曜日：病棟オリエンテーション 受け持ち患者情報提示 金曜日：受け持ち患者の看護展開 <第 2 週> 月曜日～金曜日：受け持ち患者の看護展開（水曜日は学内実習） 看護計画立案発表、計画実施・評価 <第 3 週> 月曜日～水曜日臨地実習 最終カンファレンス、まとめ発表	臨地実習 ・ 毎朝、実習指導者に対して行動計画の発表を行い、1 日のスケジュールの調整を行う。 ・ 対象者に対するケアについては、臨床指導者の指導の下、実習を行う。 ・ 計画実施や、計画以外のケアが必要と判断された場合には、必ず実施前に教員もしくは実習指導者に報告・相談する。 ・ 実習記録に関しては、毎日、教員の指導を受ける。 ・ 受け持ち患者の状況により、計画の追加・修正が必要となった場合は、教員や実習指導者からの指導をもとに、計画の修正を行う。 ・ 毎日の記録は実習終了までに記載し、指導者に提出する。

	木、金曜日：学内実習（実習の振り返り、個人面接、記録の整理） (全員)	
備考		

授業科目名	老年看護学概論			単位	1 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	講義
開講年次	2 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：榎 直美 科目担当者：榎 直美・江上史子・廣瀬理絵				
授業概要	老年期にある人とその家族を多角的に捉え、特徴の理解を深め、健康生活を目指した看護の基礎的知識を学ぶ。また、社会の動向と老年看護の歴史を学び、倫理的側面から老年看護の果たす役割と課題について考察する。地域で生活する高齢者との対話から、生き方、健康生活を送る上での工夫、家族への思い、余暇の過ごし方、生活環境と暮らしぶりから、全人的に理解し、老年期にある人と若者が自ら健康的に老いることについて考察する。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	老年期にある人とその家族の全人的（身体的、心理・精神的、霊的、社会的側面）にとらえ特徴を述べることができる 老年期にある人とその家族の健康の概念を述べることができる 老年期にある人とその家族は、一生を通じて成熟する存在であることを説明できる 社会の動向と老年看護の歴史を述べることができる		
	思考・判断・表現	(DP 4)	老年期にある人とその家族の尊厳ある生活を送るための支援について述べる 老年期にある人と若者が自ら健康的に老いることについて気づき、述べる ことができる		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	老年期にある人との関わりを振り返り、自己の傾向に気づく		
		(DP 6)	高齢者に倫理的態度で接することができる		
授業内容を理解するために必要な知識・技能					
テキスト	・老年看護学概論「老いを生きる」を支えるとは 南江堂				
参考図書・教材等	・その他必要に応じて配布資料				
実務経験を生かした授業	看護師として実務経験を有する教員が、老年期にある対象者とその家族への看護援助を教授する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		60		20	10		10	100
知識・理解	(DP 2)	60		10				70
思考・判断・表現	(DP 4)			10	10			20
関心・意欲・態度	(DP 5)						5	5
	(DP 6)						5	5
備考: レポートには事前事後学習内容を含む。発表は授業中での個人、またはグループでの発表のことである。								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
老年期にある人とその家族を多角的に捉え、特徴の理解を深めることができ、十分に自らの考えを記述し言語化できる。（総合評価割合で 90%以上得点する）	
到達目標	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を

(C 評価レベル)	必要としている段階です。
老年期にある人とその家族を身体的、精神的、社会的側面より捉え、特徴を理解し、助言、指導により考えを記述し言語化できる。（総合評価割合で 60%以上得点する）	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	オリエンテーション：授業の進め方と評価方法 ・老いをかたちづくるもの ・老年期の理解 (樫)	“老い”をどうとらえるかについて学生への発問により、それぞれの意見を述べる。またその意見にたいして自己の考えを述べる。 講義内容 ①老いと文化 ②老いのとりまく社会環境 ③老いの意味	事前学習：高齢者へのインタビューを事前に行う。そこから“老い”を年齢以外に何をもってとらえるのか、考えておく。 事後学習：他者の意見交換の中で老いのイメージととらえ方についてレポートする。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
2	老年期にある人の理解① 高齢者の身体的特徴と生活への影響 高齢者疑似体験：見る・聴く・触れる、認識する・動く (樫・江上・廣瀬)	高齢者疑似体験装具を用いて、高齢者体験を行う。 ・屋内、屋外の歩行 ・立つ、座る ・階段昇降 ・エレベーターの利用 ・トイレの利用 ・スプーンやお箸を用いる ・字や絵を描く ・細かな作業を行う ・触れてみる ・会話をする ・風景を見る	事前学習：高齢者へのインタビューを事前に行う。そこから高齢者の身体的特徴を整理する。 事後学習：高齢者体験を通して「高齢者の身体的特徴」についてワークシートを完成させ提出する。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
3				
4	老年期にある人の理解② 高齢者のからだを理解する ・生理的老化とその特徴 ・身体的機能評価 (樫)	高齢者のインタビューと高齢者体験から得られた内容から「高齢者の身体的特徴について発表する 講義内容 ①高齢者の生理的老化とメカニズムについて ②高齢者の身体機能における相互関連について	事前学習：高齢者の身体的特徴より加齢による生理的老化について考える。その際に用いられる身体的機能評価尺度についてテキストを基に調べてノートに整理しておく。 事後学習：高齢者の身体的特徴と課題についてレポートする。	事前学習 90 分 事後学習 90 分

		③高齢者のからだの把握方法について		
5	老年期にある人の理解③ 高齢者の心を理解する ・高齢者の心の状態に影響する要因 ・高齢者の心を理解する方法 (棟)	高齢者のインタビューより「高齢者の心についてグループワークを行い、その特徴や違いを発表する。 講義内容 ①高齢者の心の状態に影響する要因について ②高齢者の心を理解する方法について	事前学習：高齢者へのインタビューを事前に行う。そこから高齢者の心理・精神的特徴、霊的特徴を整理しておく。 事後学習：高齢者の心理・精神的特徴、霊的特徴と課題についてレポートする。	事前学習 90分 事後学習 90分
6	老年期にある人の理解④ 高齢者の社会的特徴と生活への影響 高齢者の立場からかわられること、高齢者にかかわることの意味、影響を理解する (棟)	高齢者のインタビューより「高齢者の立場からのかかわりーかわられることの意味についてグループワークを行い発表する。 講義内容 ①高齢者の関わりの特徴について ②高齢者の関わりをとらえるための方法について	事前学習：高齢者へのインタビューを事前に行う。そこから高齢者の社会的特徴を整理しておく。 事後学習：高齢者の社会的特徴と課題についてレポートする。	事前学習 90分 事後学習 90分
7	高齢者の暮らしを理解する ・高齢者の世帯構成 ・高齢者の就業 ・高齢者の経済状況 ・暮らしの多様化 (棟・江上・廣瀬)	高齢者のインタビューより「高齢者の暮らしについてグループワークを行い、その特徴や課題を発表する。 講義内容 ①高齢者の暮らしの特徴について ②高齢者の暮らしをアセスメントし、把握する方法について	事前学習：高齢者へのインタビューを事前に行う。そこから高齢者の暮らしに着目する意義について考える。 事後学習：高齢者の暮らしの現状と課題についてレポートする。	事前学習 90分 事後学習 90分
8	高齢者における健康とは 高齢者を理解するためのコミュニケーション力とは (棟)	講義内容 ①高齢者における健康の捉え方 ②高齢者の健康をアセスメントし、把握するための方法について ③多職種による高齢者の健康支援のための評価方法について ④高齢者を理解するためのコミュニケーションスキル	事前学習：高齢者における健康を多角的に捉えるための視点について整理しておく。 事後学習：高齢者における健康についてレポートする。	事前学習 90分 事後学習 90分
備考	初回の講義まえに身近な高齢者へのインタビュー方法について説明を行う。 初回の講義では授業の進め方やレポート提出について説明を行う。			

授業科目名	老年看護学			単位	2 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	講義
開講年次	2 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：榎 直美 科目担当者：榎 直美・江上史子・廣瀬理絵				
授業概要	老年期の心身機能の加齢変化に伴う疾病の特徴を理解し、健康障がいをもつ対象の健康課題をとらえるための基礎的知識を学ぶ。さらに老年期にある人とその家族の課題解決にむけての看護ケアの方法について考察する。また保健・医療・福祉の制度を通して健康支援システムの理解および多職種との連携における看護の役割と機能を学ぶ。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	・老年期の加齢によって生じる心身機能症状が日常生活に及ぼす影響について理解している。 ・老年期の主な疾患や健康障がいについて知識を理解している。 ・保健・医療・福祉チームにおける多職種の専門性を尊重し、超高齢社会における老年看護の役割と機能について理解している。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	・健康障がいをもった老年期にある人の健康課題をとらえ、老年期にある人とその家族支援について看護援助を考察し、述べることができる		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	人体の解剖・生理学、病態， 加齢による身体的・精神的変化について学修しておくこと				
テキスト	・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院				
参考図書・教材等	・老年看護学概論「老いを生きる」を支えるとは 南江堂 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 ・その他必要に応じて配布資料				
実務経験を生かした授業	看護師として実務経験を有する教員が、老年期にある対象者とその家族への看護援助を教授する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合	試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	70	20	10				100
知識・理解 (DP 2)	60	20					80
思考・判断・表現 (DP 3)	10		10				20
備考							

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
老年期の心身機能の加齢変化に伴う疾病の特徴とそれに伴う健康障がいについて十分に理解できる。また老年期にある人とその家族の課題解決にむけて多職種連携の在り方や必要な制度について十分理解ができる。（定期試験、小テストで 90%以上得点する。）	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
老年期の心身機能の加齢変化に伴う疾病の特徴とそれに伴う健康障がいについて理解できる。また老年期にある人とその家族の課題解決にむけて多職種連携の在り方や必要な制度について理解ができる。（定期試験、小テストで 60%以上得点する。）	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している

- B 履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
- C 到達目標を達成している
- D 到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	高齢者の健康生活とアセスメント (櫟)	老年看護概論を想起させ、ヘルスアセスメントの基本としての枠組みについて、Lawton の活動能力の図を用いて生活機能の評価について概説する。高齢者における健康の定義を ICF の概念、高齢者総合機能評価（CGA）を活用した、多角的評価におけるヘルスアセスメントの重要性について理解を深めていく。	事前学習：老年看護概論を想起し、加齢による身体的、精神的、社会的変化の特徴について十分理解しておく。 高齢者における健康の考え方についてテキスト第 4 章高齢者のヘルスアセスメントを熟読し、アセスメントの方法を整理しておく。 事後学習：講義で配布された資料も活用して、高齢者のヘルスアセスメントの際に活用する枠組みや、概念の意義について自己学習ノートに整理し、高齢者における健康の定義についてレポートする。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
2	認知症高齢者の病態、診断、治療 (江上)	認知症の特徴を客観的、主観的両側面から学ぶ。 講義内容 ①動向と制度 ②診断基準、原因疾患、中核症状とBPSD ③原因疾患に対する薬物療法	事前学習：テキスト「老年看護学概論 老いを生きるを支えることとは」p 259～271、「老年看護 病態・疾患論」p 135～149 を読む。 事後学習：認知症の代表的な疾患を 1 つ選択し、病態や特徴的な症状などを整理し、レポートする。	事前学習 90 分 事後学習 90 分事後
3	認知症高齢者の看護 (江上)	加齢と認知症の症状による心身や生活への影響を考え、認知症高齢者の体験世界をイメージし、それに合わせた看護を考える。 講義内容 ①認知症高齢者のアセスメント方法 ②主要な原因疾患と看護 ③アプローチ方法、療法について	事前学習：テキスト「老年看護学概論 老いを生きるを支えることとは」p 273～282 を読む。 事後学習：認知症高齢者の体験世界について、中核症状と、それが心身や生活にどのように影響するか、必要な看護は何かを考えレポートする。	事前学習 90 分 事後学習 90 分事前
4	①高齢者の生活機能障がいと看護 ・加齢による摂食・嚥下機能の変化	まず高齢者における食生活の意義について学生への発問により、考えを述べる 講義内容として	事前学習：嚥下のメカニズム及び老年期の特徴的な疾患である脳血管疾患、肺炎についての基礎知識を学修しておく。栄養アセスメントの方法	事前学習 90 分 事後学習

	・老年病による摂食嚥下障害と栄養障害 ・食生活への支援 (棟)	①加齢による摂食・嚥下機能の変化について ②老年病として、脳血管疾患、肺炎、認知症、廃用症候群、薬物の影響による摂食・嚥下障害、栄養障害について ③食生活のアセスメントの方法 ④食生活への看護援助について ⑤高齢者の脱水予防について	について整理する。その上で高齢者における食生活の意義について考える。 事後学習：摂食・嚥下障害のある高齢者の食生活への看護援助について、食事前、食事中、食後のケアについてレポートする。	90 分
5	②高齢者の生活機能障がいと看護 排泄障害と看護援助 (尿失禁・便失禁、便秘・排尿・排便コントロールと排泄ケア) (棟)	高齢者に多い排泄の問題について学生への発問により、考えを述べる 講義内容 ①高齢者の排泄ケアの基本について ②排尿障害(頻尿、尿失禁)、排便障害(便失禁、便秘、下痢)とアセスメントの方法について ③排尿障害と排便障害の看護援助について ○講義前に小テストの実施	事前学習：排泄のメカニズムについて学修しておく。高齢者に多い排泄の問題について何があるのか、またその問題が生じているメカニズムを理解しておく。 事後学習：事例での排便困難のある高齢者のアセスメントと看護援助についてレポートする。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
6	③高齢者の生活機能障がいと看護 生活リズム(活動と睡眠・休息) (廣瀬)	高齢者の活動と休息のバランスについて学生への発問により、考えを述べる 講義内容 ①高齢者の生活リズムとは ②高齢者に特徴的な睡眠の変調 ③生活リズムのアセスメントについて ④生活リズムを整える看護援助について ○講義前に小テストの実施	事前学習：睡眠と覚醒のメカニズムについて理解しておく。また加齢が睡眠に及ぼす影響及び高齢者の睡眠の特徴について調べ、それが生活にどのような影響を及ぼすのかを考えておく。 事後学習：昼夜が逆転した高齢者、不眠の高齢者への看護援助についてレポートする。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
7	①身体疾患のある高齢者の看護 脳卒中を患う高齢者の看護 ・急性期の看護 ・回復期の看護 ・維持期の看護 ・リハビリテーション看護 (棟)	加齢による身体的変化と脳血管疾患の関連について学生への発問により、考えを述べる 講義内容 ①脳卒中後遺症；片麻痺、失語症、高次脳機能障害が高齢者の生活に及ぼす影響について ②障害受容のプロセス、理論を用いて高齢者の身体的、精神的、社会的、霊的側面からの看護援助の方法について ③回復期、維持期でのリハビリテーション看護の重要性と看護援助について ○講義前に小テストの実施	事前学習：脳血管疾患(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)の病態生理、症状、診断、治療についてノートに整理し十分に理解しておく。 事後学習：脳卒中後遺症；片麻痺、失語症、高次脳機能障害がある高齢者の生活の自立支援のための看護援助について整理しておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分

8	②身体疾患のある高齢者の看護 ・呼吸器系疾患（肺炎、慢性閉塞性肺疾患）をもつ高齢者の看護 ・循環器系疾患(心不全)をもつ高齢者の看護 (様)	加齢による身体的変化と肺炎、慢性閉塞性疾患及び心不全の関連について学生への発問により、考えを述べる 講義内容 ①視聴覚教材により高齢者の循環器系の変化について理解する。 ②呼吸器系疾患の肺炎、慢性閉塞性疾患が生活に及ぼす影響について事例を通して考え、看護援助につなげる ③心不全が生活に及ぼす影響について事例を通して考え、看護援助につなげる ○講義前に小テストの実施	事前学習：呼吸器系疾患（肺炎、慢性閉塞性肺疾患）、循環器系疾患(心不全)の病態生理、症状、診断、治療についてノートに整理し十分に理解しておく。 事後学習：慢性閉塞性疾患及び心不全がある高齢者の生活の自立支援のための看護援助について整理しておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
9	③身体疾患のある高齢者の看護 ・骨・筋肉の加齢変化と骨折 ・腰痛、関節痛 ・転倒予防 (様)	加齢による身体的変化と骨折、関節痛、筋力低下の関連について学生への発問により、考えを述べる 講義内容 ①加齢による骨、関節、筋肉への影響について ②腰痛、関節痛が生活に及ぼす影響について ③高齢者に多い転倒と骨折について ④大腿骨頸部骨折で手術を受けた高齢者の看護について	事前学習：骨代謝について理解しておく。大腿骨頸部骨折の病態生理、症状、診断、治療についてノートに整理し十分に理解しておく。 事後学習：慢性閉塞性疾患及び心不全がある高齢者の生活の自立支援のための看護援助について整理しておく。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
10	①高齢者の健康段階に応じた看護 高齢者の急性期看護 入院・検査・手術・薬物療法 (様)	高齢者の疾病の特徴について学生への発問により、考えを述べる 講義内容 ①検査を受ける高齢者の看護 ②加齢による薬物動態への影響について ③薬物動態薬物療法を受ける高齢者の看護 ④手術を受ける高齢者の看護 5 高齢者に起こりやすい合併症について；せん妄、呼吸器合併症	事前学習：薬物動態(吸収・分布・代謝・排泄)について理解しておく。術前・術後の看護援助について調べておく。 事後学習：高齢者の薬物療法における援助として服薬アドヒアランスを促進するための支援について考えをレポートする。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
11	高齢者の健康段階に応じた看護 寝たきり・廃用症候群の予防と看護援助 (様)	廃用症候群とはどのような症状があるのか、またなぜ高齢者が陥りやすいのかについて学生への発問により、考えを述べる 講義内容 ①寝たきりの定義と評価スケール、アセスメントツール(障害老人の日常生活自立度、FIM 等)活用について	事前学習：廃用症候群とはどのような症状があるのか、そのメカニズムについて理解しておく 事後学習：高齢者が長期安静臥床を強いられることで生じる、筋、骨格系、循環器系、呼吸器系、消化器系、泌尿器系、神経系、皮膚系について	事前学習 90 分 事後学習 90 分

		②高齢者の廃用症候群に陥りやすいメカニズムと症状について ③・廃用症候群を予防するための看護援助について ④褥瘡発生のメカニズムと予防について ○講義前に小テストの実施	整理する。	
12	高齢者をとり巻く保健・医療・福祉制度 (棟)	高齢者の生活を支えるための保健・医療・福祉制度について学生への発問により、考えを述べる 講義内容 ①日本が直面する高齢者問題について ②高齢者福祉制度の変遷 ③高齢者の医療に関する法律と制度について ④介護保険制度とその活用について ⑤認知症支援のための制度について	事前学習：高齢者の生活を支えるための保健・医療・福祉制度にどのようなものがあるのかを調べておく。 介護保険制度の仕組みについて理解しておく。 事後学習：高齢者の生活を支えるためのフォーマルサービス、インフォーマルサポートについて、居住地域を対象に調べレポートする。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
13	高齢者と家族の権利擁護と生活・療養を支える仕組み・ケアマネジメント (棟)	高齢者とその家族をサポートするためのケアマネジメントの視点について学生への発問により、考えを述べる 講義内容 ①高齢者虐待の特徴について ②権利擁護のための制度創設について ③多職種連携による学際的チームアプローチについて ④施設ケアプランの作成の視点について ○講義前に小テストの実施	事前学習：高齢者とその家族をサポートするためのケアマネジメントの視点について調べておく。 事後学習：事例を通して施設ケアマネジメントの手法に基づきケアプランを作成する。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
14	終末期看護と看取り支援 ・老いてなくなることについての理解 ・尊厳ある看取りにおける看護者の役割 ・高齢者を看取る家族に対する看護者の役割 (廣瀬)	終末期にある高齢者の特徴を理解し、尊厳ある看取りにむけて看護ケアの方法を考える。 講義内容 ①老いと死について ②高齢者の死亡の動向について ③終末期の概念について ④終末期医療と意思決定について ⑤尊厳ある看取りにおける看護師の役割について ⑥高齢者の家族への支援について	事前学習：人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインの概要について調べる。また、アドバンスケアについて調べる。 事後学習：あなたが考える高齢者のエンドオブライフについてレポートする。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
15	高齢者家族の特徴と家族支援 (棟)	家族介護者の介護適応のための看護支援について必要な視点を学生への発問	事前学習：家族介護者の状況についてニュースや新聞記事より事例を切	事前学習 90 分

		により、考えを述べる 講義内容 ①視聴覚教材により家族介護者の自己実現とはどういうことかについて考える ②新聞記事による家族介護者の苦悩と制度の限界について ③認知症を抱える家族介護者の苦悩と支援方法について	り抜き、その要因について考えておく。 事後学習：認知症高齢者を抱える家族介護者の支援において、多職種連携での看護職の役割についてレポートする。	事後学習 90 分
備考	第 1 回目の講義で、講義の流れ、事前事後学習方法及び提出方法については詳細を説明する。 提出物は e-ラーニングでの場合がある。期日を厳守すること。			

授業科目名	老年看護学演習Ⅰ			単位	1 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	演習
開講年次	3 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：榎 直美 科目担当者：榎 直美・江上史子・廣瀬理絵				
授業概要	老年期にある対象者とその家族をホリスティックな視点でとらえ、既習知識を活用して健康生活をアセスメントし健康課題を導き出す。また老年期に多い ADL 機能の低下や認知症高齢者などの事例を通して体験学習を行う。その体験を通して健康課題を解決できる看護実践方法を考察し、基礎的看護技術を学ぶ。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	老年期の主な症状について加齢変化や疾患と関連づけることができ、その症状が生活の質（QOL）に及ぼす影響について理解している。 認知症高齢者の理解を深めるための言語的・非言語的コミュニケーション方法について理解している。		
	思考・判断・表現	(DP 4)	健康障がいのある高齢者とその家族が望む生活を可能にするための看護援助について自らの考えを述べるができる。		
	関心・意欲・態度	(DP 6)	老年期にある対象の健康障がいの増悪を予防し、症状緩和のための看護実践方法を提案することができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	人体の解剖・生理学、病態、フィジカルアセスメント、基礎看護学、老年看護学の既習の知識が必要である。				
テキスト	・老年看護学技術―アセスメントのポイントとその根拠第 2 版；ヌーベルヒロカワ				
参考図書・教材等	・老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する 南江堂 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院				
実務経験を生かした授業	看護師として実務経験を有する教員が、老年期にある対象者とその家族への看護援助を教授する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合	試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	30		40	10		20	100
知識・理解 (DP 2)	10		20			5	35
思考・判断・表現 (DP 4)	10		10	5		5	30
関心・意欲・態度 (DP 6)	10		10	5		10	35
備考							

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
老年期にある対象者とその家族をホリスティックな視点でとらえ、既習知識を活用して健康生活をアセスメントし健康課題を導き出すことができ、課題解決に向けての看護実践方法が自ら提案できる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
老年期にある対象者とその家族をホリスティックな視点でとらえ、既習知識を活用して健康生活をアセスメントし健康課題を導き出すことができ、課題解決に向けての看護実践方法が助言を基に考え理解することができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している

- A 履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
- B 履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
- C 到達目標を達成している
- D 到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1 2	・科目のオリエンテーション (櫟・江上・廣瀬)	1. 講義 60 分 高齢者のヘルスアセスメントの視点について、高齢者の健康の定義について理解を深め、フィジカルアセスメントを用いて生活機能を評価する。 ・国際生活機能分類 ICF 及び高齢者総合機能評価 CGA の概念を用いたアセスメントの方法について概説する。 ・Lowton の階層モデルの 7 段階の 4 段階目の「身体的自立」の評価フィジカルアセスメントの活用について概説する。 2. グループワーク 120 分 Lowton の階層モデルの「身体的自立」の評価指標である ADL の枠組みで、高齢者のフィジカルアセスメントを整理し、ワークシートを作成する。	事前学習 ・加齢による身体機能の変化について既習の知識を基に、高齢者におけるフィジカルアセスメントについて整理しておく。 事後学習 ・グループで作成したワークシートを基に個人でのフィジカルアセスメントチェックリストを作成する。	事前学習 30 分 事後学習 30 分
3 4	・高齢者のフィジカルアセスメント ・フィジカルイグザミネーション (櫟・江上・廣瀬)	1. 技術演習 前回で作成したワークシートにそって、身体的自立＝ADL,IADL についてグループで看護師役と患者役となり、倫理的配慮のもと技術演習を行い、高齢者にとり安全かつ安楽な方法でのフィジカルイグザミネーションを身に付ける。 2. 発表 ロールプレイングを行い、グループ間でのディスカッションを行い、①技術方法②身体的自立の評価方法の 2 点についてまとめる。	事前学習 ・身体的自立の評価のためのフィジカルイグザミネーションについて、既習の内容を整理して身に付けておく 事後学習 ・グループ間でのディスカッションを基に個人での技術内容と、身体的自立評価方法について整理する。	事前学習 30 分 事後学習 30 分
5 6	安楽な体位・安全な移動・移送方法 ・ポジショニングについて ・全介助及び右片麻痺の高齢者の体位交換と安楽な体位保持について ・全介助及び右片麻痺の高齢	1. 講義 ・安楽なポジショニング、シーティングについて ・高齢者の転倒、転落の要因と予防について 2. 技術演習 グループで看護師役と患者役を担当し	事前学習 ・基礎的看護技術での体位変換、安楽な体位、車椅子の移動、移送の援助について身に付けておく。 ・脳梗塞の後遺症として、右片麻痺、高次脳機能障害を伴う患者の移動動作の援助について理解しておく。	事前学習 30 分 事後学習 30 分

	者の安全な車椅子移動と移送について (榎・江上・廣瀬)	て、以下の内容に沿って実践を行いワークシートを完成させる。 ①高齢者の動きの特徴を踏まえ、褥瘡を予防するための安全で安楽な移動方法とポジショニングについて考える。 ②高齢者の持てる力を活用した移動方法を実践できる。 ③高齢者の転倒・転落のリスクをアセスメントした安全な移動ができる。 ④ボディメカニクスを活用した看護援助を身に付けることができる。	・加齢による筋・骨格系の変化について理解しておく。 事後学習 ・グループで作成したワークシートをもとに、全介助及び片麻痺のある高齢者の転倒を予防した安全で安楽な援助技術の留意点とポイントを各自でまとめておく。	
7 8	排泄障害のある高齢者の援助 ・尿失禁のある高齢者の看護 ・便秘のある高齢者の看護 ・排便困難のある高齢者の看護 (榎・江上・廣瀬)	1. 講義 排泄障害のある高齢者の事例についての理解を深める 2. グループワーク ①尿便失禁のある高齢者の2つの事例について排尿・排便日誌を基にタイプを考慮したアセスメントを行う。 ②それぞれ目標と看護計画の立案 3. 技術演習 ・グループで必要物品の準備 ・看護師役と患者役に分かれ、プライバシーに配慮した安楽な排泄の援助を実践する。 ・尿便失禁予防についても実践を行う。 ・ワークシートを完成させる。	事前学習 ・基礎的看護技術での排尿、排便の援助について身に付けておく。 ・自身の排尿・排便チェックシートを記入し、排泄の課題について考える。 ・オムツ内排尿を試みて、高齢者の排泄の援助の意義を理解する。 ・加齢による排泄機能の変化について理解をしておく。 ・排尿・排便失禁の病態を理解しておく。 事後課題 ・グループで作成したワークシートをもとに、排尿・排便失禁のある高齢者の排泄の援助技術の留意点とポイントを各自でまとめておく。	事前学習 30分 事後学習 30分
9 10	嚥下障害のある高齢者への看護 (榎・江上・廣瀬)	1. 講義；特別講師(歯科医師) ・嚥下障害のある高齢者への看護 ・誤嚥予防のための口腔機能の向上について 2. 技術演習 ①機能的口腔ケアの実践 ・歯ブラシ、スポンジブラシでの刺激とマッサージ ・アイスマッサージ ・臥床状態での誤嚥予防について ・頸部聴診法の実際 ②誤嚥予防のポジショニング ・ベッドの傾斜による嚥下の違い	事前学習 ・基礎的看護技術での食事の援助について身に付けておく。 ・加齢による嚥下機能の変化について理解をしておく。 事後学習 ・グループで作成したワークシートをもとに、嚥下障害のある高齢者の誤嚥予防の援助技術の留意点とポイントを各自でまとめておく。	事前学習 30分 事後学習 30分

		・トロミによる嚥下の違い ③ワークシートの作成		
11 12	高齢者の整容への援助 フットケア (榎・江上・廣瀬)	1. 講義;特別講師(フットケア協会理事) ・高齢者の慢性疾患による下肢への影響 ・糖尿病とフットケア ・効果的な足浴について ・巻爪、陥入爪のケアの意義 2. 技術演習 ・高齢者に適した足浴の実践 ・爪の手入れ法	事前学習 ・基礎的看護技術での整容・清潔の援助について身に付けておく。 ・加齢による皮膚、爪の変化について理解をしておく。 事後学習 ・グループで作成したワークシートをもとに、高齢者の整容の援助技術およびフットケアの留意点とポイントを各自でまとめておく。 ・	事前学習 30分 事後学習 30分
13 14	技術テスト (榎・江上・廣瀬)	テスト ・指示された事例にそって、物品の準備、実践、後片付を行い評価を受ける	事前学習 ・第12回までの技術内容を身に付けておく。 ・各課題ごとのアセスメントの方法について理解しておく 事後学習 ・技術評価を基に、自己のアセスメント内容及び実践力について振り返りを行う。	事前学習 30分 事後学習 30分
15	まとめ (榎・江上・廣瀬)	技術テストのまとめ ・アセスメントについて ・安全・安楽なケアの選択について ・倫理的配慮に基づく高齢者の看護実践とは		
備考				

授業科目名	老年看護学演習Ⅱ			単位	1 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	演習
開講年次	3～4 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：榎 直美 科目担当者：榎 直美・江上史子・廣瀬理絵				
授業概要	老年看護に関する講義・演習・実習とこれまでの実習における経験の意味を探究し、自らの課題を見いだす。課題を解決するための計画を立案し、課題解決能力を養う。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	健康課題が、老年期にある人と家族にもたらす影響について理解する 健康課題をもつ老年期にある人と家族の生活史と加齢変化を発達の視点から理解できる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	老年期にある人と家族の個性性と強みを重視した関わりを、看護過程の展開を通して考え、方法が提案できる。		
		(DP 4)	健康障がいのある高齢者とその家族が望む生活を可能にするための看護援助について自らの考えを述べることができる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	実践を通し、看護者としてのあり方を考え、自らの課題を見出すことができる。さらに老年看護学実習Ⅱに臨むために、自らの課題解決への取組ができる。		
		(DP 6)			
	技能	(DP10)	提案した方法を用いて、実践した上で、評価し、提案した方法の修正と工夫をする		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	人体の解剖・生理学、病態、フィジカルアセスメント、基礎看護学、老年看護学、老年看護学実習Ⅰ、老年看護学演習Ⅰの既習の知識が必要である。				
テキスト	・老年看護学概論・老年看護学・老年看護学演習Ⅰで用いたテキスト				
参考図書・教材等	・老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する 南江堂 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院				
実務経験を生かした授業	看護師として実務経験を有する教員が、老年期にある対象者とその家族への看護援助を教授する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				50	10		40	100
知識・理解	(DP 2)			10			5	15
思考・判断・表現	(DP 3)			10			10	20
	(DP 4)			10	5		5	20
関心・意欲・態度	(DP 5)			10			5	15
	(DP 6)			10	5		10	25
技能	(DP10)						5	5
備考								
その他には演習態度、グループワーク参加が含まれる。								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
主体的な学修により既習の知識と関連付けた分析、解釈ができ、老年期を生きる人を全人的に捉えたアセスメントができる。また看護過程を通して老年看護実践の方法について具体的に提案でき、そのための技術習得のため計画的に取組むことができる。	

到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
必要な助言や指導を受け、老年期を生きる人を全人的に捉えたアセスメントの必要性が理解できる。また看護過程を通して老年看護実践の方法について考え、必要な技術習得のための助言を受けることができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1 2	・科目のオリエンテーション ・高齢者のヘルスアセスメント (樫・江上・廣瀬)	1. 講義 2. グループワーク ①高齢者のヘルスアセスメントを行うための意図的な情報収集について。 ②高齢者のフィジカルアセスメントについて Lowton の階層モデルの「身体的自立」の評価指標である ADL の枠組みで、高齢者のフィジカルアセスメントを整理し、ワークシートを作成する。 ③フィジカルイグザミネーションが実施できるための技術演習を行う。 ④会場設営を行い、役割担当を決める。	事前学習 ・演習Ⅰをもとに加齢による身体機能の変化について既習の知識を基に、高齢者におけるフィジカルアセスメントについて整理しておく。 事後学習 ・グループで作成したワークシートを基に個人での受け持ち高齢者のフィジカルアセスメントを学習ノートに整理する。 ・次回の紙上事例について情報をイメージマップに整理し既習の知識と関連付けて健康アセスメントを行う。健康課題解決のための看護計画を立案する。	事前学習 90分×4 事後学習 90分×4
3 4	・受け持ち高齢者のヘルスアセスメントの実践 (樫・江上・廣瀬)	1. 高齢者のヘルスアセスメントの実践 ①各担当教員から、各チームへ受け持ち高齢者の紹介。1チーム（2～3名）で高齢者1名を受け持ち、実際に意図的な情報収集を行う。 ②地域で生活する高齢者のヘルスアセスメントを適切な CGA の尺度を用いて行い健康課題を見出す。 ③グループで受け持ち高齢者の健康課題を解決するための看護計画を立案する。 ④今後の地域で暮らす生活者としての必要な健康支援について考察する。		
5 6	・紙上事例による高齢者のヘルスアセスメント、看護過程の展開 (樫・江上・廣瀬)	1. グループワーク ①担当の紙上事例について事前課題での個人のイメージマップをグループで共有する。追加修正を行う。	事前学習 ・紙上事例について情報を整理し既習の知識と関連付けて健康アセスメントを行う。健康課題解決のための	事前学習 90分×4

		②イメージマップを用いて健康アセスメントを行い看護計画用紙に記述する。 ③グループで優先順位を考え健康課題を抽出し、看護計画を立案する。 ④看護計画に沿って必要な技術演習を行う。担当教員より適宜助言をもらう。	看護計画を立案し、それに必要な技術について復習しておく。 事後学習 ・意見交換を基に各自で看護過程の追加・修正を行い紙上事例の全体像と健康アセスメント、看護計画、実施、評価について完成させる。	事後学習 90分×4
7 8	・看護計画に基づく、老年看護実践と評価 (櫟・江上・廣瀬)	1. ロールプレイの実施 ①グループで看護倫理を踏まえた看護実践方法を考慮して発表の準備を進める。 ②各グループのロールプレイについて意見交換をおこなう。さらにより良い看護実践に繋ぐために必要な内容を深める。		
備考	2日間にわたっての集中講義(演習)形式となる。			

授業科目名	老年看護学実習Ⅰ			単位	1 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	実習
開講年次	2 年次	開講時期	通年		
担当教員	科目責任者：榎 直美 科目担当者：榎 直美・江上史子・廣瀬理絵				
授業概要	老年期にある人の特徴を理解し、健康生活のサポート・システムを考える能力を養う。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	老年期にある人の身体的・精神的・社会的な特徴を知識と照らし合わせながら理解できる。 老年期にある人の保健医療福祉の法制度、サポート・システムの役割について理解できる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	看護倫理を踏まえた態度に関する課題を明確にできる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	専門職者としての看護倫理を踏まえた態度で接することができる。 グループメンバーと協力し合い、実習場に行き、臨床指導者の力をかりて、実習に臨むことができる。		
	技能	(DP 7)	老年期にある人との関わりを振り返り、自己の傾向に気づく。 認知症高齢者や地域で生活する高齢者と対話ができる。 実習場の職員に尋ねることができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	老年看護学概論における老年期にある人の身体的・精神的・社会的な特徴についての知識と、保健医療福祉の法制度についての知識が必要である。				
テキスト	水谷信子 他、最新老年看護学 第3版 2018 年版、日本看護協会出版会 国民衛生の動向				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業	担当教員、臨床指導者は、認知症を持つ高齢者や老年期に特有の保健医療福祉の法制度について実務経験があり、有資格者（看護師、介護福祉士、ケアマネジャーなど）で構成されている。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合	試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			50	30		20	100
知識・理解 (DP 2)			20	10			30
思考・判断・表現 (DP 3)			15				25
関心・意欲・態度 (DP 5)			10	10		10	25
技能 (DP 7)			5	10		10	20

備考：「レポート」の中に演習・実習記録、「その他」の中に演習・実習の態度を含む。

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
S 評価レベル：主体的に学修を進めることができ、教員や実習指導者からのごくわずかな助言・指導があれば実習要項の実習目標を達成できる。 実習での学びをグループで共有し、発表を通して他者に十分に伝えることができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
C 評価レベル：常時、教員や実習指導者の助言・指導を受け、実習要項の実習目標を達成できる。 実習での学びをグループで共有し、指導のもと他者に伝えることができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している

A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

日	授業内容（担当教員）	授業の進め方
	詳細は老年看護学実習Ⅰ要項を参照	
1	1. 学内オリエンテーション 2. 施設別オリエンテーション 3. 担当教員：榎、江上、廣瀬、（ ）	1. 実習要項の内容に沿いオリエンテーションを実施（実習の予定の確認、実習に関する諸注意、情報の取り扱いについての説明、感染症対策について、グループリーダーの決定と連絡網の作成） 2. 実習日時、交通手段、各施設の特徴などのグループでの確認
2	臨地実習（認知症高齢者 介護施設） 時間 9:00～17:00（施設により異なる） ＊担当教員はラウンドする	・ 施設オリエンテーション、施設内案内 ・ 受け持ち利用者の紹介と決定 ・ 受け持ち利用者の生活プログラムに合わせて対話を中心に関わる
3	臨地実習（認知症高齢者 介護施設） 時間 9:00～17:00（施設により異なる） ＊担当教員はラウンドする	・ 受け持ち利用者の生活プログラムに合わせて対話を中心に関わる ・ カンファレンス（対話を通して良かった点や困った点を出し合い、どのようにすれば上手くコミュニケーションが図れるのか等を検討する）
4	臨地実習（地域包括支援センター 医療連携室 居宅介護支援事業所など） 時間 9:00～17:00（施設により異なる） ＊担当教員はラウンドする	・ 施設オリエンテーション、施設内案内 ・ 施設ごとのプログラムに合わせて行動する（高齢者と接する機会を見つけて積極的に話を伺うこと） ・ カンファレンス（疑問、学び、各自が関わった高齢者の情報やアセスメントを共有する）
5	臨地実習（地域包括支援センター 医療連携室 居宅介護支援事業所など） 時間 9:00～17:00（施設により異なる） ＊担当教員はラウンドする	・ 施設ごとのプログラムに合わせて行動する（高齢者と接する機会を見つけて積極的に話を伺うこと） ・ カンファレンス（疑問、学び、各自が関わった高齢者の情報やアセスメントを共有する）
6	学びの発表会 12:30～17:40 担当教員：榎、江上、廣瀬、（ ）	・ 目的：学生、教員が老年看護学実習Ⅰの学びを共有する場とする ・ 発表準備（会場設営、司会や発表者などグループでの役割の決定） ・ 各実習施設での学びの発表、意見交換、教員による講評 ・ 実習記録の提出についての説明と提出
備考		

授業科目名	老年看護学実習Ⅱ			単位	3 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	実習
開講年次	3～4 年	開講時期	後期～前期		
担当教員	科目責任者：榎 直美 科目担当者：榎 直美・中井裕子・江上史子・廣瀬理絵				
授業概要	健康課題を持つ老年期にある人と共に生きる家族の特徴を理解し、健康生活を支援するための基礎的な看護実践能力を養う。				
到達目標	知識・理解	(DP 1)			
		(DP 2)	対象者の症状について加齢変化や疾患と関連付け、その症状が生活の及ぼす影響について理解し全体像を記述できる。 看護職と他職種との協働を学び、看護の役割について理解し、記述できる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	老年期にある人や、共に生きる家族の健康課題を身体的・心理的・社会的側面から統合的に捉え、対処していくための看護が選択できる。		
		(DP 4)			
	関心・意欲・態度	(DP 5)	老年期にある人や、共に生きる家族に対する、自分の傾向・態度に気づき、ケアリング関係を構築するための態度を示すことができる。		
		(DP 6)	老年期にある人や、共に生きる家族を支援するサポート・システムを知り、さらに健康生活を目指した、実現可能な支援について考え提案することができる。		
	技能	(DP 7)			
		(DP 8)			
		(DP 9)			
		(DP10)	ケアリング関係を基盤に、健康課題をもつ老年期にある人とその家族の生活の質（QOL）を考えた、安全で安楽な看護が実践できる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	人体の構造と機能、病態、基礎看護技術、看護過程、それまでのすべての実習など、既習の知識、技術、態度を身につけて実習に臨むことが前提である。老年看護学実習Ⅰ、老年看護学演習Ⅱを履修していること。				
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護学 医学書院				
参考図書・教材等	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 老年看護 病態・疾患論 医学書院 など、既習のすべての科目のテキスト * その他、必要に応じて紹介する				
実務経験を生かした授業	看護師として臨床経験 5 年以上の教員が担当する。			授業中の撮影	×

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				60	10		30	100
知識・理解	(DP 1)							
	(DP 2)			15	5			
思考・判断・表現	(DP 3)			15	5		10	
	(DP 4)							
関心・意欲・態度	(DP 5)			10			5	
	(DP 6)			10			5	
技術	(DP 7)							
	(DP 8)							
	(DP 9)							
	(DP10)			10			10	

備考：「レポート」の中に実習に関連するすべての記録、「その他」の中に実習態度を含む。

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
S 評価レベル：主体的に学修を進めることができ、教員や実習指導者からのごくわずかな助言・指導があれば実習要項の実習目標を達成できる。 A 評価レベル：必要時に教員や実習指導者に助言・指導を受け、実習要項の実習目標を達成できる。 B 評価レベル：教員や実習指導者の助言・指導を受けながら実習要項の実習目標を達成できる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
C 評価レベル：常時、教員や実習指導者の助言・指導を受け実習要項の実習目標を達成できる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

日	授業内容（担当教員）	授業の進め方
	詳細は老年看護学実習Ⅱ 要項を参照 実習時間：臨地実習 8:30～16:00 （ただし実習施設で若干の違いがある） 学内実習 8:50～17:40 担当教員：椋、江上、廣瀬、中井	
実習 前	領域オリエンテーション	・ 教員紹介 ・ 実習要項の説明 ・ 「実習のしおり」の確認（情報の取り扱い、感染症対策、自動車許可願い） ・ 「学びのカルテ」の活用について ・ グループリーダーとサブリーダーの決定、連絡網の作成等
	施設別オリエンテーション（各実習施設担当教員）	・ 記録の書き方の説明 ・ 施設実習日程、集合時間と場所、注意事項、持ち物の確認

1～5	月曜日 - 施設オリエンテーション、施設内案内 - 受け持ち高齢者の紹介と決定、実習の説明と同意取得、情報収集 - カンファレンス 火曜日 - 情報収集、看護実践の見学、看護実践 - カンファレンス 水曜日 - 学内実習（施設の特徴や受け持ち高齢者の情報の整理、今後の看護の方向性を見出す） 木曜日、金曜日 - 情報収集、看護実践、対象者への関わりを通してアセスメントを行い、全体像の理解を進める - カンファレンス	- 臨地実習では、スタッフステーションでの挨拶、実習指導者への行動計画の発表、行動計画の修正、予定の調整を行う - 受け持ち高齢者を把握しながら、計画を立案し、実践評価を行い、次の実践の活用すること - 看護実践は必ず実習指導者もしくは担当教員に声をかけ、実習指導者か担当教員の助言、見守りのもとに行う 「実習のしおり」は熟読し携帯する 「学びのカルテ」は毎日持参し、技術項目及び内容を自己チェックする
6～10	月曜日～金曜日 - 情報収集、看護計画に基づいた看護実践、対象者への関わりを通してアセスメントを行い、全体像の理解を進める - 看護計画の評価 - カンファレンス 水曜日 - 学内実習（現段階において自己の学びを振り返り、これまでの看護実践の評価を行い、今後の看護の方向性について修正を行う）	1週目の授業の進め方に準じて臨地実習を行う - 中間カンファレンスの実施（実習を振り返り、今後の看護の方向性を明確にする） - デイケアなど関連施設での見学、その利用者とのコミュニケーション（実習施設により内容は異なる）
11～15	月曜日～木曜日 - 情報収集、看護計画に基づいた看護実践、看護計画の評価 - カンファレンス 金曜日 - 実習のまとめ、学びの共有（学内） - 実習中に解決していない事柄についての事例検討	1週目の授業の進め方に準じて臨地実習を行う - 学生企画の集団レクリエーションの実施（実習施設により内容は異なる） - 最終カンファレンスの実施（3週間の実習での学び、今後の自分の課題について等）
備考	- 実習施設：介護老人保健施設、回復期リハビリ病棟、地域包括ケア病棟、一般病院、精神科病院 - 上記のうち1施設で3週間実習する。担当教員が1施設5～6人の学生を受け持ち指導する。毎日のカンファレンス、中間・最終カンファレンスを行うことにより、学生が自らの経験を意味づけながら学習できるように支援する。	

授業科目名	小児看護学概論			単位	1 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	講義
開講年次	2 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：田中美樹 科目担当者：吉川未桜				
授業概要	生涯発達の視点から小児期について概説する。小児各期の成長発達を理解するために形態的・機能的発達、心理社会的発達および、小児と家族を取り巻く社会や状況を概説する。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	・ 小児各期の成長発達（形態的・機能的発達、心理社会的発達）および発達障害について具体的に述べることができる。 ・ 小児看護における家族の位置づけについて述べることができる。 ・ 幼児期、乳児期の成長発達および発達障害について、3 文献以上活用し具体的に記述できる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	・ 日常生活の中の子どもを観察・アセスメントし、自らの考えを記述することができる。		
	関心・意欲・態度	(DP 6)	・ 日常生活の中で子どもの成長発達に関心をもつ。 ・ 子どもを取り巻く社会環境（法律・施策・育児環境）について理解することができる		
授業内容を理解するために必要な知識・技能					
テキスト	① 奈良間美保他；系統看護学講座 小児看護学 1 小児看護概論・小児臨床看護総論 医学書院 ② 奈良間美保他；系統看護学講座 小児看護学 2 小児臨床看護各論 医学書院 ③ 各回の講義内で別途資料を配布する。				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業	小児病棟で看護師として実務経験を有する教員が、小児各期の成長発達および支援について教授する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70	15	15				100
知識・理解	(DP 2)	70	15	5				90
思考・判断・表現	(DP 3)			5				5
関心・意欲・態度	(DP 6)			5				5
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
小児各期の成長発達（形態的・機能的発達、心理社会的発達）および子どもと家族を取り巻く社会環境（法律・施策・育児環境）について十分に理解することができる（定期試験およびレポートの総合評価で 90%以上獲得）。さらに、レポート内容と講義を結びつけて、具体的かつ他者に分かりやすく記述することができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
小児各期の成長発達（形態的・機能的発達、心理社会的発達）および子どもと家族を取り巻く社会環境（法律・施策・育児環境）について理解することができる（定期試験およびレポートの総合評価で 60%以上獲得）。また、レポート内容と講義を結びつけて記述することができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	子どもとは・社会の中の子どもと家族（田中） 1. 小児看護の目的・役割 および小児看護の対象である子どもと家族の特徴 2. 子どもと家族を取り巻く社会の変遷や統計および現代社会の中の問題	オリエンテーション：小児看護学概論の初回講義であるため、講義の概要や進め方について説明する。 内容：1. 小児看護の目的・役割、2. 小児看護の対象である子どもの特徴、3. 子どもにとっての家族の意味、4. 子どもと家族に関する社会の変遷や法律および諸統計、5. 現代社会の中の子どもと家族の諸問題について、動画（事例）などを用い学生同士考える時間をつくり講義する。	事前学習：テキスト①第 1 章を読む。 事後学習：講義内容「現代社会の中の子どもと家族の諸問題」について新聞等を読み 1 事例を選び、その内容について自分の考えをまとめる。	事前学習 45 分 事後学習 60 分
2	小児の成長発達と栄養（田中） 1. 子どもの成長・発達の基本原則および影響因子 2. 成長・発達の評価 3. 子どもの栄養	内容：1. 「現代社会の中の子どもと家族の諸問題」について学生同士で考える。2. 成長・発達とは、3. 成長・発達の進み方（一般的原則）、4. 成長・発達に影響する因子、5. 成長・発達の評価について、6. 子どもの成長・発達にとっての栄養の意義について動画や第 1 回目講義の事後課題を用い、学生同士考える時間をつくり講義する。	事前学習：テキスト①第 2 章を読む。 事後学習：第 1 回目講義の事後課題で選んだ事例が子どもの成長・発達にどのように影響するか自分の考えをまとめる（第 5 回目の講義で使用）。	事前学習 60 分 事後学習 60 分

3	乳児期の子どもの成長発達（吉川） 1. 形態的・身体的特徴 2. 運動機能 3. 知的・コミュニケーション機能 4. 社会的機能	内容：1. 乳児期の子どもの形態的・身体的、運動機能、知的・コミュニケーション機能、社会的機能それぞれについて、動画（事例）などを用い講義する。	事前学習 1. テキスト①第4章「乳児」を読む。 2. 乳児の形態的・身体的、運動機能、知的・コミュニケーション機能、社会的機能それぞれについて調べレポートにまとめる。	事前学習 90分 事後学習 90分
4	乳児期の子どもと家族の看護（吉川） 1. 日常生活の世話 2. 育児支援 3. 遊びの支援 4. 事故防止・乳幼児突然死症候群	内容：1. 乳児の日常生活（排泄、食事、衣服、睡眠、環境等）の世話および発達を考慮した遊びの支援、2. 現代社会の育児の問題や支援、3. 乳児の成長・発達を考慮した事故防止および乳幼児突然死症候群の特徴や予防について動画（事例）などを用い学生同士考える時間をつくり講義する。講義する。	事後学習：レポート内容と講義内容を結びつけ、不足分を調べて追加する。 小テストを各自行う。	90分
5	幼児期の子どもの成長発達（田中） 1. 形態的・身体的特徴 2. 運動機能 3. 知的・コミュニケーション機能 4. 社会的機能	内容：1. 幼児期の子どもの形態的・身体的、運動機能、知的・コミュニケーション機能、社会的機能それぞれについて、動画（事例）などを用い講義する。 2. 第2回目講義の事後課題について、学生同士で考える。	事前学習 1. テキスト①第5章「幼児」を読む。 2. 幼児の形態的・身体的、運動機能、知的・コミュニケーション機能、社会的機能それぞれについて調べレポートにまとめる。	事前学習 90分
6	幼児期の子どもと家族の看護（田中） 1. 日常生活の自立と世話および育児支援 2. 遊びと運動の支援 3. 事故防止 子どもの虐待	内容：1. 幼児の日常生活（排泄、食事、衣服、睡眠、環境等）の自立への支援と世話および発達を考慮した遊びと運動の支援、2. 現代社会の育児の問題と育児支援、3. 乳児の成長・発達を考慮した事故防止および子どもの虐待について動画（事例）などを用い学生同士考える時間をつくり講義する。	事後学習：レポート内容と講義内容を結びつけ、不足分を調べて追加する。 小テストを各自行う。	事後学習 90分
7	学童・思春期の子どもの成長発達・子どもと家族の看護（田中） 1. 形態的・身体的特徴 2. 運動機能 3. 知的・コミュニケーション機能 4. 社会的機能	内容：1. 学童・思春期の子どもの形態的・身体的（第2次性徴含む）、運動機能、知的・コミュニケーション機能、社会的機能 2. 学童・思春期の子どもとその家族を取り巻く諸問題について、学生同士考える時間をつくり講義する。	事前学習：テキスト①第5章「学童」および第6章を読む。 事後学習：レポート内容と講義内容を結びつけ、不足分を調べて追加する。 小テストを各自行う。	事前学習 90分 事後学習 90分
8	発達障がいの子どもの看護（江上） 1. 発達障害とは 2. 発達障がいの子どもの	内容：1. 発達障害のとらえ方、特徴、診断、2. 発達障がいの子どもの理解と支援方法について、学生同士考える時間をつくり講義する。	事前学習 テキスト②第18章「発達障害」を読み、発達障がいの子どもの特徴についてレポートにまとめる。	事前学習 90分 事後学習

	理解と支援		事後学習：レポート内容と講義内容を結びつけ、不足分を調べて追加する。	90 分
備考	質問等はレスポンスカードで受け付け、次回授業時に回答する。			

授業科目名	小児看護学 Pediatric Nursing			単位	2 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	講義
開講年次	2 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者： 田中美樹 科目担当者：田中美樹 吉川未桜				
授業概要	小児看護学概論の内容をふまえ、健康問題および障がいをもつ小児の特徴、健康問題をもつ小児と家族の看護、症状を示す小児の看護、検査・処置・手術を受ける小児の看護などを解説する。また、小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療を概説し、病態・経過にそった看護を解説する。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	健康問題をもつ小児について発達的特徴と関連させて説明できる。 小児期の主要な疾患の病態・経過別の看護をエビデンスに基づいて説明できる。 小児期の主要な疾患の病態・症状、検査・診断、治療について、文献を活用し具体的に記述できる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	小児期によくみられる症状のアセスメントと必要な看護ケアについて説明できる。 小児の健康問題が家族に与える影響と支援について説明できる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	小児と家族の最善の利益を守るための医療者としての役割に関心を抱く。 小児に関わる看護師の倫理観や子どもに向き合う姿勢がある。		
		(DP 6)	小児の検査・処置・手術における看護師の役割について説明できる。 小児の入院・外来・在宅療養時における看護師の役割について説明できる		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	生体機能看護学で修得した解剖生理学、小児看護学概論で学習した子どもの成長発達段階				
テキスト	各回の講義内で別途資料を配布する。				
参考図書・教材等	①奈良間美保他；系統看護学講座 小児看護学 1 小児看護概論・小児臨床看護総論 医学書院 ②奈良間美保他；系統看護学講座 小児看護学 2 小児臨床看護各論 医学書院 ③小児看護学概論で使用した配付資料				
実務経験を生かした授業	小児病棟で看護師として実務経験を有する教員が、小児期によくみられる疾患や症状に対する看護について教授する。さらに、小児科医が病態生理、治療について教授する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		60	20	20				100
知識・理解	(DP 2)	50	20	5				75
思考・判断・表現	(DP 3)	10		5				15
関心・意欲・態度	(DP 5)			5				5
	(DP 6)			5				5

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
S 評価レベル：健康問題もつ子どもの発達の特徴をふまえた上で、健康問題が子どもと家族に与える影響と支援、および、小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療・看護について十分に理解することができる。さらに、事例課題で調べた内容と講義を結びつけて、具体的に分かりやすく記述することができる（定期試験およびレポートの総合価で 90%以上獲得）。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
C 評価レベル：健康問題もつ子どもの発達の特徴をふまえた上で、健康問題が子どもと家族に与える影響と支援、および、小児期の主要な疾患の病態・症状・診断・治療・看護についてある程度理解することができる。さらに、事例課題で調べた内容と講義を結びつけて記述することができる（定期試験およびレポートの総合価で 60%以上獲得）。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	健康問題をもつ子どもと家族の看護／入院中の子どもと家族の看護 (田中)	オリエンテーション：小児看護学の初回講義であるため、講義の概要や進め方について説明する。 内容：1. 病気に対する子どもの受け止めと理解、2. 健康障害が子どもと家族（きょうだい含む）におよぼす影響、3. 入院中の子どもと家族の看護について、動画（事例）などを用い学生同士考える時間をつくり講義する。	事前学習 テキスト①小児臨床看護総論 第 1 章を読む。 事後学習 健康障害が子どもと家族におよぼす影響について、自分の考えをまとめる。	事前学習 60 分 事後学習 90 分
2	外来受診／検査・処置する子どもと家族の看護 (田中)	内容：1. 「健康障害が子どもと家族におよぼす影響」について学生同士で考える。 2. 外来受診する子どもと家族の看護、 3. 検査・処置を受ける子どもの思い・体験、4. プリパレーションの概念について動画をを用い、学生同士考える時間をつくり講義する。	事前学習 テキスト①小児臨床看護総論 第 2 章「外来における小児と家族の看護」を読む。 事後学習 検査・処置が子どもにおよぼす影響について自分の意見をまとめる。	事前学習 60 分 事後学習 90 分
3	障害のある/在宅療養中の子どもと家族の看護 (田中)	内容：1. 「検査・処置が子どもにおよぼす影響」について学生同士で考える。 2. 障害のある子どもと家族の看護および	事前学習 テキスト①小児臨床看護総論 第 2 章「在宅療養中の小児と家族の看護」と	事前学習 60 分

		麻痺症状を生じる疾患、3. 在宅療養に移行するまでの支援、4. 在宅療養中の子どもと家族の看護について動画を用い、学生同士考える時間をつくり講義する。	第7章を読む。 事後学習 在宅療養する子どものきょうだいに対する関わりについて自分の意見をまとめる。	事後学習 90分
4	先天性心疾患の子どもと家族の看護 (清水医師)	内容：1. 心臓の解剖整理、2. 先天性心疾患の特徴、3. 心室中隔欠損症、ファロー四徴症の病態生理、4. 心不全、心雑音、5. 先天性心疾患の子どもの看護について事例等を交えて講義する。	事前学習 テキスト②第8章を読む。 事後学習 講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習する。	事前学習 60分 事後学習 90分
5	子どもの予防接種 (田中)	内容：1. 予防接種法、予防接種の目的・スケジュール、2. 抗体ができる仕組み、3. VPD について動画等を用い講義する。	事前学習 テキスト①小児看護学概論第8章「予防接種」を読む。 事後学習 講義内容をふまえ、自分自身の予防接種歴、抗体値（検査結果）に興味をもち見直し確認する。	事前学習 60分 事後学習 90分
6	子ども急性疾患 (田中医師)	内容：1. 川崎病、2. 呼吸器疾患、3. 消化器系疾患（腸重積など）、4. IgA 血管炎などについて事例や看護師国家試験問題等を提示しながら講義する。	事前学習 テキスト②「川崎病」と第7章を読む。 事後学習 講義内容をふまえ、テキストを再度読み復習し、第7回目の事例課題に取り組む。	事前学習 60分 事後学習 120分
7	急性期の子どもと家族の看護（1） (吉川)	内容：子ども急性期疾患（主に川崎病）の看護について、事前学習の内容をふまえ、動画等を用い、学生同士で考える時間をつくり講義する。	事前学習 事例課題（川崎病）を各自で読み、提示した内容について教科書や6回目の講義内容等をもとに記述する。 事後学習 調べた内容と講義内容を結びつけ、不足分を調べて追加する。 各自小テストを行う。	事前学習 120分 事後学習 150分
8	症状を示す子どもと家族の看護（1） (田中)	内容：1. 子どものフィジカルアセスメント、2. 子どもによくみられる症状（発熱、脱水、発疹、呼吸困難）について、動画や事例を用い、学生同士考える時間をつくり講義する。	事前学習 小テキスト①児臨床看護総論第5章の講義内容に関する症状を読む。 事後学習 各症状と第4、6回目講義の疾患の症状を結び付けて見直し、講義内容を復	事前学習 60分 事後学習 90分

			習する。	
9	急性期の子どもと家族の看護（2） （吉川）	内容：子ども急性期疾患（IgA 血管炎、肺炎など）の看護について、事前学習の内容をふまえ、動画等を用い、学生同士で考える時間をつくり講義する。	事前学習 事例課題（IgA 血管炎）を各自で読み、提示した内容について教科書や第 6 回目の講義内容等をもとに記述する。 事後学習 調べた内容と講義内容を結びつけ、不足分を調べて追加する。 各自小テストを行う。	事前学習 120 分 事後学習 150 分
10	手術を受ける子どもと家族の看護/子どもの痛みへの対応 （田中）	内容：1. 手術を受ける子どもの特徴、2. 子どもへの手術の説明と同意、3. 手術前、直後、回復期の子どもの特徴と看護、4. 子どもの痛みの特徴と対応について動画や事例を用い、学生同士考える時間をつくり講義する。	事前学習 テキスト①第 3 章「周手術期の子どもと家族の看護」を読む。 事後学習 講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習する。	事前学習 60 分 事後学習 60 分
11	子ども慢性疾患 （田中医師）	内容：1. 免疫のシステムとアレルギー疾患（気管支喘息、食物アレルギー、アトピー性皮膚炎）、2. 1 型糖尿病、3. ネフローゼ症候群などについて事例や看護師国家試験問題等を提示しながら講義する。	事前課題 テキスト②第 5、12 章を読む。 事後学習 講義内容をふまえ、テキストを再度読み復習し、第 12 回目の事例課題に取り組む。	事前学習 60 分 事後学習 120 分
12	慢性期の子どもと家族の看護（1） （吉川）	内容：子ども慢性期疾患（主に気管支喘息）の看護について、事前学習の内容をふまえ、動画等を用い、学生同士で考える時間をつくり講義する。	事前学習 事例課題（気管支喘息）を各自で読み、提示した内容について教科書等で調べて記述する。 事後学習 調べた内容と講義内容を結びつけ、不足分を調べて追加する。 各自小テストを行う。	事前課題 120 分 事後課題 150 分
13	小児がんの子どもと家族の看護 （吉川）	内容：1. 小児がんの特徴、2. 急性骨髄性白血病の病態、検査、治療（副作用含む）、看護、3. 小児がんの子どもと家族の思いなどについて動画や事例を用い、学生同士考える時間をつくり講義する。	事前学習 テキスト②第 11 章を読む。 事後学習 講義内容をふまえ、テキストを再度読み直し復習する。	事前学習 60 分 事後学習 60 分
14	症状を示す子どもと家族の看護（2）	内容：1. 子どものフィジカルアセスメント、2. 子どもによくみられる症状（けい	事前学習 小テキスト①児臨床看護総論第 5 章の	事前学習 60 分

	(田中)	れん、浮腫)について、動画や事例を用い、 学生同士考える時間をつくり講義する。	講義内容に関する症状を読む。 事後学習 各症状と第 11 回目講義の疾患の症状 を結び付けて見直し、講義内容を復習 する。	事後学習 60 分
15	慢性期の子どもと家族の 看護 (2) (吉川)	内容: 子ども慢性期疾患 (主にネフローゼ 症候群) の看護について、事前学習の内容 をふまえ、動画等を用い、学生同士で考 える時間をつくり講義する。	事前学習 事例課題 (ネフローゼ症候群) を各自 で読み、提示した内容について教科書 等で調べて記述する。 事後学習 調べた内容と講義内容を結びつけ、不 足分を調べて追加する。 各自小テストを行う。	事前課題 120 分 事後課題 150 分
備 考	履修の順番が変更になることもある。			

授業科目名	小児看護学演習Ⅰ Practicum in Pediatric Nursing			単位	1 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	演習
開講年次	3 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：田中美樹 科目担当者：田中美樹 吉川未桜				
授業概要	様々な状況にある子どもと家族に対して、小児看護が果たす役割について学ぶ。また、子どもの看護技術の特徴、ケアを受ける子どもへの説明と同意、家族への援助について説明し、状況に応じた看護技術の演習を行う。さらに、小児期特有の疾患の事例をもとに看護過程を展開できる。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	小児に必要な看護技術をエビデンスに基づいて説明できる。 子どもの健康状態を把握し、看護過程の思考プロセスを概括することができる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	疾患だけでなく、子どもと家族のおかれている状況を理解でき、子どもと家族に合った援助をグループ内で話し合い述べることができる。 事例をもとに、小児と家族の健康レベルに応じたアセスメントを述べる ことができる。		
		(DP 4)	他グループの発表に対して適切な評価ができる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	子どもと家族の最善の利益を守るための方法を考えることができる。		
	技能	(DP10)	発達段階および健康段階に応じた子どもの生活援助が実践できる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	生体機能看護学で修得した解剖生理学、基礎看護学で修得した基礎看護技術				
テキスト	各回の講義内で別途資料を配布する。				
参考図書・教材等	①奈良間美保他；系統看護学講座 小児看護学 1 小児看護概論・小児臨床看護総論 医学書院 ②奈良間美保他；系統看護学講座 小児看護学 2 小児臨床看護各論 医学書院 ③小児看護学概論、小児看護学で使用した配付資料				
実務経験を生かした授業	小児病棟で看護師として実務経験を有する教員が、小児各期の成長発達や病態に応じた看護過程および支援について教授する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50		20	20		10	100
知識・理解	(DP 2)	40		10				50
思考・判断・表現	(DP 3)	10		10	10			30
	(DP 4)				5		5	10
関心・意欲・態度	(DP 5)				5			5
技術	(DP10)						5	5

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
S 評価レベル：既習の知識・文献を活用し事前課題を十分に勉強して演習に臨み、主体的かつ子どもと家族を尊重した態度でコミュニケーションをとりながら、小児の看護技術が実践できる。また、事例の子どもと家族の病態や発達段階を十分にアセスメントしたうえで、個別性を考慮した看護問題の抽出・統合アセスメントができる（定期試験およびレポート・演習の総合評価で 90%以上獲得）。	

到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
C 評価レベル：既習の知識・文献を活用し事前課題を勉強して演習に臨み、子どもと家族とコミュニケーションをとりながら、小児の看護技術が実践できる。また、事例の子どもと家族の病態や発達段階をアセスメントしたうえで、看護問題の抽出ができる（定期試験およびレポートの総合評価で 60%以上獲得）。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	コースガイダンス 子どもの事故予防と安全 (田中)	1. コースガイダンス：科目の概要や課題について説明する。 2. 講義：発達段階による子どもが起こしやすい事故と予防および安全な環境保持について動画や事例を提示しながら説明する。 グループワーク：第 4、5 回目の演習「赤ちゃん先生」で担当する 0～3 歳の子どもの事故予防と安全についてグループワークし発表する。グループワークの内容を記述する。	事前学習 担当予定の「赤ちゃん先生」の発達段階と起こりやすい事故について調べる。	事前学習 45 分
2			事後学習 グループワークの内容を講義内容にふまえ配布用紙にまとめる。	事後学習 45 分
3	プレパレーション (田中)	1. 講義：プリパレーションの概念・基本について説明する。 2. グループワーク：事例をもとに子どもと家族の最善の利益を守るための方法（プレパレーション）を考え発表する。	事前学習 子どもの発達段階と小児看護学「検査・処置をうける子どもと家族の看護」を復習する。 事後学習 グループワークの内容をまとめる（授業内レポート）。	事前学習 30 分 事後学習 30 分
4	子どもの日常生活の援助 子どもと家族とのコミュニケーション（赤ちゃん先生） (吉川)	1. グループワーク：事前学習してきた赤ちゃん先生の発達段階・日常生活援助について、グループ内で協議する。 2. 演習：0～3 歳の子どもと母親と関わることによって、コミュニケーションや生活援助技術を学ぶ。	事前学習 赤ちゃん先生の発達段階・日常生活援助についての調べ配布用紙に記載する（第 1、2 回目で使用した用紙と同じ）。	事前学習 45 分
5			事後学習 赤ちゃん先生との関わりを通しての学びを記述する。	事後学習 45 分

6	小児の看護過程 1. 小児看護に必要な情報収集について 2. アセスメント（関連図作成）について （田中）	1. 講義：小児看護に必要な情報収集およびアセスメントについて説明する。 2. グループワーク：事例を用い自己学習した内容および情報シートをもとにグループ内で討議し情報の整理をする。討議した内容を記述する。次に、整理した情報をもとに、グループ内で討議しながら、アセスメント（関連図作成）し、看護問題を抽出する。	事前学習 ・ E ラーニングの2事例を各自で読み、自己学習シートを用いて用語を調べ学習する（調べる過程で出た分からない用語も学習する）。 ・ 情報シート A・B を各自で記載する。 ・ 肺炎と先天性心疾患の E ラーニングの課題を自己学習する。	事前学習 60 分
7			事後学習 ・ 事例の E ラーニング課題を自己採点し復習する。 ・ 自己学習シートを追記し、再学習する。	事後学習 30 分
8	小児の看護過程 統合アセスメントについて （田中）	グループワーク：グループ内で討議しながら、アセスメント（関連図作成）し、看護問題を抽出する。アセスメント内容と看護問題を各グループから発表しディスカッションする。	事前学習 情報シート A/B・自己学習シートを見直し、前回までの復習を行う。 また、関連図に関する図書を借りておく。	事前学習 30 分
9			事後学習 見本関連図を参考に、自分なりの関連図を各自で完成させる（後日提出）。その際、分からない専門用語などを調べておく。	事後学習 60 分
10	小児の看護技術① 清潔ケア 排泄ケア （吉川）	演習：乳幼児モデル人形を使用して、全身清拭、おむつ交換、更衣、スタンダードプリコーションの実践を行う。	事前学習 E ラーニング（小児の日常生活援助）課題を自己学習する。	事前学習 45 分
11			事後学習 E ラーニング課題を自己採点し復習する。	事後学習 45 分
12	小児の看護技術② フィジカルアセスメント 身体計測 （田中）	演習：乳幼児モデル人形を使用して、フィジカルアセスメント、身体計測・評価を行う・	事前学習 ・ E ラーニング（フィジカルアセスメント）課題を自己学習する。 ・ 小児看護学概論（教科書）の動画を見る。	事前学習 45 分
13			事後学習 E ラーニング課題を自己採点し復習する	事後学習 45 分

14	フィジカルアセスメント・身体計測実践（赤ちゃん先生） （吉川）	1. グループワーク：担当する赤ちゃん先生のフィジカルアセスメント・身体計測の方法や工夫などについてグループで討議し、役割を決める。 2. 演習：0～3歳の子どもに対して母親の協力を得ながら実際にフィジカルアセスメント・身体計測を実施する。	事前学習 ・ フィジカルアセスメント・計測技術について各自復習する。 ・ グループごとに計測カードを作成し持参する。 ・ 動く・泣く・嫌がる子どもに対する実践方法を考えておく（ブレパレーション含む）。	事前学習 60分
15			事後学習 グループで考えた方法と実践について振り返り、反省点・工夫点をまとめ実習につなげる。	事後学習 30分
備考	履修の順番が変更になる可能性もある。			

授業科目名	小児看護学演習Ⅱ			単位	1 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	演習
開講年次	3～4 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者： 田中美樹 科目担当者：田中美樹 吉川未桜				
授業概要	事例をもとに子どもの発達段階や状況をアセスメントした上で、優先順位をふまえた看護技術の演習を行う。さらに、子どもの権利を尊重した看護について理解を深めることができる。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	既習の知識・文献を活用し、事前課題を記述することができる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	事例の子どもと家族の健康レベルに応じアセスメントに基づき、行動目標・計画を記述できる。		
		(DP 4)	グループメンバーの意見を尊重した議論を行うことができる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	子どもの看護技術について根拠を探究しながら実践できる。		
	技能	(DP10)	アセスメントに基づき、子どもの発達段階や状況にあった看護技術が実施できる。 倫理的配慮を意識し、実際の場面をイメージしながら演習することができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	生体機能看護学や基礎看護技術など既習の知識や看護技術および、小児看護学概論、小児看護学、小児看護学演習Ⅰで学んだ看護と看護技術の学習内容				
テキスト	各回の講義内で別途資料を配布する。				
参考図書・教材等	①奈良間美保他；系統看護学講座 小児看護学 1 小児看護概論・小児臨床看護総論 医学書院 ②奈良間美保他；系統看護学講座 小児看護学 2 小児臨床看護各論 医学書院 ④小児看護学概論、小児看護学、小児看護学演習Ⅰで使用した配付資料				
実務経験を生かした授業	小児病棟で看護師として実務経験を有する教員が、子どもの成長発達および状況を考慮した看護技術を教授する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合			25	5	5		65	100
知識・理解	(DP2)		25	5				30
思考・判断・表現	(DP3)						5	5
	(DP4)				5			5
関心・意欲・態度	(DP5)						10	10
技術	(DP10)						50	50
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
S評価レベル：既習の知識・文献を活用し事前課題を十分に勉強して演習に臨み、主体的かつ実際の場面をイメージしながら、小児の看護技術が実践できる。また、事例の子どもと家族の病態や発達段階を十分にアセスメントしたうえで、個別性を考慮した日々の行動目標・計画の立案ができる。	

到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
C 評価レベル：事前課題を勉強して演習に臨み、実際の場면을イメージしながら、小児の看護技術が実践できる。また、事例の子どもと家族の病態や発達段階をアセスメントしたうえで、日々の行動目標・計画の立案ができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	オリエンテーション 子どもの安全（田中）	内容：1. 小児看護学演習Ⅱ・実習に関するオリエンテーション、2. 小児医療・看護の場面における子どもの安全管理について動画（事例）などを用い学生同士ディスカッションしながら演習する。	事前学習 1. 子どもの権利条約を読む。 2. E ラーニング（検査・処置に必要な小児看護技術）内の課題について教科書などで学習を用いて学習する。	各コマ 事前学習 64 分 事後学習 100 分
2	子どもの権利・倫理的配慮（外部講師）	内容：1. 子どもの権利について、2. 病院で治療を受ける子どもの倫理的問題や配慮について、動画（事例）などを用い学生同士ディスカッションしながら講義する。	3. 子どもの成長発達について復習する。 4. 小児看護学演習Ⅰの2事例を復習する。	
3	小児看護技術①（田中・吉川） 酸素投与・吸入・吸引	講義：小児の酸素投与、吸入・吸引（固定・カテの選択・挿入長さ・吸引圧・時間などの）を動画（事例）やモデル人形などを用い説明する。 演習：説明内容にそって各グループで看護技術を実践する。	事後学習 1. 小児医療・看護の場面における子どもの安全管理について考察する（授業内レポート）。 2. E ラーニング課題を自己採点し、演習内容と照らし合わせて復習する。	
4	小児看護技術②（田中・吉川） 輸液管理・採血・採尿	輸液管理（手のみ・見せて説明）。学生同士で点滴固定してもらい、動いてもらう。 採血（人形で針の選択・固定方法のみ説明） 採尿（人形で説明。全員実践）	3. 事例の行動目標・計画をまとめる（授業内レポート）。 4. 各自小テスト行う。 5. 演習内で行った技術の練習を行う。	
5	子どもの言葉と絵本の読み聞かせ（外部講師）	内容：子どもの言葉と認知の発達をふまえて、発達段階にあった絵本の選択や、環境調整および読み聞かせの方法について、学生と意見交換をしながら講義する。		

6	小児看護学実習における毎日の行動目標・計画立案の演習（田中）	講義：子どもの発達段階・状況および看護上の問題にそった日々の行動目標・計画の立案について、事例を提示しながら講義する。 グループワーク：講義内容をもとに事例の行動目標・計画をグループ内でディスカッションしながら記述し発表する。	
7	小児看護技術③（田中・吉川） 調乳・離乳食・経口与薬・経管栄養	講義：調乳、離乳食、経管栄養、経口与薬について動画（事例）やモデル人形などを用い説明する。 演習：説明内容にそって各グループで看護技術を実践する。	
8	小児看護技術④（田中・吉川） ベッド柵・子どもの固定と抑制・坐薬・浣腸・殿部浴	講義：小児用ベッドのベッド柵の取扱い、固定と抑制、坐薬、浣腸、殿部浴について動画（事例）やモデル人形などを用い説明する。 演習：説明内容にそって各グループで看護技術を実践する。	
備考			

授業科目名	小児看護学実習 Clinical Nursing Practicum in Pediatric Nursing			単位	2 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	実習
開講年次	3~4 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者： 田中美樹 科目担当者：田中美樹 吉川未桜				
授業概要	あらゆる健康レベルの子どもと家族を総合的に理解し、日常生活や状況に応じて、子どもと家族を尊重した看護を 実践できる能力を養う。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	子どもの成長発達を理解し、それらに影響を与える諸因子を多角的に理解 することができる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	子どもと家族を観察・アセスメントし看護実践につなげることがでる。 健康障害、医療行為が子ども・家族におよぼす影響について述べるこ とができる。		
		(DP 4)	受け持ち患児の看護展開について、グループメンバーの意見を尊重した議 論を行うことができる。 小児看護学実習を通して子どもの権利を尊重した看護について考え討議 することができる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	子どもと家族が尊重され安寧に生活できるために、主体的な行動をとること ができる。		
		(DP 6)	あらゆる健康レベルの子どもと家族の健康増進のための予防啓発、健診、 ホームケアについて探求できる。		
	技能	(DP10)	子どもを取り巻く危険因子をとらえ、安全確保が適切に実践できる。 健康障害をもつ子どもと家族を個別的に理解し、根拠に基づいた看護実践 ができる。 子どもの成長発達における個人差を理解し、子どもの権利を尊重した看護 実践ができる。		
授業内容を理解 するために必要 な知識・技能	生体機能看護学や基礎看護技術など既習の知識、技術および学習態度を身に付け実習に臨む。さらに、小児看護学 概論、小児看護学、小児看護学演習Ⅰ・Ⅱで学んだ看護・看護技術が必要となる。				
テキスト	①奈良間美保他；系統看護学講座 小児看護学 1 小児看護概論・小児臨床看護総論 医学書院				
参考図書・ 教材等	②奈良間美保他；系統看護学講座 小児看護学 2 小児臨床看護各論 医学書院 ③小児看護学概論・小児看護学・小児看護学演習Ⅰ・Ⅱの配布資料				
実務経験を生 かした授業	小児病棟で看護師として実務経験を有する教員が、あらゆる健康レベルの子どもと家族への看 護について教授する。			授業中 の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				50	20		30	100
知識・理解	(DP 2)			20	5			25
思考・判断・表現	(DP 3)			15	10			25
	(DP 4)				5		5	10
関心・意欲・態度	(DP 5)			5			5	10
	(DP 6)			5				5
技術	(DP10)			5			20	25
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
S 評価レベル：主体的に学修を進めることができ、教員や実習指導者からごくわずかな助言・指導があれば実習要項の実習目標を達成できる。既習の知識や技術を用いて、あらゆる健康レベルの子どもと家族を理解し、個々の状況や健康障害および子どもを取り巻く危険因子をふまえた看護実践ができる。 A 評価レベル：必要時に教員や実習指導者に助言・指導を受け、実習要項の実習目標を達成できる。既習の知識や技術を用いて、あらゆる健康レベルの子どもと家族を理解し、個々の状況や健康障害および子どもを取り巻く危険因子をふまえた看護実践ができる。 B 評価レベル：教員や実習指導者に助言・指導を受けながら、実習要項の実習目標を達成できる。既習の知識や技術を用いて、あらゆる健康レベルの子どもと家族を理解し、個々の状況や健康障害および子どもを取り巻く危険因子をふまえた看護実践ができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
C 評価レベル：常に教員や実習指導者に助言・指導を受けながら、実習要項の実習目標を達成できる。既習の知識や技術を用いて、あらゆる健康レベルの子どもと家族を理解し、個々の状況や健康障害および子どもを取り巻く危険因子をふまえた看護実践ができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

日	授業内容（担当教員）	授業の進め方
	詳細は小児看護学実習要項を参照 1. 実習期間：3 年次後期 2. 実習時間：臨地実習 8:30～16:00 (病棟実習は 16：30) 学内実習 9:00～16:30 3. 実習内容 グループによって 1 週目と 2 週目の内容が入れ替わる。 <第 1 週> 1. 小児科外来実習（火・水曜日） ① 1 つの施設に 2～3 名で実習を行う。 ② 診察介助や処置時の援助について看護師の指導のもと見学・実践する。 2. 保育所・幼稚園実習（木・金曜日） ① 1 つの施設に 3～4 名で実習を行う。 ② クラスに入り、年齢に応じた子どもの成長発達について参与観察を行う。	

	<病棟実習> ①原則として受け持ちの子ども1名を継続的に担当し学習する。 ②受け持ちの子どもの発達段階・健康障害を理解し、看護を実践する。 月曜日：オリエンテーション・受け持ち患児決定 火曜日～木曜日：受け持ち患児の看護実践 受け持ち患児の全体像、看護問題・目標の発表 最終カンファレンス（学び・子どもの権利） 金曜日：受け持ち患児の看護サマリーの発表・意見交換 実習の振り返り	
備考		

授業科目名	女性看護学概論			単位	1 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	講義
開講年次	2 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：古田祐子 科目担当者：石村美由紀・吉田静				
授業概要	1. 女性の健康支援に必要な主要概念を理解し、女性とその家族のライフサイクルを通じた健康支援を学ぶ。 2. 生活している包括的な人間としての女性とその家族に行うホリスティックケアの必要性を学ぶ。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	ホリスティックな視点から生活する人間を理解している。 女性の健康を支援するために必要な主要概念と知識を理解している。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	対象が抱えている健康課題の本質を多角的視点から思考・判断できる。 人間が本来持っている潜在的な力を高めるための適切なケアを考えることができる。		
		(DP 4)	自己の意見を論理的に述べることができる。		
	関心・意欲・態度	(DP 6)	女性の健康の諸課題を探究することができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	女性身体の構造と人体の機能に関する知識				
テキスト	①森恵美『母性看護学 [1] 母性看護学概論』、医学書院、2018 ②森恵美『母性看護学 [2] 母性看護学各論』、医学書院、2018 ③末岡浩『成人看護学 [9] 女性生殖器』、医学書院、2019 ④月経研究会連絡協議会『PMS Memory 記録編』、日本家族計画協会、2019				
参考図書・教材等	①ミシェル・オダン『プライマル・ヘルス』、メディカ出版、1995 				

成績評価

評価指標/割合	試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	90	5	5				100
知識・理解	(DP 2)	70	5				75
思考・判断・表現	(DP 3)	20					20
	(DP 4)						
関心・意欲・態度	(DP 6)		5				5
備考							
小テスト・レポートについては、授業初日に説明します。欠席・遅刻・早退は減点します。							

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
女性看護の基盤となる概念、女性やその家族の健康力を高めるケア、ホルモンとその働き、関連する法規と母子保健施策、次世代の健康づくりの必要性、ライフサイクルにおける女性の健康課題とケアが理解できる。自主的な学修により、人間の自然回復力を高めるセルフケア、健康支援の基盤となるパラダイムやモデルについて探究する姿勢を身につける。（期末試験正解率 90% 以上、小テスト正解率 80% 3 回、100% 2 回以上、レポート課題を作成し、期限までに提出）	

到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
女性看護の基盤となる概念、女性やその家族の健康力を高めるケアの必要性、ホルモンとその働き、関連する法規と母子保健施策、次世代の健康づくりの必要性、ライフサイクルにおける女性の健康課題とケアが理解できる。 (期末試験正解率 60%以上、小テスト正解率 80%以上 1 回、レポート課題を作成し、期限までに提出)	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	Women's Health 女性の健康理解に必要な概念 (古田祐子)	初回講義であるため、講義の進め方、講義中の約束事項と諸注意についてのオリエンテーションを行う。講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義内容は、女性看護学で用いる主要概念についてである。(DP 2)	事前学習: テキスト①の第 1 章母性看護の基盤となる概念 (2～52p)、第 3 章 (124～144p) を読み、主要概念についてまとめる。(DP 2) 事後学習: ミシェル・オダン著「プライマルヘルス」を読み、プライマル・アダプティブ システム、プライマルピリオドについてまとめる。(DP 2)	事前学習 60 分 事後学習 120 分
2	Women's Health 女性の健康における課題 (石村美由紀)	講義開始時に小テスト①を実施する。小テストの内容は前回講義した主要概念についてである。(DP 2) 講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義内容は、飲酒・喫煙・暴力他についてである。飲酒・喫煙に関しては、母子に及ぼす影響について重点的に講義し、暴力に関しては、性暴力を規制する法律に触れながら女性の健康における課題を考える内容とする。	事前学習: 1 回の講義で提示した概念について自分の言葉で説明できるように学習しておく。(DP 3・4) 事後学習: テキスト①の第 6 章リプロダクティブヘルスケア (250～315p) を読み、女性の健康課題と対策についてレポートを作成する。(DP6)	事前学習 80 分 事後学習 80 分
3	女性のライフサイクルと健康 I 思春期①: 思春期の発達過程と性の健康 (古田祐子)	講義開始時に小テスト②を実施する。小テストの内容は生体機能看護学 I で既習の女性生殖器の解剖図についてある。(DP 2) 講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義の内容は、	事前学習: テキスト①の第 3 章 A (97～124p)、第 5 章 B (185～204p)、テキスト③の第 2 章、女性生殖器の構造を読み、女性生殖器の形態と機能についてまとめる。(DP 2)	事前学習 80 分

		思春期の定義、デズモンド・モリスの親密さの 12 段階、男女の二次性徴、性ホルモンの働き、生殖機能発育の特徴、思春期の発達に影響を及ぼす疾患等についてである。(DP 2)	事後学習:女子学生はテキスト④の PMS メモリーに 2 ヶ月間の基礎体温を測定し、記録する。男子学生は提示された課題レポートの資料を収集する。(DP6)	事後学習 80 分
4	女性のライフサイクルと健康Ⅰ 思春期②:月経のしくみとコントロール (古田祐子)	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義の内容は、月経に関する用語、月経のしくみとホルモン、基礎体温のパターンと健康状態、帯下と健康、月経随伴症状とセルフケア、月経の異常とケア、思春期の性を取巻く環境と課題等についてである。(DP 2)	事後学習:女子学生はテキスト④の PMS メモリーに 2 ヶ月間の基礎体温を測定し、記録する。男子学生は提示された課題レポートを作成する。(DP6)	事後学習 180 分
5	女性のライフサイクルと健康Ⅱ 成熟期①:女性にとっての出産と助産の技 (古田祐子)	講義開始時に小テスト③を実施する。小テストの内容は思春期②で学習したホルモンについてである。(DP 2) 講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義の内容は、様々な出産施設の特徴、わが国の出産・子育ての現状、妊娠出産により得られる能力、女性脳と母性脳のちがい、母と子の絆、出産環境の変化、出産における 2 つのパラダイムとモデル、助産の技などである。これらを講義する過程において、結婚・妊娠継続の選択、出産場所の選択、出産費用、子育て、男女役割等である。自身の考えを述べ、自身の考えと他者の意見を参考に、自身の考えを深める双方向対話型授業を行う。(DP 2) (DP 3・4)	事前学習:3 回、4 回の配布資料を参考に、月経に関連するホルモンについてまとめ、説明できるようにする。(DP 2) 事後学習:女子学生はテキスト④の PMS メモリーに 2 ヶ月間の基礎体温を記録し、自己の月経に関する自己評価とセルフケアについてレポートを作成し、提出する。男子学生は提示された課題レポートを作成する。男女共にレポートは指定された期限までに提出する。(DP6)	事前学習 60 分 事後学習 120 分
6	女性のライフサイクルと健康Ⅱ 成熟期②:障がいを持つ児と児を亡くした親へのケア (吉田静)	講義開始時に小テスト④を実施する。小テストの内容は思春期②で学習した月経の機序についてである。(DP 2) 講義前半は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義の内容は、悲しみ(悲嘆)の経過、障がいを持つ子と家族の看護、社会的支援の	事前学習:女性のライフサイクルと健康Ⅰで配布した資料を参考に、月経の機序を説明できるようにする。テキスト①の第 4 章(178p)を読む。第 6 章「人工妊娠中絶と看護」(278-282p)を読む。(DP 2)	事前学習 80 分 事後学習

		種類と具体例、周産期死亡の原因、悲しみを抱く家族へのケア、グリーフケアの実際等である。講義後半では DVD を視聴し、講義での学びと子どもを亡くした親の声を聴き、看護者としての在り方を考える。(DP 2) (DP 3・4)	事後学習：講義と DVD 視聴を通して看護者として考えたことをレポート (A4 用紙 1 枚) にまとめ、期限までに e ラーニングを通して提出する。(DP 3・4)	80 分
7	女性のライフサイクルと健康Ⅱ 成熟期③：女性特有の疾患と不妊、更年期 (石村美由紀)	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義内容は、成熟期女性特有の疾患の中でも特に不妊症について講義する。また国家試験対策問題を多く取り入れ、問題を解きながら理解を深める講義とする。(DP 2) (DP 3・4) 講義終了時に小テスト⑤を実施する。小テストの内容は成熟期③で学習した更年期についてである。(DP 2)	事前学習：テキスト②の第 2 章出生前からのリプロダクティブヘルスケア (12～57p) を読み、C の不妊治療と看護についてまとめる。(DP 2) 事後学習：授業で解いた国家試験対策問題を再度解答し、理解を深める。	事前学習 80 分 事後学習 80 分
8	女性のライフサイクルと健康Ⅲ 女性の健康と法・統計 (古田祐子)	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義の内容は、関連法規(母子保健法、児童福祉法、労働基準法、男女雇用機会均等法、育児・介護法、母体保護法、戸籍法、死産の届出に関する規定など)と行政施策に関連する母子保健統計についてである。(DP 2)	事前学習：テキスト①の第 2 章 (54～96p)，付録の関係法規の抄録 (323～338p) を読む。(DP 2) 事後学習：女性看護に関する法律と施策についてまとめる。(DP 2)	事前学習 80 分 事後学習 80 分
備考	質問及びその回答は、講義中およびレスポンスカードで行う。また、学習に関する相談がある場合は、メールで受付、個別に対応する。			

授業科目名	女性看護学			単位	2 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験資格	授業区分	講義
開講年次	2 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目担当責任者：石村美由紀 科目担当者：安河内静子・吉田静・佐藤繭子・石岡洋子・（未定）				
授業概要	妊産褥婦および新生児を、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスの視点から理解し、エビデンスに基づいたケアを学ぶ。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	妊産褥婦、新生児の健康を支援するために必要な看護の基礎的な知識を理解している。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	妊産褥婦、新生児に対して適切な看護を選択できる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	女性の健康に関心を持ち、小テストや学習課題ノート作成にも意欲的に取り組むことができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	女性看護学概論を履修していること。				
テキスト	[テキスト] ①森恵美『母性看護学 [1] 母性看護学概論』、医学書院、2018 ②森恵美『母性看護学 [2] 母性看護学各論』、医学書院、2018 ③末岡浩『成人看護学 [9] 女性生殖器』、医学書院、2019 ④石村由利子編『母性看護技術第2版』 医学書院、2016 ⑤女性看護学概論で使用した書籍および配布資料				
参考図書・教材等	[参考文献] ①ミシェル・オダン『プライマル・ヘルス』、メディカ出版、1995 (女性看護学助手室で貸出可) ②医療情報科学研究所『病気が見える vol.10 産科』、メディックメディア、2009 ③『母乳育児スタンダード』第2版、医学書院、2015				
実務経験を生かした授業	周産期での臨床経験を持つ教員が授業を担当する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	学習課題 ノート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		85	5	10				100
知識・理解	(DP 2)	70	5	5				80
思考・判断・表現	(DP 3)	15						15
関心・意欲・態度	(DP 5)			5				5
備考								
小テスト・レポートについては、授業初日に説明します。欠席・遅刻・早退は減点します。								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
妊産褥婦および新生児の健康をリプロダクティブ・ヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスなど女性看護学概論で学んだ概念の視点から理解し、妊娠・分娩・産褥・新生児各期や母子の個別性に応じたエビデンスに基づく看護を考えることができる。（期末試験正解率 90%以上、小テスト正解率 80%以上、学習課題ノート作成を作成し、期限までに提出する）	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
妊産褥婦および新生児の健康をリプロダクティブ・ヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスなどの視点から理解し、母子の健康を支援するための知識と看護を考えることができる。（期末試験正解率 60%以上、小テスト正解率	

60%以上、学習課題ノート作成を作成し、期限までに提出する)	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	妊娠の理解と看護 1 (吉田静、道園亜希)	講義開始時に小テスト①を実施する。小テストの内容は女性生殖器の解剖である。 初回講義であるため、講義の進め方、講義中の約束事項と諸注意、女性看護学 学習課題についてのオリエンテーションを行う。講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義内容は、妊娠のメカニズム、妊婦の身体の変化、胎児の発育・発達について講義する。	事前学習：テキスト②の第2章 妊娠期における看護：A 妊娠期の身体的特性、B 妊娠期の心理・社会的特性を読み、母性看護の基盤となる概念、第3章を読む。(DP2) 事後学習：テキスト①～⑤を用いて女性看護学 学習課題（妊娠期）についてまとめ、学習課題ノートを作成する。(DP2,3,5)	事前学習 60 分 事後学習 120 分
2	妊娠の理解と看護 2 (吉田静、道園亜希)	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義内容は、妊婦の健康診査、妊娠各期の妊婦の理解と看護について講義する。	事前学習：テキスト②の第2章 妊娠期における看護：C 妊婦と胎児のアセスメント、D 妊婦と家族の看護を読む。テキスト①～⑤を用いて女性看護学 学習課題（妊娠期）についてまとめ、学習課題ノートに記載する。(DP2,3,5) 事後学習：作成した女性看護学 学習課題に関して不足している内容を学習課題ノートに追加する。(DP2,3,5)	事前学習 120 分 事後学習 60 分
3	妊娠の理解と看護 3 (吉田静、道園亜希)	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義内容は、妊娠期の母体、胎児の異常について講義する。 講義終了前に小テスト②を実施する。小テストの内容は「妊娠の理	事前学習：テキスト②の第6章 妊娠の異常と看護を読む。テキスト①～⑤を用いて女性看護学 学習課題（妊娠期）についてまとめ、学習課題ノートに記載する。(DP2,3,5)	事前学習 120 分 事後学習 60 分

		解と看護 1～3」講義した内容についてである。	事後学習：作成した女性看護学学習課題に関して不足している内容を学習課題ノートに追加する。(DP2,3,5)	
4	産婦の理解と看護 1 (分娩の経過とメカニズム) (石村美由紀)	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義内容は、分娩の経過とメカニズムである。 分娩の3要素、分娩の前兆、分娩経過、胎児の産道通過機転などを詳細に講義する。 DVD視聴を通じ、分娩期の理解の促進を図る。	事前学習：テキスト②の第4章分娩期における看護：を読む。テキスト①～⑤を用いて女性看護学学習課題（分娩期）についてまとめ、学習課題ノートに記載する。(DP2,3,5) 事後学習：作成した女性看護学学習課題に関して不足している内容を学習課題ノートに追加する。(DP2,3,5)	事前学習 120分 事後学習 60分
5	産婦の理解と看護 2 (胎児心拍数モニタリングの理解) (石村美由紀)	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。 講義内容は、前回の授業内容の理解を深めるための復習時間を設けた後、胎児心拍数モニタリングの理解の講義を進める。	事前学習：テキスト②の第4章分娩期における看護と、テキスト④の第2章産婦のケアを読む。テキスト①～⑤を用いて女性看護学学習課題（分娩期）についてまとめ、学習課題ノートに記載する。(DP2,3,5) 事後学習：作成した女性看護学学習課題に関して不足している内容を学習課題ノートに追加する。(DP2,3,5)	事前学習 120分 事後学習 60分
6	産婦の理解と看護 3 (分娩各期の産婦の理解と看護) (石村美由紀)	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。 講義内容は、前回の授業内容の理解を深めるための復習時間を設けた後、分娩各期の産婦の理解と看護を講義する。	事前学習：テキスト②の第4章分娩期における看護と、テキスト④の第2章産婦のケアを読む。テキスト①～⑤を用いて女性看護学学習課題（分娩期）についてまとめ、学習課題ノートに記載する。(DP2,3,5) 事後学習：作成した女性看護学学習課題に関して不足している内容を学習課題ノートに追加する。	事前学習 120分 事後学習 60分
7	産婦の理解と看護 4 (分娩期の異常) (石村美由紀)	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義内容は、分娩期の異常である。 講義終了前に小テスト③を実施する。小テストの内容は「産婦の理解と看護 1～4」講義した内容について	事前学習：テキスト②の第4章分娩期における看護とテキスト④の第2章産婦のケアを読む。テキスト①～⑤を用いて女性看護学学習課題（分娩期）についてまとめ、学習課題ノートに記載する。	事前学習 120分 事後学習 60分

		である。	(DP2,3,5) 事後学習：作成した女性看護学 学習課題に関して不足している 内容を学習課題ノートに追加す る。(DP2,3,5)	
8	褥婦の理解と看護 1 (産褥経過とメカニ ズム、褥婦の看護) (安河内静子)	講義は、配布するパワーポイント資 料に沿って進める。講義内容は、産 褥経過とメカニズム、褥婦の退行性 変化、進行性変化を中心に褥婦のア セスメント、セルフケア支援につい て講義する。	事前学習：テキスト②の第 6 章 産褥期における看護：A 産褥経 過①産褥期の身体的変化、B 褥 婦のアセスメント①～②、C 褥 婦と家族の看護①～③を読む。 (DP2,3) 事後学習：テキスト①～⑤を用 いて女性看護学 学習課題（産褥 期）についてまとめ、学習課題 ノートに記載する。(DP2,3,5)	事前学習 60 分 事後学習 120 分
9	褥婦の理解と看護 2 (愛着形成、親性発 達、母子相互作用他) (安河内静子)	講義は、配布するパワーポイント資 料に沿って進める。講義内容は、産 褥の心理・社会的変化、愛着形成、 親性発達、母子相互作用、入院中か ら施設退院後までの育児支援につ いて講義する。	事前学習：テキスト②の第 6 章産 褥期における看護：A 産褥経過② 産褥期の心理・社会的変化、C 褥 婦と家族の看護④、D 施設退院後 の看護①～②を読む。(DP2,3) 事後学習：テキスト①～⑤を用い て女性看護学 学習課題（産褥期） についてまとめ、学習課題ノート に記載する。(DP2,3,5)	事前学習 60 分 事後学習 120 分
10	褥婦の理解と看護 3 (産褥期の異常) (安河内静子)	講義は、配布するパワーポイント資 料に沿って進める。講義内容は、産 褥期の異常について講義する。 講義終了前に小テスト④を実施す る。小テストの内容は「褥婦の理 解と看護 1～3」講義した内容につ いてである。	事前学習：テキスト②の第 7 章産 褥の異常と看護を読む。(DP2,3) 事後学習：テキスト①～⑤を用い て女性看護学 学習課題（産褥期） についてまとめ、学習課題ノート に記載する。(DP2,3,5)	事前学習 60 分 事後学習 120 分
11	新生児の理解と看護 1 (プライマル・ヘル スと新生児の生理①) (未定)	講義は、配布するパワーポイント資 料に沿って進める。講義内容は、新 生児とは（定義）、新生児の子宮外 適応、新生児の発育・発達について 講義する。	事前学習：テキスト②の第 4 章 新生児期における看護：A 新生 児の生理を読む。(DP2,3) 事後学習：テキスト①～⑤を用い て女性看護学 学習課題（新生児） についてまとめ、学習課題ノート に記載する。(DP2,3,5)	事前学習 60 分 事後学習 120 分
12	新生児の理解と看護 2(プライマル・ヘルス と新生児の生理②) (未定)	講義は、配布するパワーポイント資 料に沿って進める。講義内容は、新 生児のアセスメント、新生児の評	事前学習：テキスト②の第 4 章 新生児期における看護：B 新生 児アセスメントを読む。	事前学習 120 分

		価、新生児の栄養について講義する。	テキスト①～⑤を用いて女性看護学 学習課題（新生児）についてまとめ、学習課題ノートに記載する。(DP2,3,5) 事後学習：作成した事前学習課題に関して不足している内容を学習課題ノートに追加する。(DP2,3,5)	事後学習 60 分
13	新生児の理解と看護 3(新生児の異常) (未定)	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義内容は、新生児の生理的範囲からの逸脱、新生児の異常、新生児の看護について講義する。 講義終了前に小テスト⑤を実施する。小テストの内容は「新生児の理解と看護 1～3」講義した内容についてである。	事前学習：テキスト②の第 4 章 新生児期における看護：C 新生児の看護を読む。 テキスト①～⑤を用いて女性看護学 学習課題（新生児）についてまとめ、学習課題ノートに記載する。(DP2,3,5) 事後学習：作成した女性看護学 学習課題に関して不足している内容を学習課題ノートに追加する。(DP2,3,5)	事前学習 120 分 事後学習 60 分
14	母乳育児支援 (佐藤繭子)	講義前に講義内容を深めるために母乳育児に関する知識を問うテストを行う。講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。講義内容は、母乳分泌の解剖・生理、早期接触・母児同室・自律授乳・授乳方法についてである。	事前学習：テキスト②の第 4 章 B 新生児のアセスメント・C 新生児の看護、第 5 章産褥期における看護、第 6 章妊娠・分娩・新生児・産褥の異常⑪異常分娩時の産婦の看護、③低出生体重児④高ビリルビン血症、②乳房トラブル・③本人あるいは時に健康上の問題がある褥婦の看護 を読む。 テキスト①～⑤、参考文献③を用いて女性看護学 学習課題（産褥期）についてまとめ、学習課題ノートに記載する。(DP2,3,5) 事後学習：作成した女性看護学 学習課題に関して不足している内容を学習課題ノートに追加する。(DP2,3,5)	事前学習 120 分 事後学習 60 分
15	女性看護学のまとめ (石村美由紀)	講義は、配布するパワーポイント資料に沿って進める。 講義内容は、女性看護学分野における国家試験問題・定期試験問題を意識し講義する。また女性看護学演習・実習オリエンテーションを行	事前学習：学習課題ノートを完成させる。(DP2,3,5) 事後学習：教員のチェックを終え返却された学習課題ノートに関して、不足している内容を学習課題ノートに追加する。(DP2,3,5)	事前学習 120 分 事後学習 60 分

		い、次年度の準備性を高めることができるように講義する。		
備考	質問及びその回答は、講義中およびレスポンスカードで行う。また、学習に関する相談がある場合は、メールで受付、個別に対応する。			

授業科目名	女性看護学演習Ⅰ			単位	2 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験資格		授業方法
開講年次	3 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：石村美由紀 科目担当者：吉田静・安河内静子・佐藤繭子・石岡洋子・（ 未定 ）				
授業概要	1. 女性とその家族を対象にライフサイクルを通じた教育やケアを実践するために必要な技術を学ぶ。 2. 妊産褥婦および新生児に必要なケアの実践に向けてペーパーペイシェントを用いた情報分析とアセスメントを行い、看護過程を学ぶ。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	妊産褥婦および新生児の生理的変化を理解し、ホリスティックケアモデルでアセスメントできる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	事例を通してホリスティックケアモデルで看護過程の展開ができる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	技術習得のために、主体的な行動をとることができる。		
	技能	(DP10)	妊産褥婦および新生児のケアに必要な基本的技術ができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	女性看護学概論、女性看護学で学んだ知識全般				
テキスト	[テキスト] ①女性看護学概論、女性看護学で使用した書籍および配布資料 ②石村由利子編『母性看護技術第2版』 医学書院、2016 ③村田千代子『Baby エステ』、権歌書房、2008				
参考図書・教材等	[参考文献] ①太田操編『ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程第3版』医歯薬出版株式会社、2017 ②佐世正勝他『ウェルネスからみた母性看護過程』第3版、医学書院、2016				
実務経験を生かした授業	周産期での臨床経験を持つ教員が授業を担当する。			授 業 中 の 撮 影	無

成績評価

評価指標/割合	試験	技術テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	演習態度	合計
総合評価割合		20	60			20	100
知識・理解 (DP2)			30				30
思考・判断・表現 (DP3)			30				30
関心・意欲・態度 (DP5)						20	20
技術 (DP10)		20					20
備考							

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
マタニティサイクルにある妊産褥婦および新生児の生理的変化を理解し、事例についてホリスティックケアモデルで看護過程の展開ができ、期日までにレポート提出ができる。 技術演習は、演習の目的内容を理解し、主体的に演習する姿勢がみられ、事例妊産褥婦および新生児の状況に適した看護技術を安全で適切な手順（方法）により提供できる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
マタニティサイクルにある妊産褥婦および新生児の生理的変化を理解し、事例について看護過程の展開を行い、期日までにレポート提出ができる。技術演習は、演習の目的内容を理解し、まじめに演習に取り組む、事例妊産褥婦および新生児のアセスメントやケアに必要な基本的技術の目的と手順（方法）が理解できている。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	オリエンテーション 看護過程の展開 (基礎的内容)	演習の進め方、演習中の約束事項と諸注意、課題についてオリエンテーションを行う。	事前学習：女性看護学の学習課題ノートを見直し、不足している項目について追記する。(DP2)	事前学習 60分
2	(石村美由紀・吉田静・安河内静子・佐藤繭子・石岡洋子・未定)	講義は配布するパワーポイント資料に沿って進める。 講義内容は、看護過程の展開における基本的な内容と、マタニティサイクルにおける看護過程の特徴についてである。 看護過程の展開に必要な事例（ペーパーペイシエント）、ワークシート、チェックリストなどを配布し、説明する。 演習では、事例の妊娠期に関する情報分析を行う。	事後学習：事例の妊娠期の情報分析を整理する。(DP2)	事後学習 120分
3	看護過程の展開	事例の分娩期、産褥期、新生児期について情報分析を行う。	事前学習：事例の分娩期・産褥期・新生児期の情報について整理しておく。(DP2)	事前学習 60分
4	(石村美由紀・吉田静・安河内静子・佐藤繭子・石岡洋子・未定)		事後学習：事例の分娩期・産褥期・新生児期の情報分析を整理する。(DP2)	事後学習 120分
5	妊婦・褥婦のアセスメントと看護技術 (石村美由紀・吉田静・安河内静子・佐藤繭子・石岡洋子・未定)	講義は、配布するパワーポイントの資料に沿って進める。講義内容前半は妊婦の健康診査に必要な、視診・触診・聴診・計測診について講義する。特に、女性看護技術として重要なレオポルド触診法・子宮底・腹囲測定・胎児心音の聴診方法等について講義する。後半は、褥婦のアセスメントと産褥復古支援技術について講義する。	事前学習：テキスト②の第1章妊婦のケア、第3章褥婦のケアを読む。(DP2)	事前学習 60分
6				
7	新生児のアセスメントと看護技術 (石村美由紀・吉田静・安河内静子・佐藤繭子・石岡洋子・未定)	講義は、配布するパワーポイントの資料に沿って進める。講義内容前半は、新生児の清潔援助である沐浴技術についてDVDを視聴する。後半は、新生児のアセスメントとして、バイタルサイン測定・全身状態の観察(視診・触診・聴診・身体計測)における看護技術について講義する。	事前学習：沐浴に関するワークシートを作成する。(DP10)テキスト②の第4章及びテキスト③を読む。(DP2) 事後学習：沐浴の自己演習を行う。(DP10)	事前学習 180分
8				事後学習 120分
9	看護過程の展開 (石村美由紀・吉田静・安河内静子・佐藤繭子・石岡洋子・未定)	講義は、配布するパワーポイントの資料に沿って進める。講義内容は、マタニティサイクルにおけるウェルネス看護診断についてである。	事前学習：初回講義で配布した資料を読む。	事前学習 60分
10		演習前半は事例について産褥期・新生児を中心に関連図を作成する。 後半は、事例についてウェルネス看護診断にもとづいた看護診断、目標を立案する。	事後学習：事例について関連図、看護診断、看護目標を立案する。(DP3)	事後学習 120分
11	技術演習(新生児のアセスメントと看護技術)と看護過程の展開	第7,8回の講義で説明した看護技術についてモデル人形を用いて演習する。新生児のバイタルサイン測定・全身状態の観察(視診・触診・聴診・身体計測)・沐浴は、教員のデモンストレーション後にグループに分かれて演習を行う。新生児ケアチェックリストを用いながら技術のチェックを行う。	事前学習：テキスト②の第4章を読み、配布したパワーポイント資料の内容を理解しておく。ケアチェックリストの内容を理解しておく。(DP2) 事後学習：事例について看護計画を完成する。(DP3)	事前学習 60分
12	(石村美由紀・吉田静・安河内静子・佐藤繭子・石岡洋子・未定)	新生児ケアチェックリストを用いながら技術のチェックを行う。 事例の看護過程の展開は、新生児	新生児のバイタルサイン測定・全身状態の観察・沐浴の自己演習を行う。(DP10)	事後学習 120分

		期を中心に看護計画まで立案する。		
13	技術演習(妊婦・褥婦のアセスメントと看護技術)と看護過程の展開	第 5,6 回の講義で説明した看護技術についてモデル人形を用いて演習する。妊婦・褥婦のアセスメントと看護技術は教員のデモンストレーション後、グループに分かれて演習を行う。妊婦・褥婦ケアのチェックリストを用いながら技術のチェックを行う。	事前学習:テキスト②の第1章、第3章を読み、配布したパワーポイント資料の内容を理解しておく。(DP2)	事前学習 60 分
14	(石村美由紀・吉田静・安河内静子・佐藤繭子・石岡洋子・未定)	事例の看護過程の展開は、産褥期を中心に看護計画まで立案する。	事後学習:看護過程の展開(レポート)を作成し、すべてを期限までに提出する。 妊婦・褥婦ケアは自己演習を行う。(DP10)	事後学習 120 分
15	まとめ (石村美由紀・吉田静・安河内静子・佐藤繭子・石岡洋子・未定)	講義は、パワーポイントの資料に沿って進める。提出された看護過程の展開(レポート)を返却し、補足とまとめを行う。	事前学習:事例を再度読み理解しておく。(DP2,DP3) 事後学習:返却されたレポートを見直し、修正する。(DP2,DP3)	事前学習 60 分 事後学習 120 分
備考				

授業科目名	女性看護学演習Ⅱ			単位	1 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	演習
開講年次	3 年～4 年次	開講時期	後期～前期		
担当教員	科目責任者：石村美由紀 科目担当者：吉田静・安河内静子・佐藤繭子・石岡洋子・（ 未定 ）				
授業概要	1. 女性看護学演習Ⅰで習得した技術をさらに洗練させ、論理的根拠に基づき実施する。 2. 実習で経験した事象の意味をホリスティックケアモデル、リプロダクティブヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスの概念に基づき探求する。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	妊産褥婦および新生児の生理的变化を、ホリスティックケアモデルでアセスメントできる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	事例を通して看護過程を展開することができる。		
		(DP 4)	妊産褥婦および新生児に備わった生理的な力を観察し、プライマル・ヘルスの視点から論述できる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	技術習得のために、主体的な行動をとることができる。		
	技能	(DP10)	事例に応じて必要なケアを選択し、確実に実施することができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	女性看護学概論・女性看護学・女性看護学演習Ⅰで学んだ女性の身体の構造及び生理的变化、新生児の身体の構造及び生理的变化に関する知識と必要なケア方法の技能				
テキスト	[テキスト] ①女性看護学概論、女性看護学、女性看護学演習Ⅰで使用した書籍および配布資料 ②石村由利子編『母性看護技術第2版』 医学書院、2016				
参考図書・教材等	女性看護学実習要項・実習記録用紙、女性看護学の講義で作成した課題ノート				
	【貸出図書】（女性看護学助手室にて貸出） ①新生児の臨床検査 基準値 ディクショナリー ②すぐ使える！入院中から退院までの母乳育児支援 ③産科スタッフのための新生児学 ④これでナットク！母乳育児 ⑤新生児の症状別フィジカルアセスメント ⑥保健指導でそのまま使えるQ & A ⑦周産期救急 そのときどうする！？ ⑧臨床助産技術ベーシック&ステップアップテキスト ⑨ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程 ⑩写真で分かる助産技術 ⑪母性看護実践の基本 母性看護学① ⑫ウエルネスからみた母性看護過程＋病態関連図 ⑬根拠がわかる母性看護過程 事例で学ぶウエルネス志向型ケア計画				
実務経験を生かした授業	教員は周産期施設での臨床経験を生かした授業を行う			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		技術	態度	発表				合計
総合評価割合		40	30	30				100
知識・理解	(DP 2)		10	5				15
思考・判断・表現	(DP 3)			5				5
	(DP 4)		10	5				15
関心・意欲・態度	(DP 5)	20	5	5				30
技術	(DP10)	20	5	10				35

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
講義日までに沐浴の事前練習を積極的に行える、参考文献（手順）を見ない上に安全・安楽な沐浴を実施できる、新生児の観察及び計測を参考文献（手順）を見ない上に安全・安楽な技術によって行うことができる、妊婦/産婦/褥婦のケアを参考文献（手順）を見ない上に安全・安楽な技術によって行うことができる、看護計画の作成に主体的に参加し、意見交換が積極的に行える。（講義開始までに 5 回以上の沐浴練習、講義内での質問（新生児のアセスメント等）に対して正解率 8 割、妊産褥婦のケアの相互練習に率先して参加できる、看護計画の立案が時間内にでき、他のグループに質問が 2 回以上できる）	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
講義日までに沐浴の事前練習を主体的に行える、参考文献（手順）を見ずに沐浴を実施できる、新生児の観察及び計測を参考文献（手順）を見ずに行うことができる、妊婦/産婦/褥婦のケアを参考文献（手順）を見ずに行うことができる、看護計画の作成に参加でき、他グループの発表を聞いて意見が言える。（講義開始までに 5 回以上の沐浴練習、講義内での質問（新生児のアセスメント等）に対して正解率 6 割、妊産褥婦のケアの相互練習に参加できる、看護計画の立案が時間内にでき、他のグループに質問や意見が 1 回はできる）	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	女性看護学実習 オリエンテーション① (全体 石村)	講義 女性看護学実習全体（目的、目標、記録用紙等）についてのオリエンテーションを行う。 (DP : 5)	事前学習: 女性看護学演習 I の最終講義で配布されている要項を読んでおく。	120 分

	女性看護学実習 オリエンテーション② (施設別) (実習担当教員：石村、 吉田、安河内、佐藤、石岡 他)	講義 女性看護学実習を行う各施設について実習 スケジュール、注意事項等のオリエンテーシ ョンを行う。 (DP：5)	事後学習：	120 分
2	1. 妊婦のアセスメント と看護技術 (子宮底長、腹囲測定、 胎児心拍測定、レオポル ド触診法等) 2. 産婦の看護技術 産痛緩和(圧迫、呼吸、体 位等) 3. 新生児のアセスメン トと看護技術 (沐浴、児 の計測等)	演習 各種シミュレーターを用いて、手技の確認及 び、練習を行う。 新生児の看護については、事例を提示し、そ れに基づいたアセスメントを発表する。 (DP：2,4,5,10)	事前学習:女性看護 学で作成した課題 ノートに女性看護 学演習Ⅰで学んだ 事項を追記載し、学 習しておく。各講義 の資料も復習して おく。演習開始まで に沐浴の自己練習 を行っておく。	360 分
3	4. 褥婦のアセスメント と看護技術 (子宮復古状態・悪露の 観察・授乳支援)		事後学習:作成した 課題ノートに本講 義での学びを追記 する。	360 分
4	(実習担当教員：石村、 吉田、安河内、佐藤、石岡 他)		充分でなかった技 術は、実習までに自 己練習を行い、教員 のチェックを受け る。不足していた知 識に関しても、しっ かりと復習してお く。	
5				
6	看護課程の展開 (実習担当教員：石村、 吉田、安河内、佐藤、石岡 他)	演習 事例を複数提示し、その事例それぞれについ て 4 名程度のグループでのグループワーク で、標準看護計画の立案を行う。 (DP：2,3,4)	事前学習:女性看護 学演習Ⅰを復習し、 看護過程展開の準 備をしておく。	60 分
7			事後学習:看護過程 の展開に必要な知 識、提示された事例 に関する知識など、 必要な知識は、必ず 教科書などで復習 をした上で、課題ノ ートに追記する。	120 分

8	看護過程のまとめ (実習担当教員：石村、 吉田、安河内、佐藤、石岡 他)	演習 作成した看護計画について発表し、意見交換 を行う。 (DP：2,3,4)	事前学習:女性看護 学演習Ⅰを復習し、 看護過程の展開が スムーズに行える 状態にしておく。 事後学習:意見交換 の内容を含めて、各 自必要な看護過程 を追加しておく。	事前事後 計 180 分
備考	実習の直前の演習であるため、疑問点をすべて解決できるよう、演習の場で質問に答える。			

授業科目名	女性看護学実習			単位	2 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	実習
開講年次	3～4 年次	開講時期	3 年次後期～4 年次前期		
担当教員	科目責任者：石村美由紀 科目担当者：吉田 静・安河内静子・佐藤繭子・石岡洋子・(未定)				
授業概要	1. ホリスティックケアモデル、リプロダクティブ・ヘルス／ライツとプライマル・ヘルスの概念に基づき、女性看護学概論・女性看護学・女性看護学演習ⅠⅡで学んだ学習内容を実習を通して深める。 2. 妊産褥婦・新生児の特徴を理解し、実際に看護過程を展開することで、適切な看護を実践する能力を培う。 3. 生命の神秘・尊厳を考えることができる。 4. 実践科学である看護を論理的に思考するための基礎を培う。				
到達目標	思考・判断・表現	(DP4)	ホリスティックケアモデル、リプロダクティブ・ヘルス／ライツとプライマル・ヘルスの概念を重視し、母子の看護に必要な情報収集、アセスメント、看護計画の立案、実施、評価について説明できる。		
	関心・意欲・態度	(DP5)	実習に積極的に取り組み、受け持ち母子に寄り添い、母子のニーズに基づいた看護を実践できる。		
		(DP6)			
	技能	(DP10)	受け持ち母子の看護過程を展開し、適切な看護を実践することができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	女性看護学概論・女性看護学・女性看護学演習Ⅰ・Ⅱで学んだ女性の身体の構造及び生理的変化、新生児の身体の構造及び生理的変化に関する知識と必要なケア方法の技能				
テキスト	女性看護学概論・女性看護学・女性看護学演習ⅠⅡで使用した書籍および配布資料				
参考図書・教材等	【貸出図書】(女性看護学助手室にて貸出) ①新生児の臨床検査 基準値 ディクショナリー ②すぐ使える！入院中から退院までの母乳育児支援 ③産科スタッフのための新生児学 ④これでナットク！母乳育児 ⑤新生児の症状別フィジカルアセスメント ⑥保健指導でそのまま使えるQ＆A ⑦周産期救急 そのときどうする！？ ⑧臨床助産技術ベーシック＆ステップアップテキスト ⑨ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程 ⑩写真で分かる助産技術 ⑪母性看護実践の基本 母性看護学① ⑫ウエルネスからみた母性看護過程＋病態関連図 ⑬根拠がわかる母性看護過程 事例で学ぶウエルネス志向型ケア計画				
実務経験を生かした授業	教員および臨床指導者は周産期施設での臨床経験を活かした教育を行う。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		実習記録	看護過程 レポート	態度	カンファレンス	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		30	20	40	10			
思考・判断・表現	(DP4)	20	10	20	5			55
関心・意欲・態度	(DP5)	5	10		5			20
	(DP6)	5						5
技術	(DP10)			20				20
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
主体的に実習に臨み、妊産褥婦・新生児へのケアや関わりを通して全体像を理解し、対象のニーズに応じた看護過程を展開することができる。ホリスティックケアモデル、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスの概念に基づいた教育・ケアを自らの言葉で考察できる。女性看護学演習Ⅰ・Ⅱで学んだ看護技術をよく身につけた上で実習に臨み、対象者に安全・安楽なケアを提供できる。妊産褥婦・新生児に対する看護技術が、参考文献（手順）を見ずに確実に実施でき、対象者の変化によって、評価修正し、新たな展開が速やかに行える。看護技術および看護計画が少しの助言で実施できるレベルに達している。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
女性看護学概論、女性看護学、女性看護学演習Ⅰ・Ⅱで学んだ学習内容を事前に復習した上で実習に臨み、対象者に安全・安楽なケアを提供できる。対象のニーズに応じた看護過程、および、ホリスティックケアモデル、リプロダクティブ・ヘルス/ライツ、プライマル・ヘルスの概念に基づいた教育・ケアを考察することができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

日	授業内容（担当教員）	授業の進め方
	【実習方法】 (DP: 4,5,6,10) (実習担当教員: 石村、吉田、安河内、佐藤、石岡 他) 1. 12～14 名を 5～7 名のグループに編成し、病院において 2 週間実習する。 2. 施設に 1 名の教員を配置する。また実習が円滑に行われるようスーパーバイザーを置く。 3. 各実習施設の実習教育者の指導を受けながら実習する。 4. 病院実習では妊産褥婦・新生児の特徴を理解し、実際に看護過程を展開しケアを行う。 * 実習方法の詳細は実習要項で提示する。 (1 週目: 受持ち妊産褥婦・新生児の看護過程の展開) 学生 2 名で 1 人の対象者を受け持ち、情報収集を行い、アセスメント、看護診断（可能な限りウエルネス型を併用する）、看護計画の立案・実施・評価の看護過程を展開する。	【事前学習】 1. テキスト、資料、事前学習の項目、実習施設から出されている課題等を十分学習しておく。 2. 女性看護学演習Ⅰ、演習Ⅱで行った看護技術を、確実に実施できるまで練習しておく。 3. 女性看護学全般の知識および看護過程展開に必要な基礎知識を復習する。

	受持決定	1 日目	2 日目	3 日目	退院 まで	退院後
実施 内容	挨拶 情報 収集 アセスメン ト	追加の 情報 収 集 看護 ケ ア アセス メント 看護 診 断 計画 立 案	看護 計 画 実施 評 価 修正	看護 計 画 実施 評 価 修正	看護 計 画 実施 評 価 修正	看護 計 画 最終 評 価
提出 物・ カン ファ レン ス			初 期 計 画 提出 中 間 カ ン ファ レン ス		退院が金・土・ 日にかかる場合は 週明けの月曜に 実施・評価の提出 実施・評価提出日 に カンファレンス	

（2 週目：機能別看護実習）

看護過程展開実習を終了した学生は、それぞれ個別に未経験の項目や、学生自身が学びたい項目について経験する実習

（実習施設によって経験できる内容が違うためその都度、確認、許可を得た上で実施する）

妊娠期のケア

妊婦健診時の測定、血圧・腹囲・子宮底長測定

カルテ、妊婦健診結果から妊娠経過及び胎児の発育状態についてのアセスメント

レオポルド触診法、NST モニター装着

外来での妊婦ケア（妊婦健診、エコー検査、保健指導など）の見学・実施

分娩期のケア

分娩監視装置の装着

分娩の立ち会い（分娩第 1 期～の経過に寄り添い、産痛緩和や分娩進行のためのケア、分娩後の清拭、分娩第 4 期の観察

【事後学習】

実習記録をまとめ、期限までに提出する。

	帝王切開術前後のケアの見学・実施 出生直後の新生児の初期処置・計測など 産褥期のケア 褥婦の退行性変化・進行性変化の観察 カルテなどからの情報収集 搾乳/授乳状況の確認 新生児の観察、沐浴実施 など	
備考	質問及びその回答は、講義中およびレスポンスカードで行う。また、学習に関する相談がある場合は、メールで受付、個別に対応する。	

授業科目名	在宅看護学概論 Introduction to Home Care Nursing			単位	1 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	講義
開講年次	2 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：吉田恭子 科目担当者：吉田恭子、猪狩崇				
授業概要	在宅で生活する療養者及び家族をホリスティックにとらえ、地域で安心してその人らしい生活ができるよう、看護師の役割と機能及び仕組み等、在宅看護の基礎を学ぶ。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	在宅看護に対する社会的要請、在宅看護の機能と看護の役割を説明できる。 在宅看護の対象者の特徴を説明できる。 在宅看護に関わる保健医療福祉制度の現状と課題を説明できる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能					
テキスト	臺 有桂編集 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版				
参考図書・教材等	配布資料				
実務経験を生かした授業	臨床経験 5 年以上の経験豊富な教員が講義を担当する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合	試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合							
知識・理解	(DP 2)	60	10	30			100
備考 事前学習（ワーク A～F）は授業初日に配布し説明します。事後学習は授業中に配布します。							

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
在宅看護を必要とする人々の特徴をふまえた看護の機能と役割、地域の保健医療福祉制度の現状と課題について十分に理解し、他者にわかりやすく説明できる(定期試験、レポートは 90%以上得点する)。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
在宅看護を必要とする人々の特徴をふまえた看護の機能と役割、地域の保健医療福祉制度の現状と課題について理解し、他者に説明できる(定期試験、レポートは 60%以上得点する)。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	在宅看護の変遷と歴史的 背景、基本理念 (吉田恭子)	講義のオリエンテーションを実施する。在宅看護活動の社会背景から、こんにちの在宅看護への社会的要請、そして、今後の展望をふまえ、在宅看護で活用される理念を講義する。	事前学習：テキスト p12～24、32～35、41～51 を読んでくる。(DP2) 事後学習：確認問題を解く。(DP2)	事前学習 30 分 事後学習 90 分
2	在宅看護の目的と特性 (吉田恭子、外部講師)	病棟看護との比較から在宅看護の対象の特性、看護の目的について講義する。	事前学習：テキスト p24～31 を読み、ワーク A を行う。(DP2) 事後学習：確認問題を解く。(DP2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
3	地域包括ケアシステムと 法制度 (吉田恭子)	地域包括ケアシステムについての概要と介護保険法、障害者総合支援法など在宅ケアを行う上で必要な法制度および社会資源、看護職の役割を講義する。	事前学習：テキスト p70～77、112～114、120～124、128～133、136～147 を読み、ワーク B を行う。(DP2) 事後学習：確認問題を解く。(DP2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
4	在宅ケアにおける倫理と 利用者保護 (吉田恭子、猪狩崇)	在宅療養者の権利を守る法制度とその限界を講義する。在宅で活用できる権利擁護や成年後見制度について理解し、実践に生かすことができるよう、紙上事例により在宅特有の倫理的課題の解決に向けた取り組みをグループ学習で体験する。	事前学習：テキスト p36～39 を読み、ワーク C を行う。認知症の特徴についてまとめてくる。(DP2) 事後学習：授業で紹介した紙上事例の課題をまとめる。(DP2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
5	在宅ケアにおける倫理と 課題解決の取り組み (吉田恭子、猪狩崇)	在宅特有の倫理的課題の解決策を持ち寄りグループで検討し、かかわり方を決定する。 1～5 回までの授業の理解度を確認するために小テストを行う。	事前学習：テキスト p153～159 を読んでくる。前回の授業で紹介した映像資料の課題をまとめてくる。(DP2) 事後学習：ディスカッションを踏まえた意見を述べ、提出する。(DP2)	事前学習 15 分 事後学習 90 分
6	在宅ケアの現状と課題 (吉田恭子、外部講師)	入院から退院および退院後に至る療養者の生活支援を講義する。田川地区の医療を例に住民の健康を守る上での課題の抽出方法について講義する。	事前学習：テキスト p88～94 を読み、ワーク D を行う。(DP2) 事後学習：出身地や所在地など関心のある地域の在宅医療資源を説明し、提出する。(DP2)	事前学習 60 分 事後学習 120 分
7	療養の場の移行に伴う看護 (吉田恭子)	退院支援の必要性や実際の展開から、チームアプローチの重要性および継続看護としての訪問看護の役割を講義する。	事前学習：テキスト p60～66、p77～87、p164～176、p186～191 を読み、ワーク E を行う。(DP2) 事後学習：確認問題を解く。(DP2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
8	ケアマネジメント (吉田恭子)	ケアマネジメントの意義とプロセスを講義する。映像資料において ICF を用いて課題抽出を行う。	事前学習：テキスト p95～109 を読み、ワーク F を行う。若年型認知症の特徴についてまとめてくる。(DP2) 事後学習：事例の健康課題に関する解決策を説明し、提出する。(DP2)	事前学習 90 分 事後学習 90 分

備
考

- ・初回の授業で定期試験や小テストについて説明します。
- ・事前学習ワーク A～F は必ず取り組んで授業に出席してください。解答は授業中に行います。
- ・事後学習のレポート提出期限は必ず守ってください。事情がある場合は提出期限よりも前に申し出てください。

授業科目名	在宅看護学 Home Care Nursing			単位	2 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	講義
開講年次	2 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：吉田恭子 科目担当者：吉田恭子、猪狩崇				
授業概要	在宅で生活する療養者および家族をホリスティックにとらえ、地域で安心してその人らしい生活ができるよう、看護師の役割と機能および仕組み等、在宅看護の基礎を学ぶ。さらに、保健福祉医療サービス等の社会資源を活用しながら、在宅生活を可能にする他職種連携や在宅ケアにおける倫理問題等について学ぶ。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	在宅ケアの促進に向けた看護の役割を説明できる。 疾病や障害と共に在宅で療養生活をおくる対象者への適切な看護を説明できる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	施設内看護と在宅看護との違いを明確にし、在宅療養を継続するうえで必要な看護の知識を活用することができる。		
		(DP 4)	在宅看護における訪問看護活動の実際を想起し説明できる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	状態別看護において、療養生活上の課題に抽出し、在宅看護での具体的支援を説明できる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能					
テキスト	①臺 有桂編集 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版 ②臺 有桂編集 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論②地域療養を支える技術 メディカ出版				
参考図書・教材等	配布資料				
実務経験を生かした授業	臨床経験 5 年以上の経験豊富な教員が講義を担当する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70		30				100
知識・理解	(DP 2)	50		10				60
思考・判断・表現	(DP 3)	20						20
	(DP 4)			10				10
関心・意欲・態度	(DP 5)			10				10
備考								
事前学習は、授業初日に配布し説明します。事後学習は授業中に配布します。								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
到達目標 (C 評価レベル)	在宅で生活する療養者および家族が地域で安心してその人らしい生活ができるよう、看護師の役割と機能および仕組みについて十分に理解し、他者にわかりやすく説明できる(定期試験、レポートは 90%以上得点する)。さらに、健福祉医療サービス等の社会資源を活用しながら、在宅生活を可能にする他職種連携や在宅ケアにおける倫理問題について十分に理解し、他者にわかりやすく説明できる(定期試験、レポートは 90%以上得点する)。
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

在宅で生活する療養者および家族が地域で安心してその人らしい生活ができるよう、看護師の役割と機能および仕組みについて理解し、他者に説明できる(定期試験、レポートは60%以上得点する)。さらに、健福祉医療サービス等の社会資源を活用しながら、在宅生活を可能にする他職種連携や在宅ケアにおける倫理問題について理解し、他者に説明できる(定期試験、レポートは60%以上得点する)。

成績評価の基準 ルーブリック

S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	在宅看護活動と運営、在宅看護に必要なアセスメント(吉田恭子)	講義のオリエンテーションを実施する。訪問看護活動の実際と訪問看護の運営について講義する。 在宅における看護の焦点化とそれに必要なアセスメントについて講義する。	事前学習: テキスト①p42～133、在宅看護学概論で学習したことをまとめておく。(DP2) 事後学習: 確認問題を解く。(DP2)	事前学習 90分 事後学習 90分
2	在宅看護を必要とする療養者の栄養ケア(吉田恭子)	栄養アセスメントの必要性を講義し、事前学習の事例に関して分析を進める。また、機会の制約によりアセスメントが難しいため、効果的なアセスメントについてディスカッションを行う。	事前学習: テキスト①p228～231を読む。ワークAを行う。(DP2・3) 事後学習: ①栄養アセスメントを完成させ提出する。②市販されている介護食品を調べる。(DP4)	事前学習 120分 事後学習 60分
3	医療依存度の高い療養者の看護(吉田恭子)	在宅における医療技術について人工呼吸器を使用する事例から、医療依存度の高い在宅療養者と家族、訪問看護の役割について講義する。	事前学習: テキスト①p226～227を読む、ワークBを行う。(DP2・3) 事後学習: 確認問題を解く。呼吸のフィジカルアセスメントについてまとめる。(DP3)	事前学習 90分 事後学習 90分
4	在宅人工呼吸療法を用いる療養者の看護(吉田恭子)	気管切開式人工呼吸、非侵襲性人工呼吸が必要な在宅療養者の特徴や看護について講義する。	事前学習: テキスト②p110～119、p125～127を読み、ワークCを行う。(DP2・3) 事後学習: 確認問題を解く。(DP3)	事前学習 90分 事後学習 90分
5	在宅酸素療法を用いる療養者の看護(吉田恭子)	呼吸障害のある療養者が活用できる障害者支援等の法制度の理解とともに在宅生活を続けるためのケアについて講義する。	事前学習: テキスト②p119～125を読む、ワークDを行う。(DP2・3) 事後学習: 事例の看護計画(EP)をまとめて提出する。(DP4・5)	事前学習 30分 事後学習 150分
6	慢性疾患療養者の看護①(猪狩崇)	慢性疾患を有する療養者は長期にわたる療養生活を送るため、取り巻く環境の変化などの影響から健康課題が変化することについて講義する。	事前学習: テキスト①p210～219、p243～244、テキスト②p135～144を読む。 2型糖尿病の病態関連図を描いてくる。(DP2) 事後学習: 事例の看護について説明し、提出する。(DP4・5)	事前学習 90分 事後学習 90分

7	在宅ケアにおけるリハビリテーション(吉田恭子、外部講師)	機能回復のみではなく生活の質の向上を目指したリハビリテーションについて講義する。	事前学習：テキスト①p232～233、テキスト②p42～43、配布資料を読み、ワーク E を行う。(DP 2) 事後学習：確認問題を解く。(DP 3)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
8	慢性疾患療養者の看護②(猪狩崇)	難病などの医療技術が必要な事例を通して訪問看護活用の理解について講義する。	事前学習：テキスト①p136～142、147～149 を読み、難病対策、医療費助成、障害者福祉対策との関連を抑えてくる。(DP 2) 事後学習：事例の看護について説明し、提出する。(DP 4・5)	事前学習 60 分 事後学習 120 分
9	長期臥床療養者の看護(吉田恭子)	疾病の重度化による障害や加齢により臥床状態になることは否めず、医療ニーズが増す。重度化予防のための在宅における看護について講義する。	事前学習：テキスト①p232～233、テキスト②p78～82、p144～148 を読み、ワーク F を行う。(DP 2・3) 事後学習：確認問題を解く。(DP 3)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
10	精神疾患を有する療養者の看護(吉田恭子、外部講師)	精神障がい者が地域で生活をするための法制度の理解と社会資源の活用、在宅看護の役割について講義する。	事前学習：テキスト①p143～147、p253～254 を読み、ワーク G を行う。(DP 2・3) 事後学習：事例の看護について説明し、提出する。(DP 4・5)	事前学習 60 分 事後学習 120 分
11	子どもと家族の看護(吉田恭子)	子どもの在宅療養を支える制度、在宅ケアの取り組みから、子ども本人、保護者や兄弟姉妹を含むケア提供について講義する。	事前学習：脳性まひ、二分脊椎症、18トリソミー、水頭症についてレポートにまとめてくる。テキスト①p201～204 を読んでくる。(DP 2) 事後学習：事例の看護を選択した理由を説明し、提出する。(DP 4・5)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
12	認知症療養者の看護(吉田恭子)	認知症であっても地域での暮らしを続けるための社会資源の特徴と役割、看護上の課題について講義する。	事前学習：テキスト①p251～252、テキスト②p26～33、p94～97、p181～184 を読み、ワーク H を行う。(DP 2・3) 事後学習：事例の看護を選択した理由を説明し、提出する。(DP 4・5)	事前学習 60 分 事後学習 120 分
13	がん治療中の療養者の看護(吉田恭子)	訪問看護事例では終末期が多いことから、疼痛管理等の終末期ケアを講義する。また、外来看護では化学療法を続ける療養者の日常生活上の課題へのケアを講義する。	事前学習：テキスト①p221～223、テキスト②p98～101、p153～157、p187～190 を読み、ワーク I を行う。(DP 2・3) 事後学習：確認問題を解く。(DP 3)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
14	終末期にある療養者の看護(吉田恭子)	心不全や呼吸不全を中心に療養者と家族のケアを講義する。	事前学習：テキスト②p48～51 を読み、ワーク J を行う。(DP 2・3) 事後学習：がんの終末期と老衰の終末期の相違点をまとめ提出する。(DP 4・5)	事前学習 60 分 事後学習 120 分

15	在宅ケアにおけるリスク マネジメント(吉田恭子)	在宅特有のリスクが存在するため、そのリ スクマネジメントについて講義する。ま た、減災の取り組みについて講義する。	事前学習：テキスト②p164～174、p45 ～47、配布資料を読んでくる。(DP 2) 事後学習：確認問題を解く。(DP3)	事前学習 90分 事後学習 90分
備 考	・初回の授業で定期試験や小テストについて説明します。 ・事前学習ワーク A～J は必ず取り組んで授業に出席してください。解答は授業中に行います。 ・事後学習のレポート提出期限は必ず守ってください。事情がある場合は提出期限よりも前に申し出てください。			

授業科目名	在宅看護学演習Ⅰ Clinical Practicum in Home Care Nursing Ⅰ			単位	1 単位	
				授業コード		
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格		授業方法	演習
開講年次	3 年次	開講時期	前期			
担当教員	科目責任者：吉田恭子 科目担当者：吉田恭子、猪狩崇					
授業概要	在宅看護学における看護過程の特徴を理解するために、事例を用いて具体的な展開方法を習得する。					
到達目標	思考・判断・表現	(DP 3)	ペーパーペイシエント(動画を含む)の療養生活上の課題を明確にし、看護計画が立案できる。			
		(DP 4)	在宅看護における看護過程について自己の学習課題を説明できる。			
	関心・意欲・態度	(DP 5)	法的根拠に基づき、効果的な社会資源の活用を提案できる。			
授業内容を理解するために必要な知識・技能	人体の構造と機能、病態生理、関係法規、在宅看護学概論、在宅看護学					
テキスト	①臺 有桂編集 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支える技術 メディカ出版 ②臺 有桂編集 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論 地域療養を支えるケア メディカ出版 ・ マージョリー・ゴードン著 江川隆子監訳 ゴードン博士の看護診断アセスメント指針					
参考図書・教材等	・ 正野逸子・本田彰子編著 関連図で理解する在宅看護過程 メヂカルフレンド社 ・ 配布資料					
実務経験を生かした授業	看護師としての実務経験を有する教員が担当する。				授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50		40			10	100
思考・判断・表現	(DP 3)	25		20				45
	(DP 4)			10			10	20
関心・意欲・態度	(DP 5)	25		10				35
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
障害による生活への影響について身体機能の変化を踏まえた結果から、看護上の課題を明らかにし、個別性を考慮し、かつ家庭において達成可能な目標設定および多様な社会資源を活用した看護計画の立案ができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
障害による生活への影響について身体機能の変化を踏まえた結果から、看護上の課題を明らかにし、個別性を考慮した目標設定および看護計画の立案ができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	紙上および映像による事例紹介（吉田恭子）	1.講義 在宅ケア領域における実践の特徴と看護過程について講義する。ゴードンの枠組みとアセスメントの視点を振り返る。 2.演習 事前学習を用いて、対象の病態生理を確認する。	事前学習： 1. 以下の項目について、他領域で学習した内容を活用してよいので、実習で用いるつもりで整理してくる。 介護保険法、加齢変化、発達課題、動脈硬化、糖尿病、脳血管障害の関係、慢性期の看護、ペースメーカーの自己管理(指導)、脳梗塞後遺症の看護、失語症患者の看護（DP4） 2.テキスト①p17～23、テキスト②p80～84を読んでくる。（DP3）	事前学習 510分 事後学習 300分
2	身体的側面のアセスメント（吉田、猪狩）	1.演習 事前学習を用いて、6～7人程度のグループを作り、グループ内で協議し、身体的側面のアセスメントを行う。	事後学習： グループワークでの内容を踏まえて、個人でアセスメントを行う。（DP3・4）	
3	身体的側面のアセスメント（吉田、猪狩）	1. 演習 病態生理や加齢変化を踏まえて身体的側面のアセスメントをする。	事前学習： 転倒に関する配布資料を読んでくる。（DP3）	事前学習 30分
4	住環境のアセスメント（吉田、猪狩）	2. 講義と演習 転倒について、家庭内で発生しやすい箇所を確認し、住環境(自宅外を含む)が及ぼす身体への影響をアセスメントする。	事後学習： グループワークでの内容を踏まえて、個人でアセスメントを行う。（DP3・4）	事後学習 300分
5	社会資源のアセスメント（吉田、猪狩）	1. 講義と演習 事例を取り巻く環境を整理するためにエコマップの活用について確認し、事例に適切な社会資源を明らかにする。	事前学習： 社会資源に関する配布資料を読んでくる。（DP5）	事前学習 15分
6	全体像（吉田、猪狩）	2.演習 前回までの学習をふまえて事例の全体像(関連図)を描き、事例に生じる看護上の問題を明らかにする。	事後学習： グループワークでの内容を踏まえて、個人でアセスメントを行う。（DP3・4）	事後学習 240分
7	看護目標の設定（吉田、猪狩）	1. 講義と演習 在宅ケアにおける目標設定について確認する。事例において家庭での生活維持に向けた看護目標を設定する。	事後学習： グループワークでの内容を踏まえて、個人で計画立案を行う。（DP3・4・5）	事後学習 240分
8	看護計画の立案（吉田、猪狩）	2.演習 ケア項目を抽出し、グループ内で実践可能か、また、実践できるための工夫点を協議し、記述する。		

・履修上、特別な配慮が必要な学生は、申し出の内容により対応しますので、申し出てください。

授業科目名	在宅看護学演習Ⅱ			単位	1 単位
	Clinical Practicum in Home Care Nursing Ⅱ			授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	演習
開講年次	3～4 年次	開講時期	通年		
担当教員	科目責任者：吉田恭子 科目担当者：吉田恭子、猪狩崇				
授業概要	在宅で生活する療養者及びその家族の生活や健康課題に対し、援助するための技術や方法について理解するとともに、それらを実践する能力を習得する。				
到達目標	思考・判断・表現	(DP 3)	対象のニーズに応じた地域の社会資源を説明できる。		
		(DP 4)	訪問看護の場面を考え、対象者との信頼関係の構築に向けての意図的な行動を説明できる。 在宅看護学実習における自己の学習課題を説明できる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	基礎的な看護技術の反復練習を行い、在宅における安全な看護技術を提供できる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	基礎看護学、成人看護学、老年看護学、人体の構造と機能、病態生理				
テキスト	①臺 有桂編集 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版 ②臺 有桂編集 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論②地域療養を支える技術 メディカ出版、または正野逸子編集 在宅看護技術 メヂカルフレンド社、または 河原加代子ほか 系統看護学講座 在宅看護論 医学書院				
参考図書・教材等	・基礎看護学、成人看護学、老年看護学で使用した看護技術やフィジカルアセスメントの資料				
実務経験を生かした授業	看護師としての実務経験を有する教員が担当する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		30		30			40	100
思考・判断・表現	(DP 3)			10			10	20
	(DP 4)			10			25	35
関心・意欲・態度	(DP 5)	30		10			5	45
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
在宅で療養生活を送る対象者（家族および重要他者を含む）の健康課題をホリスティックな視点で理解し、家庭にある物品を経済性や安全性を考慮したうえで工夫し実践することができる。また、実践の振り返りを理論を用いて、わかりやすく説明できる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
在宅で療養生活を送る対象者（家族および重要他者を含む）の健康課題を理解し、家庭にある物品を経済性や安全性を考慮したうえで工夫し実践することができる。また、実践の振り返りを理論を用いて、説明できる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している

- C 到達目標を達成している
- D 到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1 2	演習オリエンテーション （吉田恭子） 在宅におけるフィジカルアセスメント （吉田恭子） 看護計画立案および共有 （吉田恭子） 演習計画立案および共有 （吉田恭子）	1. 講義 演習オリエンテーションを行い、演習の進め方、確認テスト（看護技術と筆記）について説明する。 実習に臨むための準備として、訪問時のマナーや介護保険法および障害者総合支援法によるケアマネジメントとケアプランを再度確認する。 在宅におけるフィジカルアセスメントの特徴を講義する。 2. 演習 看護計画を立案し、6～7 人程度のグループをつくりグループ内で共有する。その後、ケース別の演習計画を立案する。	事前学習 1. 実習に向けた準備として次の項目についてノートを作成する。他領域で学習したノートを用いてよいが、使いやすく整理する。ポジショニング、褥瘡ケアと予防ケア、便秘ケアと排便、吸引、清拭・部分浴、在宅酸素療法、在宅人工呼吸療法、経腸栄養法、フィジカルアセスメント（DP 4・5） 2. 授業開始までに次の看護技術の練習しておく（麻痺や拘縮がある人の仰臥位⇔側臥位・ベッド⇔椅子、座位での更衣、口鼻腔と気管切開部の吸引）。（DP 5） 3. ワークシート A、B を行う。（DP 4） 4. ワークシート C を行う。（DP 5）	事前学習 840 分
3	看護技術（立案した技術項目） （吉田恭子、猪狩崇）	1. 演習 6～7 人程度のグループをつくり、看護技術を練習し、改善点を共有する。		
4 5	看護技術（身体援助に関する項目） （吉田恭子、猪狩崇）	1. 演習 3～4 人程度のグループをつくり、福祉用具を活用しながら体位を整える技術を行う。また、更衣を行う。 2. 演習 6～7 人程度のグループをつくり、在宅ケア領域では物品の取扱いが病院とは異なることを踏まえ、モデルを用いて吸引を行う。	事後学習 できなかった看護技術を復習する。（DP 5）	事後学習 60 分
6 7	看護技術（情緒的支援に関する項目） （吉田恭子、猪狩崇）	1. 講義 他職種連携による会議の意義や目的について講義する。 2. 演習 4～6 名のグループで他職種の役割と対	事前学習 1. テキスト①p101～129 を読み、まとめてくる。（DP 3） 2. ワークシート D を行う。（DP 3・4）	事前学習 345 分

		象のニーズを協議し、最善策を記述する。役割ごとに発表を行い、情緒的支援の在り方を共有する。	3.障害者総合支援法その他関係法規について、次の項目をまとめなさい。 ・ 障害や疾病のある子どもの医療提供に関する法律、保育所および放課後デイサービスのような通いの場に関する根拠法とその特徴(事業概要、提供サービス、対象年齢)について ・ 障害者の医療提供に関する法律について (DP3) 事後学習 事例の状況に応じた対人関係を構築するために気を付けることについてまとめる。(DP4)	
8	確認テスト(看護技術、筆記) (吉田恭子、猪狩崇)	1.テスト 身体援助に関する看護技術の習得を確認する。筆記は在宅ケアを行うために必要な看護技術や関係法規に関する知識について問う。 2.演習 実習の目標を設定する。	事後学習 ・ ワークシート E を行う。(DP4・5) ・ 確認テストで間違ったところを復習する。(DP3・4)	事後学習 60 分
備考	・ ユニフォーム、髪形は実習と同じ準備をする。 ・ 演習はワークシート A～D を用いて行うので、当日、提出する。ワークシート E は実習 1 日目に担当教員に提出する。 ・ 確認テスト(看護技術、筆記)を行います、事前に反復練習をしてください。看護技術の練習を行う教室利用については可能な日時を e ラーニングで知らせるので、教員に利用予約をしてください。教室を利用できる期間と時間が限られています、2020 年 1～3 月に在宅看護学実習を行う学生は 8～9 月、それ以降の学生は 2～3 月に行ってください。			

授業科目名	在宅看護学実習 Practicum in Home care Nursing			単位	2 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	実習
開講年次	3～4 年次	開講時期	通年		
担当教員	科目責任者：吉田恭子 科目担当者：吉田恭子、猪狩崇				
授業概要	在宅で生活する療養者及び家族の健康課題をホリスティックにとらえ、看護過程を展開しながら、在宅療養における在宅看護の機能・役割及びその特性を理解する。				
到達目標	思考・判断・表現	(DP 3)	在宅看護の対象者のニーズや生活の特徴を捉え、療養生活上の課題を説明できる。 対象者の療養生活上の課題に対する看護計画の立案・実施と評価ができる。		
		(DP 4)	訪問事例への看護技術について、的確に記載することができる。 訪問事例への看護場面から学んだ在宅看護における自己の学習課題を説明できる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	訪問事例と積極的に関わり、対象者と意思の疎通を図ることができる。		
		(DP 6)	保健医療福祉サービスの一員として、多職種との連携協働の必要性や看護の役割を説明できる。		
	技能	(DP10)	継続看護における課題と社会資源の活用を説明できる。 訪問看護事業の機能と役割を説明できる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	人体の機能と構造、病態生理、薬理、基礎看護学、成人看護学、老年看護学、小児看護学、在宅看護学概論、在宅看護学、在宅看護学演習Ⅰ・Ⅱ				
テキスト	・ 臺 有桂編集 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論①地域療養を支えるケア メディカ出版 ・ 臺 有桂編集 ナーシング・グラフィカ 在宅看護論②地域療養を支える技術 メディカ出版、または正野逸子編集 在宅看護技術 メヂカルフレンド社、または 河原加代子ほか 系統看護学講座 在宅看護論 医学書院				
参考図書・教材等	・ 系統看護学講座 成人看護学 2～12 医学書院 他、実習前・中に紹介する。				
実務経験を生かした授業	看護師としての実務経験を有する教員が担当する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				50	20		30	100
思考・判断・表現	(DP 3)			20			10	30
	(DP 4)			10				10
関心・意欲・態度	(DP 5)			10			20	30
	(DP 6)				10			10
技術	(DP10)			10	10			20
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
主体的な学修を行い、教員や実習指導者からのわずかな助言や指導があれば実習目標を達成することができる。既習の知識と理論を使って療養者の病期の特徴やニーズおよび生活特性、家族もしくは重要他者についても十分に理解し、対象者の療養生活上の課題解決に向けた支援を行うことができる。また、他職種連携において看護の役割を説明し、自己	

の課題をすることができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
常時、教員や実習指導者から助言や指導を受け実習目標を達成することができる。既習の知識と理論を使って療養者の病期の特徴やニーズおよび生活特性、家族もしくは重要他者についても理解し、対象者の療養生活上の課題解決に向けた支援を行うことができる。また、他職種連携において看護の役割を説明することができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

日	授業内容（担当教員）	授業の進め方
	詳細は「在宅看護学実習要項」に示す。 1.実習施設：訪問看護ステーション、医療機関が行う訪問看護 2.実習方法：上記の1施設につき学生2～4名が実習する。 受持ち事例は1例、その他に訪問事例が数例あり、毎日、看護師に同行して、見学および看護実践を行う。担当教員は6～7名の学生を受け持ち指導する。 （吉田恭子、猪狩崇）	臨地実習 ・毎朝、行動目標および計画を発表し、助言を得る。 ・特に行動計画は実習指導者に相談する。 ・対象者へのケアは、実習指導者の指導の下、実習を行う。 ・実習記録は実習指導者と教員へ提出し、指導を受ける。 学内日 ・学びの共有や面接を行う。 スケジュール ・1日目：現地オリエンテーション、情報収集、同行訪問 ・2日目：同行訪問、情報収集（これ以降は同じ） ・第1木曜日：関連図の検討会 ・第2金曜日：看護計画発表、学びのカルテの確認 ・第2木曜日：看護計画の検討会
備考	・動物等のアレルギーがある学生はお知らせください、実習施設に受持ち事例や訪問事例の調整を依頼します。 ・ラテックスアレルギーがある学生は申し出てください、アレルギーフリーの物品を準備しています。 ・実習施設の事情により直前に実習施設が変更される場合があります、その場合は早目に大学メールにて連絡します。	

授業科目名	看護管理論			単位	1 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格		授業方法	講義
開講年次	4 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者： 石田智恵美 科目担当者：				
授業概要	看護管理は、看護師が対象者(患者)に提供するケアのマネジメントを核として、それを包含した看護サービス全体のマネジメント、さらに制度・政策との関連を含めた概念である。本授業では、看護の提供および患者の安全確保のために必要な、看護マネジメントの基本的知識を学習する。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	患者の安全性を確保するための、安全管理の基本的な知識および技術を理解できる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	看護の提供者として看護管理に対する自己の考えを構築することができる。		
		(DP 4)	市場サービスの特性を理解し看護サービスの質向上に活用できる		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	医療行政の動向を踏まえ、将来の看護の仕組みを考察できる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能					
テキスト	系統看護学講座看護統合と実践〔1〕看護管理 医学書院				
参考図書・教材等	看護管理学習テキスト看護管理概説 日本看護協会出版会 看護管理学習テキスト看護管理基本資料集 日本看護協会出版会				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		70		30				100
知識・理解	(DP 2)	25		10				35
思考・判断・表現	(DP 3)	10		10				20
	(DP 4)	25						25
関心・意欲・態度	(DP 5)	10		10				20
備考								
レポート：授業内レポート								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
看護管理の取り扱う範囲とそれぞれの視点を理解し、運営に必要な知識および技術について述べることができる。 医療行政の動向を踏まえ、将来の看護の仕組みを考察し、看護サービスの質向上への方策を提案することができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
看護管理の取り扱う範囲とそれぞれの視点および、運営に必要な知識および技術について理解する。 医療行政の動向を踏まえ、将来の看護の仕組みを考察し、看護サービスの質向上への課題について考えることができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している

- A 履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
- B 履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
- C 到達目標を達成している
- D 到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	看護管理の意義	○看護管理の定義 ○看護ケアのマネジメント ○看護職の機能のマネジメント スライドと資料を基に、講義形式で進める。国家試験の過去問の解説を含む。	事前学習：テキストの第1章を読み、疑問点などをまとめておく。（DP4）、（DP3） 事後学習：看護管理の必要性および看護管理が取り扱う範囲について整理する。（DP4）、（DP3）	事前学習 60分 事後学習 100分
2	看護ケアのマネジメント 1	○安全管理 ○DVDの視聴 DVDのヒヤリ・ハット場面から、看護技術を振り返る。1回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。	事前学習：テキストの第2章を読み、疑問点などをまとめておく。（DP2） 事後学習：看護場面で起こりやすい自己について、実習場면을振り返りながら整理する。（DP2）	事前学習 60分 事後学習 100分
3	看護ケアのマネジメント 2	○医療事故と医療過誤 ○法的責任 2回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。国家試験の過去問の解説を含む。	事前学習：テキストの第2章を読み、疑問点などをまとめておく。（DP2） 事後学習：医療事故と法的責任について、国家試験の過去問の該当箇所を解き、理解を深める。（DP2）	事前学習 60分 事後学習 100分
4	看護サービスのマネジメント1	○看護組織 ○教育（人材育成） ○労働環境 ○設備管理 3回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。国家試験の過去問の解説を含む。	事前学習：テキストの第4章を読み、疑問点などをまとめておく。（DP4）、（DP5） 事後学習：講義内容を整理し、該当する国家試験関連問題を解き理解を深める。（DP4）、（DP5）	事前学習 60分 事後学習 100分
5	看護サービスのマネジメント2	○情報のマネジメント ○リスクマネジメント ○評価 4回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。国家試験の過去問の解説を含む。	事前学習：テキストの第4章を読み、疑問点などをまとめておく。（DP4）、（DP5） 事後学習：講義内容を整理し、該当する国家試験関連問題を解き理解を深める。（DP4）、（DP5）	事前学習 60分 事後学習 100分

6	組織行動 1	○組織行動学の目的 ○多国籍組織 ○文化の違い ○組織の中の個人 5 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。国家試験の過去問の解説を含む。	事前学習： テキストの第 5 章を読み、疑問点などをまとめておく。(DP4) 事後学習：組織の中での人の行動について整理する。(DP4)	事前学習 60 分 事後学習 100 分
7	組織行動 2	○組織の中の集団 6 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。	事前学習：テキストの第 5 章を読み、疑問点などをまとめておく。(DP4) 事後学習：看護職者の集団と効果的な組織運営について整理する。(DP4)	事前学習 60 分 事後学習 100 分
8	関連法規	○健康の概念 ○看護の概念 ○人権、患者の権利と倫理 ○看護業務管理 6 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。国家試験の過去問の解説を含む。	事前学習： テキストの第 5 章および関連資料を読み、疑問点などをまとめておく。(DP2)、(DP4) 事後学習：関連法規について、国家試験関連問題を解き理解を深める。(DP2)、(DP4)	事前学習 60 分 事後学習 100 分
備考	※授業時間外の質問には、原則メールで対応する。emishida@fukuoka-pu.ac.jp または、アポイントメントをとり来室すること。			

授業科目名	看護教育学			単位	1 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格		授業方法	講義
開講年次	3 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者： 石田智恵美 科目担当者：清水夏子				
授業概要	これまで受けてきた教育を通して、教育とは何かについて考える。また、看護領域における教育について、歴史・思想・制度・目的・方法などを学び、看護教育に関する現状と課題、将来の展望について考察する。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	教育の位置付けと考え方を理解することができる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	看護教育学を教育の視点で考察することができる。		
		(DP 4)	看護教育の現状と課題について述べることができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能					
テキスト	テキスト：グレッグ美鈴・池西悦子編集 看護教育学 南江堂				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				50			50	100
知識・理解	(DP 2)			10				10
思考・判断・表現	(DP 3)			20			25	45
	(DP 4)			20			25	45
備考								
レポート：授業内レポート その他：最終課題レポート								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
看護教育と学習の必要性を理解し、自己の学習方法の課題を明らかにすることができる。 看護教育の現状から課題を明らかにし、今後の展望を提案することができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
看護教育と学習の必要性を理解する。 看護教育の現状から課題を明らかにすることができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している

- B 履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
- C 到達目標を達成している
- D 到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	看護教育学とは （石田・清水）	○教育はなぜ必要か ○教育における看護教育・看護教育学について発問・応答の系列で進める。	事後学習：教育の必要性および看護教育の必要性について整理する。（DP2）	事後学習 60分
2	看護専門職としての看護 看護教育の目的 -大学 卒業者に期待される役割 -（石田・清水）	○看護の専門性と看護実践 ○専門職とは ○看護師養成の歴史的背景 ○学士課程における人材育成 1 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。	事前学習：テキストの該当箇所を読み、疑問点などをまとめておく。（DP3） 事後学習：卒業時の到達目標をイメージする。（DP3）	事前学習 60分 事後学習 60分
3	看護教育制度と教育課程 （石田・清水）	○明治・大正・昭和（戦時期）における看護教育 ○戦後の制度改革 ○看護基礎教育の学校教育化 ○教育課程と評価 2 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。	事前学習：テキストの該当箇所を読み、疑問点などをまとめておく。（DP3） 事後学習：現在の教育課程の成立を歴史的な背景で整理する。（DP3）	事前学習 60分 事後学習 60分
4	学習理論と学習方法 1 （石田・清水）	○学習とは（行動主義・認知科学との比較） ○機械の学習と人間の学習 ○熟達者になるには 3 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、講義形式で進める。	事前学習：自己の今までの学習方法について振り返る。（DP2） 事後学習：学習の意味と、実践者に求められる学習を比較し、理解する。（DP2）	事前学習 60分 事後学習 60分
5	学習理論と学習方法 2 （石田・清水）	○学習/教授モデル ○学習の順序性とストラテジー ○学習の系統性を重視するストラテジー ○学習者中心主義のストラテジー 4 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、義形式で進める。	事前学習：自己の今までの学習方法とそのメリット・デメリットについて考える。（DP2） 事後学習：知識の種類によって最適な学習方法が異なることを理解し、己の学習方法を再考する。（DP2）	事前学習 60分 事後学習 60分
6	授業形態と教授方略 （石田・清水）	○看護基礎教育の組み立て ○活用できる知識とは ○問題解決の種類 ○知識の分類 ○学習者の知識構造	事前学習：テキストの該当箇所を読み、疑問点などをまとめておく。（DP2） 事後学習：看護基礎教育の中での知識の獲得について理解し、己の学習方法を再考する。（DP2）	事前学習 60分 事後学習 60分

		○知識の構造化 5 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、義形式で進める。		
7	教育評価 (石田・清水)	○教育評価とは ○評価の目的 ○信頼性と妥当性 ○絶対評価と相対評価 ○看護教育における評価 6 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、義形式で進める。	事前学習:テキストの該当箇所を読み、問点などをまとめておく。(DP3) 事後学習:自己の講義・演習・実習の評価に活用する。(DP3)	事前学習 60 分 事後学習 60 分
8	看護継続教育 看護教育の課題と展望 (石田・清水)	○継続教育の必要性 ○卒後教育の制度 ○臨床における看護教育 ○継続教育とクリニカルラダー 7 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライドと資料を基に、義形式で進める。	事前学習: テキストの該当箇所を読み、問点などをまとめておく。(DP4) 事後学習: 卒業後のキャリアアップのイメージをつける。(DP4)	事前学習 60 分 事後学習 60 分
備考	最終課題レポート作成:看護教育の課題と展望 8.5 時間 ・焦点を絞りテーマをつける ・表紙には、テーマ・学籍番号・氏名を明記する。 ・提出期限および方法は授業の中で説明する。 ※授業時間外の質問には原則メールで対応する。emishida@fukuoka-pu.ac.jp または、アポイントメントをとり来室すること。			

授業科目名	看護実践論			単位	1 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	演習
開講年次	3 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者： 石田智恵美 科目担当者：清水夏子				
授業概要	3 年次の実習への導入として、実習中に起こり得る出来事をシミュレーションし、未来を予測した問題解決を実践する。また、個人ワークに基づいたグループワークを行うことで、自らの判断基準を広げる。方法として、ポートフォリオを活用したプロジェクト学習・ワークシートを活用した演習を行う。看護実践の一貫として CPR（心肺蘇生法）を演習する。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	CPR に関する基礎的な知識を獲得することができる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	基礎看護技術を活用して、事例課題を解決することができる。 タスクマネジメントを通して、看護の優先度を考察することができる。		
		(DP 4)	グループワークの発表を通して、考えを適切に説明する方法を理解することができる。		
	技能	(DP10)	CPR の演習を通して実生活に活用する方法を理解する。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能					
テキスト	特になし。				
参考図書・教材等	必要に応じて配布、紹介する。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	有

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	*レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				20	30		50	100
知識・理解	(DP 2)						10	10
思考・判断・表現	(DP 3)			5	10		20	35
	(DP 4)			15	20		10	45
技術	(DP10)						10	10
備考								
レポート：授業内レポート その他：グループワークへの参加度など								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
CPR に関する基礎的な知識・技術を獲得し実施することができる。 基礎看護技術を活用して事例課題を解決することができ、実習につなげることができる。 タスクマネジメントを通して看護の優先度を決定することができる。 グループワークの発表を通して自己の考えを適切に説明することができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
CPR に関する基礎的な知識・技術について確認することができる。 事例課題の解決に向けて基礎看護技術を活用する方法を理解できる。 タスクマネジメントを通して看護の優先度について考察することができる。 グループワークを通して自己の考えを明確化できる。	

成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	コースオリエンテーション ポートフォリオの紹介 （石田 清水）	○本日のスケジュールについて ○パーソナルポートフォリオの紹介 ○実習を乗り切るためのテーマ決定	事後学習： 実習を乗り切るアイデア集を基に 各論実習に向けて準備を行う。 （DP3）、（DP4）	90 分
2	実習を乗り切るアイデア 集を作ろう （石田 清水）	○模造紙にテーマに沿ってアイデア を作成 ○各グループ発表 ○意見交換 グループワーク・全体発表で進める。		
3	実習で活用するための基礎 看護技術①	○Vital sighs ・体温と体温測定に関する知識と技術 ・血圧と血圧測定に関する知識と技術 スライドを参考にしながら、ワークシ ートの問いに対して、個人ワーク・グル ープワークを通して解決策を提案し、全 体発表で共有する。	事後学習：Vital sighs の知識と技術に ついて整理し、実習で活用できるよ うに準備をする。（DP3）、（DP4）	45 分
4	実習で活用するための基礎 看護技術②	○皮膚の機能と関連する看護技術 ・皮膚の機能 ・皮膚の機能を保つ援助技術（清拭 足浴） スライドを参考にしながら、ワークシ ートの問いに対して、個人ワーク・グル ープワークを通して解決策を提案し・全 体発表で共有する。	事後学習：皮膚の機能と関連する看 護技術の知識と技術について整理 し、実習で活用できるように準備を する。（DP3）、（DP4）	45 分
5	実習で活用するための基礎 看護技術③	○呼吸に関する援助技術 ・呼吸・循環系 ・酸素が細胞に運ばれるプロセス ・呼吸が障害される場合 ・呼吸を楽にするために スライドを参考にしながら、ワークシ ートの問いに対して、個人ワーク・グル ープワークを通して解決策を提案し・全 体発表で共有する。	事後学習：呼吸・循環系に関連する 看護技術の知識と技術について整理 し、実習で活用できるように準備を する。（DP3）、（DP4）	45 分

6	タスクマネジメント	○タスクマネジメントとは ○看護場面のシミュレーションを通して多重課題の優先度を決定する ワークシートの問いに対して、個人ワーク・グループワークを通して解決策を提案し・全体発表で共有する。	事後学習：多重課題へのマネジメントを通して、自己の優先度の判断基準を明確にする。また、グループワークによる気づきをまとめる。 (DP3)、(DP4)	45 分
7	CPR（心肺蘇生法）	○BLS の基礎知識 ○BLC の手順 ○演習/練習問題 スライドと資料により BLS の基礎知識をと手順を理解したのち、4～6 人のグループでシミュレータを使って BLS の演習を行う。練習問題で知識の確認を行う。	事後学習：BLS に関する知識と演習を振り返り、日常生活の中で遭遇した際に使える知識とする。(DP2)、(DP10)	90 分
8				
備考				

授業科目名	教師論（看護学部）			単位	2 単位
				授業コード	
履修	選択	関連資格	養護教諭免許資格	授業方法	講義
開講年次	3 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者： 石田智恵美				
授業概要	こどもを理解することを通して、望ましい教師-児童・生徒の関係、教師に求められる資質、教師としての成長について理解を深める。				
到達目標	思考・判断・表現	(DP 3)	養護教諭の役割を理解し、教育に対する考え方や期待される教師像について考察することができる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	自己の教師観や教育観に基づき、自己の課題を明らかにすることができる。 こどもを取り巻く健康問題の解決に向けて、他職種と協働・連携する必要性を理解することができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能					
テキスト	苫野一徳著、教育の力、講談社現代新書 刈谷剛彦著、学力と階層、朝日文庫 中脇初枝著、きみはいい子、ポプラ社				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				20	40		40	100
思考・判断・表現	(DP 3)			10	20		20	50
関心・意欲・態度	(DP 5)			10	20		20	50
備考								
* レポート：授業内レポート その他：課題レポート								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
養護教諭の役割を理解し、教育に対する考え方や期待される教師像について自己の考えを述べることができる 自己の教師観や教育観に基づき、自己の課題を述べることができる。 こどもを取り巻く健康問題の解決に向けて、他職種と協働・連携する必要性を述べるができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
養護教諭の役割を理解し、教育に対する考え方や期待される教師像について確認することができる。 自己の教師観や教育観に基づき、自己の課題を考察することができる。 こどもを取り巻く健康問題の解決に向けて、他職種と協働・連携する必要性がわかる。	
成績評価の基準 ルーブリック	

S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	私の教師像 教育に対する考え方	○自己紹介（養護教諭コースを選んだ理由・教師観） ○教育に対する考え方について発問・応答の系列で進める。	事前学習：教育に対する考え方および教師像について考えをまとめておく。（DP5） 事後学習：自己の教育に対する考え方について整理する。（DP5）	事前学習 90 分 事後学習 90 分
2	教員養成制度と教育職員免許法	○教員養成制度 ○教育職員免許法 1 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、資料を基に、講義形式で進める。	事前学習：教育職員の免許法について調べ学習をしておく。（DP3） 事後学習：教員養成制度と教育職員免許法について整理する。（DP3）	事前学習 90 分 事後学習 90 分
3	児童・生徒および家族を含めた教員としての関わり①	○子どもと大人 2 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、資料を基に、講義形式で進める。	事前学習：子どもと大人の資料を読んでもおく。（DP5） 事後学習：子どもと大人の違い、子どもの概念について整理する。（DP5）	事前学習 90 分 事後学習 90 分
4	児童・生徒および家族を含めた教員としての関わり②	○子どもと大人 3 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、資料を基に、講義形式で進める。	事前学習：子どもと大人の資料を読んでもおく。（DP5） 事後学習：子どもと大人の違い、子どもの概念について整理する。（DP5）	事前学習 90 分 事後学習 90 分
5	学校教育の目的と教職の位置付け	○自由の相互承認の原理 ○平等と競争・多様化の重要性 4 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、資料を基に、講義形式で進める。	事前学習：テキスト「教育の力」序章を読んでおく。（DP3） 事後学習：学校教育の目的と教職の位置付けを整理する。（DP3）	事前学習 90 分 事後学習 90 分
6	学校教育の目的と教職の位置付け	○学力の概念 ○学力格差 5 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、資料を基に、講義形式で進める。	事前学習：テキスト「教育の力」第 1 章を読んでおく。（DP3） 事後学習：学校教育の目的と教職の位置付けを整理する。（DP3）	事前学習 90 分 事後学習 90 分
7	専門家とその連携および専門職としての課題解決（チーム学校運営）	○学びの個別化 ○学びの協働化 6 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、資料およびテキストを基に、講義形式で進める。	事前学習：テキスト「教育の力」第 2 章を読んでおく。（DP3） 事後学習：学習者の成長を育む教育の連携について整理する。（DP3）	事前学習 90 分 事後学習 90 分

8	学校教育の目的と教職の位置付け	○学力評価 ○高等教育の問題 6 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、資料およびテキストを基に、講義形式で進める。	事前学習： テキスト「教育の力」第 5 章を読んでおく。（DP3）、（DP5） 事後学習：講義内容を整理し、教員に求められる資質を整理し、自己の課題を考察する。（DP3）、（DP5）	事前学習 90 分 事後学習 90 分
9	教員としての資質と継続教育	○教師の資質とは ○これからの社会と教員に求められる資質能力 8 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、資料およびテキストを基に、講義形式で進める。	事前学習： テキスト「教育の力」第 7 章を読んでおく。（DP3）、（DP5） 事後学習：講義内容を整理し、教員に求められる資質を整理し、自己の課題を考察する。（DP3）、（DP5）	事前学習 90 分 事後学習 90 分
10	教育を取り巻く社会と学校運営とのつながり	○学力と階層 ○義務教育の機会は平等か 9 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、資料およびテキストを基に、講義形式で進める。	事前学習： テキスト「学力と階層」第 1・2 章を読んでおく。（DP3） 事後学習：社会と学校運営における課題について整理する。（DP3）	事前学習 90 分 事後学習 90 分
11	学校教育制度と教職の役割について：歴史的な視点で考察する	○教育改革 ○学制 ○教育課程 10 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、スライド・資料およびテキストを基に、講義形式で進める。	事前学習：テキスト「学力と階層」の第 3・4 章を読んでおく。（DP3） 事後学習：学校教育制度の歴史と意義および教職の役割を整理する。（DP3）	事前学習 90 分 事後学習 90 分
12	教育を取り巻く社会と学校運営とのつながり	○学歴社会から学習資本主義社会へ 11 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、資料およびテキストを基に、講義形式で進める。	事前学習： テキスト「学力と階層」第 5 章を読んでおく。（DP3） 事後学習：社会と学校運営における課題について整理する。（DP3）	事前学習 90 分 事後学習 90 分
13	児童・生徒および家族を含めた教員としての関わり③	○学校教育 ○家庭教育 ○社会教育 12 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、資料およびテキストを基に、講義形式で進める。	事前学習： テキスト「きみはいい子」のを読んでおく。（DP5） 事後学習：教員の関わりかたについて考察する。（DP5）	事前学習 90 分 事後学習 90 分
14	児童・生徒および家族を含めた教員としての関わり④	○学校教育 ○家庭教育 ○社会教育 13 回目の授業後および授業中の質疑への回答をしながら、資料およびテキストを基に、講義形式で進める。	事前学習： テキスト「きみはいい子」のを読んでおく。（DP5） 事後学習：教員の関わりかたについて考察する。（DP5）	事前学習 90 分 事後学習 90 分
15	私の教師観と課題	○初回の自己の教師観との比較	事前学習：自己の教師観をまとめておく。（DP5）	事前学習 90 分
備	最終課題レポート作成：私の教育観（第 15 回目の事後学習 90 分を含む） ・焦点を絞りテーマをつける			

考

・表紙には、テーマ・学籍番号・氏名を明記する。

・提出期限および方法は授業の中で説明する。

※授業時間外の質問には、原則メールで対応する。emishida@fukuoka-pu.ac.jp または、アポイントメントをとり来室すること。

授業科目名	看護情報学			単位	1 単位
				授業コード	
履修	選択	関連資格		授業方法	演習
開講年次	2 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：増満 誠 科目担当者：増満 誠				
授業概要	「看護情報学とはコンピュータサイエンスと情報科学、看護科学を組み合わせることによって看護についてのデータ、情報、知識の処理と管理を行い、臨床看護と看護ケアの提供を支援するものである」という定義を踏まえ、看護における情報について、情報を得ること、その捉え、活用方法を演習（CST：コミュニケーション感性トレーニング）を通して体系的に学ぶ。				
到達目標	思考・判断・表現	(DP 3)	看護における情報について、その現象や意味から論理的に筋道を立てて考えることができる。		
		(DP 4)	適切なデータや情報を活用し自己の意見を述べることができる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	看護におけるあらゆる現象を的確に捉えることや活用する方法を主体的に探求することができる。		
	技能	(DP 8)	あらゆる看護にまつわる情報の中から適切な情報を取捨選択し活用することができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	PC 操作の基本的技術。				
テキスト	なし。				
参考図書・教材等	授業時適宜紹介する。				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	有 (第 15 回)

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				50	30	10	10	100
思考・判断・表現	(DP 3)			20	10			30
	(DP 4)			10	10		10	30
関心・意欲・態度	(DP 5)			10				10
技術	(DP 8)			10	10	10		30
備考								
その他には、演習・発表の中での相互評価法のひとつであるピアレビューの状況や結果を含む。								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
S 評価レベル：看護におけるあらゆる情報について、適切な情報を取捨選択し活用することができ、その現象や意味から論理的に筋道を立てて考えることができる。そしてそれらのデータや情報を活用し自己の意見を述べることができる。さらには、看護におけるあらゆる現象を的確に捉えることや活用する方法を主体的に探求することができる。 A 評価レベル：看護におけるあらゆる情報について、適切な情報を取捨選択し活用することができ、その現象や意味から論理的に筋道を立てて考えることができる。そしてそれらのデータや情報を活用し自己の意見を	

述べることができる。	
B 評価レベル：看護におけるあらゆる情報について、適切な情報を取捨選択し活用することができ、その現象や意味から論理的に筋道を立てて考え、自己の考えを述べることができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
C 評価レベル：看護におけるあらゆる情報について、適切な情報を取捨選択し活用することができ、その現象や意味を考え、述べるができる	
成績評価の基準 ルーブリック	
S 履修目標を越えたレベルを達成している	
A 履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している	
B 履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している	
C 到達目標を達成している	
D 到達目標を達成できていない	

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	看護情報学とは（増満誠）	看護情報学の定義と本授業における定義について	事前学習：看護情報学をなぜ学ぶのかについて、実習での経験を踏まえて考えをまとめてくる。 事後学習：看護に情報を役立てるためには、どのような知識・技術が必要なのか考えをまとめる。	事前学習 20 分 事後学習 25 分
2	情報を得るとは①：CST① 5 感の活用（増満誠）	情報について、再考し、なかでも情報を得る五感について演習（体験）を交えて理解を深めていく。	事前学習：五感についてそれぞれの受容体と機能について調べてくる。 事後学習：意識して五感を磨くために必要な要素を振り返る。	事前学習 25 分 事後学習 20 分
3	情報を得るとは②：CST②コミュニケーション（増満誠）	得られた情報をコミュニケーションの場でどのように表現していくのか演習を交えて理解を深めていく。	事前学習：コミュニケーションにおける大切な要素について調べてくる。	事前学習 20 分 事後学習
4	情報を得るとは③：CST③コミュニケーションエラー（増満誠）	情報のやり取りであるコミュニケーションの場面でその媒体となるものを操作することによって、いかにエラーが発生してしまうのか演習（体験）を交えて理解を深めていく。	事後学習：伝える・伝わる表現力を身に付けるために必要な要素を振り返る。	25 分
5	情報を捉える枠組み①：CST④フレームワーク（増満誠）	情報をとらえたり認知したりする枠組みについて演習（体験）を交えて理解を深めていく。	事前学習：情報をとらえる枠組みをいくつか選択し事前にまとめてくる。 事後学習：事前学習や演習で扱った種々の枠組みの特徴についてまとめておく。	事前学習 25 分 事後学習 20 分

6	情報を捉える枠組み②：CST ⑤自動思考・価値討論（増満誠）	情報における自身の認知の枠組み（自動思考）他者との価値観の相違について討論し、自動思考や価値の多様性について理解を深めていく。	事前学習：自動思考とは何か調べてくる。 事後学習：価値討論における自身の特徴を振り返り自己分析を行う。	事前学習 20 分 事後学習 25 分
7	看護における統計の基礎と実際（増満誠）	看護において頻用される統計の基礎について、情報の視点から演習を交えて理解を深めていく。	事前学習：既修の統計用語について復習しまとめてくる。 事後学習：演習で行った統計方法について再度類似問題を検索し計算しておく。	事前学習 25 分 事後学習 20 分
8	情報を活用する方法①：CST ⑥プレゼンテーション（増満誠）	得られた情報や伝えたい情報をいかにパフォーマンスしていくかについて、プレゼンテーションの技術とともに演習を交えてその技術を習得していく。	事前学習：プレゼンテーションスキルに大切な要素について調べてくる。 事後学習：演習で得たスキルを周りの人に表現し、その評価をもらう。	事前学習 20 分 事後学習 25 分
9	情報を活用する方法②：CST ⑦情報と言葉（増満誠）	情報の伝達において、言葉の選択と使用がどのような影響を与えるかについて、また情報リテラシーとともに演習を交えて理解を深めていく。	事前学習：日常に使われる言葉と医療現場で使われる言葉において、異なる意味で使われる言葉を調べてくる。 事後学習：情報リテラシーとして必要な要素について自分の考えをまとめる（レポート）。	事前学習 15 分 事後学習 30 分
10	看護情報学の実際①：電子カルテ/標準看護計画（増満誠）	医療現場における電子カルテや標準看護計画の現状とその功罪について考える。	事前学習：電子カルテの定義について調べてくる。 事後学習：任意の5つの病院を抽出し、ホームページ上から、電子カルテや標準看護計画の使用状況をまとめる。	事前学習 15 事後学習 30 分
11	看護情報学の実際②：e ラーニング（増満誠）	医療・看護情報に関する e ラーニングのコンテンツについて演習を交えてその概要を知り、今後の活用方法を習得していく	事前学習：公開されている医療職向けの e ラーニングにはどのようなものがあるか検索する。 事後学習：自分の興味のある看護・医療テーマの e ラーニングを検索し体験できるものを体験する。	事前学習 20 分 事後学習 25 分
12	看護情報学の実際③：ホームページ（増満誠）	医療・看護情報がどのように一般市民に対してホームページで公開されているのかについて演習を交えてその実際を知る。	事前学習：ホームページで公開されている医療・看護情報において興味のあるテーマを一つ選び、複数のホームページからそのテーマについての公開方法や公開内容について比較検討を行う。 事後学習：ホームページ作成における必要な要素をまとめる。	事前学習 30 分 事後学習 15 分

13	これからの看護情報学（グループワーク①）（増満誠）	演習を通して学び考えてきたことを踏まえて PBL の手法を用いて、グループでテーマを設定しグループワークを行い、最終回の発表につなげる。	事前学習：これまでの学びの中から取り組みたいテーマを考えてくる。 事後学習：プレゼンテーションの方法を再考し、最高のパフォーマンスができるよう準備を行う。	事前学習 30 分 事後学習 15 分
14	これからの看護情報学（グループワーク②）（増満誠）			
15	これからの看護情報学（発表会）（増満誠）	設定したテーマについてプレゼンテーションを行うとともに、ピアレビューを行う。	事前学習：プレゼンテーションの方法を再考し、最高のパフォーマンスができるよう準備を行う。 事後学習：ピアレビューで得られた評価から自己評価を行う。	事前学習 15 分 事後学習 30 分
備考				

授業科目名	キャリア像確立講義Ⅰ Career Design for NursingⅠ			単位	1 単位
				授業コード	
履修	選択	関連資格		授業区分	講義
開講年次	1 年、2 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目担当責任者：松浦賢長 科目担当者：松浦賢長・原田直樹・吉田恭子・増満誠				
授業概要	本授業は、多様な価値を理解し共有する学生を養成し、「しなやか使命感」を有する看護職者の育成を目指し、九州・沖縄の 8 つの看護系大学と 5 つの専門機関（ステークホルダー）が連携しビデオオンデマンドシステム（VOD）による講義を展開する。「しなやか使命感」の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につけるため、看護の第一線で活躍する看護専門職者が講師となり、さまざまな分野での経験を教授していく。看護の分野也多岐にわたっており、将来の理想の看護師像を広い視野を持って描くことを目的とする。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	キャリア形成に関する問題や課題を探究するために必要な方法を知ることができる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	キャリアについての諸問題や課題について論理的に筋道を立てて考えることができる。		
		(DP 4)	他者の考えや意見を踏まえ、自己の意見を述べることができる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	キャリア像確立探求の過程を通して、しなやかな使命感の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につけるよう素地を養い、理想の看護師像を描くことができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	なし				
テキスト	なし				
参考図書・教材等	なし				
実務経験を生かした授業	医療機関に勤務する者が、その実務経験をもとに、各専門領域における看護師としてのキャリアについて講義する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				50			50	100
知識・理解	(DP 2)		10				10	20
思考・判断・表現	(DP 3)		10				10	20
	(DP 4)		10				10	20
関心・意欲・態度	(DP 5)		20				20	40
備考								
VOD 利用に際し、アカウントを発行するので、所定の手続きを行うこと。								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
キャリア形成に関する問題や課題を探究するために必要な方法を十分に知ることができる。 キャリアについての諸問題や課題について論理的に筋道を立てて考えることができる。 他者の考えや意見を踏まえ、他者にわかりやすく自己の意見を述べることができる。 キャリア像確立探求の過程を通して、しなやかな使命感の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につけるよう素地を十分に養い、理想の看護師像を描くことができる。	

到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
キャリア形成に関する問題や課題を探究するために必要な方法を知ることができる。 キャリアについての諸問題や課題について考えることができる。 他者の考えや意見を踏まえ、他者に自己の意見を述べることができる。 キャリア像確立探究の過程を通して、しなやかな使命感の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につけるよう素地を養い、理想の看護師像を描くことができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	「しなやか使命感」を身につけるために「ガイダンス」 (福岡県立大学：松浦賢長)	VOD により講義を行う。	事後学習 専門看護師、認定看護師の役割についてまとめる。(DP 2)	事後学習 180 分
2	精神保健看護における「しなやか使命感」～スペシャリストから～ (福岡病院：青本さとみ)	VOD により講義を行う。	事前学習 精神科リエゾンについて調べなさい。 (DP 2・3) 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。(DP 2・3・4・5)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
3	がん看護における「しなやか使命感」～スペシャリストから～ (国立がん研究センター東病院：佐々木千幸)	VOD により講義を行う。	事前学習 わが国におけるがん患者の年次推移を調べなさい。(DP 2・3) 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。(DP 2・3・4・5)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
4	地域・在宅における「しなやか使命感」～スペシャリストから～ (古賀総合病院地域医療連携室副室長：長内さゆり)	VOD により講義を行う。	事前学習 地域および在宅ケアにかかわる看護職者を調べなさい。(DP 2・3) 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。(DP 2・3・4・5)	事前学習 90 分 事後学習 90 分

5	救急看護における「しなやか使命感」～スペシャリストから～ (日本赤十字九州国際看護大学：清末定美)	VOD により講義を行う。	事前学習 一次救命、二次救命、三次救命の役割、機能を調べなさい。(DP 2・3) 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。(DP 2・3・4・5)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
6	看護管理・行政・スペシャリスト(システム)における「しなやか使命感」～スペシャリストから～ (国際医療福祉大学級九州地区生涯学習センター副センター長：神坂登世子)	VOD により講義を行う。	事前学習 看護基準 7:1 を満たす条件について調べなさい。(DP 2・3) 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。(DP 2・3・4・5)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
7	国際看護における「しなやか使命感」～スペシャリストから～ (国立国際医療研究センター病院看護部長：木村弘江)	VOD により講義を行う。	事前学習 わが国を訪れる、または在住する外国人の年次推移を調べなさい。(DP 2・3) 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。(DP 2・3・4・5)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
8	災害看護における「しなやか使命感」～スペシャリストから～ (兵庫県災害医療センター看護部長：足立久美子、看護師長：津田雅美)	VOD により講義を行う。	事前学習 DMAT の役割や機能、構成員について調べなさい。(DP 2・3) 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。(DP 2・3・4・5)	事前学習 90 分 事後学習 90 分
備考	講義内容の質問や疑問は、担当者に直接問い合わせるかメールによる相談を受け付ける。 事前学習および事後学習に関することは、メールによる相談を受け付ける。(吉田恭子：k-yoshida@fukuoka-pu.ac.jp) VOD に関することは、メールによる相談を受け付ける。(増満誠：masumitsu@fukuoka-pu.ac.jp) 終了課題：「あなたの考えるしなやか使命感とは何か。講義内容を踏まえて述べなさい。」(レポート)			

授業科目名	キャリア像確立講義Ⅱ Career Design for Nursing Ⅱ			単位	1 単位
				授業コード	
履修	選択	関連資格		授業区分	講義
開講年次	3 年,4 年年次	開講時期	後期		
担当教員	科目担当責任者：松浦賢長 科目担当者：松浦賢長・原田直樹・吉田恭子・増満誠				
授業概要	本授業は、多様な価値を理解し共有する学生を養成し、「しなやか使命感」を有する看護職者育成のために、九州・沖縄の 8 つの看護系大学と 5 つの専門機関（ステークホルダー）が連携協力し、ビデオオンデマンドシステム（VOD）による講義を展開する。「しなやか使命感」の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につけるため、看護職者として活躍する連携大学の卒業生より講話を看護の聞き、学生の時期に身につけておきたい専門職者の特性や能力、看護職者として就職した際の悩みや困難感についての講義を通し、より実際の看護師像を描くことを目的とする。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	キャリア形成に関する問題や課題を探究するために必要な方法を知ることができる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	キャリアについての諸問題や課題について論理的に筋道を立てて考えることができる。		
		(DP 4)	他者の考えや意見を踏まえ、自己の意見を述べることができる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	興味関心を持ったキャリア像について主体的に探究することができ、キャリア像確立探求の過程を通して、しなやかな使命感の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につける素地を養い、より実際的な看護師像を描くことができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	なし				
テキスト	なし				
参考図書・教材等	なし				
実務経験を生かした授業	医療機関に勤務する者が、その実務経験をもとに、各専門領域における看護師としてのキャリアについて講義する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				50			50	100
知識・理解	(DP 2)			10			10	20
思考・判断・表現	(DP 3)			10			10	20
	(DP 4)			10			10	20
関心・意欲・態度	(DP 5)			20			20	40
備考								
VOD 利用に際し、アカウントを発行するので、所定の手続きを行うこと。								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容(授業のねらい)を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
キャリア形成に関する問題や課題を探究するために必要な方法を十分に知ることができる。 キャリアについての諸問題や課題について論理的に筋道を立てて考えることができる。 他者の考えや意見を踏まえ、他者にわかりやすく自己の意見を述べることができる。 興味関心を持ったキャリア像について主体的に探究することができ、キャリア像確立探求の過程を通して、しなや	

かな使命感の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につける素地を十分に養い、より実際的な看護師像を描くことができる。

到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

キャリア形成に関する問題や課題を探究するために必要な方法を知ることができる。
 キャリアについての諸問題や課題について考えることができる。
 他者の考えや意見を踏まえ、自己の意見を述べることができる。
 興味関心を持ったキャリア像について主体的に探究することができ、キャリア像確立探求の過程を通して、しなやかな使命感の構成要素である規律性、協調性、積極性、柔軟性を身につける素地を養い、より実際的な看護師像を描くことができる。

成績評価の基準 ルーブリック

S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	「しなやか使命感」を身につけるために「ガイダンス」 (福岡県立大学：松浦賢長)	VOD により講義を行う。	事前学習 目指す看護師像についてまとめなさい。	事後学習 90 分
2	離島看護における「しなやか使命感」～卒業生から～ (沖縄県病院事業局：知念久美子、座間味診療所：富山鈴華)	VOD により講義を行う。	事前学習 日本ルーラルナース学会などから興味のある論文を一つ読みなさい。 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
3	地域・在宅看護における「しなやか使命感」～卒業生から～ (伊江村：照屋光希)	VOD により講義を行う。	事前学習 地域包括ケアシステムにおける看護の役割を調べなさい。 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
4	プレ CNS および CNS における「しなやか使命感」～卒業生から～ (浦添総合病院：伊藤智美)	VOD により講義を行う。	事前学習 CNS の役割と機能を調べなさい。 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。	事前学習 90 分 事後学習 90 分

5	救急看護における「しなやか使命感」～卒業生から～ (横浜労災病院：佐伯昌美)	VODにより講義を行う。	事前学習 地域救命救急センターの機能について調べなさい。 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。	事前学習 90分 事後学習 90分
6	海外での看護における「しなやか使命感」～卒業生から～ (日本赤十字九州国際看護大学：宇都宮真由子、独立行政法人国際協力機構：橋爪亜希)	VODにより講義を行う。	事前学習 看護職者がJICAにおいて、どのように活動しているか調べなさい。 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。	事前学習 90分 事後学習 90分
7	国際看護における「しなやか使命感」～卒業生から～ (国立国際医療研究センター：高波真司・内田早苗)	VODにより講義を行う。	事前学習 わが国を訪れる、または在住する外国人の年次推移および疾病の特徴を調べなさい。 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。	事前学習 90分 事後学習 90分
8	災害看護における「しなやか使命感」～卒業生から～ (兵庫県災害医療センター：津田雅美)	VODにより講義を行う。	事前学習 高度救命救急センターの機能について調べなさい。また、地域救命救急センターとの相違について調べなさい。 事後学習 事前学習および講義内容から学んだことをまとめなさい。	事前学習 180分 事後学習 90分
備考	講義内容の質問や疑問は、担当者に直接問い合わせるかメールによる相談を受け付ける。 事前学習および事後学習に関することは、メールによる相談を受け付ける。(吉田恭子：k-yoshida@fukuoka-pu.ac.jp) VODに関することは、メールによる相談を受け付ける。(増満誠：masumitsu@fukuoka-pu.ac.jp) 終了課題：「あなたの考えるしなやか使命感とは何か。講義内容を踏まえて述べなさい。」(レポート)			

授業科目名	統合実習			単位	2 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	実習
開講年次	4 年次	開講時期	通年		
担当教員	科目責任者： 石田智恵美 科目担当者： 看護学部全教員				
授業概要	既習の知識・技術を統合し、臨床現場に即した実践能力や問題解決能力を養う。また看護を科学的に探究することを通して、看護への関心と意欲を高め、自己の看護観を深める。				
到達目標	知識・理解	(DP 1)	既習の知識・技術を確認することができる。		
		(DP 2)			
	思考・判断・表現	(DP 3)	対象の健康問題について多角的な視点で思考・判断できる。 看護専門職者として、看護を科学的に探究する論理的思考ができる。		
		(DP 4)	適切な看護を提供するために多職種と協働・連携する必要性が理解できる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	看護職に就いている自分をイメージし、自己の看護観を深め課題を見出すことができる。		
		(DP 6)			
	技能	(DP10)	複数の対象者に対し、優先順位を考慮した最適な看護ケアを実践するプロセスを学び活用できる。 既習の基礎的看護能力を統合した看護実践ができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	これまでの講義・演習・実習で獲得した知識および技術を活用する。				
テキスト	各担当教員が提示する。				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合								100
知識・理解	(DP 1)			5			5	10
	(DP 2)			5			5	10
思考・判断・表現	(DP 3)			25				25
	(DP 4)			5			5	10
関心・意欲・態度	(DP 5)			10				10
	(DP 6)			10				10
技術	(DP10)			10			15	25

備考 その他：実習記録物及び看護実践

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
対象の健康問題について多角的な視点で思考・判断できる。 看護専門職者として、看護を科学的に探究する論理的思考ができる。	

適切な看護を提供するために多職種と協働・連携する必要性について述べることができる。
 看護職に就いている自分をイメージし、自己の看護観を深め課題を明確にすることができる。
 複数の対象者に対し、優先順位を考慮した最適な看護ケアを実践するプロセスを学び活用できる。
 既習の基礎的看護能力を統合した看護実践ができる。

到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

対象の健康問題について多角的な視点で思考・判断する必要性がわかる。
 看護専門職者として、看護を科学的に探究する論理的思考の必要性がわかる。
 適切な看護を提供するために多職種と協働・連携する必要性が理解できる。
 看護職に就いている自分をイメージし、自己の看護観を深め課題を見出すことができる。
 複数の対象者に対し、優先順位を考慮した最適な看護ケアを実践するプロセスがわかる。
 既習の基礎的看護能力を統合した看護実践の必要性がわかる。

成績評価の基準 ルーブリック

S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

日	授業内容（担当教員）	授業の進め方
	詳細については、統合実習要項を参照 1) 実習時期・期間 ・原則として7月から8月の10日間 2) 実習時間 ・原則として8時30分～16時30分 3) 実習方法 ・既習の学習から自己の課題を明らかにし、さらに深めるために必要と考える実習領域を、「領域別実習概要」から選択する。 ・実習計画は主体的に立案し、教員及び実習指導者、または関連部署の他職種の方々と調整をはかりながら、対象者への看護提供を展開するとともに医療現場への理解を深める。 ・実習終了後、「統合実習のまとめ(レポート)」を作成する。 ・事前学習、記録などについては、担当教員の指示によるものとする。 4) 実習場所 ・病院、介護保健施設、訪問看護ステーション等	概要は次のとおり。各実習場所により異なる。 < 1 週目 > ・施設オリエンテーション、病棟オリエンテーション ・受け持ち患者選定（2人以上を受け持つ） ・シャドウイング実習：看護師の業務や管理者についてシャドウイングを行う ・受け持ち患者の情報収集を行い、一日の看護計画立案と調整、ケアの実施 ・関連部署や他職種とのカンファレンスへの参加など ・中間カンファレンス（患者の今後の予測を含めた看護計画の修正） 2 週目 ・情報収集、一日の看護計画立案と調整、ケアの実施 ・関連部署や他職種とのカンファレンスへの参加など ・最終カンファレンス（自己の学び、課題の発表） ・実習のまとめ ・実習記録の提出

備考	

授業科目名	専門看護学ゼミ			単位	2 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格		授業方法	演習
開講年次	3 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者： 科目担当者：全教員				
授業概要	これまでの学習を通して、疑問や興味関心を持った看護上の現象や問題点について探究する。その過程を通して論理的思考や倫理的態度を養うと共に、研究を進めていく上で必要な基礎知識を習得する。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	学術研究の基本を理解し、論文を批判的に読むことができる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	看護上の現象や諸問題について、論理的に筋道を立てて考えることができる。		
		(DP 4)	他者の考えや意見を踏まえ、論点となる議論について自己の意見を述べる ことができる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	疑問や興味関心を持った看護上の現象や問題点を主体的に探究すること ができる。		
	技能	(DP10)	課題探求の過程を通して、倫理的態度を身につけることができる。		
授業内容を理解 するために必要 な知識・技能	看護研究を履修していることが望ましい。				
テキスト	各担当の教員が提示する。				
参考図書・ 教材等					
実務経験を生 かした授業				授業中 の撮影	×

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				80	20			100
知識・理解	(DP 2)			10	5			15
思考・判断・表現	(DP 3)			25	5			30
	(DP 4)			10	5			15
関心・意欲・態度	(DP 5)			25	5			30
技能	(DP10)			10				10

備考

全教員が担当するので、詳しくは各教員から説明がある。担当教員のもとでグループおよび個別形式などによる指導を受ける。

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
これまでの学習を通して、疑問や興味関心を持った看護上の現象や問題点について主体的に探究する。その過程を通して論理的思考や倫理的態度を養うと共に、研究を進めていく上で必要な基礎知識を修得できる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

これまでの学習を通して、看護上の現象や問題点について探究する。その過程を通して論理的思考や倫理的態度を養いつつ、研究を進めていく上で必要な基礎知識を修得する努力ができる。

成績評価の基準 ルーブリック

S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1～2回	専門看護ゼミ	オリエンテーション	事前・事後学習 第4回の授業「興味・関心のあるテーマ」について絞る。所定用紙に興味を持った背景について記載する。	270分
3～4回	看護を深めるための学術論文	学術論文の構成についてグループワークをとおして理解する。		
5～6回	学術論文の種類	看護分野における論文の種類		
7～8回	興味・関心のあるテーマ	各人の興味関心のあるテーマをもちより発表し検討する。	事後学習 「興味・関心のあるテーマ」 授業で検討した内容を反映させる。	90分
9～10回	文献検索の実際1	図書館にて、医学中央雑誌、CiNii、OPACなど和文献の検索方法について理解する。	事前学習 第8回～14回の準備 「興味・関心のあるテーマ」について和文献および洋文献をもとに検索し、関心ある論文を読む。	270分
11～12回	文献検索の実際2	図書館にて、PubMed、MEDLINE、CINAHLなど洋文献の検索方法について理解する。		
13～14回	興味・関心のあるテーマの文献検索と Key Word	和文献、洋文献をもとにテーマに関する文献検索をする。		
15～28回	看護の文献の講読	文献をもとに講読しながら理解を深める。	事前学習 文献を事前に読んでおく。 「興味・関心のあるテーマについて研究計画書を作成する」についてレポートにて提出する。	各 90分
29～30回	テーマに関するまとめ	調べた文献をもとに、研究計画書を作成し、グループで討議する。		
備考	オフィスアワーについては、担当教員と日程調整する。 回数1回は2時限の授業とする。			

授業科目名	卒業研究 Graduation Research			単位	2 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格		授業方法	演習
開講年次	4 年次	開講時期	通年		
担当教員	科目責任者：科目担当者：全教員				
授業概要	これまでの学習を通して、疑問や興味関心を持った看護上の現象や問題点について探求する。その過程を通して論理的思考や倫理的態度を養う。疑問や興味、関心を持った看護上の現象や問題点について、自ら探求し、その結果から自らの考え方を導き出し、論文としてまとめる。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	研究成果をわかりやすくまとめ、適切な文章が記載できている。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	興味関心を持った看護上の現象や問題から研究課題を見出すことができている。		
		(DP 4)			
	関心・意欲・態度	(DP 5)	見出した課題を主体的に探究することができる。 自らが立てた計画に基づいて研究活動ができている。 研究活動を通して、研究を行う上で必要な態度を身につけている。		
	技能	(DP10)	研究を行ううえで、必要な倫理的配慮ができている。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	看護研究・専門看護学ゼミを履修していることが望ましい。				
テキスト	各担当の教員が提示する。				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	×

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				75	25			100
知識・理解	(DP 2)			10	5			15
思考・判断・表現	(DP 3)			25	5			30
	(DP 4)			10	5			15
関心・意欲・態度	(DP 5)			25	5			30
技能	(DP10)			5	5			10

備考

専門看護学ゼミと連動する。全教員が担当するので、詳しくは各教員から説明がある。担当教員のもとでグループおよび個別形式などによる指導を受ける。

倫理審査：研究対象が他施設の人などの場合、施設の倫理委員会の承認を得る（施設で決められた手順に則り審査を受ける）。どうしても倫理審査が必要な場合は、学内の研究倫理委員会に担当教員が申請する。

論文執筆：原則、科学論文の形式とする。具体的な執筆要領は e ラーニングを参照すること。卒業研究（論文）・抄録の提出は 12 月 20 日（期日厳守、ただし、当日が通常授業日以外の場合は、翌日以降の直近の通常授業日までとする）。

発 表 ：時期と方法はあらためて通知する。

その他 ：グループ研究は可能である。ただし、個人で研究論文をまとめ、提出する。

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
看護上の現象や問題に自ら関心を抱き、探究心を土台に看護上の現象や問題点について、柔軟な思考のもとで、これまでの文献検討や調査、実験、他者からの意見等から自らの考え方を導き出し論文としてまとめることができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
看護上の現象や問題に漠然と関心を抱き、看護上の現象や問題点について、これまでの文献検討や調査、実験、他者からの意見等から自らの考え方を導き出し論文としてまとめることができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1～26 回	1 研究 ・研究背景 ・研究目的 ・方法 対象者 データ収集と分析 ・結果 ・考察と結論	基本的にグループワークとする。 卒業論文のテーマに関連した文献（引用文献、参考文献）を熟読したものをもとに、研究の背景、得られた結果、看護への意義および必要性等について、各人が理解する。グループワークの際には自分の考えたことを意見として、参加者にわかりやすくのべることができるようにする。	卒業論文のテーマに関連した文献（引用文献、参考文献）を熟読し、文献リストを作成する。	1～10 回 各回 90 分
	2 論文作成		個人の段階にあわせ、論文を作成する。	11～26 回 各回 90 分
	3 発表準備			
27～30 回	4 卒業研究成果発表	卒業研究について、発表準備をする。また、質疑応答をグループ間で行い、根拠をもって自らの考えをもとめる。	ポスターのスライドを作成する。発表の準備をする。	360 時間
備考	オフィスアワーについては、担当教員と日程調整する。			

授業科目名	公衆衛生看護学Ⅰ			単位	2 単位	
	Public Health Nursing Ⅰ			授業コード		
履修	必修	関連資格	保健師国家試験受験資格		授業方法	講義
開講年次	2 年次	開講時期	後期			
担当教員	科目責任者：尾形由起子 科目担当者：山下清香・小野順子・手島聖子・檜橋明子					
授業概要	公衆衛生の理念を基盤とした看護活動の意義を理解するとともに、地域で生活する全ての人々を対象とした公衆衛生看護活動の特徴と基本的な考え方を学ぶ。 生活者、家族、小集団、コミュニティを対象に予防的視点で活動する公衆衛生看護活動について、ライフサイクル、健康課題、活動の場等異なる視点から多角的に学ぶ。					
到達目標	知識・理解	(DP 2)	公衆衛生の理念を基盤とした看護活動の意義を理解するとともに、地域で生活する全ての人々を対象とした公衆衛生看護活動の特徴と基本的な考え方を理解する。			
	思考・判断・表現	(DP 3)	生活者、家族、小集団、コミュニティを対象に予防的視点で活動する公衆衛生看護活動について、ライフサイクル、健康課題、活動の場等異なる視点から多角的に論ずることができる。			
授業内容を理解するために必要な知識・技能	生体機能看護学Ⅰ・Ⅱ、病態看護学Ⅰ・Ⅱを修得していることが望ましい。					
テキスト	テキスト：井伊久美子他編、『新版第 3 版 2018 年版保健師業務要覧』、日本看護協会出版会 2013、4,536 円					
参考図書・教材等	国民衛生の動向（最新版）					
実務経験を生かした授業	実務経験を有する教員が講義を行う。 ゲストティーチャーを招く。			授業中の撮影	有	

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		6 0		2 0			2 0	1 0 0
知識・理解	(DP 2)	6 0						6 0
思考・判断・表現	(DP 3)			2 0			2 0	4 0
授業への出席、授業態度を評価に含む。								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
S 評価レベル：公衆衛生看護活動の目的や意義を理解し、地域で生活する全ての人々を対象とした看護活動についてその特徴や基本的な考え方を理解できる。 ・公衆衛生看護の対象となる個人、家族、小集団、コミュニティの特徴やニーズが理解できる。 ・公衆衛生看護活動の基本的理念に基づき対象を理解し、ライフステージ、健康課題、活動の場などの異なる視点を持って多角的に活動が展開されていることを理解することができる。 A 評価レベル：公衆衛生看護活動の目的や意義を理解し、地域で生活する全ての人々を対象とした看護活動についてその特徴や基本的な考え方を理解できる。 ・公衆衛生看護の対象となる個人、家族、小集団、コミュニティの特徴やニーズを把握する必要性が理解できる。 ・公衆衛生看護活動の基本的理念に基づき対象を理解し、ライフステージ、健康課題、活動の場などの異なる視点で活動が展開されていることを理解することができる。 B 評価レベル：公衆衛生看護活動の目的や意義を理解し、地域で生活する全ての人々を対象とした看護活動についてその特徴や基本的な考え方を理解できる。 ・公衆衛生看護の対象となる個人、家族、小集団、コミュニティにはそれぞれ特徴がありニーズが異なることを理解できる。	

・ 予防的視点で活動する公衆衛生看護活動の必要性が理解できる。

到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

・ 公衆衛生看護活動の目的や意義を理解し、地域で生活する全ての人々を対象とした保健師の看護活動の特徴や活動方法、内容を理解することが出来る。
・ 公衆衛生看護が予防的視点で展開されている事を理解できる。

成績評価の基準 ルーブリック

S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	公衆衛生看護学の基盤となる概念(尾形)	1. 授業概要・到達目標・評価方法についてガイダンスする。 2. 講義 1) 保健師の仕事のミッション 2) 公衆衛生看護とは 3) ライフステージの健康問題 4) 社会システムのなかの保健活動 5) 保健師の活動の特徴 6) 地域で求められる人材像 2. バズセッション (保健師について知りたいこと)	事前学習 テキスト保健師業務要覧 p 2- p 47 を読む。 事後学習 パワーポイント資料を読んで復習する。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
2	公衆衛生看護の歴史「時代を読む」(山下) 1) 福岡県立大学看護学部の変遷 ・ 県立養成所から大学へ ・ 時代背景と看護職養成機関の役割 2) 保健師の身分制度 ・ 保健師規則と保助看法 3) 健康問題の変遷と保健師の活動の特徴 ・ 戦前～戦後～昭和～平成	1. 講義 福岡県立看護専門学校から引き継いだ歴史的資料の紹介し、現在は過去の歴史の上に立っており、学生各自がその流れの中にいることを確認する。 戦前からの健康課題と保健師の活動の変遷は、イメージしやすいように DVD(公衆衛生看護の歴史)を視聴する。 パワーポイントで要点をまとめる。	事前学習 ①テキスト保健師業務要覧 p 159- p 161 を読む 事後学習 ① 配布資料を読む ②学内にある福岡県立専門学校関連の資料を探して読む ③パワーポイント資料を読んで復習する。	事後学習 ①60 分 ②60 分 ③90 分
3	ライフサイクルから見た健康課題とニーズの把握「地域を見る」(尾形)	1. 講義 1) 公衆衛生看護活動の目的および活動サイクル 2) 公衆衛生看護過程 3) 地域看護における看護理論 4) 保健統計から見える課題抽出 5) 人々の健康状態、生活様態を把握し、健康課題を抽出する方法	事前学習 テキスト保健師業務要覧 p 92- p 108 を読む 事後学習 ①講義内容を復習する。 ・ コミュニティーアズパートナーモデル ・ 看護過程の展開 ・ 保健統計から見える健康課題	事前学習 ①30 分 事後学習 ①120 分
4	公衆衛生看護活動と母子保健①(手島)	1. 講義 ライフステージや核家族の発達段階と健康課題について理解する。 育児をめぐる社会情勢の変化について理解する。 母子保健の歴史や子育て支援施策について学ぶ。 子ども虐待対応の枠組みや虐待防止対策	事前学習 ①テキスト保健師業務要覧 p 258- p 273 を読む。 事後学習 ① 配布資料を読む ②パワーポイント資料を読んで復習する。(DP2)	事前学習 ①60 分 事後学習 ①60 分 ②60 分

		のこれまでの取り組みと今後の対応について知る		
5	公衆衛生看護活動と母子保健②(手島・ゲストティーチャー)	1. 講義 母子保健事業と保健師の役割について学ぶ。 思春期福祉体験学習事業について、高校生を対象とした保健師課程 4 年生の健康教育を見学し、解説する。 看護職として、若者の性感染症の実態について健康教育を見学し、理解する。 保健師の仕事についてイメージできる。	事前学習 ①育児支援に関する配布資料を読んで支援策の概要と子育て支援のニーズについて A 4 1 枚まとめ提出する。 事後学習 思春期福祉体験学習事業と性感染症や保健師について考えたことについてレポートを作成する。(DP2,DP3)	事前学習 ①120 分 事後学習 ①120 分
6	公衆衛生看護活動と成人保健(小野)	1. 講義 成人期の人々の生活状況や生活の背景、健康状態から成人期の健康問題と健康課題について学ぶ。その上で、健康課題に対する施策や事業、個人、集団地域を対象とした公衆衛生看護活動を学ぶ。	事前学習 ・テキスト保健師業務要覧 p312 - p319 を読む 事後学習 ①成人期の主要な死亡原因、有病率、有訴者割合等の健康状態を理解する上で有用な統計情報について国民衛生の動向で確認し配布資料にまとめる。 ②授業で配布した資料を読み、成人期の人の健康状態が一緒に生活をする家族にどのような影響を与えるかについて考える。(DP2)	事前学習 ①45 分 事後学習 ①60 分 ②60 分
7	公衆衛生看護活動と高齢者保健(尾形)	1. 講義 1) 高齢期(エリクソンの視点で) 2) 我が国の高齢者施策の変遷 3) 高齢者保健福祉活動の目指すところ 4) 虚弱高齢者事例より寝たきり予防について 5) 健康レベルの変更に伴う医療・ケアの連続 6) 保健福祉行政の役割。機能 7) 地域における高齢者保健活動について	事前学習 ①テキスト保健師業務要覧 p 297- p 311 を読む 事後学習 ①国民衛生の動向で、高齢者の健康状態に関する保健統計を確認し、考えられる健康課題を考える。	事前学習 ①60 分 事後課題 ①120 分
8	公衆衛生看護活動と感染症対策(小野)	1. 講義 我が国の感染症の動向と社会的背景及び感染症に関連した健康問題、健康課題を学ぶ。その上で、健康課題に対する施策や事業、個人・家族、集団、地域を対象とした公衆衛生看護活動を学ぶ。	事前学習 ①テキスト保健師業務要覧 p 328- p 343 を読む (DP2) 事後学習 ①自分が住んでいる自治体で行われている感染症対策について調べて次回レポートを提出する。(DP2)	事前学習 ①60 分 事後学習 ①120 分
9	公衆衛生看護活動と難病看護(檜橋)	難病患者の生活や心情を知り、我が国における難病の概念とその歴史を学ぶ。また、難病患者を支える制度と個人・家族・集団・地域を対象とした難病患者を支える保健師の活動について学ぶ。	事前学習 ①テキスト保健師業務要覧 p 346- p 350 を読む。 事後学習 ①難病患者を支える制度について調べまとめる。	事前学習 ①60 分 事後学習 ①120 分
10	公衆衛生看護活動と精神保健(手島)	1. 講義 ライフステージと精神保健福祉の対象を理解する。 精神保健の歴史や動向を理解する 精神障がい者(統合失調症)とその家族への理解と看護活動を知る。	事前学習 ①テキスト保健師業務要覧 p 288- p 296、を読む 事後学習 ①配布資料を読む ②提示した厚生労働省のサイトをインターネットで見る。 ③パワーポイントの資料を読んで復習する。(DP2)	事前学習 ①60 分 事後学習 ①30 分 ②30 分 ③60 分
11	公衆衛生看護活動と災害看護(山下) 1) 災害による健康被害 2) 援助対象と看護職の支援 3) 災害のサイクルと公衆衛生看護活動	1. 講義 最初に写真や図表で災害による被害がイメージする。 災害時の支援体験を交えて講義し、被災者の生活状況や健康問題が理解できるようにする。	事前学習 ①テキスト保健師業務要覧 p 214- p 219、p 320- p 327 を読む 事後学習 ① 配布資料を読む ②災害関連の文献をインターネットや	事前学習 ①30 分 事後学習 ①30 分 ②120 分 ③90 分

	4) 災害時の活動体制	支援活動の講義では、被災者側と支援者側の両方の立場で考えると共に、看護師として被災地の保健師と連携することを考えるようにする。	図書館で検索し読む。 ③パワーポイントの資料を読んで復習する。	
12	公衆衛生看護活動と産業保健（ゲストティーチャー）	1. 産業分野における保健師の活動について学ぶ アサヒビール株式会社博多工場の概要や組織、健康管理の対象について知る。 産業看護活動の背景と特徴について、法的根拠や労働衛生の3管理、業務上疾病や作業関連疾患など学ぶ。 産業看護活動の実際について、健康診断や健康重点施策、対象者の特徴が分かる。 個別アプローチの特徴や方法について事例を通して学ぶ。 健康増進活動について事例を通して学ぶ。	事前学習 ①テキスト保健師業務要覧 p 59- p 66、p 281- p 287 を読む 事後学習 ①配布資料を読む ②パワーポイントの資料を読んで復習する。 ③産業保健における保健師活動の文献を探して読む。活動の概要と考察をA4、1枚程度にまとめて提出する。（DP2）	事前学習 30分 事後学習 ①30分 ②30分 ③120分
13	ヘルスプロモーションを基盤とした公衆衛生看護活動の展開①個別から集団(山下) 1) ヘルスプロモーションの理念と公衆衛生看護活動の特徴 2) グループの特徴と種類 3) 保健師のグループ支援 4) グループ支援の事例	1. 講義 身近な事例でグループ活動とその意義をイメージする。保健師だけでなくすべての看護職がグループと関わる可能性があることを確認する。 基本知識を押さえた後、事例を用いて個別支援からグループ活動、地域活動への発展するプロセスを確認し、保健師のグループ支援活動がイメージできるようにする。	事前学習 ・テキスト保健師業務要覧 p 130-137 を読む 事後学習 ①配布資料を読む。 ②パワーポイントの資料を読んで復習する。	事前学習 ①30分 事後学習 ①60分 ②60分
14	ヘルスプロモーションを基盤とした公衆衛生看護活動の展開②集団から組織（ゲストティーチャー）	地域における高齢者保健活動の展開を講義する。地域で先駆的な活動を行っているホームホスピスの活動を通して、地域で生活することを支えること、その組織化と地域とのつながりの作り方を学ぶ。また、法的な基盤や財政基盤を学ぶ。	事前学習 ①たがくのホームページを見ておく。 ②テキスト保健師業務要覧 p 297- p 311 を読む。 事後学習 ①配布資料を読む。	事前学習 ①30分 ②60分 事後学習 ①90分
15	公衆衛生看護の展開方法のまとめ(尾形)	1. 講義 1) 公衆衛生看護のミッション（復習） 2) 地域における看護の3つのレベルと対象 3) ジョンスノーのケーススタディ 4) 個別支援と集団及び地域全体の支援の連動 5) 構造的に健康問題を捉える方法 6) 健康課題解決のための施策化	事後学習 ①配布資料、パワーポイントの資料を読んで復習する。	事後学習 90分
備考				

授業科目名	公衆衛生看護学Ⅱ Public Health Nursing Ⅱ			単位	2 単位
				授業コード	
履修	選択	関連資格	保健師関連する国家試験受験資格	授業方法	講義
開講年次	4 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：尾形由起子 科目担当者：山下清香・小野順子・手島聖子・檜橋明子				
授業概要	PDCA サイクルに基づく公衆衛生看護活動の展開プロセスについて学ぶ。 公衆衛生看護活動における対象の捉え方、健康ニーズの把握、ニーズに基づく地域の保健活動の目標設定、活動計画の立案、評価について学ぶ。また、対象別の支援方法と保健事業実施計画の企画立案、評価方法を学び、施策化・事業レベルの展開プロセスについても理解する。				
到達目標	知識・理解	(DP2)	公衆衛生看護活動における対象の捉え方、健康ニーズの把握とアセスメントの方法及び展開方法が理解できる。		
	思考・判断・表現	(DP3)	地区診断の視点、対象別の支援方法、保健活動の目標設定、実施計画の立案、評価方法について、事例を通して試行・判断し、自らの考えをまとめることができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	公衆衛生看護アセスメント論Ⅰを修得していること				
テキスト	テキスト： 宮崎美砂子他編、『最新公衆衛生看護学 2018 年版 総論』 日本看護協会出版会、2018、4,968 円 宮崎美砂子他編、『最新公衆衛生看護学 2018 年版 各論 1』 日本看護協会出版会、2018、4,968 円				
参考図書・教材等	参考図書：佐伯和子他編、「公衆衛生看護学テキスト 2 公衆衛生看護技術」、「公衆衛生看護学テキスト 3 公衆衛生看護活動」、医歯薬出版株式会社、2014				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	有

成績評価

評価指標/割合	試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	6 0		1 0	1 0		2 0	1 0 0
知識・理解 (DP 2)	6 0		5				6 5
思考・判断・表現 (DP 3)			5	1 0		2 0	3 5
備考							

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
S 評価レベル：対象別の公衆衛生看護活動における、PDCA（対象理解、健康ニーズの把握、アセスメント及び活動展開、評価）を理解し説明することが出来る。 ・事例を通して地区診断における情報収集、情報整理、情報の解釈を行い、対象者の健康ニーズを把握することが出来る。 ・対象別の支援方法保健活動の目標設定、実施計画の立案、評価方法について、事例を通して試行・判断し、自らの考えをまとめる事が出来る。 A 評価レベル：対象別の公衆衛生看護活動における、PDCA（対象理解、健康ニーズの把握、アセスメント及び活動展開、評価）を理解することが出来る。 ・事例を通して地区診断における情報収集、情報整理、情報の解釈を行い、対象者の健康ニーズを考える事が出来る。	

- ・対象別の支援方法保健活動の目標設定、実施計画の立案、評価方法について、事例を通して理解できる。
- B 評価レベル：事例についての公衆衛生看護活動のPDCA（対象理解、健康ニーズの把握、アセスメント及び活動展開、評価）を理解することが出来る。
- ・事例についての地区診断における情報収集、情報整理、情報の解釈、対象者の健康ニーズを考える事が出来る。
 - ・事例についての保健活動の目標設定、実施計画の立案、評価方法について理解できる。

到達目標 (C 評価 レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

C 評価レベル：対象別の公衆衛生看護活動において、対象理解、健康ニーズの把握、アセスメント及び活動展開が行われている事が理解出来る。

事例について地区診断における情報収集、情報整理、情報の解釈および対象別の支援方法、保健活動の目標設定、実施計画の立案、評価方法について理解できる。

成績評価の基準 ルーブリック

S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	公衆衛生看護活動における健康課題の捉え方、法的根拠と施策体系(尾形)	1. 授業概要・到達目標・評価方法についてガイダンスする。 2. 講義 1) 公衆衛生看護活動の健康課題の捉え方 2) 法的根拠と施策体系 3) 地区活動における健康課題の捉え方(アセスメント、関連要因、優先順位)。	事後学習 ①配布資料を読んで復習する (公衆衛生看護学概論医学書院 第6章など) ②関連する文献や資料を探して読み、ファイルする。 ③関連する国家試験の過去問題を解く。 (DP2)	事後学習 ①30分 ②90分 ③60分
2	地区活動計画の企画立案と評価(山下) 1) 地区活動の基本と対象の捉え方 (1) 地区活動の基本理念 (2) 対象集団の捉え方 2) 地区活動計画づくり (1) 地区活動計画 (2) 地区活動の目標設定と評価の視点	1. 講義 テキストを参照し、地区活動の基本的な考え方、対象の捉え方を確認する。 配布資料(地域診断演習)を用い、演習を入れながら、地域診断に基づく保健活動計画の立案過程を学習する。	事前学習 ①テキスト(最新公衆衛生看護学 総論第2章)の該当部分を読む。 事後学習 ①配布資料を読んで復習する ②関連する文献や資料を探して読み、ファイルする。 ③関連する国家試験の過去問題を解く。 (DP2)	事前学習 ①30分 事後学習 ①60分 ②60分 ③60分
3	保健事業の企画立案、実施、評価と保健師の役割(山下) 1) 保健事業の体系 1次予防～3次予防 2) 保健事業の目標設定 3) 保健事業の企画 4) 保健事業の実施 5) 保健事業の評価 6) 事例と保健師の役割	1. 演習 読んできた保健事業の概要を紹介し、1次予防から3次予防に分類し、事業の関連や位置づけを考える。 2. 講義 保健事業の企画立案、主な事業の特徴、評価の視点を確認する。 最後に、事例を用いて事業の展開と保健師の役割を確認する。	事前学習 ①保健事業の企画実施評価の過程が記述された文献を探し読んでくる。 事後学習 ①配布資料を読んで復習する ②関連する文献や資料を探して読み、ファイルする。 ③関連する国家試験の過去問題を解く。 (DP2)	事前学習 ①90分 事後学習 ①30分 ②30分 ③60分
4	地区活動の展開と保健師の役割(山下・ゲストティーチャー) 地区活動の展開の実際	1. 講義 市町村の保健師をゲストティーチャーとして招き、PDCAサイクルに基づき事業を展開している活動を紹介してもらう。	事前学習 ①ゲストティーチャーの活動概要に関する資料を読んでくる。 事後学習	事前学習 ①60分 事後学習 ①30分

			①配布資料を読んで復習する。 ②関連する国家試験の過去問題を解く。 (DP2)	②90分
5	母子保健福祉活動の企画立案評価①(小野)	1. 講義 母子保健分野に関する社会背景や保健統計をもとに健康課題を考察し、法的根拠に基づき妊娠期(胎児期)から出産後(乳幼児期)にかけての個人、集団、地域を対象に行われる継続した母子保健活動の展開を学ぶ。	事前学習 ①母子保健活動の展開事例についての資料を読んでおく。 ②実際に市町村で実施されている母子保健事業について各自資料を準備する。 事後学習 ①関連する国家試験の過去問題を解く。 (DP2)	事前学習 ①60分 ②90分 事後学習 ①30分
6	母子保健福祉活動の企画立案評価②(小野)	1. 講義 自治体で実施されている母子保健事業について対象となる人々のライフサイクルや健康状態を考慮した事業体系について学ぶ。 2. ディスカッション 母子を対象とした保健事業および保健師活動について予防的観点で事業(活動)を整理し、継続支援の観点で保健事業の関連を検討する。	事後学習 ①グループ討議で行った予防的視点での保健事業の体系的整理を参考に、公衆衛生看護学実習Ⅱの実習先(市町村)実施されている母子保健事業について、整理する。②関連する国家試験の過去問題を解く。 (DP2)	事後学習 ①120分 ②60分
7	成人保健活動の企画立案評価①(手島)	1. 講義 成人保健の動向と成人保健に関する健康課題を考察し、法的根拠に基づいてどのような健康づくり活動が実施されているかを学ぶ。また、成人保健対策における個人・集団・地域を対象とした公衆衛生看護活動の展開を学ぶ。	事前学習 ①テキスト(各論1)第1章Ⅱ 1,2(p87-138)を読む ②特定健診特定保健指導の資料を読む。 事後学習 ①配布資料を読んで復習する。 ②関連する国家試験の過去問題を解く。(DP2)	事後学習 ①60分 ②60分 事後学習 ①45分 ②60分
8	成人保健活動の企画立案評価②(手島)	1. 講義・討論 成人期を対象とした、特定健診・特定保健指導の事例をもとに保健師の活動展開について学ぶ。	事後学習 ①配布資料を読み復習する。 ②公衆衛生看護学テキスト3公衆衛生看護活動Ⅰ第1章2)生活習慣病予防を読む ③関連する国家試験の過去問題を解く。(DP2)	事後学習 ①45分 ②45分 ③60分
9	高齢者保健福祉活動の企画立案評価①(檜橋)	講義 我が国の高齢者保健福祉分野の社会的背景と高齢者を支える制度の法的根拠と概要を理解し、高齢者の抱える課題とその問題に取り組む保健事業の展開を学ぶ。	事前学習 ①公衆衛生看護学テキスト3公衆衛生看護活動Ⅰp42-59を読む ②関連する国家試験の過去問題を解く。(DP2)	事前学習 ①60分 ②90分
10	高齢者保健福祉活動の企画立案評価②(檜橋)	討論 地域包括ケアシステム構築のための保健事業の展開事例と、住民と協働で行う保健事業の展開事例を用いて、保健事業の展開について学ぶ。	事後学習 ①配布資料を読む。 ②関連する国家試験の過去問題を解く。(DP2)	事後学習 ①60分 ②90分
11	感染症を対象とした保健活動の企画立案評価(小野)	1. 講義 我が国の感染症の動向と感染症に関する健康課題を考察し、法的根拠に基づいてどのような感染症対策が実施されているかを学ぶ。また、感染症対策における個人・集団・地域を対象とした公衆衛生看護活動の展開を学ぶ。 2. ディスカッション	事後学習 ①配布資料を読む。 ②公衆衛生看護学実習Ⅱの実習先市町村で行われている感染症対策及び予防接種について対象者、目的、方法などを調べる。 ③関連する国家試験の過去問題を解く。(DP2)	事後学習 ①60分 ②100分 ③60分
12	精神保健福祉活動の企画立案評価(手島)	1. 講義 精神障がい者の社会復帰に向けて保健師が実施した援助の実際を学ぶ。	事後学習 ①配布資料を読み復習する。(DP2) ②関連する文献や資料を探して読み、	事後学習 ①30分 ②30分

		保健師による社会資源の活用・創出の重要性を理解する。 2. 討論 地域ネットワークを活かした取り組みの事例を通して、精神障がい者にも対応した地域包括ケアシステムについて学ぶ。	ファイルする。 ③関連する国家試験の過去問題を解く。	③60分
13	難病保健福祉活動の企画立案評価(檜橋)	1. 講義 難病対策の概要について講義し、保健事業の体系を理解するとともに、難病対策に関する地区診断の方法と地域ケアシステムの課題を学ぶ。 2. 討論 難病対策に関する、医療ネットワークを強化する方法について理解する。	事前課題 最新公衆衛生看護学Ⅱ各論 1 p 230- p 262 を読む。 事後課題 事例についてまとめる。 (DP2, DP3)	事前学習 90分 事後学習 90分
14	行政における公衆衛生看護活動の展開(ゲストティーチャー・山下) 福岡県の保健医療福祉行政施策と保健師に期待する役割	1. 講義 福岡県保健医療福祉介護部の医監をゲストティーチャーとして招き、福岡県の保健医療福祉行政施策と保健師に期待する役割について講義していただく。 県レベルの行政施策と都道府県保健師の役割について考える。	事前学習 ①インターネットで、福岡県健康増進計画及び地域保健医療計画を見て、概要を理解に努める。 事後学習 ①配布資料の振り返り及び福岡県ホームページをインターネットで見る。 ②レポート作成 福岡県の保健師であったらどのような活動をしたと考えたか。 (DP2, DP3)	事前学習 ①100分 事後学習 ①30分 ②90分
15	まとめ(尾形)	1. 講義 1) 住民のセルフケア能力を高め、コミュニティエンパワメントを促進するとは 2) 保健師のベストプラクティスから理念的コアとは 3) 予防や生活などの視点、主体性の尊重や対等性の重視などの姿勢、協働方法 4) 社会的弱者への関心などの価値が整理 5) 保健師の機能として個、集団、地域を連動させる活動と自ら支援を求めない対象へのアプローチなどの公共性について 2. ディスカッション ライフステージ別(母子、壮年期、高齢者)の活動と健康障害別(精神、難病、感染症)の活動、保健事業の企画立案評価についての学習を通して、公衆衛生看護活動の特徴に対する学びについて。	事後学習 ①配布資料を読んで復習する。 ②関連する国家試験の過去問題を解く。 (DP2)	事後学習 ①60分 ②90分
備考				

授業科目名	公衆衛生看護学Ⅲ Public Health Nursing Ⅲ			単位	1 単位
				授業コード	
履修	選択	関連資格	保健師国家試験受験資格	授業方法	講義
開講年次	4 年	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：尾形由起子 科目担当者：山下清香 小野順子				
授業概要	公衆衛生看護活動における健康課題の把握や課題解決の基本となる理論や科学的根拠を確認し、臨地実習の体験と文献から健康課題を把握する調査方法や課題解決方法を検討するための研究方法について学ぶ。				
到達目標	知識・理解	(DP 1)			
		(DP 2)	地域保健活動の質の向上や知識体系の構築のための研究方法について理解する。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	保健行政において、政策提言のための基礎資料づくりにあたるためのプロセスについて論ずることができる。		
		(DP 4)			
	関心・意欲・態度	(DP 5)			
		(DP 6)			
	技能	(DP 7)			
		(DP 8)			
		(DP 9)			
		(DP10)			
授業内容を理解するために必要な知識・技能	公衆衛生看護学実習Ⅰを修得していること				
テキスト	テキスト： ①井伊久美子他編、『新版第3版保健師業務要覧』、日本看護協会出版会、2013、4,536 円 ②浅原きよみ他編、『公衆衛生看護学テキスト1 公衆衛生看護学原論』、医歯薬出版株式会、2014、3,024 円 ③佐伯和子他編、『公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術』、医歯薬出版株式会社、2014、4,320 円 ④宮崎美砂子他編、『最新公衆衛生看護学 2018 年版 総論』 日本看護協会出版会、2018、4,968 円				
参考図書・教材等	D.F.ポーリット&C.T.ベック著 看護研究原理と方法第2版 医学書院 9,500 円（税抜） 南裕子編 看護における研究第2版 日本看護協会出版 2,800 円（税抜）				
実務経験を生かした授業				授業中の撮影	

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				20	60		20	100
知識・理解	(DP 1)							
	(DP 2)			10			10	20
思考・判断・表現	(DP 3)			10	60		10	80
	(DP 4)							
関心・意欲・態度	(DP 5)							
	(DP 6)							
技術	(DP 7)							
	(DP 8)							
	(DP 9)							
	(DP10)							
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
S 評価レベル：公衆衛生看護学分野における健康問題について、既存資料やデータ先行研究から健康課題を考え、 地 域の人々の健康や生活の質向上の為の研究方法について理解し、計画的に研究計画を立案し実施することが出来る。 保健行政において、政策提言のための基礎資料づくりにあたるためのプロセスや方法について理解できる。 A 評価レベル：公衆衛生看護学分野における健康問題について、既存資料やデータ先行研究から健康課題を考え、 地 域の人々の健康や生活の質向上の為の研究方法について理解し、教員の助言を得ながら計画的に研究計画を立案し実施することが出来る。 保健行政において、政策提言のための基礎資料づくりにあたるためのプロセスや方法を知ることができる。 B 評価レベル：公衆衛生看護学分野における健康問題について、既存資料やデータ先行研究から健康課題を考え、 地 域の人々の健康や生活の質向上の為の研究方法について理解し、教員の助言・指導を得ながら研究計画を立案・実施することが出来る。 保健行政において、政策提言のための基礎資料づくりにあたるためのプロセスや方法を知ることが出来る。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
C 評価レベル：公衆衛生看護学分野における健康問題について、既存資料やデータ先行研究から健康課題を考え、 地 域の人々の健康や生活の質向上の為の研究方法について理解し、教員の助言・指導を得ながら研究計画を作成することが出来る。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	公衆衛生看護実践に不可欠な「研究力」(尾形)	1. 授業概要・到達目標・評価方法についてガイダンスする。 2. 講義 1) 看護実践に役に立つよい研究とは・・・ 2) 看護研究に取り組むにあたって 3) 質的研究と量的研究 4) 質的研究（お勧め著書と文献） 5) 研究で得られること	事前学習 ①テキスト④第4章を読む。	事前学習 ①30分
2	公衆衛生看護における研究倫理(山下) 1)医療と倫理の歴史的背景 2)研究者の行動規範 3)研究的行動を導くための基礎的知識 4)研究の不正行為	1. 講義 最初に、なぜ公衆衛生看護活動とその研究において「倫理」が必要なのか考える。 パワーポイントと配布資料を用いて、医療における歴史的背景を振り返ると共に、保健師が遭遇する倫理的場面を織り交ぜて講義をする。	事前学習 ①実習や日常生活の中で、自分が遭遇した倫理的な葛藤場面を考えてくる。 事後学習 ①配布資料を読む。	事前学習 ①30分 事後学習 ①90分
3	公衆衛生看護研究健康課題の抽出（全員）	1. 講義 公衆衛生看護学研究の計画方法について学ぶ。 2. ディスカッション 学生は、事前課題でまとめた内容を発表し、研究動機、研究目的、研究方法の妥当性について教員から助言を得る。	事前学習：公衆衛生看護学分野における健康課題に関して興味のある分野を選択し、関連する文献をまとめた内容から研究背景、研究動機、研究目的を考え A4 資料 1～2 枚にまとめ提出する。(DP3) 事後学習：討議した内容や得られた助言を受けて研究計画を修正し提出する。(DP3)	事前学習 180分 事後学習 120分

4	公衆衛生看護研究 研究目的の検討 (全員)	1. 講義 健康課題に関する社会的背景、顕在化している健康問題の動向、先行研究結果を踏まえた研究目的の設定方法について学ぶ。 2. ディスカッション 学生が読んできた文献から、研究背景や研究動向について考える。また、研究によって対象集団の健康状態や生活状況にどのような影響(成果)を与えうるのかについて意見交換を行いどのような目的で研究を行うか考える。	事前学習：興味のある健康課題に関連する社会的背景、健康問題の動向、残された課題について考え、まとめ提出する。(DP2,3) 事後学習：講義、及び討議の内容を反映させて事前課題の内容を修正し提出する。	事前学習 150 分 事後学習 60 分
5	公衆衛生看護研究 研究方法の検討 (全員)	1. 講義 健康課題解決に資する公衆衛生看護学研究を実施する為にどのような研究方法があるのかを学ぶ。また、それらの研究方法から得られる成果について学ぶ。 2. ディスカッション 学生が興味のあるテーマについて、目的に応じた研究の方法について検討する。	事前学習 興味のある健康課題に関する先行研究についての研究方法、分析方法、結果の解釈、残されている課題をまとめ提出する。(DP2,3) 事後学習：講義、及び討議の内容を反映させて事前課題の内容を修正し提出する。(DP2,3)	事前学習 150 分 事後学習 60 分
6	公衆衛生看護研究 研究計画の検討 (全員)	1. 講義 各々の学生が興味のある健康課題に対して、選択した研究方法に従って、どのように研究を進めていくかについて学ぶ。 2. ディスカッション 学生が興味のあるテーマについて研究方法に応じた研究の進め方を検討する。	事前学習 各自の研究テーマについて研究方法、分析方法を考えてまとめ提出する(DP2,3) 事後学習：講義、及び討議の内容を反映させて事前課題の内容を修正し提出する。(DP2,3)	事前学習 150 分 事後学習 60 分
7	公衆衛生看護研究 研究結果の解釈 (全員)	1. 講義 各々の学生が実施している公衆衛生看護学研究について、どのように結果を解釈し、体系的にまとめていくかについて学ぶ。 2. 学生が興味のあるテーマについて結果の解釈や結果の整理方法について検討する。	事後学習：講義、及び討議の内容を反映させて事前課題の内容を修正し提出する。(DP2,3) 事後学習：講義、及び討議の内容を反映させて事前課題の内容を修正し提出する。(DP2,3)	事前学習 120 分 事後学習 60 分
8	公衆衛生看護研究 研究成果の発表 (全員)	1. 講義 公衆衛生看護学研究について得られた結果の発表方法や研究成果を社会に還元していく必要性について学ぶ。 2. ディスカッション 研究成果について、発表・報告するためにどのような方法でまとめていくかを検討する。	事前学習 各自の研究課題についてまとめ提出する。(DP3)	事前学習 180 分
備考				

授業科目名	公衆衛生看護技術論Ⅰ Skills Development for Public Health Nursing Ⅰ			単位	2 単位
				授業コード	
履修	選択	関連資格	保健師国家試験受験資格	授業方法	演習
開講年次	4 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目担当責任者：尾形由起子 科目担当者：山下清香・小野順子・手島聖子・檜橋明子・(中村美穂子)				
授業概要	乳幼児虐待や生活習慣病等のハイリスク者の特徴を理解し、対象の把握方法、個人・家族への支援方法を学ぶ。家庭訪問及び保健指導・健康相談の基本的な支援技術を習得するため、ペーパーペイシエントを用いた事例検討とロールプレイを行う。健康課題に影響する環境要因を捉えて潜在的健康課題を顕在化し予防的に働きかけ、健康弱者の代弁者となって権利を擁護する保健師の支援方法について学ぶ。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	地域における個別支援対象者と援助の特徴を理解するとともに、支援対象者のアセスメント、支援計画の立案、評価の方法を理解する。		
	思考・判断・表現	(DP 3) (DP 4)	個人・家族の生活様式や生活環境との関連でとらえた潜在的な健康課題を抽出し、家庭訪問および保健指導の援助計画を立案し、発表し討議することができる。		
	技能	(DP10)	健康課題を抱える個人・家族の事例についてアセスメントし、家庭訪問による援助計画を立案し、実施、評価できる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	公衆衛生看護アセスメント論Ⅰまでの学習内容である、個別支援における対象者の生活及び生活環境を含めたアセスメントに関する知識と技術を習得している必要がある。				
テキスト	①宮崎美砂子他編、『最新公衆衛生看護学 2016 年版 総論』、日本看護協会出版会、2014、4,968 円 ②宮崎美砂子他編、『最新公衆衛生看護学 2016 年版 各論 1』 日本看護協会出版会、2016、4,968 円 ③宮崎美砂子他編、『最新公衆衛生看護学 2016 年版 各論 2』 日本看護協会出版会、2016、3,888 円 ④岩本里織他編、『公衆衛生看護活動論技術演習第 2 版』、クオリティケア、2013、3,456 円				
参考図書・教材等	①村嶋幸代他著、『最新保健学講座 2 公衆衛生看護支援技術』、メヂカルフレンド社、2011 ②長江弘子・柳澤尚代著、『こう書けばわかる！保健師記録』、医学書院、2004				
実務経験を生かした授業	あり			授業中の撮影	

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		30		20			50	100
知識・理解	(DP 2)	30		10				40
思考・判断・表現	(DP 3)			10			20	30
	(DP 4)							
技能	(DP10)						30	30
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
S 評価レベル：対象者が有する疾病や疾患のメカニズムを理解した上で、生活環境や生活の様子を考慮した健康状態のアセスメント、健康課題の明確化、支援計画の立案、支援を実施し、評価計画に基づく評価を実施できる。 対象者が自らの力を発揮し健康課題を解決していく為の支援策を考えて計画・実施し、目的・目標に沿った活動評価と次の支援策が討できる。 A 評価レベル：対象者が有する疾病や疾患のメカニズムを学び、生活環境や生活の様子を考慮した健康状態のアセスメント、健康課題の明確化、支援計画の立案、支援を実施し、評価計画に基づく評価を実施できる。 対象者が自らの力を発揮し健康課題を解決していく為の支援策を考えて計画し、目的・目標に沿った活動評価と次の支援策の検討を実施できる。 B 評価レベル：対象者が有する疾病や疾患のメカニズムを学び、生活環境や生活の様子を考慮した健康状態のアセスメント、健	

健康課題の明確化、支援計画を立案する必要性が理解できる。
対象者が自らの力を発揮し健康課題を解決していく為の支援策を考える必要性を理解し、目的・目標に沿った活動評価と次の支援策を考える事が出来る。

到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

C 評価レベル：対象者が有する疾病や疾患のメカニズムを理解した上で、生活環境や生活の様子を考慮した健康状態をアセスメント、健康課題の明確化、支援計画の立案、及び支援の実施について教員の指導助言を受けて理解できる。
対象者が自らの力を発揮し健康課題を解決していく為の支援策および目的・目標に沿った活動評価、次の支援策検討について、教員の指導・助言を受けて理解できる。

成績評価の基準 ルーブリック

S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容 (担当教員)	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	公衆衛生看護における個別支援 (尾形)	1. 授業概要・到達目標・評価方法についてガイダンスする 2. 講義：公衆衛生看護活動における、個別支援の目的と意義、方法・対象・技術などを学ぶ。 1) 保健師が行う家庭訪問の特徴 2) 家庭訪問や保健指導の根拠となる法律 3) 保健施策や事業につながる訪問 4) 家庭訪問による援助（看護過程） 5) 優先順位の判断の視点	事前学習 ①テキストの家庭訪問に関する部分を読んでおく。最新公衆衛生看護学総論第3章Ⅰ～Ⅱ	事前学習 ①60分
2	公衆衛生看護における個別支援の看護過程 (小野)	1. 講義 保健師が行う個別支援の方法と看護過程の展開を学ぶ (講義)	事前学習 ①テキストの個別支援、家庭訪問に関する部分を読んでおく。最新公衆衛生看護学総論第3章Ⅲ	事前学習 60分
3	成人期の個別保健指導 特定健診・特定保健指導について (小野)	1. 講義 特定健診・保健指導に関する目的・方法、内容等を学ぶ。(講義)	事前学習 ①糖代謝、脂質代謝を理解するために必要な教材や資料を集める。 ②糖代謝、脂質代謝のメカニズムについて理解した内容を整理し、配布した様式にまとめる。	事前学習 ①90分 ②120分
4 5	成人期の健康問題 メタボリックシンドロームにつながる糖尿病や脂質異常の病態生理を学ぶ (全員)	1. グループワーク メタボリックシンドロームの病態整理、糖代謝異常の病態整理について事前学習で作成した資料や教科書等を用いて検討する。 2. 発表 グループワークで検討した内容をまとめ、糖代謝、脂質代謝、及びメタボリックシンドロームが体の中でどのような変化がに起こっているかについて発表する。	事前学習 ①メタボリックシンドロームの病態について資料を検索し学んでくる。 事後学習 ①糖代謝、脂質代謝のメカニズムについてグループワークの内容を反映させ修正し様式に記載し提出する。	事前学習 ①60分 事後学習 60分
6	支援に活かす理論と支援技術 (檜橋)	1. 講義 個別支援において行動変容を促す為に用いられる理論や支援技術について学ぶ。	事前学習 ①テキストの該当部分を読んでおく。最新公衆衛生看護学総論第3章Ⅲ-3	事前学習 ①30分
7	成人期を対象とした個別支援 特定保健指導事例 (全員)	1. 講義 特定健診受診者の事例紹介を行う。 2. グループワーク	事前学習 ①特定健診特定保健指導対象者の健康状態をアセスメントする為に必要	事前学習 ①90分 ②150分

		対象理解に必要な知識や情報を整理する。	な基礎知識、情報を得るために必要な資料や教材、教科書を準備する。②事例の健康状態について、特定健診の結果、成人期の発達課題、生活状況(食事、運動、休養)、生活背景などを含めてアセスメントし健康課題を抽出し様式にまとめる。 事後学習 ①グループワークの内容を反映させ事例のアセスメントを修正し、様式に記載する。	事後学習 ①60分
8 9	成人期を対象とした個別支援 特定保健指導事例の対象理解とアセスメント、健康課題の明確化(全員)	1. グループワーク 事後学習で準備した、対象者のアセスメントに必要な資料を用いて対象者の健康状態をアセスメントし、健康課題を抽出する。 2. 発表 グループワークで検討した対象者の健康状態のアセスメント、健康課発表する。	事前学習 ①事例の健康状態をアセスメントした内容を復習し健康課題を抽出して様式にまとめる。 事後学習 事例のアセスメント及び健康課題について、グループワーク、ディスカッションの内容を反映させて修正し様式にまとめ提出する。	事前学習 ①90分 事後学習 ①60分
10	成人期を対象とした個別支援 特定保健指導計画(全員)	1. グループワーク 対象事例の特定保健指導計画を作成する。	事前学習 ①配布資料を復習し、特定保健指導における対象者が自ら選択し行動変容につなげる支援方法について考える。 事後学習 ①グループワーク、ディスカッションの内容を反映し、対象事例の特定保健指導計画を作成し提出する。	事前学習 ①120分 事後学習 ①120分
11 12	成人期を対象とした個別支援 特定保健指導計画に基づく 支援の実際(全員)	1. ロールプレイ 作成した特定保健指導計画に基づき学生同士で実施する。 2. デモンストレーション 教員が特定保健指導のデモンストレーションを実施し、特定保健指導における支援技術を学ぶ。	事後学習 学生同士で実施したロールプレイ、教員のデモストを通して学んだ個別支援技術について指定の様式にまとめ提出する。	事後学習 90分
13	高齢者の家庭訪問について(全員)	1. 講義 家庭訪問対象者の対象理解に必要な視点と情報収集のポイントについて学ぶ。 2. ディスカッション 実際の家庭訪問対象者を対象理解についてディスカッションを行う。	事後学習：高齢者の健康状態の把握と対象理解に必要な情報収集の項目と方法を整理し、まとめる。	事後学習 60分
14	高齢者の家庭訪問 対象理解(全員)	1. グループワーク 家庭訪問対象者について情報収集した内容を共有し構造的に整理する。その後、健康状態をアセスメントし健康課題を抽出する。また、家庭訪問による支援計画を立案する。	事後学習：ふれあい交流に参加し情報収集した内容を整理し、記録様式に記載する。 事後学習：グループワークで検討した内容を反映し、家庭訪問による支援計画を修正する。	事前学習 120分 事後学習 120分
15	高齢者の家庭訪問 支援計画立案・デモスト(全員)	1. グループワーク 家庭訪問支援計画をもとに学生同士でデモンストレーションを行い、家庭訪問での支援方法・技術を確認する。	事後学習：家庭訪問における支援技術を学生同士で確認する。	事後学習 100分
16	高齢者の家庭訪問 実施(全員)	1. 家庭訪問の実施 家庭訪問支援計画を元に高齢者の家庭訪問を実施する。	事後学習：家庭訪問で得た情報や対象者から伺った話を整理し訪問記録に記載する。	事後学習 180分
17 18	高齢者の家庭訪問 家庭訪問の評価(全員)	1. グループワーク 家庭訪問時の状況や伺った話の内容を情報共有、構造的整理を行い、対象理解を深める。また訪問計画を評価	事後学習：家庭訪問の評価、再アセスメント、今後の支援計画を記録に記載する。	事後学習 90分

		し、再アセスメント、今後の支援計画を立案する。(グループワーク)		
19 20	高齢者の家庭訪問 家庭訪問事例の発表 (全員)	1. 発表・ディスカッション 訪問前の対象理解、家庭訪問時の状況、訪問後の対象理解について発表し、ディスカッションする。	事後学習：ディスカッションの内容を反映させ、対象のアセスメント、今後の支援計画を修正する。	事後学習 60 分
21 22	成高齢者の家庭訪問 家庭訪問評価の発表 (全員)	1. 発表、ディスカッション 訪問時の状況、訪問計画及び評価計画をもとに自分たちが行った訪問を評価し発表する。	事前学習：ディスカッションの内容を踏まえ訪問の評価を行い記録に記載する。	事前学習 90 分
23	母子の個別支援について (小野)	1. 講義 母子保健事業の体系と継続支援、アプローチ方法について学ぶ。 事例をもとに母子の健康状態をアセスメントとする為に必要な知識と情報、情報収集の方法を学ぶ。	事後学習：乳幼児の発達発育について資料や教材を準備し、配布された様式にまとめる。	事後学習 120 分
24 25	母子の個別支援 個別支援事例のアセスメント (外部講師)	1. 発表 対象事例のアセスメントを発表する。	事前学習 事業での配布資料、準備した教材を参考に事例のアセスメントを行い、記録にまとめ提出する。	事前学習 150 分
			事後学習 ディスカッションの内容を反映させアセスメントを修正する。	事後学習 60 分
26	母子の個別支援 事例の支援計画 (全員)	1. グループワーク 対象事例のアセスメントに基づき、支援計画を立案する。	事前学習：事例のアセスメントをもとに支援計画を立案し記録にまとめ提出する。	事前学習 150 分
			事後学習：事例の訪問計画を修正し記録に記載し、提出する。	事後学習 60 分
27 28	母子の家庭訪問における支援計画と技術 (外部講師)	1. 発表 対象事例の支援計画を発表する。 2. 講義 母子のアセスメントに必要な情報収集の方法と技術を学ぶ。	事後学習：母子の個別支援について学んだことをまとめて提出する。	事後学習 60 分
29 30	個別支援に活かすコミュニケーション技術 アサーショントレーニング (外部講師)	1. 個別支援に必要なコミュニケーション技術を学ぶ。		
	まとめ			

授業科目名	公衆衛生看護技術論Ⅱ Skills Development for Public Health NursingⅡ			単位	2 単位
				授業コード	
履修	選択	関連資格	保健師国家試験受験資格	授業方法	演習
開講年次	4 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：尾形由起子 科目担当者：山下清香・小野順子・手島聖子・檜橋明子・（中村美穂子）				
授業概要	公衆衛生看護活動における健康教育の意義とその基盤となる理論について理解し、地域住民が健康課題を主体的に解決することを目的とした支援技術を習得する。 行動科学や学習理論に基づいた集団に対する支援方法を学び、実習と連動させた演習で健康教育の企画立案、実施、評価のプロセスを体験する。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	公衆衛生看護活動におけるターゲット集団とその援助の特徴を理解するとともに、小集団のアセスメント、支援計画の立案、評価の方法を理解する。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	地域住民が健康課題を主体的に解決することを目的とした集団に対する支援技術について、行動科学や学習理論に基づく支援方法を検討し、発表し討議できる。		
		(DP 4)			
	技能	(DP10)	地域住民自身が主体的に行動変容を起こす為の支援方法を検討し、健康教育を企画・実施・評価できる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	公衆衛生看護アセスメント論Ⅰを修得していること				
テキスト	日本健康教育士養成機構著、『新しい健康教育』、保健同人社、2011、3,078 円 佐伯和子（編） 「公衆衛生看護技術」 医歯薬出版株式会社 2014、4,320 円				
参考図書・教材等	参考文献：標美奈子他著、『標準保健師講座 1 公衆衛生看護学概論』、医学書院、2015				
実務経験を生かした授業	行政保健師の実務経験のある教員が授業を行う。			授業中の撮影	有

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		30		20			50	100
知識・理解	(DP 2)	30		10			10	50
思考・判断・表現	(DP 3)			10			20	30
	(DP 4)							
技能	(DP10)						20	20
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
S 評価レベル：公衆衛生看護活動の対象となる集団が健康課題を主体的に解決することを目的とする支援の特徴を理解し、小集団のアセスメント、支援計画の立案、評価を実施することが出来る。 集団に対する支援技術について、行動科学や学習理論に基づく支援方法を検討し、メンバーと協同して積極的に健康教育を企画・実施・評価できる。 A 評価レベル：公衆衛生看護活動の対象となる集団が健康課題を主体的に解決する事を目的とする支援の特徴を考慮した、小集団のアセスメント、支援計画の立案、評価計画を立案方法が理解できる。集団に対する支援技術について、行動科学や学習理論に基づく支援方法を理解し、グループメンバーと協同し、教員の助言を受けながら健康教育を企画・実施・評価できる。 B 評価レベル：公衆衛生看護活動の対象となる集団が健康課題を主体的に解決する事を目的とする支援の特徴を考慮	

した、小集団のアセスメント、支援計画の立案、評価計画を立案方法が理解できる。集団に対する支援技術について、行動科学や学習理論に基づき作成された健康教育の企画書をもとに健康教育を実施・評価できる。

到達目標 (C評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
公衆衛生看護活動の対象となる集団が健康課題を主体的に解決することを目的とする支援の特徴を理解し、小集団のアセスメント、支援計画の立案、評価について教員の説明を理解することが出来る。 集団に対する支援技術について、行動科学や学習理論に基づき作成された健康教育の企画書をもとに健康教育を実施でき評価方法について理解できる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	地域の健康課題解決を目指した集団へのアプローチ（尾形）	1. 授業概要・到達目標・評価方法についてのガイダンス 2. 講義 地域の健康課題解決を目指した集団支援の概要 1) 集団支援技術とは 2) 健康教育とは（定義、理論） 3) 「個人が求める健康」ミクロな健康と「社会（国家）が求める健康」マクロな健康 4) 健康教育のテーマや対象の設定 5) 健康教育の目的、目標設定（地域診断をもとにした健康課題解決）		
2	集団支援（グループ支援と地区組織活動）（山下）	1. 講義 集団支援の目的と方法及び保健師活動について		
3	地域で活動する自主グループ活動の支援1 インタビューガイド作成（手島）	1. オリエンテーション ・演習の進め方 ・インタビューの目的・方法 ・インタビューを行う組織の概要 2. グループワーク インタビューの内容を検討し、インタビューガイドを作成する。	事後学習：グループワークを反映したインタビューガイドを作成し、担当教員へ提出する（DP2）	事後学習 120分
4	地域で活動する自主グループ活動の支援2 （外部講師）	1. 講義 ・田川市の概要と健康課題 ・地域の健康課題解決を目指した地区組織活動支援 ・田川市で活動する地区組織 地域住民の力、保健師として必要な支援	事後学習 ①配付資料を読む ②田川市のホームページをインターネットで統計情報などを確認する。	事後学習 ①60分 ②60分
5 6	地域で活動する自主グループ活動の支援3 （全員）	1. 学外演習・ 地域で活動するグループや地区組織メンバーへのインタビュー	事後学習： インタビューの内容をふりかえり、ディスカッションを行う。	事後学習 150分
7	地区組織活動の実践事例紹介 （全員・外部講師）	1. 発表・ディスカッション 地区組織で活動するメンバーへのインタビュー内容について発表し、保健師が地域の自主グループ活動支援や地区組織活動を行う目的や意義についてディスカッションする。 また、地域の自主活動グループや地区組織の活動が地域の健康課題解決に対し	事前課題：発表資料を作成する 1. インタビューについて □グループの概要（どのような組織か分かるようにまとめる） □取り組みの目標（何を目指しているのか、問題意識も含める） □活動の経緯（動機・きっかけも含めて時系列で分かるように整理する）	事前学習 180分

8		てどのような役割を果たしているかについて考える。 2. 実践事例紹介	□保健師との関わり 2. インタビューを実施して考えたこと (DP2)	
			事後学習：講師とのディスカッションをふまえて、以下について考察した内容を A4 用紙 1 枚以内（600 字程度）で作成し提出する。 ＜考察内容＞ □自主グループの活動の経緯、目的、活動内容 □集団や組織を支援することの意義について □保健師としてどう関わりたいか、どう関わるのか (DP2)	事後学習 150 分
9	健康教育の意義と目的、事例（手島）	1. 講義 ・健康教育に関する定義や法的根拠、目的、目標の設定、ニーズ把握の方法 - ヘルスリテラシーに基づく、情報を見極める視点 ・主体的学習や住民の理解に基づいて「健康」を考える発想 ・公衆衛生看護技術として保健師が行う健康教育	事後学習 ①配付資料を読み、復習する。 ②テキスト「公衆衛生看護技術」第 3 章 1 を読む。	事後学習 ①60 分 ②60 分
10	健康教育で用いられる理論（檜橋）	1. 講義 ・健康教育で用いられる理論 - KAP モデル、レヴィン 3 段階理論、プリシード・プロシードモデル ・健康教育計画立案の際の理論活用	事前学習 テキスト『新しい健康教育』、p 48- p 54 を読む。 事後学習 配布資料を読む。	事前学習 60 分 事後学習 60 分
11	健康教育の企画と展開（小野）	1. 講義 ・健康教育実施における基本的な考え方 ・健康課題解決に向けた健康教育の企画、立案、評価方法 ・健康教育の対象理解、ニーズアセスメント、健康課題の抽出（潜在的課題、顕在的課題）、目標設定、評価計画	事前学習 テキストの健康教育に関する項目を事前に読んでおく。 事後学習 ふれあい交流で実施する健康教育について健康教育の企画書の地域の健康課題の部分を作成する。	事前学習 60 分 事後学習 120 分
12	高齢者の地域活動の場における健康教育（手島）	1. オリエンテーション 地域において、地区ごとに実施されている高齢者の交流の場への参加と健康教育の実施について	事後学習 配付資料を読み、復習する	事後学習 60 分
13	ふれあい交流オリエンテーション（外部講師）	1. 講義 ふれあい交流の概要と各地区の特徴について	事後学習 配付資料を読み、復習する 関連する文献や資料をインターネット等探して読み、ファイルする。	事後学習 120 分
14	ふれあい交流参加事前学習（全員）	1. グループワーク 健康教育の情報収集の項目及び方法について検討する 加齢変化のメカニズムを確認する 各自発表し、ふれあい交流参加者の加齢変化について考察する	事前学習 高齢者の加齢変化による関連図について、調べてきた資料をもとに、作成する (DP3)	事前学習 90 分 事後学習 120 分
15 16	学外演習：ふれあい交流（全員）	1. 学外演習：ふれあい交流に参加する 挨拶・コミュニケーション 健康教育の情報収集（対象者・地域・会場等）、テーマの調整を行う 家庭訪問対象者に挨拶する 情報収集をおこなう ・訪問のアポイントメントをとる ・訪問場所等確認をする	事前学習 地区の周辺環境や訪問対象者の自宅周辺の環境について地図等で調べる (DP10) 演習先の交通手段や行き方について調べる 事後学習 ふれあい交流参加時に把握した地域	事前学習 60 分 事後学習 90 分

			の情報をまとめる。	
17	健康教育の企画① ：地域の健康課題の把握とテーマ設定 (全員)	1. グループワーク ・地域特性と対象者の実態から健康課題を把握し、健康教育テーマを設定する ・テーマに関する情報（医学的情報・生活や保健指導に関する情報等）を収集し、健康問題についての基礎知識を確認する ・健康問題発生のメカニズム、関連要因を確認する ・健康問題の予防のための保健行動、行動変容のための支援を検討する	事後学習 健康教育を実施する地域の健康課題について、グループワーク、の内容を反映し、計画書を作成し、担当教員へ提出する。 計画書について、ディスカッションを行い、修正する。 (DP3, DP10)	事前学習 120 分 事後学習 90 分
18	健康教育の企画② ：健康ニーズを踏まえた目標設定 (全員)	1. グループワーク ・健康ニーズを踏まえ、健康教育の必要性を検討する ・疾病や障害予防のために、どのような保健行動をとることができるようになるかとよく検討する ・健康教育の最終目的と今回の健康教育の到達目標を検討する	事後学習 健康教育の目標について、グループワークの内容を反映し、計画書を作成し、担当教員へ提出する。 計画書について、ディスカッションを行い、修正する。 (DP3, DP10)	事前学習 120 分 事後学習 90 分
19	健康教育の企画③ ：健康ニーズと目標を踏まえた教育内容の精選・展開 (全員)	1. グループワーク ・健康ニーズと目的・目標を踏まえ、行動変容のために必要な教育内容（知識・技術）を精選する ・行動変容を促す効果的な教育の展開（導入・展開・まとめ）を検討する	事後学習 健康教育の展開についてグループワークの内容を反映し、計画書を作成し、担当教員へ提出する。 計画書について、ディスカッションを行い、修正する。 (DP3, DP10)	事前学習 120 分 事後学習 90 分
20 21	媒体・シナリオの作成 評価計画の作成 (全員)	1. グループワーク ・シナリオを検討し、素案を作成する ・必要な媒体を検討し、素案を作成する ・デモストをしながら媒体、シナリオを修正する ・評価計画を検討し、作成する	事後学習 ①健康教育のシナリオについて、グループワークの内容を反映し、シナリオを作成し、担当教員へ提出する。 シナリオを修正する。 (DP3, DP10)	事前学習 120 分 事後学習 90 分
22 23	健康教育の企画（グループ発表） (全員)	1. グループ発表： 健康教育の企画（評価計画、媒体案含む） ・ディスカッション後、修正する	事前学習：以下の資料を作成する □健康教育計画書 □健康教育評価表 □シナリオ □配布資料（パンフレット・アンケートなど） 事後学習： 各グループで、質疑応答や意見交換で得られた助言をもとに健康教育計画書を修正し、当日までの準備を行う (DP3, DP10)	事前学習 120 分 事後学習 90 分
24 25	効果的な健康教育の工夫 (全員)	1. グループワーク ・効果的な媒体、理解しやすいシナリオになるよう修正し、主体性を高める働きかけとなるよう工夫をする ・デモストをしながら、聞き取りやすく、理解しやすいように話方や伝え方を工夫し、実施できるよう練習する	事後学習：評価計画を修正する。 (DP3, DP10)	事後学習 90 分
26 27	健康教育の実施（学外演習） (全員)	1. 学外演習：ふれあい交流参加 ・健康教育実施 ・評価情報の収集	事前学習 健康教育に必要な物品の準備や配置ができる。 (DP3, DP10)	事前学習 180 分

28	健康教育の評価 (全員)	1. グループワーク ・健康教育の評価を実施し、評価表に記入し、振り返りを行う。	事後学習 (DP10) 健康教育の振り返りのためにディスカッションを行い、健康教育の評価表を作成し、提出する	事前学習 60 分 事後学習 120 分
29 30	健康教育の実施・評価 (グループ発表) (全員)	1. グループ発表 健康教育の企画・実施・評価について発表し、質疑応答やディスカッションを行う。	事前学習 (DP10) 各グループで、以下の様式について印刷準備する ☐ 健康教育計画書 (最終版) ☐ 健康教育評価表 ☐ 媒体 ☐ 配布資料など	事前学習 120 分
備考				

授業科目名	組織協働活動論 Topic in Organizational Collaboration			単位	2 単位
				授業コード	
履修	選択	関連資格	保健師国家試験受験資格	授業方法	講義
開講年次	4 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：尾形由起子 科目担当者：山下清香・小野順子・手島聖子・檜橋明子				
授業概要	保健師が行う他職種・他機関との合意形成や協働しながら継続的・組織的に健康課題を解決する方法、協働活動を開発、改善、管理する活動方法について学ぶ。 地域を構成する組織・機関や制度、仕組みを構造的にとらえ、地域の課題解決能力を高めるための連携・協働活動の意義と必要性について理解する。また、行政施策への住民参加、地域組織化活動の意義を理解し、住民との協働活動についても学ぶ。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	コミュニティの課題解決能力を高めるための連携・協働活動の意義と協働活動のための保健師の役割について理解する。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	コミュニティを構成する組織や機関の構造と特徴、組織間の関係性に関わる概念について学ぶとともに、行政施策への住民参加、地域組織化活動の意義と保健師の支援方法に論じることができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	公衆衛生看護学実習Ⅰ、Ⅱを履修しておくことが望ましい。				
テキスト	各回の担当教員から別途資料を配布する。				
参考図書・教材等	新保健学講座 4 公衆衛生看護活動論 2				
実務経験を生かした授業	看護職としての実務経験を活かしのこれまでの実務経験で直面し同職種・多職種との連携・組織協働の必要性和活動事例を説明する。さらに、その実際に活動を行っている実践者との共同活動を含めた授業の組み立てを行う。			授業中の撮影	有

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				40	30	30		100
知識・理解	(DP 2)			40				40
思考・判断・表現	(DP 3)				30	30		60
備考 この科目は5名の教員がオムニバス形式で演習を行っていくため、具体的な進め方は各回の担当教員が行う。								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
S 評価レベル：地域包括ケアシステム構築において、社会が直面している課題を客観的・多角的視点から分析し対処方略を提案できる。さらに、保健師として求められ協働的支援について考察することができる。 A 評価レベル：組織におけるマネジメントの原則やそれぞれの組織内における多職種に求められる役割について理解し、保健師との協働方法について考察することができる。 また、多職種の役割や機能を踏まえ、看護職として求められる役割について自己の見解を示すことができる。 B 評価レベル：各組織で活動する多職種の役割や機能について理解し、社会の中で直面する課題を客観的視点から分析し、講師が述べる対処方略を追随し表現することができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

C 評価レベル：看護職がかかわる組織とそのなかで活動する多職種の連携・協働について理解し、患者、地域住民がその連携・協働活動により課題解決につながる理解をする。

成績評価の基準 ルーブリック

S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	公衆衛生看護活動における連携・協働とは（尾形）	1. 授業概要・到達目標・評価方法についてガイダンスする。 2. 講義 地包括ケアシステムの構築がなぜ必要であるのか、看護職としてシステム構築のために、必要な基礎的知識を講義する。また、組織における連携協働についての理解を深めるために、事例を用いて、具体的な活動イメージをもたせ、今後の看護のあり様について検討する。検討した内容をもとに、多職種の役割について学ぶ。	事前学習 公衆衛生看護学テキスト3 公衆衛生看護活動Ⅰ p126- p144 を講読する（DP2） 事後学習 ①本日の講義課題についてレポートする ②関連する国家試験問題を解く（DP2）	事前学習 60分 事後学習 ② 60分 ②100分
2	協働のプロセスと理論（山下）	1. ディスカッション 公衆衛生看護学実習Ⅰの体験の中で「協働」「連携」と考える場面を確認し、具体的な活動や状況をイメージする。 2. 講義 パワーポイントとテキスト等をもちいて、協働の基盤となる理論と活動プロセス、技術についての基本的知識を学び、実践現場での具体的な活動と結びつける。	事前学習 ・公衆衛生看護学実習Ⅰの体験の中で「協働」「連携」と考える場면을レポートにまとめる（DP2）。 事後学習 ①該当部分のテキスト（公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術 p120- p131）、配布資料を読んで復習する ②関連する国家試験問題を解く（DP2）	事前学習 60分 事後学習 ② 30分 ②100分
3	退院支援における連携方法（小野、ゲストティーチャー：専門看護師）	1. 講義 地域包括ケアシステムにおける急性期病院の役割について、診療報酬改定の流れについても触れながら講義する。また、実際の事例をもとに、退院調整システムの中で病態理解・アセスメントの上に立ち、対象者の意思決定を支える看護職の役割・専門性について学ぶ。さらに、急性期病院における退院支援の中での他職種・他機関との協働のあり方について検討する。	事前学習 該当部分のテキスト（金川克子編「最新保健学講座4 公衆衛生看護活動論2」第5章在宅看護 p.246-315.）を読む。 事後学習 ①講義・ディスカッションを受けて地域包括ケアシステム構築における保健師の役割についてレポートを作成する。 ②関連の国試問題を解く	事前学習 60分 事後学習 ② 150分 ②100分
4	退院支援における連携方法（小野、ゲストティーチャー：医療ソーシャルワーカー）	1. 講義 地域包括ケアシステムにおける急性期病院の退院支援、多職種協働について、ソーシャルワーカーの視点から講義する。対象理解において、「人生」の観点から語りを促し、対象者自身が自分自身の専門家であることを助ける専門職としての援助のあり方を学ぶ。また、支援の中で生じるジレンマや課題から、ソーシャルアクションを通じて多職種と協働しながら次の対象者の暮らしやすさへ繋がるシステム構築のプロセスについて学ぶ。	事前学習 公衆衛生看護学テキスト3 公衆衛生看護活動Ⅰ p126-162 を講読する。 事後学習 講義・ディスカッションを受けて地域包括ケアシステム構築における保健師の役割についてレポートを作成する。	事前学習 60分 事後学習 150分

5	退院支援における連携方法 (小野、ゲストティーチャー： 専門看護師、医療ソーシャル ワーカー)	1. ディスカッション 講義を受け、これまでの講義・演習、 実習体験も踏まえ、保健師として急性期 病院における看護・福祉職との協働のあ り方について検討する。	事後学習 ①関連する国家試験問題を解く	事後学 習 100 分
6 7	小規模多機能施設の多職種と の連携(手島、ゲストティーチャ ー：保健師)	1. 講義 地域包括ケアシステム構築において地 域で先進的に取り組むホームホスピス について、住民のニーズに即したサービ スをつくり提供する必要性、地域住民や 関係機関との連携の必要性とその方法、 職種間の連携の必要性とその方法、行政 との連携の必要性とその方法について その具体を講義する。また、背景として 財政的枠組み、行政の枠組みを講義す る。これらにより地域包括ケアシステム 構築において先駆的な役割を果たす保 健師の役割について学ぶ。	事前学習 該当部分のテキスト(金川克子編「最 新保健学講座4 公衆衛生看護活動 論2」第5章在宅看護 p.246-315.)を 読む。 事後学習 ①講義・ディスカッションを受けて 地域包括ケアシステム構築における 保健師の役割についてレポートを作 成する。 ②関連する国家試験問題を解く	事前学 習 60 分 事後学 習 ② 150 分 ②100 分
8	看護間の連携(山下、ゲストテ ィーチャー：訪問看護看護師)	1. 講義 訪問看護師をゲストティーチャーと して招き、田川地域の訪問看護ステー ション連絡協議会、田川市支え合い体制 づくりの活動経過と訪問看護師の活動、 保健所保健師から紹介され支援が始ま った事例について語ってもらう。 これらの活動の事例から、訪問看護ス テーション同士の協働、訪問看護師と 田川市保健師との協働、訪問看護師と 保健所保健師と協働について学ぶ。	事前学習 訪問看護ステーションの機能と役 割、訪問看護師の機能と役割につい て、在宅看護学のテキストで学習する (DP2) 日本看護協会出版会「家族看護を基 盤とした在宅看護論Ⅰ 概論編 第3 版」第2章在宅看護システムと活動の 現状 p.62-82. 在宅看護概論で購入している。(新4 年生) 新3年生からは教科書が変更となっ ている。('ナースングラフィカ 在 宅看護論 地域療養を支えるケア' p38-91.) 事後学習 講義・ディスカッションを受けて 地域包括ケアシステム構築における 保健師の役割についてレポートを作 成する。	事前学 習 60 分 事後学 習 150 分
9	多職種連携による地域ケアシ ステムの構築の実際(尾形、ゲ ストティーチャー：市保健師)	市の地域包括ケアシステムに携わる 保健師を招き、田川地域の多職種の力 量形成について、さらには、地域住民 の主体性をうながすための田川市支 え合い体制づくりの活動経過について 、プロセスを示し、保健師の専門性を 元にした支援方法について語ってら う。 田川市の活動の事例から、多職種の 協働、保健所保健師と保健師との協 働、そして、地域住民との協働事例 からケアシステム構築のための技術 について学ぶ。	事前学習 公衆衛生看護学テキスト3 公衆衛 生看護活動Ⅰ p126-p144 を講読す る 事後学習 講義・ディスカッションを受けて 地域包括ケアシステム構築における 保健師の役割についてレポートを作 成する。	事前学 習 60 分 事後学 習 150 分
10	多職種と協働するための保健 師の調整技術(檜橋)	講義 医療依存度の高い個別支援における 保健師の調整の必要性和保健師の調 整技術を講義する。それらにより保 健師が多職種と協働する必要性を理 解し、保健師の役割について学ぶ。	事前学習 公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛 生看護技術 p8-10 を読む 事後学習 ①講義で配布した資料及び論文を読 み連携技術について理解を深める。 ②関連する国家試験問題を解く	事前学 習 60 分 事後学 習 ①60 分 ②100 分
	地域データから見る連携の在 り方①②③(尾形、ゲストティ	1. 講義 公衆衛生の歴史を紐解き、産業革命の時	事前学習 グループで公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ	事前学 習 90 分

11 12 13	ーチャー：保健環境研究所長)	代からどのように公衆衛生が発展してきたか、第2次世界大戦直後の健康問題とその対策、戦後の死因の変化と生活習慣の変化、乳幼児死亡率と低出生体重児出生割合の国際比較等について講義し、我が国の健康課題と背景となる社会情勢や人々の生活状況の関連について学ぶ。 2. ディスカッション 公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱを通して行った地区診断の発表を行う。 地域ごとの健康課題を取り上げ、地域の産業や交通機関等の生活環境との関連、住民の生活習慣との関連、医療機関や社会資源との関連、地域ケアシステムの状況との関連、行政の取り組みの特徴等についてディスカッションを行い、健康課題と関連する要因について考察する。さらにそれらの地域の健康課題解決のために、地域のどのような組織や機関との連携・協働が必要か考える。	を通して行った地区診断の発表の準備を行う。 事後学習 ①講義内容とディスカッションを振り返り、健康課題から考える多職種との連携の必要性やあり方を考える。 ②関連する国家試験問題を解く。	事後学習 ① 60分 ② 100分
14 15	地域包括ケアシステム構築における組織協働（尾形・小野）	1. 講義 地域包括ケアシステムの構築における在宅医療推進を行っている組織や機関の構造と特徴組織間の関係性について学ぶ。地域における組織間の協働の意義を捉え協働活動をどのように進めていくかその方法について考察する。 2. ディスカッション 公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱを通して学んだ地域保活ケアシステムの事例について、地域包括ケアシステム構築の背景や目的や発展プロセス及び保健師の役割についてディスカッションする。	事前学習 組織協働活動論の外部講師の中から1人を選び、①講義概要、②専門的役割 ③専門職としての機能、④連携先（誰とどのように）、⑤地域包括ケアシステムのなかでの役割、⑥行政保健師との連携、⑦他機関・多職種連携について学んだことをPPTファイルで作成し教員の指導助言を受けて修正し、発表準備を行う。 事後課題 ①ディスカッションの内容を考慮して包括ケアシステム構築における保健師の役割をまとめる。 ② 関連する国家試験問題を解く	事前学習 280分 事後課題 ② 90分 ②100分
備考	外部講師の都合により講義内容が変更になることがある。			

授業科目名	公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ			単位	1 単位
				授業コード	
履修	選択	関連資格	保健師国家試験受験資格	授業方法	演習
開講年次	3 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：尾形由起子 科目担当者：山下清香・小野順子・手島聖子・檜橋明子・（中村美穂子）				
授業概要	公衆衛生看護活動の活動展開の基盤となる地域のアセスメント方法を学ぶ。 コミュニティアズパートナーモデルを用いたコミュニティを把握するために必要な情報の収集方法と、 人々の健康課題を把握するためのアセスメント方法を学ぶ。				
到達目標	知識・理解	(DP 1)			
		(DP 2)	公衆衛生看護活動の対象であるコミュニティの把握方法とそのために必要な情報、 情報収集及び分析方法、健康課題の抽出と構造化の方法、公衆衛生看護活動に繋がる アセスメントの考え方を理解する。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	コミュニティに関する情報を収集して特長を捉え、人々の生活のありようや社会環境 を背景とした顕在的、潜在的な健康課題について考察することができる。		
		(DP 4)			
	関心・意欲・態度	(DP 5)			
		(DP 6)			
	技能	(DP 7)			
		(DP 8)			
		(DP 9)			
		(DP10)			
授業内容を理解 するために必要な知識・ 技能	看護学部専門基礎科目及び専門科目の中の必須科目のうち 3 年前期までに開講された科目の単位を修 得していること。				
テキスト	①佐伯和子編著『地域看護アセスメントガイドーアセスメント・計画・評価のすすめかた』医歯薬出 版株式会社 2007、2,592 円 ②エリザベス T. アンダーソン編集・金川克子他監訳『コミュニティアズパートナーー地域看護の理論 と実際ー』医学書院 2007、4101 円 ③佐伯和子編他『公衆衛生看護学テキスト 2 公衆衛生看護技術』医歯薬出版株式会社 2014、4,320 円				
参考図書・ 教材等	①厚生労働統計協会著『国民衛生の動向』厚生労働統計協会 ②井伊久美子他編『新版第 3 版保健師業務要覧』日本看護協会出版会 2013 ③井伊久美子他『住民の主体的組織活動の展開 地域保健活動のめざすもの』医学書院 1996 適宜提示				
実務経験を生 かした授業	保健師として実務経験を有する教員が、地域を対象とした公衆衛生看護アセスメン トについて教授する。			授業中 の撮影	○

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				60	40			1 0 0
知識・理解	(DP 1)							
	(DP 2)			30	20			50
思考・判断・表現	(DP 3)			30	20			50
	(DP 4)							
関心・意欲・態度	(DP 5)							
	(DP 6)							
技術	(DP 7)							
	(DP 8)							
	(DP 9)							
	(DP10)							
備考 *その他は、訪問インタビュー								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
S 評価レベル：公衆衛生看護活動の対象であるコミュニティの把握方法とそのために必要な情報、情報収集及び分析方法、健康課題の抽出と構造化の方法、公衆衛生看護活動に繋がるアセスメントの考え方が理解できる。 インタビューにより個別の情報を収集し、多角的に分析して健康問題を把握し、地域の健康課題と関連付けて理解できる。 複数の事例の情報を集約して分析し、在宅介護の特長を捉え、人々の生活のありようや社会環境と関連付けて顕在的、潜在的な健康課題を把握することができる。	
A 評価レベル：公衆衛生看護活動の対象であるコミュニティの把握方法とそのために必要な情報、情報収集及び分析方法、健康課題の抽出と構造化の方法、公衆衛生看護活動に繋がるアセスメントの考え方が理解できる。 インタビューにより個別の情報を収集し、多角的に分析して健康問題を把握し、地域の健康課題との関連を考察することができる。 複数の事例の情報を集約して分析し、在宅介護の特長を捉え、人々の生活のありようや社会環境と関連付けて顕在的、潜在的な健康課題を検討することができる。	
B 評価レベル：公衆衛生看護活動の対象であるコミュニティの把握方法とそのために必要な情報、情報収集及び分析方法、健康課題の抽出と構造化の方法、公衆衛生看護活動に繋がるアセスメントの考え方が理解できる。 インタビューにより個別の情報を収集し、多角的に分析して健康問題を把握し、地域の健康課題と関連付けて考える必要性が理解できる。 複数の事例の情報を集約して分析し、在宅介護の特長を捉え、人々の生活のありようや社会環境と関連付けて健康課題を検討することができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
C 評価レベル：公衆衛生看護活動の対象であるコミュニティの把握方法とそのために必要な情報、情報収集及び分析方法、健康課題の抽出と構造化の方法、公衆衛生看護活動に繋がるアセスメントの考え方が理解できる。 インタビューにより個別の情報を収集し、多角的に分析して健康問題を把握することができる。 複数の事例の情報を集約して分析し、在宅介護の実態、人々の生活のありようや社会環境を捉え、それらが地域の健康課題と関連していることを理解することができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	公衆衛生看護活動における健康課題の把握とアセスメント（尾形由起子）	1. 講義 公衆衛生看護の目的とアセスメントの必要性について理解する。 1) 病気のトラジャクトリー（実習事例をもとにディスカッション） 2) 高齢化の進展及び多死社会に向けた課題解決方法 3) 在宅療養の課題 4) 地域を看護するとは	事前学習 テキスト「コミュニティアズパートナー」9章を読む。 事後学習 コミュニティアズパートナーモデルを使い、地域の情報収集を行い健康課題を抽出する。 （DP2, 3）	30分 510分
2	地域の健康課題抽出のためのデータ収集方法（檜橋明子）	講義 コミュニティアズパートナーモデルの枠組みについて解説する。 演習 コミュニティアズパートナーモデルの枠組みにのっとり情報収集の方法について演習を通して理解する。		
3	生活者の実態をとらえる視点（山下清香）	講義 地域の健康課題を把握するための対象（個）のアセスメントの視点を理解するため、公衆衛生看護活動における対象（個）をとらえる視点と人々の生活のアセスメントを行う視点に	事前学習 自身の身体計測および活動量計測の記録 （DP2, 3）	60分 60分

		ついて講義する。		
4	生活者の実態をとらえる視点（食事）（手島聖子）	演習 自分の食生活を振り返り、食習慣をアセスメントできる 食事バランスガイドを用いて、食事摂取状況のアセスメントができる 自分の食習慣に対する課題がわかる	事前学習 自身の身体計測および食事の撮影 自身の食事記録の作成 （DP 2, 3） 事後学習 配布資料を読む	60 分 60 分
5 6	地域の高齢者の健康課題の把握（1）（訪問インタビューの準備）（尾形・山下・小野・手島・檜橋・（中村）） 1)学習の進め方 2)情報収集とアセスメントの視点 3)介護負担と関連要因	1. 講義 ・学習の進め方を説明する。 ・情報収集とアセスメントの視点 2. グループワーク ・事前学習で読んできた文献の要約を紹介する。 ・どのようなもの（こと）が介護者の負担となっているか、その関連要因にはどのようなことがあるかを付箋に記載し、模造紙上に貼ってグループピングし、介護負担とその要因について明らかにする。 ・2 グループに分かれてグループワークを行い、発表する。 介護負担と関連要因（文献学習）	事前学習 介護負担に関する配布文献および自分で検索した文献 3 本を読み要約を作成する。 （DP 2, 3）	240 分
7 8 9	地域の高齢者の健康課題の把握（2）（訪問インタビューの実施）（尾形・山下・小野・手島・檜橋・（中村）） 1)家庭訪問について 2)訪問準備 3)訪問インタビュー実施 ・在宅介護の経験プロセスを聞き取る 4)事後報告・記録整理	演習 二人一組となり、家庭訪問の実施し、介護経験者より介護の経験について話をうかがってくる。 1)訪問インタビューの進め方、留意点、訪問カバン等の説明を受ける。 2)訪問準備 ・訪問対象者の概要の説明を受け、訪問先までの経路を確認する。 ・聞き取り内容、インタビューの流れの計画を立て、指導を受ける。 ・訪問インタビューのロールプレイを行い、指導を受ける。 ・前日に訪問対象者に電話をして、約束の時間場所等を確認する。 3)訪問インタビューの実施 ・在宅介護経験者から介護経験のプロセスを聞き取る。 4)事後報告・記録記載 ・訪問終了後、教員に訪問時の状況を報告し、記録を記載する。	事前学習 ・家庭訪問の事前学習 ・訪問計画案の作成 ・ロールプレイ 事後学習 ・家庭訪問記録作成 ・家庭訪問記録発表の準備 （DP 2, 3）	60 分 240 分
10	地域の高齢者の健康課題の把握（3）（訪問調査の考察）（尾形・山下・小野・手島・檜橋・（中村）） 1)インタビュー結果の確認と訪問記録の整理 ・エコマップ ・住宅の見取り図 ・介護者の 1 日の生活 ・介護経過	演習 伺った内容について教員とともに内容を確認し、介護の経過について整理する。 1)インタビュー結果の確認と訪問記録の整理 ・エコマップ、住宅の見取り図、介護者の 1 日の生活状況、生活史等を記載して介護者の状況を可視化し、把握する。 ・介護経過は、被介護者の状況、介護者の状況、気持ち、支援状況のプロセスが分かるように、情報を整理して記載する。		

11 12 13	地域の高齢者の健康課題の分析（訪問調査結果の報告・検討）（尾形・山下・小野・手島・檜橋・（中村）） 1) 訪問インタビュー結果報告 2) 複数事例の情報整理 ・被介護者の状況 ・介護者家族の状況 ・介護者の健康状態 ・介護者の生活状況 ・介護状況 ・介護に対する思い	グループワーク 個別訪問記録を用いて伺ってきた介護経験の話を発表し共有する。 1) 訪問インタビュー結果報告 ・介護者の状況、被介護者の状況、介護経過を報告し、介護者がどのような思いで介護をしていたか、どのようなことが負担となっていたか報告する。 2) 複数事例の情報整理 ・2グループに分かれ、項目別に情報を整理して記入する。 ・各事例の概要を要約し、それらの相違点や背景、項目間の関連性を検討する。 <項目> ・被介護者の状況：疾患、健康状態、治療状況、介護度、ADL、利用サービス等 ・介護者家族の状況：家族構成、被介護者との関係、家族関係の変化 ・介護者の健康状態：介護前・中・後（身体的、精神的、社会的）、治療状況 ・介護者の生活状況：食事、睡眠、身体活動、家事、仕事、地域交流・余暇活動、外出手段 ・介護状況：介護年数、介護内容、公的・インフォーマルの支援 ・介護に対する思い：介護、周囲の関わり、社会資源、役立ったことと役に立たなかったこと等	事後学習 ・家庭訪問一覧及び要約の作成 ・発表準備 （DP 2, 3）	180 分
14 15	まとめ（地域の健康課題の抽出）（尾形・山下・小野・手島・檜橋・（中村）） 1) 介護者の 1 日の生活の実態と課題 2) 介護経過の実態と課題 3) 介護体験の実態と課題	1. 発表・ディスカッション 1) 介護者の 1 日の生活の実態と課題 ・複数の介護者の 1 日の生活の概要からわかることを確認し、介護者の生活実態の理解を試みる。 2) 介護経過の実態と課題 ・複数の介護者の介護経過からわかることを確認し、介護者の生活と気持ちの変化から介護の実態の理解を試みる。 3) 介護体験の実態と課題 ・グループで、各項目の要約を発表する。 介護経験の話を集団の視点で再度とらえなおし、集団の特徴を捉えるとともに、在宅介護とは介護者にとってどのような体験なのか理解し、健康課題について検討する。	事前準備 ・各事例の介護経過と介護者の 1 日の生活をホワイトボードに記載しておく。 事後学習 レポート作成 訪問インタビューを通して把握した健康課題について「健康問題が生じる背景や要因を構造的に考察する」 （DP 2, 3）	300 分
備考				

授業科目名	公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ			単位	2	
				授業コード		
履修	選択	関連資格	保健師国家試験受験資格		授業方法	演習
開講年次	4 年次	開講時期	前期			
担当教員	科目責任者：尾形由起子 科目担当者：山下清香・小野順子・手島聖子・檜橋明子・（中村美穂子）					
授業概要	公衆衛生看護活動の展開につながる地域のアセスメント技術を習得するため、実習先の地域の情報を収集しアセスメントを行い、抽出した健康課題をもとに必要な活動を検討する。 把握した地域の特徴と健康課題を資料化して意見交換を行い、プレゼンテーション技術や討議の進め方について学ぶ。					
到達目標	知識・理解	(DP 1)				
		(DP 2)				
	思考・判断・表現	(DP 3)	実習先の地域の情報を収集し、アセスメントし、健康課題を抽出し検討することができる。収集した地域の情報と健康課題を資料化し、発表し討議できる。			
		(DP 4)				
	関心・意欲・態度	(DP 5)	統計データのほか、フィールドサーベイやインタビューなど現場に身をおいた体験をして積極的に地域の情報を収集できる。			
		(DP 6)				
	技能	(DP 7)				
		(DP 8)				
		(DP 9)				
		(DP10)				
授業内容を理解するために必要な知識・技能	公衆衛生看護アセスメント論Ⅰを修得していること					
テキスト	①佐伯和子編著、地域看護アセスメントガイドーアセスメント・計画・評価のすすめかた、医歯薬出版株式会社、2007、2,592 円 ②エリザベス T. アンダーソン編集・金川克子他監訳、コミュニティアズパートナーー地域看護の理論と実際ー、医学書院、2007、4101 円 ③佐伯和子他編、『公衆衛生看護学テキスト 2 公衆衛生看護技術』、医歯薬出版株式会社、2014、4,320 円					
参考図書・教材等	厚生労働統計協会著、『国民衛生の動向』、厚生労働統計協会 適宜提示					
実務経験を生かした授業	保健師として実務経験を有する教員が、地域を対象とした公衆衛生看護アセスメントについて教授する。			授業中の撮影	○	

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				60	40			100
知識・理解	(DP 1)							
	(DP 2)							
思考・判断・表現	(DP 3)			20	20			40
	(DP 4)			20	20			40
関心・意欲・態度	(DP 5)							
	(DP 6)							
技術	(DP 7)							
	(DP 8)							
	(DP 9)							
	(DP10)			20				20
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
S 評価レベル：訪問インタビューで把握した健康問題の構造を把握して関係者に報告し、課題解決の方策を提言できる。 地域の健康課題を把握するため統計データ、フィールドサーベイ、インタビュー等により情報収集し、資料化して分析し、コミュニティアズパートナーモデルを活用して地域の健康課題を抽出することができる。 A 評価レベル：訪問インタビューで把握した健康問題の構造を理解して関係者に報告し、課題解決の方策を検討できる。 地域の健康課題を把握するため統計データ、フィールドサーベイ、インタビュー等により情報収集し、資料化して分析し、コミュニティアズパートナーモデルを活用して地域の特性を把握し、地域の健康課題を検討することができる。 B 評価レベル：訪問インタビューで把握した健康問題の構造を検討して関係者に報告し、課題解決について検討できる。 地域の健康課題を把握するため統計データ、フィールドサーベイ、インタビュー等により情報収集し、資料化して分析し、コミュニティアズパートナーモデルを活用して地域の特性を理解し健康課題を検討することができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
C 評価レベル：訪問インタビューで把握した健康問題を関係者に報告し、課題解決について検討できる。 地域の健康課題を把握するため統計データ、フィールドサーベイ、インタビュー等により情報収集し、資料化して地域の特徴をと地域の健康課題を検討できる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1 2 3	地域の高齢者の健康課題の構造化①（尾形・山下・小野・手島・檜橋・（中村）） 1)在宅介護者の健康課題のアセスメント ・介護の実態 ・介護負担とは ・介護者のニーズ 2)健康課題の構造化① ・介護者の健康問題 ・健康問題と介護に伴う生活状況の関連 ・介護者を取り巻く環境・支援と介護負担の関連 3)報告会準備 ・報告会のねらいと企画 ・役割分担と準備	1. 授業概要・到達目標・評価方法についてガイダンスする。 2. 講義 ・アセスメント論Ⅰの学びの確認（①介護の実態 ②介護負担とはどのようなものか③介護者のニーズとは何か） 3. プレゼンテーション ・家庭訪問からみてきた介護者の姿を通して、地域の健康課題の構造を考える。 ・各自、レポートの概要を発表する。 4. グループディスカッション ・訪問インタビューを行った複数の事例から把握した地域の健康課題を共有し、健康問題が生じる要因や背景を確認し、どのような支援や活動が必要か考える。 5. 演習 ・報告会のねらいと企画について説明する。 ・グループに分かれ、役割分担して媒体作成等準備を行う。 ①介護者の生活 ②介護者の健康問題 ③在宅介護の支援	事前学習 ・公衆衛生看護アセスメント論Ⅰ最終レポートで検討した健康課題に関するプレゼンテーションの準備を行う。 事後学習 ・共有した健康課題を踏まえ、今回の家庭訪問を通じて学んだことで、介護者に伝えたいメッセージを考える。 ・報告会の媒体、シナリオの検討	事前 ・30分 事後 ・240分

4 5 6	地域の高齢者の健康課題の構造化②（尾形・山下・小野・手島・檜橋・（中村）） 1) 報告会準備 2) 媒体作成 3) シナリオ作成	1. グループディスカッション1 ・介護者に伝えたいメッセージ(宿題)の共有と検討 ・前回のグループワークで考えたこと、その後、考えた介護者に伝えたいメッセージを発表し、共有する。お互いのメッセージをあわせ、どのようなメッセージを送るのか検討する。 2. 演習 ・グループディスカッション2を踏まえ、媒体の内容を検討し作成する。シナリオ案を作成する。 適宜教員の助言を受ける。	事後学習 ・媒体作成・シナリオ作成（グループワーク）（DP3,4）	事後学習 ・360分
7 8	地域の高齢者の健康課題の共有方法（尾形・山下・小野・手島・檜橋・（中村）） 1) 媒体作成 2) シナリオ作成 3) デモンストレーション	1. 演習 ・グループで媒体及びシナリオを作成する。 2. デモンストレーション ・グループ全体でデモンストレーションを行う。 適宜、教員の助言を受ける。	事後学習 ・媒体作成・シナリオ作成（グループワーク）・デモンストレーション（DP3,4）	事後学習 ・270分
9 10	地域の高齢者の健康課題の共有（尾形・山下・小野・手島・檜橋・（中村）） 1. 報告会準備 2. 報告会実施	1. 報告会準備 ・訪問インタビュー対象者に連絡し、報告会にお誘いする。 ・会場設営、必要物品の準備等 2. 報告会（学外演習） ・訪問インタビューでわかった在宅介護の実態とそこから考えた健康課題を報告する ・当事者等出席者に感想や意見を伺い、実態を把握し理解を深める。 ・出席者と健康課題を共有し、解決のために何が一緒に必要か考える。	事後学習 文献検討、家庭訪問、健康課題の抽出、報告会のプロセスを通して学んだこと アセスメントのプロセスを中心に考察すること。 （DP3, 4, 5）	事後学習 ・90分
11	地域の高齢者の健康課題まとめ（尾形・山下・小野・手島・檜橋・（中村）） 1. 報告会の振り返り ・地域の健康課題の共有 ・新たに分かった地域の実態 ・報告会の意義 ・今後、必要な活動	1. グループディスカッション ・報告会を振り返り、在宅介護の課題解決のために、今後どのようなことが必要か考える。 ①参加者と在宅介護の課題は共有できたか ②新たにわかった地域の実態（当事者・支援等） ③参加者（当事者・関係機関・関係職種）にとっての意義		
12 13	健康課題抽出のためのデータ収集・分析（人口動態・人口静態） （尾形・山下・小野・手島・檜橋・（中村）） 1) 地域診断のためのアセスメントプロセス 2) ガイダンス 3) 人口動態統計、人口静態統計 ・人口動態統計、人口静態統計の情報 ・情報収集方法 ・情報整理の仕方 演習 1) データ収集	1. 講義 1) 保健師活動における健康課題抽出の必要性とアセスメントのプロセスについて講義する。 2) ガイダンス ・スケジュールと演習の勧め方について説明する。 ①データ収集と読み取り、提出 ②地区踏査 ④発表について 2. 演習（人口動態統計、人口静態統計） 1) 人口動態・人口静態情報、収集方法、整理の仕方について講義する。 2) 実習グループに分かれて人口動態・人口静態のデータの収集方法を確認し、必要なデータ収集を行う。 3) データを加工し、分析して読み取る。	事前学習 地域看護アセスメントガイド1基本編を読む。 事後学習 ①資料を読む。 ②公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱの地域の人口動態・人口静態についてワークシートに沿ってデータ収集し、図表を作成する。その傾向を読み取る。（DP3, 4, 5） ・完成したワークシートをeラーニングで提出する。	事前学習 30分 事後学習 ①30分 ②120分

	・人口動態統計情報 ・家族世帯の情報 2)人口動態・人口静態の読み取り ・数値、率、割合 ・地域間比較 ・推移の比較 3)データの加工 ・表、グラフの作成	4)各データからわかる地域の特徴についてグループで検討する。 1)各自治体の地域のデータの数値、率、割合の読み取り 2)全国、福岡県、保健所管内等の地域間で比較したデータの読み取り 3)経年変化等推移の比較をした地域データの読み取り 4)表やグラフへの加工		
14	健康課題抽出のためのデータ分析・判断(人口動態・人口静態) (尾形・山下・小野・手島・檜橋・(中村)) ・人口動態統計、人口静態統計からみた地域の特徴 ・数値、率、割合 ・地域間比較 ・推移の比較 ・表、グラフの作成	1. 演習 1)各グループから提出された人口動態・人口静態のデータを集約した結果を提示しながら、加工の仕方、データの読み取り方の実際を説明する。 2)各地域のデータから特徴を読み取り解釈し、データの読み方や解釈を説明し、地域の特徴を確認する。	事後学習 ・公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱの地域の人口動態・人口静態についてワークシートに沿ってデータ収集し、図表を作成する。その傾向を読み取る。(DP 3, 4, 5)	90 分
15 16	健康課題抽出のためのデータ収集(健康指標) (尾形・山下・小野・手島・檜橋・(中村)) 1)データ収集(健康指標) ・死亡数(総数・死因別) ・死因別死亡割合 ・粗死亡率 ・年齢調整死亡率 ・標準化死亡比 ・母子保健健康指標	1. 演習(健康指標) 1)健康指標、収集方法、整理の仕方について講義する。 2)実習グループに分かれ、死亡統計を中心に健康指標のデータの収集方法を確認し、必要なデータ収集を行う。 3)データを加工し、分析して読み取る。 4)各データからわかる地域の特徴についてグループで検討する。	事後学習 公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱの地域の健康指標(死亡統計、母子健康指標)についてワークシートに沿ってデータ収集し、図表を作成する。その傾向を読み取る。(DP 3, 5)	180 分
17	健康課題抽出のためのデータ分析・判断(健康指標) (尾形・山下・小野・手島・檜橋・(中村)) ・健康指標情報からみた地域の特徴 ・数値、率、割合 ・地域間比較 ・推移の比較 ・表、グラフの作成	1. 演習 1)各グループから提出された健康指標のデータを集約した結果を提示しながら、加工の仕方、データの読み取り方の実際を説明する。 2)各地域のデータから特徴を読み取り解釈し、データの読み方や解釈を説明し、地域の特性を確認する。	事後学習 ・公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱの地域の人口動態・人口静態についてワークシートに沿ってデータ収集し、図表を作成する。その傾向を読み取る。(DP 3, 4, 5)	90 分
18 19	健康課題抽出のためのデータ収集・分析(サブシステム) (尾形・山下・小野・手島・檜橋・(中村)) ・データ収集(サブシステム) ・経済指標(生活保護率、財政力指数等) ・産業(産業別従事者等) ・保健医療福祉関係情報	1. 演習(サブシステム) 1)サブシステムのデータの収集方法を確認する。自治体ホームページ等を活用して、質的データも収集する。 2)グループに分かれ必要なデータ収集を行い、各データの特徴についてグループで検討する。	事後学習 公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱの地域のサブシステムについてデータを収集し、まとめる。(DP 3, 4, 5)	事後学習 180 分

	(介護保険認定率、医療費、医療機関等) ・教育			
20 21 22	地区踏査（学外演習） （尾形・山下・小野・手島・檜橋・（中村）） 1)地区踏査 ・意義 ・5感を使って地域を知る 2)データ収集 ・物理的環境 ・交通機関 ・行政 ・住民の意識	1. 事前準備 ・地区踏査の目的、調査項目、データ収集方法、交通機関等を検討し、計画を作成する。 ・適宜、教員の助言を受ける。 2. 地区踏査（学外演習） ・実習先の地域に身を置き、5感を使って感じながら住民の生活の場について情報収集する。 ・生活者の視点で地域を歩き、可能な範囲で地域の住民と話しをする。 ・実習先の市町村、保健所等の指導者に挨拶し、実習について打ち合わせをすると共に情報を収集する。 3. 情報整理 ・地区踏査の結果について内容をまとめ、分析・検討する。 ・地域の概況がわかる地図を作成する。	事前学習 ・インターネット等を活用して地域の地図や情報を収集し、地区踏査の計画を作成する 事後学習 ・把握した情報を整理する。	事前学習 90分 事後学習 180分
23	健康課題抽出のためのデータ分析・判断（サブシステム） （尾形・山下・小野・手島・檜橋・（中村）） ・サブシステム情報からみた地域の特徴 ・数値、率、割合 ・地域間比較 ・推移の比較 ・表、グラフの作成 ・地区踏査からわかった地域の特徴	1. 演習 1)各グループから提出されたサブシステムのデータを集約した結果を提示しながら、加工の仕方、データの読み取り方の実際を説明する。 2)各地域のデータから特徴を読み取り解釈し、データの読み方や解釈を説明し、地域の特性を確認する。 3)地区踏査の結果を報告する。	事後学習 ・地域の情報整理	90分
24 25	地域の健康課題の抽出（中間討議）（尾形・山下・小野・手島・檜橋・（中村）） ・地域特性の把握 ・健康問題の検討 ・健康課題の検討	1. グループワーク 1)地域看護診断のプロセスを確認する。 2)これまで収集し分類した情報全体を読み取る。 3)顕在化している健康問題、潜在的な健康問題を検討する。 4)高齢者、母子、成人各期の住民の生活を考え、地域の特徴を検討する。 5)コアの情報とサブシステムの情報を関連付けて、健康問題の背景を考える。 2. 発表準備をする。 資料作成、発表シナリオ作成	事前学習 グループワークができるようにこれまで収集した情報を整理しておく。 事後学習 発表準備 ・資料作成 ・発表シナリオ作成 （DP3, 4, 5）	事前学習 90分 事後学習 90分
26 27	地域の健康課題の検討① （尾形・山下・小野・手島・檜橋・（中村）） ・地域の特徴の把握	1. 発表 グループ毎に地域の概要と特徴を発表する。 情報の読み取り、解釈、地域ごとの相違等についてディスカッションする。 2. 発表準備 ディスカッションを踏まえ、地域の健康課題を再検討する。 資料作成、発表シナリオ作成	事後学習 発表準備 事後学習 発表準備 ・資料作成 ・発表シナリオ作成	事前学習 90分 事後学習 90分

28 29 30	地域の健康課題の検討② (発表・討議)(尾形・山下・小野・手島・檜橋・(中村)) ・健康課題の抽出 ・地域診断のまとめ	1. 発表 ・グループ毎に地域の健康課題を発表する。 地域特性を踏まえ、健康問題と背景や生活環境の関連についてディスカッションする。 健康課題の構造について考える。 2. まとめ 地域診断プロセスと考え方をまとめる。 3. 実習に向けての準備 公衆衛生看護学実習Ⅰに向けて、グループ毎に資料の追加修正、実習テーマに関する情報収集について確認する。	事後学習 地域診断のための情報収集と分析、健康課題の抽出の過程を振り返り、ディスカッションを踏まえて資料の追加修正をする。 (DP 3, 4, 5)	事前学習 90分 事後学習 180分
備考				

授業科目名	公衆衛生看護管理論 Public Health Nursing Administration			単位	2 単位
				授業コード	
履修	選択	関連資格	保健師国家試験受験資格	授業方法	講義
開講年次	4 年	開講時期	後期		
担当教員	科目責任者：尾形由起子 科目担当者：尾形由起子・山下清香・小野順子・手島聖子・檜橋明子				
授業概要	公衆衛生看護活動におけるマネジメントの考え方と意義について理解し、行政の保健師の役割と管理活動について学ぶ。 行政組織の予算管理、人事管理、事業管理の実際、地域ケアシステムの構築とケアサービスの質の管理、政策決定及び施策化への関わり、災害等健康危機管理における行政の活動について学ぶ。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	公衆衛生看護管理、地域ケアシステム、地域における健康危機管理の基本的知識が理解できる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	地域ケアシステム及び地域の健康危機管理における課題を明らかにし、必要な対策を立案できる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	地域の健康危機管理における保健師の役割を理解し、活動の在り方を探究することができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	公衆衛生看護学実習Ⅰ、Ⅱを履修しておくことが望ましい。				
テキスト	宮崎美砂子他編、『最新公衆衛生看護学 2018 年版 各論 2』 日本看護協会出版会、2018、4,968 円 佐伯和子他編、『公衆衛生看護学テキスト 2 公衆衛生看護技術』、医歯薬出版株式会社、2014、4,320 円 各回の担当教員からの配布資料				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業	科目担当教員が行政保健師としての実務経験を基に、実践に必要な公衆衛生看護管理の知識・技術を精選し、理解しやすいように授業計画を組み立てた。 各担当教員が行政保健師としての経験を基に、講義を行う他、市町村及び県庁、産業保健の現場の保健師をゲストティーチャーとして招き、実践活動について講義してもらう。			授業中の撮影	有

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				40	40		20	100
知識・理解	(DP 1)							
	(DP 2)			20				20
思考・判断・表現	(DP 3)			20	20		20	60
	(DP 4)							
関心・意欲・態度	(DP 5)				20			20
	(DP 6)							
備考 その他については、ディスカッションでの発言、参加度を考慮する。								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
S 評価レベル：公衆衛生看護活動のマネジメント機能、施策化、地域ケアシステム構築、健康危機管理における保健師活動の基本知識を用いて実習体験から現状と課題を捉え、 <u>効果的な改善策を提案できる</u> 。	
A 評価レベル：公衆衛生看護活動のマネジメント機能、施策化、地域ケアシステム構築、健康危機管理における保健師の活動の基本知識を用いて実習体験から現状と課題を捉え、 <u>改善策を検討することができる</u> 。	
B 評価レベル：公衆衛生看護活動のマネジメント機能、施策化、地域ケアシステム構築、健康危機管理における保健師の活動の <u>基本知識と実習体験を関連づけて理解し、課題の把握と改善策の考え方が理解できる</u> 。	

到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
C 評価レベル：公衆衛生看護活動のマネジメント機能、施策化、地域ケアシステム構築、健康危機管理における保健師の活動の基本知識と実習体験と関連づけて理解し、課題の把握と改善の必要性が理解できる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	公衆衛生管理の定義および機能 公衆衛生看護管理の 8 つの概念（尾形）	1. 授業概要・到達目標・評価方法についてガイダンスする。 2. 講義 公衆衛生看護管理機能の必要性、公衆衛生看護管理の実践者、公衆衛生看護の管理の機能について理解する。 1) 看護管理はシステム（インプット、プロセス、アウトプット） 2) 保健師に求められる看護管理（8 つの機能） 3) 看護管理機能の前提条件 4) 8 つの機能について、一つ一つ説明 5) 前提となる「公共性」の理念 6) リーダーシップ論（S L 理論、他）	事前学習 ①テキスト（各論 2 第 3 章 II）を読む。 事後学習 ①配布資料を基に復習する。 ②国家試験の過去問題を解く。	事前学習 60 分 事後学習 ①60 分 ②60 分
2	保健師が行う施策化とは何か 健康施策形成過程（山下）	1. 講義 パワーポイント及び資料を基に、保健師が行う施策化の基本的な知識、として、公共政策の概念、構成要素、健康政策形成過程について学ぶ。 保健師の施策化の活動を理解するため、文献や事例から公衆衛生看護活動における施策化のプロセスを学ぶ。	事前学習 公衆衛生看護学テキスト 2 公衆衛生看護技術（p 132-141）を読む。 事後学習 ①該当部分のテキスト、配布資料を読んで復習する（DP2） ②実習先の保健計画を読む。 ③国家試験の過去問題を解く。 ④保健師活動に関する法制度を調べる。	事前学習 60 分 事後学習 ①60 分 ②60 分 ③60 分 ④90 分
3	事業・業務管理（小野）	1. 講義 保健師が行う事例管理を含む事業・業務管理のについて、地域住民の生活実態をとらえ、統計データや事業実績を含めて健康課題を抽出し、健康課題に対する保健事業を実施し、事業評価を行う一連の保健事業の展開（PDCA）について学ぶ。2. ディスカッション 公衆衛生看護学実習 I・II で学んだ資料を基に具体事例について理解する。	事前学習 公衆衛生看護学実習 I・II で学んだ保健事業の展開についての実習記録を復習し説明できるよう準備しておく。 事後学習 ①該当部分のテキスト、配布資料を読んで復習する（DP 2） ②国家試験の過去問題を解く。	事前学習 60 分 事後学習 ①60 分 ②60 分
4	組織運営管理（檜橋）	1. 講義 組織運営管理と情報管理の基本的知識について、パワーポイント等を基に学ぶ。 実習先の組織図等を基に、具体事例	事前学習 事後学習 ①該当部分のテキスト（各論 2 第 3 章 II）の該当部分、配布資料を	事前学習 事後学習 ①30 分 ②60 分

		について理解する。	読んで復習する (DP2) ②国家試験の過去問題を解く。	
5	国レベル・県レベルにおける看護政策の形成 (山下、ゲストティーチャー: 県庁保健師)	1. 講義 県庁の管理的立場にある保健師をゲストティーチャーを招き、福岡県の保健師が関わる行政施策の形成と実施過程について講義してもらう。	事前学習 ①公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱの実習先の地域診断資料を振り返る。 ②福岡県健康増進計画、福岡県地域保健医療計画を読んでくる。 事後学習 ・レポート	事前学習 ①30分 ②60分 事後学習 90分
6	行政の予算・予算管理 (手島)	1. 講義 予算管理と予算編成の基本知識について、パワーポイント等を基に学ぶ。 実践事例の文献から具体例を理解する。	事前学習 ①福岡県や公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱの実習施設の予算資料を読む。 事後学習 ①配布資料を読んで復習する。 (DP2)	事前学習 ①30分 事後学習 ①60分
7	プレゼンテーションの方法 (小野)	1. 講義 プレゼンテーションの基本的知識について、パワーポイント等を基に学ぶ。 事例を基にプレゼンテーションの方法を具体的に理解する。	事前学習 事後学習 ・配布資料を読んで復習する (DP2)	事前学習 事後学習 60分
8	地域診断から保健計画作成までのプロセスをみた地域ケアの質保証 (山下他)	1. ディスカッション 地域ケアの質の保証はどういうことか考える。	事前学習 ①公衆衛生看護学実習Ⅰ又はⅡの実習記録 (地域ケアシステム及び保健計画策定、保健事業の概要等) を準備し、内容を振り返る。	事前学習 ①90分 ②60分
9		2. 講義 保健計画策定の基礎的知識について、パワーポイント及び資料を基に学ぶ。	②実習先の保健計画を読んでくる。	事後学習 ①90分 ②90分
10		3. グループワーク ①実習記録を基に、実習で体験した地域ケアシステム構築について、実習グループで振り返る。 ②実習記録を基に、実習で体験した保健計画について、実習グループで振り返る。 4. 発表・ディスカッション グループ毎に発表し、質疑応答、意見交換を行う。 5. まとめ 発表内容を基に各グループの特長を確認し、地域診断から計画計画策定のプロセスのポイントをまとめる。	事後学習 ①地域ケアシステム構築に関する該当部分、配布資料を読んで復習する。 ②保健計画策定に関するテキストの該当部分、配布資料を読んで復習する。(DP2) ③国家試験の過去問題を解く。	③240分
11	健康危機管理の体制整備と保健活動 (檜橋)	1. 講義 災害の各サイクルにおける保健師の活動について、パワーポイント等を基に学ぶ。 実践事例の文献から具体例を理解する。	事前学習 ①テキスト (各論2第3章Ⅰ) を読む。 事後学習 ・国家試験の過去問題を解く。	事前学習 ①30分 事後学習 120分
12	健康危機管理の体制整備と保健活動 (山下)	1. ディスカッション 実習で学んだ災害時の保健所及び保健師の活動について発表する。 2. 講義 資料を基に、災害時の保健師のマネジメントの基本的知識について学ぶ。 実習体験と結びつける。	事前学習 ①テキスト (各論2第3章Ⅰ) を読む。 ②公衆衛生看護学実習Ⅰ又はⅡの実習記録 (災害対策) を準備し、内容を振り返る。 事後学習 ①配布資料、災害時マニュアルを読み、復習する。 ②国家試験の過去問題を解く。	事前学習 ①30分 ②60分 事後学習 ①60分 ②120分
13	地域ケアシステムの構築に向けた保健師活動 (尾)	1. 講義 保健師活動のPDCAサイクルに関	事前学習 公衆衛生看護学実習Ⅰの実習	事前学習 60分

14	形・小野)	する基本的知識について、資料を基に学習する。 2. グループワーク 地域ケアシステム構築に向けた保健師活動について、実習体験を基にグループワークを行う。 3. 発表・ディスカッション グループ毎に発表し、質疑応答、意見交換を行う。 4. まとめ 発表内容を基にグループの特長を確認し、保健師活動についてまとめる。	記録（公衆衛生看護活動の展開）を準備し、内容を振り返る。 事後学習 ①配布資料を基に復習する。 ②国家試験の過去問題を解く。	事後学習 ①30分 ②270分
15	管理的ポストが担う公衆衛生看護管理 人材育成・人事管理・組織運営管理（山下、ゲストティーチャー：産業保健師）	1. 講義 産業保健分野で管理的ポストにある保健師をゲストティーチャーとして招き、産業保健師の活動、人材育成、人事管理、組織運営管理について講義をしてもらう。	事前学習 テキスト（各論Ⅱ第1章Ⅱ）を読み、産業保健の基礎知識、産業保健師の活動概要について復習する。 事後学習 ①配布資料を基に復習する。 ②国家試験の過去問題を解く。	事前学習 60分 事後学習 ①60分 ②180分
備考	* 外部講師の都合等により、順序が入れ替わる場合があります。			

授業科目名	公衆衛生看護学実習Ⅰ			単位	1
				授業コード	
履修	選択	関連資格	保健師国家試験受験資格	授業方法	実習
開講年次	4 年	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：尾形由起子 科目担当者：尾形由起子、山下清香、小野順子、手島聖子、檜橋明子、（中村美穂子）				
授業概要	公衆衛生看護活動の対象である地域と保健師の活動の実際を学び、行政における保健師の役割と活動方法について理解する。 保健所で実習を行い、主に保健師の活動に参加する。地域の保健医療福祉関連情報を収集して健康課題を検討し、個別支援の対象者に関する情報収集とアセスメント、支援計画を検討する。				
	思考・判断・表現	(DP 3)	地域の健康課題解決における保健所の保健活動の企画実施評価について理解し、意義と必要性について考察できる。		
		(DP 4)	現場の指導者や関係者、住民との意見交換を行い、自己の考えを述べることができる。		
	関心・意欲・態度	(DP 5)	地域の健康課題解決の方策を、現場関係者や実習生、教員と協力して検討することができる。		
		(DP 6)	地域の健康課題解決における保健所保健師の役割について理解できる。		
	技能	(DP10)	保健所にある統計資料、保健活動から得られる情報を収集・整理し、地域の健康課題を抽出することができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	各専門領域の看護学実習を全て履修していることが望ましい。				
テキスト	テキスト：①井伊久美子他編『新版第3版保健師業務要覧』日本看護協会出版会 2013、4,536 円 ②麻原きよみ他編『公衆衛生看護学テキスト1 公衆衛生看護学原論』医歯薬出版株式会社,2014、3,024 円 ③佐伯和子他編『公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術』医歯薬出版株式会社 2014、4,320 円 ④宮崎美砂子他編『最新公衆衛生看護学 2016 年版 総論』日本看護協会出版会 2016、4,968 円 ⑤宮崎美砂子他編『最新公衆衛生看護学 2016 年版 総論』日本看護協会出版会 2016、4,968 円 ⑥宮崎美砂子他編『最新公衆衛生看護学 2016 年版 各論2』日本看護協会出版会 2016、3,888 円 ⑦日本健康教育士養成機構著『新しい健康教育』保健同人社 2011、3,078 円 ⑧岩本里織他編「公衆衛生看護活動論技術演習第2版」クオリティケア 2013、3,456 円 ⑨佐伯和子編著地域看護アセスメントガイドーアセスメント・計画・評価のすすめかた医歯薬出版株式会社 2007、2,592 円 ⑩エリザベス T. アンダーソン編集・金川克子他監訳コミュニティアズパートナーー地域看護の理論と実際ー医学書院 2007、4101 円				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業	公衆衛生看護実務経験がある教員が臨地の指導者と協働で実習計画を作成し、指導する。			授業中の撮影	○

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				60	20		20	100
思考・判断・表現	(DP3)			10	5		5	20
	(DP4)			5	5		5	15
関心・意欲・態度	(DP5)				5		5	10
	(DP6)			5	5		5	15
技術	(DP10)			40				40
備考 *その他：カンファレンスでの発言、実習参加態度								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。

S レベル：地域診断に必要な情報を収集・整理し、<u>個人・家族と地域の情報を関連づけて地域の健康課題を抽出し、健康課題解決のための保健活動の必要性、活動方法と保健師の役割を理解しわかりやすく説明</u>できる。 <u>実習を通して抽出した健康課題について臨地の関係者と解決方法を検討し、提案することが</u>できる。 A レベル：地域診断に必要な情報を収集・整理して地域の特徴と健康課題を把握し、健康課題解決のための保健活動の必要性、活動方法と保健師の役割を説明できる。地域の健康課題について臨地の関係者と解決方法を検討することができる。 B レベル：地域診断に必要な情報を収集・整理して地域特徴と健康課題を理解し、保健活動の目的と方法、保健師の役割を理解し、述べる^①ことができる。地域の健康課題について臨地の関係者と検討することができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
C レベル：地域の特徴と健康課題を把握するために、<u>個人・家族及び地域の情報を収集・整理することが</u>できる。<u>保健活動と保健師の役割を理解</u>できる。臨地の関係者の<u>助言</u>を得て地域の健康課題解決について<u>検討</u>することができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

日	授業内容（担当教員）	授業の進め方
	詳細については、公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ要項参照 1. 実習先 県保健所または政令市 2. 実習期間 5 日間 平成 31 年 9 月 9 日～9 月 13 日 （北九州市：8 月 26 日～8 月 30 日） 3. 実習時間 8 時 30 分～17 時 15 分（原則） 4. 実習内容 ①地域診断 ②個別支援と集団支援 ③健康危機管理 ④施策化 ⑤地域ケアシステム構築 ⑥公衆衛生看護の専門性 5. 実習方法 1 施設 2～3 名で実習する 実習期間終了後、学内報告会を行う。 （尾形由起子、山下清香、小野順子、手島聖子、檜橋明子、中村美穂子）	1. 事前準備 ・公衆衛生看護アセスメント論Ⅱで実習先の健康課題を検討し、実習テーマに関する情報収集と地域特性の把握に努める。また、地区踏査時に実習先の指導者に挨拶し、可能な範囲で実習テーマと実習計画の打ち合わせをする。 ・公衆衛生看護学Ⅱの学習を基に、根拠法令や評価指標等実習時に活用する情報を収集し、保健師ノート作成に努める。 ・保健所または政令市の保健活動に関する文献及び実習テーマに関する文献を読み、実習先の役割や機能の理解に努める。県保健所で開催される事前オリエンテーションに参加する。 2. 臨地実習（40 時間） （1）実習の進め方 ①初日にオリエンテーションを受け、学生の実習目標を発表し、実習の進め方を臨地の指導者と確認する。 ②臨地の実習指導者の指示に従い実習計画に沿って実習する。積極的に保健活動に参加し、情報を収集し、実践現場の活動を理解する。 ③日々のカンファレンスで体験からの学びを発表し、指導者から助言を受ける。記録用紙を活用して日々の実習体験を考察し、指導者と教員からの助言を得て学びを深める。

	④最終日のカンファレンスでは、テーマに関する健康課題と実習を通じた学びをまとめて発表し、指導者から助言を得て考察を深める。 （２）学習活動 ①住民等へのインタビューや社会資源の見学を通して地域の情報収集を行い、地域の特徴や課題を把握する。 保健事業記録、家庭訪問や相談の記録等を閲覧して情報を整理し、テーマに関する地域の実態と健康課題を把握する。 事前に把握した情報と実習全体を通して把握した情報を併せ、最終日にテーマに関する健康課題を発表する。 ②保健師の家庭訪問に同行し、個別支援の実際を学ぶ。 保健事業や保健活動に参加し、企画立案・実施・評価の実際と施策体系の中の位置づけを理解する。 ③保健師の災害支援活動、健康危機管理体制について説明を受け、現状を理解する。 ④保健事業の説明を受け、保健施策体系を理解する。 ⑤地域ケアシステム構築の活動について説明を受け、システム構築のプロセスと保健師の役割を理解する。 ⑥保健師の現任教育について説明を受け、保健師の現任教育システムと質の向上の必要性を理解する。 ⑦その他、保健事業や保健活動に参加し、保健活動の実際を理解する。 ３．事後学習（５時間） ①学内報告会 ・実習での学びをまとめ、パワーポイントで発表し、他のグループと学びを共有する。 ②レポート ・実習を通じた学びを記録用紙に整理し、レポートを作成して提出する。
備考	

授業科目名	公衆衛生看護学実習Ⅱ			単位	4	
				授業コード		
履修	選択	関連資格	保健師国家試験受験資格		授業方法	実習
開講年次	4 年	開講時期	後期			
担当教員	科目責任者：尾形由起子 科目担当者：尾形由起子、山下清香、小野順子、手島聖子、檜橋明子、中村美穂子					
授業概要	公衆衛生看護学実習Ⅰをもとに抽出した健康課題を踏まえ、保健所管轄区域内の市町村を中心に実習を行う。公衆衛生看護活動における基本的な支援技術を習得するため、保健事業の企画・立案、実施、評価の過程に参画するとともに、継続した家庭訪問又は保健指導を行う。個人・家族と集団や組織への支援を連動させた公衆衛生看護活動の実践について学ぶ。また、保健福祉医療システムの構築における関係機関や他職種との連携や、保健医療福祉計画策定における保健師の施策へのかかわり、住民組織への関わりなどの実践についても学ぶ。					
	思考・判断・表現	(DP 3)	地域の健康課題解決における市町村の保健活動の企画実施評価の過程を理解し、意義と必要性、課題について考察できる。			
		(DP 4)	現場の指導者や関係者、住民と意見交換を通して考察を深め、自己の意見を述べることができる。			
	関心・意欲・態度	(DP 5)	現場関係者や実習生、教員と積極的に討議し、地域の健康課題解決の方策を検討することができる。			
		(DP 6)	地域の健康課題解決における市町村保健師の役割について理解するとともに、課題と望ましいあり方について考察できる。			
	技能	(DP10)	市町村の健康課題に関する情報を積極的に収集・整理し、顕在化した健康課題を抽出するとともに、潜在的な健康課題についても考察することができる 家庭訪問を実施し、継続した個別支援における看護過程の展開ができる 小集団を対象に、地域の健康課題解決をめざす健康教育を企画し、実施・評価ができる。			
授業内容を理解するために必要な知識・技能	公衆衛生看護学実習Ⅰ及び総合実習の単位を修得していることが望ましい。					
テキスト	テキスト：①井伊久美子他編『新版第3版保健師業務要覧』日本看護協会出版会 2013、4,536 円 ②浅原きよみ他編『公衆衛生看護学テキスト1 公衆衛生看護学原論』医歯薬出版株式会社 2014、3,024 円 ③佐伯和子他編『公衆衛生看護学テキスト2 公衆衛生看護技術』医歯薬出版株式会社 2014、4,320 円 ④宮崎美砂子他編『最新公衆衛生看護学 2016 年版 各論1』日本看護協会出版会 2016、4,968 円 ⑤宮崎美砂子他編『最新公衆衛生看護学 2016 年版 各論2』日本看護協会出版会 2016、4,968 円 ⑥宮崎美砂子他編『最新公衆衛生看護学 2016 年版 各論2』日本看護協会出版会 2016、3,888 円 ⑦日本健康教育士養成機構著『新しい健康教育』保健同人社 2011、3,078 円 ⑧岩本里織他編「公衆衛生看護活動論技術演習第2版」クオリティケア 2013、3,456 円 ⑨佐伯和子編著「地域看護アセスメントガイドーアセスメント・計画・評価のすすめかた」医歯薬出版株式会社 2007、2,592 円 ⑩エリザベス T. アンダーソン編集・金川克子他監訳「コミュニティアズパートナーー地域看護の理論と実際ー」医学書院 2007、4101 円					
実務経験を生かした授業	公衆衛生看護実務経験がある教員が臨地の指導者と協働で実習計画を作成し、指導する。				授業中の撮影	○

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合				60	20		20	100
思考・判断・表現	(DP3)			10	5		5	20
	(DP4)			10	5		5	20
関心・意欲・態度	(DP5)				5		5	10
	(DP6)				5		5	10
技術	(DP10)			40				40
備考 *その他：カンファレンスでの発言、実習参加態度								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
S レベル：地域の情報を収集し整理して<u>顕在的・潜在的健康課題を抽出し、地域における課題解決のための保健施策の体系と施策化及び保健事業の展開、地域ケアシステム構築のプロセス、健康危機管理を理解し、臨地の関係者と健康課題の解決の方策を検討し提言できる。</u> 個別の<u>継続支援における看護過程を展開し、地域ケアシステムと関連付けて今後の支援方法を検討</u>することができる。 地域の健康課題解決のために<u>健康教育を企画し、小集団を対象に実施評価し今後の展開を提言</u>できる。 市町村保健師の役割を理解し課題について考察し、<u>望ましい在り方について考えを述べる</u>ことができる。	
A レベル：地域の情報を収集し整理して顕在的・潜在的健康課題を把握し、地域の健康課題解決のための保健施策の体系と施策化及び保健事業の展開、地域ケアシステム構築のプロセス、健康危機管理を理解し、臨地の関係者と健康課題の解決の方策を検討することができる。 個別の継続支援における看護過程が展開し、今後の支援方法を検討することができる。 地域の健康課題の解決のための健康教育を企画し、小集団を対象に実施評価し今後の展開を検討することができる。 市町村保健師の役割を理解し、課題について考察し、望ましい在り方を検討することができる。	
B レベル：地域の情報を収集し顕在的・潜在的健康課題を把握し、地域保健施策の体系と施策化及び保健事業の展開、地域ケアシステム構築のプロセス、健康危機管理を理解し、臨地の関係者と健康課題の解決について検討することができる。 個別の継続支援における看護過程が展開し、今後の支援について検討することができる。 地域の健康課題の解決のための健康教育を企画し、小集団を対象に実施評価し課題を検討できる。 市町村保健師の役割と課題を理解し、望ましい在り方について検討することができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
C レベル：地域の情報を収集し<u>顕在的・潜在的健康課題を理解し、地域保健施策の体系と施策化及び保健事業の展開、地域ケアシステム構築のプロセス、健康危機管理を理解し、臨地の関係者の助言を得て健康課題の解決について検討</u>することができる。 個別の<u>継続支援における看護過程を展開</u>することができる。 地域の健康課題の解決のための<u>健康教育を企画し、小集団を対象に実施評価</u>できる。 市町村保健師の役割と課題、望ましい在り方を理解できる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

日	授業内容（担当教員）	授業の進め方

詳細については、公衆衛生看護学実習Ⅰ・Ⅱ要項参照

1. 実習習先 市町村または政令市
2. 実習期間 20日間（うち2日程度帰校日）
平成31年9月31日～10月25日
3. 実習時間 8時30分～17時15分（原則8時間）
4. 実習内容 ①地域診断
②地区活動の展開
③家庭訪問（継続訪問、同伴訪問）
④健康教育実施
⑤健康相談
⑥セルフケアグループの育成支援
⑦地域組織活動との協働、
⑧健康危機管理
⑨施策化
⑩地域ケアシステムの構築
⑪専門職としての自律
5. 実習方法 1施設に2～3名で実習する。
実習終了後、学内報告会、公衆衛生看護学実習ⅠとⅡの学びをまとめる実習発表会を行う。

（尾形由起子、山下清香、小野順子、手島聖子、檜橋明子、中村美穂子）

1. 実習準備

・公衆衛生看護アセスメント論Ⅱ、公衆衛生看護学実習Ⅰで実習先の情報収集と地域特性の把握、健康課題の検討に努める。
また、地区踏査時に実習先の指導者に挨拶し、可能な範囲で実習計画と健康教育の打ち合わせをする。

・健康教育のテーマに関する情報を収集し、企画書及びシナリオを作成する。

2. 臨地実習（160時間）

（1）実習の進め方

- ①初日にオリエンテーションを受け、学生の実習目標を発表し、実習の進め方を臨地の指導者と確認する。
- ②臨地の指導者の指示に従い実習計画に沿って実習する。積極的に保健活動に参加し、情報を収集し、実践現場の活動を理解する。見学だけでなく実施可能なことは、十分準備と打ち合わせをした上で実施させていただく。
- ③日々のカンファレンスで体験からの学びを発表し、指導者から助言を受ける。実習記録の用紙を活用して日々の実習体験を考察し、指導者からの助言を得て学びを深める。
- ④実習1,2週目は、事業説明や保健事業参加を通して、援助対象者と支援ニーズ、保健事業の必要性と展開過程、市町村の保健事業の特徴等の理解を中心に学習する。
可能であれば、健康教育を実施させていただく。
- ⑤中間カンファレンスを行い、実習前半の体験からの学びを報告する。実習指導者及び教員からの助言を得て学びを確認し、後半の実習の学習課題を明確にする。
- ⑥実習3,4週目は、保健事業の参加しながら、保健事業の体系、施策化の活動、地域ケアシステム構築の活動の理解に努め、地域の健康課題と関連づけて考察する。また活動における保健師の役割を理解する。必要時、実習指導者に資料閲覧や説明を依頼する。
- ⑦最終カンファレンスでは、実習を通じた理解した健康課題、課題解決のための保健活動の体系、健康教育の実施、同行訪問等からの学びをまとめて発表し、指導者から助言を得て考察を深める。

（2）学習活動

できるだけ保健事業に参加しながら、以下の内容を学習する。

（詳細は実習要項参照）。

- ①地域診断
- ②地区活動の展開
- ③家庭訪問（継続訪問、同伴訪問）

	・最低 1 事例、家庭訪問に同行し、可能であれば継続訪問に同行する。訪問が困難な場合、健康教育や健康相談、健診等の事業と合わせて継続支援を学習する。 ④健康教育 ・住民を対象に、最低 1 回健康教育を実施する。事前に作成した企画書及びシナリオに対し指導者から助言を得て、デモンストレーションを実施する。2 週目までに実施することが望ましい。 ⑤健康相談 ⑥セルフケアグループの育成支援 ⑦地域組織活動との協働、 ⑧健康危機管理 ⑨施策化 ⑩地域ケアシステムの構築 ⑪専門職としての自律 3. 事後学習（20 時間） ①学内実習報告会 ・実習での学びをまとめ、パワーポイントで発表し、他のグループと学びを共有する。 ・主な発表内容：地域の概要、健康課題、参加した保健事業、家庭訪問、健康教育、保健事業の体系、保健師活動の展開、保健師の役割等 ②実習発表会 ・臨地の実習指導者を招き、公衆衛生看護学実習ⅠとⅡを通した学びをまとめて発表し、実習指導者から助言を得る。 ②レポート ・実習を通した学びを記録用紙に整理し、レポートを作成して提出する。
備考	

授業科目名	家族看護学 Family Nursing			単位	2 単位
				授業コード	
履修	必修	関連資格	看護師国家試験受験資格	授業方法	演習
開講年次	3 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：尾形由起子 科目担当者：江上千代美・四戸智昭・山下清香・小野順子				
授業概要	健康問題や養育を必要とする人を抱えたとき、家族が相互にどのように影響するのかを理解し、家族成員が健康問題に対処する力を引き出し支援するために必要な家族看護学の基本的な理論と家族への援助方法について理解する。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	「家族」の概念、「家族の健康」の概念を理解し、アセスメント方法と家族を対象とした看護過程を理解できる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	家族の看護に必要な情報を収集し、家族の全体像を形成しニーズを導き出し、援助方法を述べることができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	公衆衛生看護学Ⅰ，在宅看護学を履修しておくことが望ましい。				
テキスト	各回の担当教員から別途資料を配布する。				
参考図書・教材等	家族看護学-理論と実践 第4版：鈴木和子・渡辺裕子著、日本看護協会出版会、2012、3,456 円				
実務経験を生かした授業	看護職としての実務経験を活かしのこれまでの実務経験で直面した家族に対する支援の必要性和活動事例を説明する。さらに、その実際に活動を行っている実践者との共同活動を含めた授業の組み立てを行う			授業中の撮影	有

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		60		40				100
知識・理解	(DP 2)	60						60
思考・判断・表現	(DP 3)			40				40
備考 この科目は5名の教員がオムニバス形式で演習を行っていきますので、具体的な進め方は各回の担当教員が行う。								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
S 評価レベル：社会が直面している家族の課題を客観的・多角的視点から分析し、対象となる患者の理解と同時に患者と家族、そして地域社会に対する方略を提案できる。さらに、対象となる家族の発達をふまえて看護職として求められる家族単位の支援について考察することができる。 A 評価レベル：母子、高齢者それぞれの課題解決において、家族単位の看護の必要性を理解し、家族単位の支援を多職種の間で看護の役割について理解し、社会の中で直面する課題を客観的視点から分析し、講義のなかで述べられている対処方略について説明することができる。 B 評価レベル：事例を踏まえ、提案されている家族に対する看護理論や各々の理論を看護の展開方法を学び、看護職に求められる家族単位の支援と何かについて考察することができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
C 評価レベル：看護職がかかわる患者とその家族に対し、患者本人のみならず家族単位の支援の重要性を理解しその患者あるいは地域住民がその提案される看護により課題解決につながることを理解する。	

成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	家族看護とは何か 家族をアセスメントするとはどういうことか（尾形）	1. 講義 授業概要・到達目標・評価方法についてガイダンスする。 2. 講義 地域で暮らす人々が自ら健康課題を解決しようとする時、看護職として患者本人のみならず家族を支援することの必要性とその基礎的知識を講義する。また、家族に対する支援を行う際に具体的な理論を使い、ある事例を通して看護活動イメージをもたせる。	事前学習 ・家族単位の看護を展開するために必要な家族システムに関する資料を講読する（DP2） 事後学習 ・提案された事例の家族看護（渡辺式）のステップ1～4について指示された資料を用い、その看護展開についてレポートする（DP2）	事前学習 15分 事後学習 90分
2	家族についての理論（山下）	1. 講義 家族看護アセスメントにおける家族像形成の意義と必要性、家族像をとらえるための基本的理論と活用方法について講義する。 家族発達理論、家族システム理論、家族ストレス理論を用いて、3事例の家族像の把握を試みる。	事後学習 ・配布資料を参照し、テキスト該当部分（p76-101）を読む。（DP2）	事後学習 90分
3	家族についての理論（小野）	1. 講義 看護において家族をみることの重要性及び、健康問題を抱える対象者とその家族を1つの援助対象としてとらえ、看護を展開する過程について講義する。 2. 演習 テキストの事例を題材に実際に家族アセスメントを実施し支援計画を考える。	事後学習 ・配布資料に沿って、テキストの事例の看護過程と自身が行った対象家族のアセスメント及び支援計画を振り返る。（DP2）	事後学習 90分
4	母子の課題を抱えている家族のアセスメント（江上）	演習：小児期の子どもと母親の課題をもとに、小児期の家族のアセスメントの視点を学ぶ。また、「親になる」、「家族を育む」というために必要な親のレジリエンスを育む専門職者の支援について考える。 演習はアクティブラーニングとする。事前課題をもとにグループで行い、当日提示される討議の視点についてグループで考える。	事前学習：日本における母子の課題を取り上げ、その課題を生み出す要因をパス図で示し、その説明をレポートA41枚にまとめる（DP2）。 事後課題：日本における課題解決に必要な支援について、事前学習で考えたパス図に追記し、レポート「課題解決に必要な専門職者の支援」をレポートする（DP2）。	事前学習 90分 事後学習 90分
5	ひきこもりから見える家族の課題（四戸）	1. 講義 ひきこもりの当事者だけでなく、当事者を抱える家族について、当事者家族全体の課題を嗜癪行動学の視点から捉えることの重要性と、家族内の人間関係について共依存の視点から捉えることについて解説を行う。 2. 演習 ひきこもりを抱えた家族のケースからどのような支援をすることが有効かについてワークシートにまとめる。	事前学習：厚生労働省や内閣府が示すひきこもりの定義や、家族支援についてインターネット情報を検索し、ノートにまとめる。（DP2） 事後学習：授業の講義内容をノートにまとめる。またワークシートの課題について振り返る。	事前学習 90分 事後学習 90分

6	家族看護過程（山下）	1. 講義 テキストの事例（p 101-111）を用いて、家族看護過程の展開（情報収集⇒家族像形成⇒アセスメント⇒看護問題の明確化⇒計画立案⇒実施⇒評価）について講義する。 テキストを用いて基本的な家族看護方法（p 136-157）、家族看護における看護者の役割と援助姿勢（p 167-172）の概略を講義する。	事前学習 ・テキストの該当部分（p 101-111）を読む。（DP2） 事後学習 ・配布資料を参照し、テキストの該当部分（p 101-111、p 136-157、160-172）を読む。（DP2）	事前学習 （30分） 事後学習 （90分）
7	家族看護の展開の実際（小野）	1. 講義 在宅療養における家族看護の展開と実際について、「病院から在宅療養へつなぐための支援」、「療養者を在宅で介護する家族への支援」、「在宅療養における医療体制を整える支援」などを実際の事例を通して学ぶ。また、これらの支援を行う際に、看護職に求められる知識や技術、看護職の果たすべき役割を講義する。	事後学習 ・講義を聞いて在宅療養を行う療養者・家族の健康状態のアセスメントやニーズアセスメント及び支援に必要な視点や技術について学んだ内容をレポートにまとめる。（DP4）	事後学習 90分
8	家族看護を実践するための具体的手法（尾形）	1. 講義 授業全体の振り返り・到達目標および評価の確認。 2. ディスカッション 認知症高齢者の在宅療養に関する家族支援について、渡辺式家族アセスメントモデルを活用した事例展開を事前課題で行う。 その事前課題を元に「渡辺式家族アセスメントモデル」による家族のアセスメントと援助ポイントの明確化をバズセッションで行う。家族への看護について、具体的な理論に沿い、展開を行いながら看護活動につなげる。	事前学習 ・家族単位の看護を展開するために渡辺式家族アセスメントモデルにもとづいたレポートを作成する（DP2） 事後学習 ・課題事例の家族看護（渡辺式）のステップ1～4についてディスカッションで得られた看護展開を加筆修正し提出する（DP2）	事前学習 60分 事後学習 60分
備考				

授業科目名	国際・災害看護論			単位	1 単位
				授業コード	
履修	選択	関連資格		授業方法	講義
開講年次	2 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者： 石田智恵美				
授業概要	グローバル化している現代は、海外に出かけなくても、日常生活の中で国際的な視野を必要とされる場面が多い。国際看護論では、世界の健康問題と看護の現状およびその課題について学び、看護実践を行う際に必要となる国際的な視野を養う。将来海外で看護を実践したいという学生のためだけではなく、日本の中での看護実践に役立つ考え方や見方ができる能力を身に付ける。				
到達目標	知識・理解	(DP2)	国際的な視野を持ち、人間とその生活を多角的に理解することができる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	国際看護の目的を理解し、日本のみならず世界の人々の健康の現状と課題について理解することができる。		
		(DP 4)	国際協力に求められる考え方を育み、自己の考えを表現することができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能					
テキスト	特に指定しない。				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業	海外で緊急救援・復興支援の活動経験および、外国人への研修経験のある教員が授業を担当する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合							50	100
知識・理解	(DP2)			10			10	20
思考・判断・表現	(DP3)			20			10	30
	(DP4)			20			30	50
備考								
レポート：授業内レポート その他：最終課題レポート								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
世界の人々の健康の現状と課題について理解し、国内外での看護職者の果たすべき役割と実践について自己の考えを述べることができる。 災害時における健康問題とその課題に対する看護師の役割について自己の考えを述べるることができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
世界の人々の健康の現状について理解し、看護職者の役割と実践について考えることができる。 災害時における健康問題とその課題および、看護師の役割を理解できる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している

- B 履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
- C 到達目標を達成している
- D 到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	グローバリゼーションの概念	○コースオリエンテーション ○グローバリゼーションの考え方 ○世界がもし 100 人の村だったら ○世界の健康問題 発問・応答の系列で進める。	事後学習：日本の健康問題とその要因、世界の健康問題とその要因について比較し、整理する。（DP1）、（DP3）	事後学習 90 分
2	グローバリゼーションの影響 グローバルヘルス	○国際社会の中の看護 ○看護のグローバル化と国際看護学 ○国際看護学の考え方 ○看護のグローバリゼーション スライドと資料を基に、講義形式で進める。1 回目の授業後および授業中の質疑への回答で進める。	事前学習：グローバル化の意味について調べておく。（DP1）、（DP3） 事後学習：グローバル化と看護について整理する。（DP1）、（DP3）	事前学習 60 分 事後学習 60 分
3	開発と健康	○開発途上国とその要因 ○貧困が引き起こす不健康 ○健康水準を示す指標 ○社会的・文化的要因と健康問題 ○女性の教育向上と保健指標 ○リプロダクティブ・ヘルス ○自然災害と開発 スライドと資料を基に、講義形式で進める。2 回目の授業後および授業中の質疑への回答で進める。	事前学習：開発途上国の健康問題について調べておく。（DP1）、（DP3） 事後学習：開発途上国の健康問題と改善策について整理する。また、自然災害と健康問題について整理する。（DP1）、（DP3）	事前学習 60 分 事後学習 60 分
4	災害医療の原則と看護	○災害に関わる基礎知識 ○災害の定義 ○災害医療/看護の考え方 ○Disaster cycle ○Triage スライドと資料を基に、講義形式で進める。3 回目の授業後および授業中の質疑への回答で進める。	事前学習：国内で起こった災害の現状と課題について調べておく。（DP1）、（DP3） 事後学習：災害の定義と考え方、トリアージについて整理する。（DP1）、（DP3）	事前学習 60 分 事後学習 60 分
5	国際協力のしくみ	○国際協力の種類 スライドと資料を基に、講義形式で進める。4 回目の授業後および授業中の質疑への回答で進める。	事前学習：世界で活躍する医療チームについて調べておく。（DP1）、（DP3） 事後学習：国際協力の種類と概要について整理する。（DP1）、（DP3）	事前学習 60 分 事後学習 60 分
6	保健医療の国際協力	○外国人の研修受け入れと教育 スライドと資料を基に、講義形式で進め	事後学習：さまざまな国の教育システムや価値観を理解し、教育や看護との	事前学習 60 分

		る。5 回目の授業後および授業中の質疑への回答で進める。	関係を整理する。(DP1)、(DP3)	事後学習 60 分
7	国際看護の実践 1	○海外における看護実践 パキスタンにおける看護活動と教育 スライドと資料を基に、講義形式で進める。6 回目の授業後および授業中の質疑への回答で進める。	事後学習：海外における看護活動で配慮すべき点や気づきをまとめる。 (DP1)、(DP3)、(DP4)	事後学習 90 分
8	国際看護の実践 2	○海外における看護実践 インドネシアにおける復興支援活動と看護 スライドと資料を基に、講義形式で進める。7 回目の授業後および授業中の質疑への回答で進める。	事後学習：海外における看護活動で配慮すべき点や気づきをまとめる。 (DP1)、(DP3)、(DP4)	事後学習 90 分
備考	最終課題レポート作成：グローバル社会における看護師の役割について/災害時における看護師の役割について 7.25 時間 ・焦点を絞りテーマをつける ・表紙には、テーマ・学籍番号・氏名を明記する。 ・提出期限および方法は授業の中で説明する。 ※授業時間外の質問には、原則メールで対応する。emishida@fukuoka-pu.ac.jp または、アポイントメントをとり来室すること。			

授業科目名	養護概説 School Health Nursing			単位	2 単位
				授業コード	
履修	選択	関連資格	養護教諭	授業区分	講義
開講年次	2 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目担当責任者：松浦賢長 科目担当者：原田直樹、梶原由紀子				
授業概要	養護教諭の専門性に基づいた養護活動の基礎について学ぶことを目標に講義・演習を行う。「保健室経営」「保健管理」「保健教育」「健康相談」「組織活動」「安全」の視点から養護教諭としての基礎的知識と技術を学び、その基礎となる価値観を醸成することを目的とする。さらに地域社会における学校保健の役割と養護教諭の職務および期待されている役割、子どもを取り巻く多様な健康問題とその支援方法について考える。				
到達目標	知識・理解	(DP 1)	養護教諭の職務・役割について説明することができる。		
		(DP 2)	保健管理・保健教育・健康相談・組織活動について説明することができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能					
テキスト	『保健の実践科学シリーズ 学校看護学（最新版）』講談社				
参考図書・教材等					
実務経験を生かした授業	梶原は担当するコマについて実務経験（学校保健室勤務）を生かした内容で構成する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		100						100
知識・理解	(DP 1)	50						50
	(DP 2)	50						50
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
養護教諭の職務・役割について、とくに保健管理・保健教育・健康相談・組織活動について理解し、主体的な学習態度のもと保健室で行われる学校活動の実践についてまとめることができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
養護教諭の職務・役割について、とくに保健管理・保健教育・健康相談・組織活動について理解する（最終試験にて 60 点以上を得ること）。	
成績評価の基準	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している

C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	根拠に基づいた実践に向けてⅠ （松浦）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事後学習 100分
2	学習指導要領Ⅰ （原田）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 90分 事後学習 100分
3	根拠に基づいた実践に向けてⅡ （松浦）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 90分 事後学習 100分
4	学習指導要領Ⅱ （原田）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 90分 事後学習 100分
5	保健管理～健康診断Ⅰ～ （梶原）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 90分 事後学習 100分
6	保健管理～健康診断Ⅱ～ （梶原）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 90分 事後学習 100分
7	保健管理～健康診断Ⅲ～ （梶原）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 90分 事後学習 100分
8	保健管理～健康観察の基礎～ （松浦・原田・梶原）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 90分

				事後学習 100 分
9	保健管理～健康相談Ⅰ～ (原田)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。	事前学習 90 分 事後学習 100 分
10	保健管理～疾病予防Ⅰ～ (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
11	保健管理～救急処置～ (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
12	保健管理～疾病予防Ⅱ～ (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
13	保健管理～アレルギー対応の基礎～ (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
14	保健管理～健康相談Ⅱ～ (松浦・原田・梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
15	保健管理～学校環境衛生～ (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	[事後学習]については、授業中に提示する。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
備考				

授業科目名	学校保健学 School Health			単位	1 単位	
				授業コード		
履修	選択	関連資格	養護教諭		授業区分	講義
開講年次	3 年次	開講時期	前期			
担当教員	科目担当責任者：松浦賢長 科目担当者：原田直樹、梶原由紀子					
授業概要	学校保健の歴史をふまえ、学校保健の意義、目的や教育システムにおける位置づけを理解させ、学校教育期の健康問題とその解決方法、学校保健活動方法、関連職種との連携、学校看護の機能と養護教諭の役割、児童・生徒・教職員の健康管理のあり方等を教授する。また、学校保健の今日的課題を演習し、その解決に向けて、医療や地域保健との連携方法の実際を教授する。					
到達目標	知識・理解	(DP 1)	学校保健の範囲とその内容がだまかに述べられる。			
		(DP 2)	現代の子どもの発育発達の状態・健康状態・健康問題とその背景を具体的に述べられる。			
授業内容を理解するために必要な知識・技能						
テキスト						
参考図書・教材等	『保健の実践科学シリーズ 学校看護学（最新版）』講談社					
実務経験を生かした授業	原田は「精神疾患・発達障害」のコマを、梶原は「疾病・障害①」「疾病・障害②」「感染症」「救急処置」「学校環境衛生」のコマをそれぞれの実務経験（精神障害者支援団体運営、学校保健室勤務）を生かした内容で構成する。				授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		100						100
知識・理解	(DP 1)	50						50
	(DP 2)	50						50
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
学校保健の範囲と内容、現代の子どもの発育発達の状態・健康状態・健康問題とその背景を主体的な態度で学ぶこと、またはその課題解決について取り組むことができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
学校保健の範囲と内容、現代の子どもの発育発達の状態・健康状態・健康問題とその背景について理解できる（最終試験にて 60 点以上を得ること）。	
成績評価の基準	
S	履修目標を越えたレベルを達成している

- A 履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
- B 履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
- C 到達目標を達成している
- D 到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	学校保健の法律・答申・ 学校保健計画 (松浦)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事後学習 90 分
2	疾病・傷害① (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 80 分 事後学習 90 分
3	疾病・傷害② (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 80 分 事後学習 90 分
4	精神疾患・発達障害 (原田)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 80 分 事後学習 90 分
5	感染症 (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 80 分 事後学習 90 分
6	救急処置 (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 80 分 事後学習 90 分
7	学校安全 (松浦・原田・梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 80 分 事後学習 90 分

8	学校環境衛生 (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	[事後学習] については、授業中に提示する。	事前学習 80 分 事後学習 120 分
備考				

授業科目名	教職実践演習（養護教諭）			単位	2 単位
	Practical Training for Teaching as a School Nurse			授業コード	
履修	選択	関連資格	養護教諭	授業方法	演習
開講年次	4 年次	開講時期	後期		
担当教員	科目担当責任者：松浦賢長 科目担当者：原田直樹、梶原由紀子				
授業概要	養護教諭の専門性に基づいた養護活動の実践について学ぶことを目標に演習を行う。保健室経営、保健管理、保健教育、健康相談、組織活動等の視点から養護教諭として必要な知識と技術を学び、同時にそれらの基盤となる価値観を醸成することを目的とする。さらに地域社会における養護教諭の職務と期待されている役割等についても学び、広い視野で子どもを取り巻く今日的な課題を考え、演習を通し、これらの子どもたちとその家族、そして地域への援助ができるよう資質の向上を図る。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	学校保健安全法を基盤とした健康の保持増進の根拠について述べることができる。		
	思考・判断・表現	(DP 4)	学校における応急手当と救命処置ができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能					
テキスト					
参考図書・教材等	『保健の実践科学シリーズ 学校看護学（最新版）』講談社				
実務経験を生かした授業	梶原は担当するコマについて実務経験（学校保健室勤務）を生かした内容で構成する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他（実技）	合計
総合評価割合		50					50	100
知識・理解	(DP 2)	50						50
思考・判断・表現	(DP 4)						50	50
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
学校保健安全法を基盤とした健康の保持増進の根拠について理解し、学校における応急手当と救命処置を主体的に児童生徒・地域住民を対象にした実践ができること。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
学校保健安全法を基盤とした健康の保持増進の根拠について理解すること（試験において 60%以上の得点）、学校における応急	

手当と救命処置ができること。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	教師と使命感 （松浦）	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事後学習 100分
2	社会性と対人関係能力 （原田）	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する（アクティブラーニング）。	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 と事後学習 合わせて 100分
3	これまでの学習の振り返り （履修カルテ）養護実習の振り返りー学校基本情報把握力 （梶原）	事前学習と事後学習合わせて 100分	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 と事後学習 合わせて 100分
4	養護実習の振り返りー子供の成長・発達の理解 （梶原）	事前学習と事後学習合わせて 100分	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 と事後学習 合わせて 100分
5	養護実習の振り返りー養護実践力「健康診断」 （梶原）	事前学習と事後学習合わせて 100分	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 と事後学習 合わせて 100分
6	養護実習の振り返りー養護実践力「健康診断」 （梶原）	事前学習と事後学習合わせて 100分	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 と事後学習 合わせて 100分
7	養護実習の振り返りー養護実践力「応急処置」 （梶原）	事前学習と事後学習合わせて 100分	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 と事後学習 合わせて 100分
8	養護実習の振り返りー養護実践力「児童生徒の健康課題の把握」 （梶原）	事前学習と事後学習合わせて 100分	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 と事後学習 合わせて 100分
9	養護実習の振り返りー保健指導実践力 （梶原）	事前学習と事後学習合わせて 100分	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 と事後学習

				習合わせて100分
10	子供理解と健康相談 (原田)	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する(アクティブラーニング)。	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。	事前90分 事後90分
11	組織活動と学校内外との連携 (松浦)	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する(アクティブラーニング)。	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。	事前90分 事後90分
12	日本スポーツ振興センター (松浦・原田・梶原)	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する(アクティブラーニング)。	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。	事前90分 事後90分
13	保健室経営の実践例 (松浦・原田・梶原)	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する(アクティブラーニング)。	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。	事前90分 事後90分
14	養護教諭の資質能力のまとめ (松浦・原田・梶原)	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する(アクティブラーニング)。	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。	事前90分 事後90分
15	学校保健の課題とその対応 (松浦・原田・梶原)	グループを3つ作った上で、議論した内容や出ていた意見、そしてまとめた事項などを中心に共有する(アクティブラーニング)。	[事後学習]については、授業中に提示する。	事前90分 事後90分
備考				

授業科目名	養護実習事前事後指導 Practicum in School Health Nursing			単位	1 単位
				授業コード	
履修	選択	関連資格	養護教諭	授業方法	実習
開講年次	4 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目担当責任者：松浦賢長 科目担当者：原田直樹、梶原由紀子				
授業概要	4 年次の「養護実習」にあたっての事前指導と事後指導を行うものである。事前指導では、養護実習の意義と心構えについて講義し、観察参加の心構え、観察の仕方とポイント、観察の具体的内容、観察記録の書き方等を指導する。事後指導では、養護実習を終えた後、養護実習の内容と反省、意見などについて実習報告等の実習総括を行う。これにより、養護教諭としての専門的知識・技術・価値観を醸成する。				
到達目標	知識・理解	(DP 1)	教育活動の一環としての学校保健活動と養護教諭の役割について説明できる。		
	思考・判断・表現	(DP 3)	AED を用いた心肺蘇生法の危機対応ができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能					
テキスト					
参考図書・教材等	参考図書：静岡県養護教諭研究会『養護教諭の活動の実際』第 2 版，東山書房，2013 年				
実務経験を生かした授業	梶原は実務経験（学校保健室勤務）を生かした指導を行う。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		50					50	100
知識・理解	(DP 1)	50						50
思考・判断・表現	(DP 3)						50	50
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
教育活動の一環としての学校保健活動と養護教諭の役割について理解し、「AED を用いた心肺蘇生法」の危機対応ができ、かつそれを他者に教えることができること。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
教育活動の一環としての学校保健活動と養護教諭の役割について理解し、児童生徒の生命を守る技術であるところの「AED を用いた心肺蘇生法」の危機対応ができること。	
成績評価の基準 ルーブリック	

S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方
1	養護実習概要（梶原）	・グループに分かれ、学校で実際に行われている技術や方法について、授業内容別に試みる。 ・実習の振り返りについては、養護実習の学びを共有するための機会とする。10 分間厳守のプレゼンテーションが求められる。
2	保健室と学校を見る（梶原）	
3	フィジカルアセスメント（梶原）	
4	健康診断・事後措置（梶原）	
5	救急法（梶原）	
6	保健指導案・教材（原田）	
7	実習で見てくるもの（梶原）	
8	実習振り返り（松浦・原田・梶原）	
備考		

授業科目名	健康教育論 Health Education			単位	2 単位
				授業コード	
履修	選択	関連資格	養護教諭	授業区分	講義
開講年次	3 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目担当責任者：松浦賢長 科目担当者：原田直樹、梶原由紀子				
授業概要	現代において、いじめ、不登校、薬物乱用、逸脱した性行動、感染症、アレルギー、生活習慣病等、子どもの健全なる発育や発達を阻害する要因は深刻化しつつある。これらの様々な課題に対応すべく、学校現場における養護教諭の日々の実践において、ヘルスプロモーションの理念に基づいた子どもの発育や発達への支援が求められており、それに必要な健康相談活動の理論及び方法について学ぶ。				
到達目標	知識・理解	(DP 1)	いじめ、不登校、薬物乱用、逸脱した性行動、感染症、アレルギー、生活習慣病等、子どもの健全なる発育や発達を阻害する要因を説明することができる。		
		(DP 2)	健康教育の理論や方法に関する知識を活用することができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能					
テキスト					
参考図書・教材等	『保健の実践科学シリーズ 学校看護学（最新版）』講談社				
実務経験を生かした授業	梶原は担当するコマについて実務経験（学校保健室勤務）を生かした内容で構成する。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		100						100
知識・理解	(DP 1)	50						50
	(DP 2)	50						50
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
いじめ、不登校、薬物乱用、逸脱した性行動、感染症、アレルギー、生活習慣病等、子どもの健全なる発育や発達を阻害する要因を説明することができ、健康教育の理論や方法に関する知識を活用できる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。

いじめ、不登校、薬物乱用、逸脱した性行動、感染症、アレルギー、生活習慣病等、子どもの健全なる発育や発達を阻害する要因を説明することができ、健康教育の理論や方法に関する知識を理解する（最終試験にて 60 点以上を得ること）。

成績評価の基準

S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	健康診断（法的根拠） （梶原）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事後学習 100 分
2	健康診断・事後措置 （梶原）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 90 分 事後学習 100 分
3	健康診断（視力検査事後指導）・事後措置・保健指導 （梶原）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 90 分 事後学習 100 分
4	健康診断（歯科健診事後指導）・事後措置・保健指導 （梶原）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 90 分 事後学習 100 分
5	健康診断（虐待の視点） （原田）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 90 分 事後学習 100 分
6	アレルギー （梶原）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 90 分 事後学習 100 分
7	健康観察 （梶原）	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説（講義形式）	〔事後学習〕と次回以降の〔事前学習〕については、授業中に提示する。	事前学習 90 分

				事後学習 100 分
8	歯・口の健康 (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。	事前学習 90 分 事後学習 100 分
9	健康相談・健康観察 (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。	事前学習 90 分 事後学習 100 分
10	保健指導(枠組みの理解) (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
11	子どもの健康課題 (松浦、原田、梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
12	子どもの健康課題 その2 (松浦、原田、梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
13	保健学習(保健教育の手引き) (原田)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
14	保健学習(小学校学習指導要領解説) (原田)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	[事後学習]と次回以降の[事前学習]については、授業中に提示する。	事前学習 90 分 事後学習 90 分
15	保健学習(中学校学習指導要領解説) (梶原)	スライドを中心としたパワーポイント使用・解説(講義形式)	[事後学習]については、授業中に提示する。	事前学習 90 分 事後学習 90 分

備考	

授業科目名	養護実習 Practicum in School Health Nursing			単位	4 単位
				授業コード	
履修	選択	関連資格	養護教諭	授業方法	実習
開講年次	4 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目担当責任者：松浦賢長 科目担当者：原田直樹、梶原由紀子				
授業概要	教育の場において養護教諭によって行われている保健教育及び保健管理等の実践を直接学び、児童生徒の心身の健康上の問題及び健康保持への指導・援助について理解する。そのために、学校教育全体の組織・運営を理解し、学校保健安全計画の作成及び実践に参加し、学校保健活動における養護教諭の役割と活動内容を6つの獲得能力の柱をもとに理解することを目的とする。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	養護をつかさどるための知識を理解し、説明することができる。		
	思考・判断・表現	(DP 4)	学校の職員と相互に連携して、保健指導を実践することができる。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能					
テキスト					
参考図書・教材等	『保健の実践科学シリーズ 学校看護学（最新版）』講談社				
実務経験を生かした授業	梶原は実務経験（学校保健室勤務）を生かした指導を行う。			授業中の撮影	無

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合							100	100
知識・理解	(DP 2)						50	50
思考・判断・表現	(DP 4)						50	50
備考								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
養護をつかさどるための知識を理解した上で、学校の職員と相互に連携して保健指導を実践し、さらに実習校の児童生徒の健康課題解決について取り組むことができる。	
到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
養護をつかさどるための知識を理解した上で、学校の職員と相互に連携して保健指導を実践することができる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している

- C 到達目標を達成している
- D 到達目標を達成できていない

授業計画

週	授業内容（担当教員）	授業の進め方
1 週	実習校の概要と健康課題の把握（松浦・原田・梶原）	・実習指導は校長及び校長が任命する担当教諭が行う。さらに、実習期間中に担当教官が実習先を訪問し実習指導・助言に当たる。 ・実習中は原則として毎日、養護活動等についての所感・考察等を実習日誌に記録し、実習指導者及び教員からの指導・助言を受ける。
2 週	学校保健活動の実際と保健室経営の知識の再整理（松浦・原田・梶原）	
3 週	子供の健康課題に合わせた保健指導の企画（松浦・原田・梶原）	
4 週	保健指導の実施と自己評価・他者評価（松浦・原田・梶原）	
備考		

授業科目名	ヒーリングセラピー			単位	1 単位
				授業コード	
履修	選択	関連資格	看護師、保健師、助産師、養護教諭	授業方法	演習
開講年次	2 年次	開講時期	前期		
担当教員	科目責任者：尾形由起子 科目担当者：猪狩崇				
授業概要	この授業は、看護実践に活かせるヒーリング（補完的看護方法）を紹介していくことを目的にする。、学生はヒーリング実践のモデルを調べ、ヒーリングを実際に体験し、実践することによって今までにない概念をつかみ、看護実践で活用できるツールとしての可能性を探る。				
到達目標	知識・理解	(DP 2)	人間をからだ・こころ・社会関係が切り離せずにかみあい、生涯を通じて成長変化していく存在として捉え対象理解を進めることができる。また、正常な生理構造がゆがんでいき、やがて病変に至るとはどういうことか、自然治癒力を最大限に引き出してゆがみや病みを正常なありかたに戻すには、どのような条件を整える必要があるのか、どんな働きかけが可能かの説明ができる。		
		(DP 3)	看護一般に照らして、看護過程展開のなかで対象にとって最適な関わりのわざとしてヒーリングを選択・使用できる判断規準を持つ。		
	思考・判断・表現	(DP 4)	個別な対象に対する看護実践のなかで、ヒーリングセラピーから学んだわざを看護のわざとして活用できる能力を養う。		
授業内容を理解するために必要な知識・技能	問いません。				
テキスト	毎回の演習に即した資料を配布します。参考文献：薄井坦子著『ナースが視る身体』講談社、薄井坦子著『ナースが視る病気』講談社、日本アロマセラピー学会看護研究会編『ナースのためのアロマセラピー』メディカ出版。同『ナースのためのアロマセラピー実践応用編』メディカ出版。本田克也、他著『看護のための「いのちの歴史」の物語』現代社				
参考図書・教材等	参考書：薄井坦子著『ナースが視る身体』講談社、薄井坦子著『ナースが視る病気』講談社、日本アロマセラピー学会看護研究会編『ナースのためのアロマセラピー』メディカ出版。同『ナースのためのアロマセラピー実践応用編』メディカ出版。本田克也、他著『看護のための「いのちの歴史」の物語』現代社				
実務経験を生かした授業	臨床での緩和ケア実践経験を交えて指導します。			授業中の撮影	可

成績評価

評価指標/割合		試験	小テスト	レポート	発表	ポートフォリオ	実技	合計
総合評価割合								
知識・理解	(DP 2)					50	50	100
思考・判断・表現	(DP 3)					50	50	100
	(DP 4)					50	50	100
備考 評価は毎回の授業で記入提出するポートフォリオと実技点の評価で行います。実技試験の方法については授業の中で指示します。								

具体的な達成目標と成績評価の基準

履修目標 (S 評価レベル)	授業で扱う内容（授業のねらい）を示す目標です。より高度な内容は自主的な学修で身につけることを必要としています。
授業で修得した技術を看護技術として対象に応じて適切に選択・使用して看護過程を遂行できる。実践を通じてあらたな看護技術を開発していける。	

到達目標 (C 評価レベル)	授業を履修する人が最低限身につける内容を示す目標です。履修目標を達成するには、さらなる学修を必要としている段階です。
授業で修得した技術を看護実践の場で適切に利用できる。	
成績評価の基準 ルーブリック	
S	履修目標を越えたレベルを達成している
A	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
B	履修目標と到達目標の間にあるレベルを達成している
C	到達目標を達成している
D	到達目標を達成できていない

授業計画

回	授業内容（担当教員）	授業の進め方	事前学習	時間
			事後学習	
1	オリエンテーションと補完的看護方法の概説 効果測定方法について	授業オリエンテーション (1) 補完的看護方法概説。 代表的な技法の紹介。 (2) 体験 効果測定方法を体験する。 深呼吸の効果。 基本の観察法。 (3) 出席票を兼ねたポートフォリオを提出 10 分	事前学習： ヒーリング論を受講した人はヒーリング論のテキストを復習してくる。未受講者は「タッチケア」と「アロマセラピー」がどんなものか文献で調べてくる。 事後学習： 次週からの「タッチケア」の資料を配布するので次回分を読んで予習しておく。	(1) 40 分 (2) 40 分 (3) 10 分
2	タッチケアの基本	(1) 演習 ・タッチケアの準備と注意点 ・基本のタッチの仕方 ・対象の身体の支えかた ・導入のケアとご挨拶 ・ファーストタッチか ・ケアの進めかた ・動作を変えるときに注意 ・フィニッシュ (2) 出席票を兼ねたポートフォリオを提出。(10 分)	事前学習 前回配布の資料を読んでくる。 事後学習 学んだタッチケアを自分やあるいは友人や家族に相手になってもらいおさらいする。	演習 80 分 ポートフォリオ作成 提出 10 分
3	タッチケア（手）	演習 (1) 手に対するタッチケアについてより詳しく演習する。80 分 (2) ポートフォリオに記録・提出 10 分	事前学習 前回配布の資料を読んでくる。 事後学習 学んだタッチケアを自分やあるいは友人や家族に相手になってもらいおさらいする。	演習 80 分 ポートフォリオ作成 提出 10 分
4	タッチケア（足）	演習 (1) 足（膝より下。主に足首より先）	事前学習 前回配布の資料を読んでくる。	演習 80 分 ポート

		に対するタッチケアについて 演習する。 裸足になれる服装で来る。80 分 (2) ポートフォリオに記録・提出 10 分	事後学習 学んだタッチケアを自分やあるいは友人や家族に相手になってもらいおさらいする。	フォリオ 作成提出 10 分
5	タッチケア（頭と体幹）	演習 (1) 頭、顔と体幹（背中と腹部）に対するタッチケアについて演習する。80 分 (2) ポートフォリオに記録・提出 10 分	事前学習 前回配布の資料を読んでくる。 事後学習 学んだタッチケアを自分やあるいは友人や家族に相手になってもらいおさらいする。	演習 80 分 ポート フォリオ 作成提出 10 分
6	マッサージの基本	演習 (1) タッチケアよりもやや強めの刺激を与えるマッサージケアについて演習する。 軽擦、強擦、揉捻、伸展、指圧、軽打（タッピング）など、80 分 (2) ポートフォリオに記録・提出 10 分	事前学習 前回配布の資料を読んでくる。 事後学習 学んだケアを自分やあるいは友人や家族に相手になってもらいおさらいする。	演習 80 分 ポート フォリオ 作成提出 10 分
7	整体やリンパドレナージュを意識したケア	演習 (1) 身体のゆがみを正しバランスを回復させるためのケア 手技と自分でできる体操 (2) リンパの走行を意識したマッサージの基本 (3) ポートフォリオに記録・提出 10 分	事前学習 前回配布の資料を読んでくる。 事後学習 学んだケアを自分やあるいは友人や家族に相手になってもらいおさらいする。	(1) 40 分 (2) 40 分 ポートフ ォリオ作 成 提 出 10 分
8	ツボ刺激とストレッチ	演習 (1) ツボの探し方と押し方。 自分で押せるツボと他者の協力や道具がないと押せないツボ。 (2) ストレッチ法。 ストレッチの意義と目的、実践。 ツボ刺激を兼ねたストレッチ。 (3) ポートフォリオに記録・提出。	事前学習 前回配布の資料を読んでくる。 事後学習 学んだケアを自分やあるいは友人や家族に相手になってもらいおさらいする。	(1) 40 分 (2) 40 分 ポートフ ォリオ作 成 提 出 10 分
9	ヨガと自律訓練法 I	演習 自律訓練法の基本 I ヨガの基本 I	事前学習 前回配布の資料を読んでくる。 事後学習	演習 80 分 ポートフ ォリオ作 成 提 出

		呼吸法、座り方、ストレッチと簡易体操、 完全弛緩 ポートフォリオに記録・提出	学んだケアを自分やあるいは友人や 家族に相手になってもらいおさらい する。	10分、
10	ヨガと自律訓練法Ⅱ	演習 自律訓練法の基本Ⅱ ヨガの基本Ⅱ 呼吸法、座り方、ストレッチと簡易体操、 完全弛緩、初級から中級のポーズ。 ポートフォリオに記録・提出	事前学習 前回配布の資料を読んでくる。 事後学習 学んだケアを自分やあるいは友人や 家族に相手になってもらいおさらい する。	演習 80分 ポートフ ォリオ作 成 提 出 10分
11	アロマセラピー	演習 アロマの基本講習 オイルの扱い方 アロマセラピーの方法紹介 臨床でのアロマの用い方 アロマを用いたマッサージ ポートフォリオに記録・提出	事前学習 前回配布の資料を読んでくる。 事後学習 学んだケアを自分やあるいは友人や 家族に相手になってもらいおさらい する。	演習 80分 ポートフ ォリオ作 成提出 10 分
12	音響・音楽を用いたケア	演習 音響と音楽 快の刺激となる音刺激と楽想形成がも たらす癒し効果。 可聴帯域外音のもたらす効果 自然音と人工音の違い。 超高音（超音波）はリラックス効果を、 超低音（固体振動音）は体温上昇効果を もたらす。 作曲者・演奏者の楽想の表現である楽曲 演奏を鑑賞することで、 聴き手自身が描きだす像が健康上のよ い効果をもたらす。 ポートフォリオに記録・提出	事前学習 前回配布の資料を読んでくる。 事後学習 学んだケアを自分やあるいは友人や 家族に相手になってもらいおさらい する。	演習 80分 ポートフ ォリオ 10 分
13	複数の方法の組み合わせに よるケアプログラムⅠ	演習 学んだ方法を複数用いて働きかけるケ アプログラムを作成してみる。1回目。 ートフォリオに記録・提出	事前学習 前回配布の資料を読んでくる。 事後学習 第2回めのワークに備えての自 己学習をしておく。	演習 80分 ポートフ ォリオ 10 分

14	複数の方法の組み合わせによるケアプログラムⅡ	演習 学んだ方法を複数用いて働きかけるケアプログラムを作成してみる。2回目。 ポートフォリオに記録・提出	事前学習 前回配布の資料を読んでくる。 事後学習 プレゼンテーションに備えて発表する技術を決めておく。	演習 70 分 ポートフォリオ 10 分 授業アンケート 10 分
15	プレゼンテーション	第 13 回、14 回で作成したケアプログラムの発表。 ポートフォリオに記録・提出。	事前学習 前回配布の資料を読んでくる。 事後学習 試験はないので、自分のポートフォリオを振り返り、学びの成果を確認しておく。	演習 80 分 ポートフォリオ 10 分
備考	第 1 回を除き、次回の資料を前回の授業で配布するので予習してきてください。試験はありませんが、最終回のプレゼンテーションのときに実技の到達度を見ます。			

授業科目名	東洋看護学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	城村和宏		前期	演習	選択	1	3年次
授業の概要	東洋医学の基礎から、鍼灸治療体験、M-Test を使った東洋医学的な視点で身体を観察方法、M-Test を応用した東洋医学のセルフケアの方法を、演習を通して学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	東洋医学、M-Test の基本的な知識、概念を身につけることができる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	東洋医学的な視点で身体を観察することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	M-Test の概念を応用したセルフケア方法を身につけることができる。					
授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	ガイダンス、鍼灸治療体験				講義、演習		
2	M-Test 概論，東洋医学基礎						
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9	M-Test 概論，東洋医学基礎（グループ課題）						
10	セルフケア演習（東洋医学からみた身体を観察方法）						
11							
12							
13							
14							
15							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
小テスト・授業内レポート			◎				30
授業態度・授業への参加度			○	◎		○	70
実務経験を生かした授業	M-Test 指導者資格を持つ現役の鍼灸師が実際の臨床例を交え東洋医学的な身体を観察方法について講義する。						
テキスト・参考文献等	参考文献： 向野義人 図解 M-Test 医歯薬出版（2012/03）						
履 修 条 件	特になし						
学習相談・助言体制	メールで受付					授業中の撮影	○